森原神田川遺跡下ノ原地区

2021年

国土交通省浜田河川国道事務所 島 根 県 教 育 委 員 会

(見返し)

(白)

(白)

森原神田川遺跡下ノ原地区

2021年

国土交通省浜田河川国道事務所 島 根 県 教 育 委 員 会

(白)

江の川は、広島県の阿佐山に水源を発し、日本海に注ぐ中国地方最大の一級河川です。江の川流域は昭和47年7月の梅雨前線による洪水など歴史上度々水害に見舞われ、日常生活はもとより地域の経済活動に少なからず支障をきたしてきました。国土交通省では、緊急時の安全の確保、地域経済の振興、及び生活圏域の連携を促進することを目的として、江の川水系河川整備計画を策定し、これに基づいて、江の川の河川改修事業を進めています。河川改修にあたっては、埋蔵文化財の保護に十分留意しつつ関係機関と協議を行っていますが、回避することができない埋蔵文化財については、河川改修事業者の負担により必要な調査を実施し、記録保存を行っています。本事業においても、事業地内にある遺跡について島根県教育委員会の協力のもとに発掘調査を実施しました。

本報告書は、平成30年度に実施した江津市松川町に所在する森原神田川 遺跡(下ノ原地区)の調査成果をとりまとめたものです。今回の調査では、 古墳時代の江の川の岸辺で祭祀に関わる出土品が発見され、当時の人々の文 化を考える上で貴重な成果となりました。

本報告書がふるさと島根の歴史を伝える貴重な資料として、学術並びに歴 史教育のために広く活用されることを期待します。

最後に、当所の河川整備事業にご理解、ご支援をいただき、本埋蔵文化財 発掘調査及び調査報告書の編纂にご協力いただきました地元の方々や関係諸 機関の皆様に対し、深く感謝いたします。

令和3年3月

国土交通省中国地方整備局 浜田河川国道事務所長 前 田 文 雄

本書は、島根県教育委員会が国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務 所から委託を受けて、平成 30(2018) 年度に実施した一級河川江の川直轄河 川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめたものです。

本報告書で報告する森原神田川遺跡(下ノ原地区)では、弥生時代~古墳時代に流れていた江の川の跡と、中世~近世の川・水路の跡が発見され、大量の遺物も出土しました。

このうち、古墳時代に使われた様々な道具は、江の川の岸辺で水に関わる祭祀が行われたことを物語っています。また、水路跡は、農業のための用水路であったと見られます。中国地方最大の河川である江の川は、古くから人々の生活や生業と深く関わっていますが、その川沿いに祈りの場、生産のための施設があったことが明らかになり、当時の人々の暮らしを考える上で、貴重な発見となりました。本報告書が、この地域の歴史を解明していくための基礎資料として広く活用されることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査及び本報告書の作成にあたりご協力をいただきました国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所をはじめ、江津市、森原地区の方々、並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和3年3月

島根県教育委員会 教育長 新 田 英 夫

例 言

- 1. 本書は、国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所から委託を受けて、島根県教育委員会が平成30年度に実施した一級河川江の川直轄河川事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果をとりまとめたものである。
- 2. 本報告書の発掘調査対象遺跡及び事業年度は下記のとおりである。

平成30年度 森原神田川遺跡下ノ原地区(江津市松川町八神241外)

令和元・2年度 整理等作業・報告書作成

なお、調査時には調査区名を森原神田川遺跡2区としていたが、本報告書では調査区本来の小字名から、「下ノ原地区」として取り扱う。

- 3. 発掘調査作業(安全管理、発掘作業員の雇用、機械による掘削、測量等)については株式会社堀工務店に再委託した。
- 4. 発掘調査は島根県埋蔵文化財調査センターが実施し、宮本正保、今福拓哉、柳浦俊一が担当した。
- 5. 現地調査及び報告書作成に当たっては、以下の方々・機関から有益な御指導・御協力をいただいた。 (五十音順・肩書は当時)

調查指導

中村唯史(島根県立三瓶自然館調整幹)

調査協力

伊藤 創(江津市教育委員会主任)、渡辺正巳(文化財調査コンサルタント株式会社)、松平地域 コミュニティ交流センター

6. 本調査に伴う石器類の石材鑑定については中村唯史氏に依頼した。自然科学分析は次の機関に委託して実施し、その成果は第4章にまとめて掲載した。

自然科学分析(花粉分析・植物珪酸体分析):文化財調査コンサルタント株式会社

製鉄関連遺物分析:日鉄テクノロジー株式会社

- 7. 発掘調査に伴い出土した鉄器の保存処理は次の機関に委託した。
 - 一般財団法人大阪市文化財協会
- 8. 本書に掲載した遺構は調査担当者が撮影し、遺物の写真は今福・柳浦が撮影した。また、掲載した遺構図・遺物実測図の作成・浄書は、各調査員・会計年度任用職員調査員・同調査補助員・同整理作業員が行ったほか、遺物の分類や鑑定等について埋蔵文化財調査センター職員の協力を得た。
- 9. 本書の執筆は、第1・2章は宮本、第3・5章は宮本・今福・柳浦が協力して行った。第4章については各節ごとに執筆者を明記し、同章第3節については島根県古代文化センター原田敏照・岩本真実(所属は当時)の協力を得て柳浦が執筆した。
- 10. 註は、各章ごとに連番を振り、参考文献とともに当該章末に各章末にまとめて示した。第4章については節ごとに末尾に示した。
- 11. 写真、挿図及び表の番号は全体の通し番号により表示した。
- 12. 本書に掲載した遺物及び実測図・写真などの資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター(松江市打出町33番地)にて保管している。

凡例

- 1. 本書で用いた土器の分類及び編年観は、下記の論文・報告書に依拠している。
- 1) 縄文土器

小林達雄編 2008 『総覧縄文土器』 アム・プロモーション

千葉 豊編 2010 『西日本の縄文土器』後期 真陽社

柳浦俊一 2017 「山陰地方における縄文後期土器の概要」『山陰地方における縄文文化の研究』雄山閣

2) 弥生土器

松本岩雄 1992 「石見地域」『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編 木耳社

3) 土師器・須恵器

九州前方後円墳研究会実行委員会・九州国立歴史博物館誘致推進本部 2002 『古墳時代中・後期の土師器-その編年と地域性-』

田辺昭三 1981 『須恵器大成』 角川書店

松山智弘 1991 「出雲における古墳時代前半期の土器の様相」『島根考古学会誌』第8集

柳浦俊一 2019 「出雲における古墳時代中・後期の玉作遺跡とその特徴」『古墳時代の玉類 の研究』島根県古代文化センター

岩本真実 2019 「石見地域における須恵器の編年と地域性-「石見型須恵器」再考-」『国 家形成期の首長権と地域社会構造』島根県古代文化センター研究論集第 22 集

4) 中近世陶磁器

上田秀夫 1982 「14~16世紀の青磁椀の分類について」『貿易陶磁研究』第2号 日本貿 易陶磁研究会

森田勉 1982「14~16世紀の白磁の分類と編年」 同上

小野正敏 1982 「15・16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」 同上

岡山県備前市教育委員会 2013 『備前焼詳細分布調査報告書』

九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会

国立歴史民俗博物館 1994 『日本出土の貿易陶磁 東日本編 2』

太宰府市教育委員会 2000 『大宰府条坊跡 X V』

東京大学埋蔵文化財調査室 1997『東京大学構内遺跡調査研究年報 I』

2. 本文、挿図、挿表、写真図版で使用した遺構記号は次のとおりである。

SR:自然河道・水路

- 3. 挿図中の北は測量法に基づく平面直角第Ⅲ系 X 軸方向を示し、座標系 X Y 座標は世界測地系による。レベルは海抜高を示す。
- 4. 本書で使用した第7図は国土地理院発行 1/25,000 地形図を、第3・5・8・9 図は国土交通省 浜田河川国道事務所が作成した計画平面図、第4図は国土交通省浜田河川国道事務所から提供 を受けた地層推定断面図を使用して作成したものである。
- 5. 本書に掲載する土層等の土色は『新版 標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修・ 財団法人日本色彩研究所色票監修に従って表記した。

本文目次

序	
序	
例 言	
凡例	
第1章 調査の経過	
第1節 調査に至	る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
第2節 発掘調査	と整理作業の経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
第3節 調查体制	J8
第2章 遺跡の位置	と環境
第1節 地理的環	境10
第2節 歴史的環	턫12
第3章 調査方法と	
第1節 調査の方	i法 ······ 17
第2節 基本層序	<i>5</i> 20
第3節 検出遺構	\$とその遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
1. 調査の概略	らと検出遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
2. 検出遺構と	出土遺物 •••••• 22
SR01 • • •	22
SR02 • • •	
SR03	
SR04 • • •	43
SR05	46
SR07 • • •	46
SR10 · · ·	47
	·遺物 ······ 84
5. 小結 •••••	
第4章 自然科学分	析
第1節 森原神田	川遺跡出土製鉄〜鍛治関連遺物の分析調査・・・・・・・・・・・112
第2節 森原神田	川遺跡下ノ原地区の花粉分析・植物珪酸体分析・・・・・・・・・120
第3節 土器付着	うの種子圧痕について ・・・・・・・130
第5章 総括	
第1節 遺構と出	土遺物について ・・・・・・・ 132
第2節 まとめ・	

挿図目次							
第1図	遺跡の位置・・・・・・・1	第 42 図	SR10 出土遺物(11) · · · · · 63				
第2図	江の川水系河川整備計画に基づく事業箇所・2	第 43 図	高坏接合部模式図 ••••••64				
第3図	調査区配置図(S=1:2,500)・・・・・・5	第 44 図	SR10 出土遺物(12) · · · · · 66				
第4図	ボーリング調査結果と地質模式図・・・・・・ 6	第 45 図	SR10 出土遺物(13) · · · · · 67				
第5図	調査グリッドの設定 (S=1:2,500) ・・・・・・ 7	第 46 図	SR10 出土遺物(14) · · · · · 69				
第6図	遺跡周辺の地形分類図(S=1:50,000)・・・・11	第 47 図	SR10 出土遺物(15) · · · · · 70				
第7図	周辺の遺跡(S=1:50,000)・・・・・・14	第 48 図	SR10 出土遺物(16) · · · · · 71				
第8図	調査区位置図及び周辺地形	第 49 図	SR10 出土遺物(17) · · · · · · 74				
	(S=1:1,000) ······18	第 50 図	SR10 出土遺物(18) · · · · · · 75				
第9図	調査区グリッド (S=1:500) ・・・・・・19	第 51 図	SR10 出土遺物(19) · · · · · · 76				
第 10 図	遺構配置図(S=1:400)・・・・・・21	第 52 図	SR10 出土遺物(20) · · · · · · 77				
第 11 図	基本土層模式図 ・・・・・・22	第 53 図	SR10 出土遺物(21) · · · · · · 78				
第 12 図	中近世の遺構配置図(S=1:400)・・・・・・23	第 54 図	SR10 出土遺物 (タタキ痕・当具痕)・・・・79				
第 13 図	SR01 平面図(S=1:200) · · · · · · 24	第 55 図	SR10 出土遺物(22) · · · · · 82				
第 14 図	SR01 土層図(S=1:80)・・・・・25	第 56 図	SR10 出土遺物(23) · · · · · · 83				
第 15 図	SRO1 出土遺物(1)·····27	第 57 図	SR10 出土遺物(24) · · · · · · 84				
第 16 図	SRO1 出土遺物(2)·····28	第 58 図	遺構外出土遺物 (1) ***********************************				
第 17 図	SR02・SR03 平面図(S=1:200)・・・・・29	第 59 図	遺構外出土遺物 (2) ***********************************				
第 18 図	SR02・SR03 土層図(S=1:80)・・・・・30	第 60 図	遺構外出土遺物 (3) ***********************************				
第 19 図	SR02-2 礫群実測図(S=1:40)・・・・・・31	第61図	遺構外出土遺物(4)・・・・・・90				
第 20 図	SR02-3 礫群実測図(S=1:40)・・・・・・31	第62図	遺構外出土遺物 (5) ***********************91				
第21図	SRO2 出土遺物(1)·····32	第 63 図	遺構外出土遺物 (6) ************************92				
第 22 図	SRO2 出土遺物(2)·····33	第 64 図	遺構外出土遺物 (7) ***********************************				
第 23 図	SRO2 出土遺物(3)·····35	第 65 図	遺構外出土遺物(8)・・・・・・・・・94				
第 24 図	SRO2 出土遺物 (4) · · · · · · 36	第 66 図	遺構外出土遺物(9)・・・・・・・・・・96				
第 25 図	SRO2 出土遺物(5)······37	第67図	遺構外出土遺物 (10) ********** 98				
第 26 図	SRO3 出土遺物(1) · · · · · · 40	第 68 図	遺構外出土遺物 (11) ********* 99				
第 27 図	SRO3 出土遺物(2)······41	第 69 図	遺構外出土遺物 (12) ********100				
第 28 図	SR04・05 平面図・土層図	第 70 図	遺構外出土遺物 (13) ********102				
	(平面図 S=1:200,土層図 S=1:60) ・・・・・・・ 44	第71図	遺構外出土遺物 (14) ******* 103				
第 29 図	SRO4・05・07 出土遺物・・・・・・・45	第72図	遺構外出土遺物 (15) ******** 104				
第 30 図	SR10 平面図(S=1:200) · · · · · 48	第 73 図	遺構外出土遺物 (16)107				
第31図	SR10 土層図(S=1:80)・・・・・・・・49	第74図	遺構外出土遺物 (17) • • • • • 108				
第 32 図	SR10 出土遺物(1)······52	第 75 図	遺構外出土遺物 (18) ********109				
第 33 図		第 76 図	遺構外出土遺物 (19) • • • • • 110				
第 34 図	SR10 出土遺物(3)・・・・・・54	第77図	製錬滓・鉄塊の顕微鏡写真・・・・・・・116				
第 35 図	SR10 出土遺物(4)······56	第 78 図	鉄塊 EPMA 調査結果・				
第 36 図	SR10 出土遺物(5)・・・・・・57	ĺ	含鉄鉄滓の顕微鏡写真・・・・・・・・117				
第 37 図	SR10 出土遺物(6)・・・・・・58	第 79 図	椀形鉄滓の顕微鏡写真・・・・・・118				
第 38 図	SR10 出土遺物(7)・・・・・・59	第80図	試料採取地点 • • • • • 120				
第 39 図	SR10 出土遺物(8)・・・・・・・・・60	第81図	試料採取位置120				
第 40 図	SR10 出土遺物(9)・・・・・・・・61	第82図	花粉ダイアグラム (第1地点) ・・・・・・122				
第 41 図	SR10 出土遺物(10)・・・・・・・・・62	第83図	花粉含有量ダイアグラム(第1地点)・・122				

第84図 花粉ダイアグラム (第2地点)・・・・・・123 第85図 花粉含有量ダイアグラム (第2地点)・・123 第86図 植物珪酸体ダイアグラム (第1地点)・・124	第87図第88図	植物珪酸体ダイアグラム(第2地点)・・124 鉄製品製作工程想定図・・・・・・・134				
NO GO EL HEIN-THATTY TO A DEL CHATTERING TELE	1					
挿表目次						
第 1 表 SR01 中世陶磁器集計表 · · · · · 28	第21表	石斧集計表 ••••• 95				
第 2 表 SRO1 近世陶磁器集計表 · · · · · · 28	第22表	剥片石器·剥片等集計表 · · · · · 95				
第 3 表 SR02 中世陶磁器集計表 · · · · · 38	第23表	遺構外中世陶磁器集計表 • • • • • 106				
第 4 表 SR02 近世陶磁器集計表 · · · · · · 38	第24表	遺構外近世陶磁器集計表 • • • • • 106				
第 5 表 SR03 中世陶磁器集計表 • • • • • • 42	第25表	出土鉄器集計表 • • • • • 110				
第6表 SR03 近世陶磁器集計表 · · · · · 42	第26表	供資材の履歴と調査項目・・・・・・119				
第7表 SR04 中世陶磁器集計表 · · · · · · · · 46	第27表	供資材の化学組成・・・・・・119				
第 8 表 SR05 中世陶磁器集計表 · · · · · · · · · 46	第28表	出土遺物の調査結果のまとめ・・・・・・119				
第 9 表 SR07 中世陶磁器集計表 · · · · · · · · 46	第29表	同定対象分類群 ・・・・・・・・・121				
第 10 表 SR10 出土土師器 (甕) 集計表 · · · · · · · 65	第30表	微化石概查結果 • • • • • 121				
第 11 表 SR10 出土土師器 (高坏) 集計表 · · · · · · 65	第31表	花粉化石組成表 · · · · · · · · · · · · · · · · 124				
第 12 表 SR10 出土土師器 (碗) 集計表 · · · · · · · 65	第32表	植物珪酸体化石組成表 ••••••126				
第 13 表 SR10 出土須恵器 (坏蓋) 集計表 · · · · · · 72	第33表	SR01 出土遺物観察表 · · · · · · · · · 137				
第 14 表 SR10 出土須恵器 (高坏) 集計表 · · · · · · 72	第34表	SR02 出土遺物観察表 · · · · · · · · 138				
第 15 表 SR10 出土須恵器 (壺・甕) 集計表・・・・ 73	第35表	SR03 出土遺物観察表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				
第16表 SR10出土須恵器(甕当具痕)集計表・・・73	第36表	SR04 出土遺物観察表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				
第 17 表 SR10 出土ミニチュア土器集計表・・・・・・ 81 第 18 表 縄文土器型式別集計表・・・・・・ 88	第37表第38表	SR05 出土遺物実観察表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				
第 18 表 縄文土器型式別集計表・・・・・・・・ 88 第 19 表 縄文撚り集計表・・・・・・・・88	第39表	SR07 出土遺物観察表 · · · · · · · · 143 SR10 出土遺物観察表 · · · · · · · · · 143				
第 20 表 縄文時代後期無文土器集計表 88	第40表	遺構外出土遺物観察表・・・・・・・145				
第 20 纹 - 爬入时 [(反对)	# 40 12	运悟 /F四上,				
本文写	古日	\ht				
华义与	兴口					
写真1 資料1 (縄文土器) のレプリカ作成箇所と走査	(型)電子	頭微鏡(SEM)写真 •••••• 130				
写真2 資料2(土師器)のレプリカ作成箇所と走査(型) 電子顕行	微鏡(SEM)写真 ······ 130				
写真図版目次						
図版表紙 SR10 出土遺物	4	. SR02・03 土層(南東から)				
図版1 1.下ノ原地区 遠景(南上空から)	図版 5 1	. SR03 完掘後(東から)				
2. 下ノ原地区 遠景(北上空から)	2	. SR04・05 完掘後(東から)				
図版 2 1.下ノ原地区 全景(上空から)	3	. SRO4 土層 (東から)				
2. 下ノ原地区 全景(南から)	図版5 4	. SR05 土層 (東から)				
図版3 1.SR01 (南西から)	図版 6 1	. SR10 完掘後(北から)				
2. SR01 土層(北西から)	2	. SR10 土層 1 (北西から)				
3. SR02・03・07 検出状況(南東から)	3	:.SR10 土層 2 (北東から)				
図版 4 1. SRO2 完掘後(東から)	4	. SR10 土層3(北から)				
2. SR02-2 石積検出状況 (西から)	5	. SR10 掘削作業風景				
3.SRO2-3 石積検出状況(西から)	6	i. 小学生による発掘体験(SR10 掘削作業)				

図版 7	1. SR01 出土遺物	図版 29	1. SR10 出土遺物
	2. SR01 出土遺物		2. SR10 出土遺物
図版 8	1 . SR02 出土遺物	図版 30	1. SR10 出土遺物
	2. SR02 出土遺物		2. SR10 出土遺物
図版 9	1 . SR02 出土遺物	図版 31	1. SR10 出土遺物
	2. SR02 出土遺物		2. SR10 出土遺物
図版 10	1 . SRO2 出土遺物	図版 32	1. SR10 出土遺物
	2. SR02 出土遺物		2. SR10 出土遺物
図版 11	1 . SRO2 出土遺物	図版 33	1. SR10 出土遺物
	2. SR02 出土遺物		2. SR10 出土遺物
図版 12	1 . SRO2 出土遺物	図版 34	1. SR10 出土遺物
	2. SR02 • 03 出土遺物		2. SR10 出土遺物
図版 13	1 . SRO3 出土遺物	図版 35	1. SR10 出土遺物
	2. SR03 出土遺物		2. SR10 出土遺物
図版 14	1 . SR03 出土遺物	図版 36	1. SR10 出土遺物
	2. SR03 出土遺物		2. SR10 出土遺物
図版 15	1 . SRO4・05・07 出土遺物	図版 37	1. SR10 出土遺物
	2. SR04・05・07 出土遺物		2. SR10 出土遺物
図版 16	1 . SR10 出土遺物	図版 38	1. SR10 出土遺物
	2. SR10 出土遺物		2. SR10 出土遺物
図版 17	1 . SR10 出土遺物	図版 39	1. SR10 出土遺物
	2. SR10 出土遺物		2. SR10 出土遺物
図版 18	1 . SR10 出土遺物	図版 40	1. SR10 出土遺物
	2. SR10 出土遺物		2. SR10 出土遺物
図版 19	1 . SR10 出土遺物	図版 41	1. SR10 出土遺物
	2. SR10 出土遺物		2. SR10 出土遺物
図版 20	1 . SR10 出土遺物	図版 42	1. SR10 出土遺物
	2. SR10 出土遺物		2. SR10 出土遺物
図版 21	1 . SR10 出土遺物	図版 43	1. SR10 出土遺物
	2. SR10 出土遺物		2. SR10 出土遺物
図版 22	1 . SR10 出土遺物	図版 44	1. SR10 出土遺物
	2. SR10 出土遺物		2. SR10 出土遺物
図版 23	1 . SR10 出土遺物	図版 45	1. SR10 出土遺物
	2. SR10 出土遺物		2. SR10 出土遺物
図版 24	1 . SR10 出土遺物	図版 46	1. SR10 出土遺物
	2. SR10 出土遺物		2. SR10 出土遺物
図版 25	1 . SR10 出土遺物	図版 47	1. SR10 出土遺物
	2. SR10 出土遺物		2. SR10 出土遺物
図版 26	1 . SR10 出土遺物	図版 48	1. SR10 出土遺物
	2. SR10 出土遺物		2. SR10 出土遺物
図版 27	1 . SR10 出土遺物	図版 49	1. SR10 出土遺物
	2. SR10 出土遺物		2. SR10 出土遺物
図版 28	1 . SR10 出土遺物	図版 50	1. SR10 出土遺物
	2. SR10 出土遺物		2. SR10 出土遺物
	•		

- 図版 51 1. SR10 出土遺物
 - 2. SR10 出土遺物
- 図版 52 1. SR10 出土遺物
 - 2. SR10 出土遺物
- 図版 53 1. SR10 出土遺物
 - 2. SR10 出土遺物
- 図版 54 1. SR10 出土遺物
 - 2. SR10 出土遺物
- 図版 55 1. SR10 出土遺物
 - 2. SR10 出土遺物
- 図版 56 1. SR10 出土遺物
 - 2. SR10 出土遺物
- 図版 57 1. SR10 出土遺物
 - 2. SR10 出土遺物
- 図版 58 1. SR10 出土遺物
 - 2. SR10 出土遺物
- 図版 59 1. SR10 出土遺物
 - 2. SR10 出土遺物
- 図版 60 1. 遺構外出土遺物
 - 2. 遺構外出土遺物
- 図版 61 1. 遺構外出土遺物
 - 2. 遺構外出土遺物
- 図版 62 1. 遺構外出土遺物
 - 2. 遺構外出土遺物
- 図版 63 1. 遺構外出土遺物
 - 2. 遺構外出土遺物
- 図版 64 1. 遺構外出土遺物
 - 2. 遺構外出土遺物
- 図版 65 1. 遺構外出土遺物
 - 2. 遺構外出土遺物
- 図版 66 1. 遺構外出土遺物
 - 2. 遺構外出土遺物
- 図版 67 1. 遺構外出土遺物
 - 2. 遺構外出土遺物
- 図版 68 1. 遺構外出土遺物
 - 2. 遺構外出土遺物
- 図版 69 1. 遺構外出土遺物
 - 2. 遺構外出土遺物
- 図版 70 1. 遺構外出土遺物
 - 2. 遺構外出土遺物
- 図版 71 1. 遺構外出土遺物
 - 2. 遺構外出土遺物
- 図版 72 1. 遺構外出土遺物
 - 2. 遺構外出土遺物

- 図版 73 1. 遺構外出土遺物
 - 2. 遺構外出土遺物
- 図版 74 1. 遺構外出土遺物
 - 2. 遺構外出土遺物
- 図版 75 1. 遺構外出土遺物
 - 2. 遺構外出土遺物
- 図版 76 1. 遺構外出土遺物
 - 2. 遺構外出土遺物
- 図版 77 1. 遺構外出土遺物
 - 2. 遺構外出土遺物
- 図版 78 1. 遺構外出土遺物
 - 2. 遺構外出土遺物
- 図版 79 1. 遺構外出土遺物
 - 2. 遺構外出土遺物
- 図版80 1. 遺構外出土遺物/鉄器集合(鉄素材・未成品・小札)
 - 2. SR01·02 出土遺物
- 図版 81 1. SRO2 出土遺物
 - 2. SR02·03 出土遺物
- 図版 82 1. SRO3 出土遺物
 - 2. SR03·05·07 出土遺物
- 図版 83 1. SR10 出土遺物
 - 2. SR10 出土遺物
- 図版 84 1. SR10 出土遺物
 - 2. 遺構外出土遺物
- 図版 85 1. 遺構外出土遺物
 - 2. 遺構外出土遺物
- 図版 86 1. SRO2 · 遺構外出土遺物
 - 2. SRO2·遺構外出土遺物

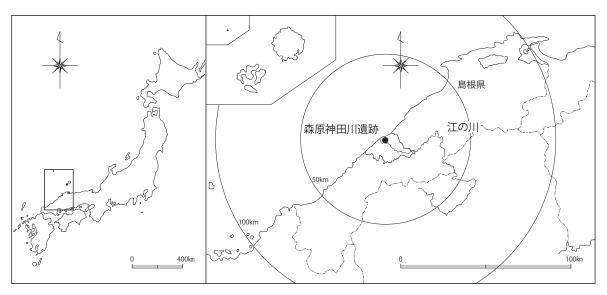
第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

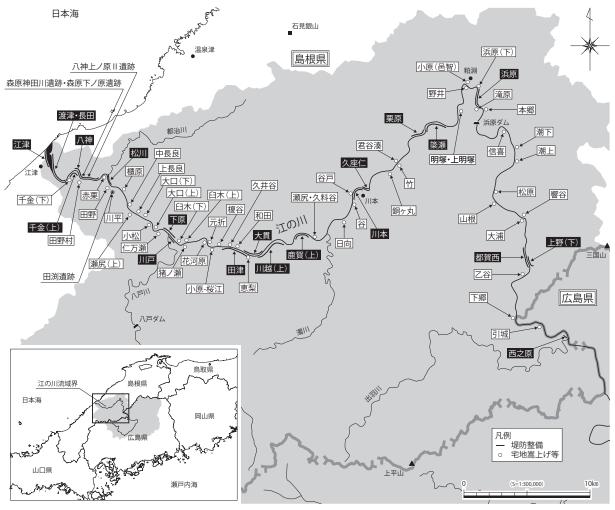
1. 事業計画の概要

江の川は、阿佐山(広島県北広島町)に端を発し、島根県江津市で日本海に注ぐ一級河川である。流域面積は約3,900km、幹川流路延長194.0kmを誇る中国地方最大の河川であり、「中国太郎」の別名を持つ。江の川は3支流が合流して盆地を形成する上流域と、山間の狭隘部を流れる中・下流域で構成されており、その構造から口(河口)が狭く、底(盆地)が広い「ひょうたん形河川」とも呼ばれている。こうした特性から、上流部の盆地では流れ込んだ雨水が下流に抜けにくく、中・下流域では増水時に水位が一気に跳ね上がるなど、常に洪水の危険をはらんでいる。記録によれば、1620~1945年の間で133回の洪水が知られており、近年では平成22(2010)年7月の豪雨で浸水家屋57戸、平成30(2018)年7月の豪雨では島根県内の流域だけでも290棟以上の家屋に浸水被害が生じている。

太平洋戦争終結後間もない昭和 20(1945)年9月、日本列島を襲った枕崎台風は各地に甚大な被害をもたらし、江の川流域においても死者・行方不明者 2,091 人、家屋全・半壊及び流失 8,183 戸、床上・床下浸水 68,536 戸の大災害となった。これを受けて、昭和 28(1953)年から上流部を中心に直轄河川改修事業が着手され、昭和 41(1966)年には「江の川水系工事実施基本計画」が策定された。この計画によって流域の護岸整備や堤防の拡築が進められ、昭和 49(1974)年には土師ダムが完成した。この間、昭和 47(1972)年には、梅雨前線に伴う集中豪雨により各所で堤防の決壊や越水が発生した。三次盆地中心部の大半が水没し、流域の死者・行方不明者 28 人、家屋全半壊・一部破損 3,960 戸、床上・床下浸水 14,063 戸、国鉄三江線粕淵第一橋梁流出など、未曾有の被害を出した。この洪水を契機として、昭和 48(1973)年には基本計画が改定され、新たな基本高水流量に基づく治水対策が進められることとなった。この中では、宅地・家屋の嵩上げと築堤を同時に施工する、土地利用一体型水防災事業が全国に先駆けて盛り込まれた点が特筆される。



第1図 遺跡の位置



第2図 江の川水系河川整備計画に基づく事業箇所

平成 19 (2007) 年 11 月、河川法の改定をふまえて「江の川水系河川整備基本方針」が策定され、 平成 28 (2016) 年 2 月には向こう 20 ~ 30 年間の治水事業計画として「江の川水系河川整備計画」 が整備された。現在はこれらの計画に基づき、築堤の構築や水防災事業が進められている(第 2 図)。 遺跡の所在する江津市八神地区は江の川下流 (4.7 ~ 7.0km間右岸) にあたる。現堤防の高さや

遺跡の所在する江津市八神地区は江の川下流(4.7~7.0km間右岸)にあたる。現堤防の高さや断面の不足を解消し、河川の氾濫防止に努めるための堤防整備が計画されており、計画高水位までの整備を第一段階、計画堤防高までの整備を第二段階とした段階施工による実施が予定されている。本事業により、100年に一度というような洪水が発生した場合にも、浸水面積の減少、人的被害の防止が図られることとなっている。

2. 埋蔵文化財保護部局への照会と調整

平成 26 (2014) 年 7 月、国土交通省浜田河川国道事務所から江津市教育委員会に対し、江の川直轄河川改修事業予定地内(八神地区)の埋蔵文化財の有無について照会があった。この際、島根県教育委員会文化財課を経由しなかったため、浜田河川国道事務所と市教育委員会の間で対応が協議され、市教育委員会が平成 27 年度中に試掘確認調査を実施することとなった。

平成 27(2015)年7月、「江の川水系河川整備計画」策定にかかる第1回連絡調整会議が開催され、 国土交通省より県関係部局へ事業内容の説明会があった。これを受けて同年9月、関係する浜田河 川国道事務所、県教育委員会(文化財課・埋蔵文化財調査センター)、市教育委員会の三者で協議 が行われ、国事業である河川整備事業に関する調査は埋蔵文化財調査センターが対応することを確認した。また、これまでの経緯を考慮し、市教育委員会が試掘確認調査を実施した一部の遺跡については、市教育委員会がそのまま発掘調査を実施することなど、当面の調整が図られた。同年11月、県土木部河川課を通じ、県教育委員会に対して「江の川水系河川整備計画(案)」の意見照会があり、埋蔵文化財については事前協議が必要な旨を回答した。

平成27 (2015) 年11月、浜田河川国道事務所から県教育委員会に事業予定地内(江津市松川町太田〜邑智郡美郷町竹)の埋蔵文化財の有無について照会(平成27年11月26日付け国中整浜河管第72号)があった。県教育委員会は、市教育委員会に照会の上、状況の明らかな江津市八神地区内の4遺跡について回答するとともに、他の地区については、分布調査及び試掘確認調査が必要な旨を付した(平成28年1月26日付け島教文財第818号)。これを受けて、平成28 (2016)年2月には関係三者による協議がもたれ、今後各地区の事業進捗にあわせて分布調査と試掘確認調査を進めていくこととなった。江津市川平地区では平成28年3月~6月にかけて県教育委員会と市教育委員会が共同で分布調査及び試掘確認調査を行って田淵遺跡を発見し、平成29年度には県埋蔵文化財調査センターが田渕遺跡の発掘調査を実施した。

八神地区では、市教育委員会により平成 26 年度から平成 27 年度にかけて試掘確認調査が実施され、八神上流工区で八神上ノ原遺跡(県営農地環境整備事業)と八神上ノ原 II 遺跡、八神下流工区で森原神田川遺跡と森原下ノ原遺跡の 4 遺跡が発見された。これらは関係三者の協議に基づき、事業地内の八神上ノ原 II 遺跡を市教育委員会、森原神田川遺跡と森原下ノ原遺跡を県教育委員会が対応することとなった。

各遺跡の発掘調査は平成28年度から開始され、市教育委員会により八神上ノ原Ⅱ遺跡が調査された。森原神田川遺跡は用地買収等の条件が整った箇所から調査することとなり、平成29年度に森原神田川遺跡大津地区、平成30年度に森原神田川遺跡下ノ原地区の発掘調査を県埋蔵文化財調査センターが実施した。

3. 法的手続き

森原神田川遺跡下ノ原地区は、平成30(2018)年3月9日付け国中整浜河管第83号で文化財保護法第94条第1項の規定による通知が国土交通省浜田河川国道事務所長から島根県教育委員会教育長あてに提出された。それに対して県教育委員会は、試掘調査の結果を踏まえ、平成30年3月26日付け島教文財第49号の131で記録作成のための発掘調査の実施を勧告した。

下ノ原地区の発掘調査は県埋蔵文化財調査センターが実施することとなり、文化財保護法第99 条第1項の規定による通知を、平成30(2018)年5月7日付け島教埋第15号で島根県埋蔵文化 財調査センター所長から島根県教育委員会教育長あてに提出した。現地調査終了後、遺跡は記録保 存することとなり、平成30年12月27日付け島教文財第410号の4で島根県教育委員会教育長 から浜田河川国道事務所長あてに終了報告を提出した。

第2節 発掘調査と整理作業の経過

1. 試掘確認調査と調査区の設定

前述したように、森原神田川遺跡は江津市教育委員会が平成 26~27 年度に実施した試掘確認調査で発見された(第3図)。平成 26 年度調査は県営農地環境整備事業に伴うもので、平野部の中央付近を横断するようにトレンチを 20 箇所設定して実施した。結果、TR24・TR29・TR32 (H26TR24・29・32) の表土下 1.5 mで水田跡とみられる粘土と砂層が入り混じった土層を確認し、TR24・TR29 では同一層上面で足跡を検出するなど、対象地の広い範囲で遺構面の広がりを確認した。続いて平成 27 年度に本事業地内の試掘確認調査を実施し、前年度調査対象地の西側隣接地にトレンチを 11 箇所設定 (H27TR10~21) した。結果、TR10・TR11 の地表下 1 mの砂質土で土器片が出土するなど遺物包含層を確認し、TR16 や TR18 では地表下 2 mで水田跡とみられる遺構面が検出された。この結果を受け、26 年度調査対象地に加え TR10・TR11 及び TR16・TR18を含むエリアが森原神田川遺跡の範囲とされた。遺跡の面積は約 23,000㎡である。なお、平成 29 (2017)年 10 月には島根県埋蔵文化財調査センターが試掘確認調査を実施した(第3図 H29TR1~4)。この調査により、地表下1~2 mで遺物包含層の存在を確認したため、下ノ原地区の調査面積を確定した。

今回の本事業に伴う発掘調査は、H27TR10・11周辺の南側調査区と、H27TR16・18周辺の北側調査区の2箇所を調査対象箇所とし、用地買収等の条件が整った箇所から本調査を実施することとなった。なお、調査対象箇所の間には国土交通省浜田河川国道事務所が外部委託して実施したボーリング及びスウェーデン式サウンディングにより粘土層が堆積していることが判明している。森原神田川遺跡はこの粘土層の周辺に堆積する砂層に形成された遺跡であると考えられる(第4図)。調査時には便宜的に北側を1区、南側を2区とした。しかし、各調査区本来の小字名が、地域の歴史や実態をより反映していると思われることから、1区を大津地区、2区を下ノ原地区として取り扱うこととした。調査にあたっては、両調査区で座標系に基づく座標軸を合わせた共通のグリッドを設定した(第5図)。調査対象面積は、大津地区が2,500㎡、下ノ原地区が3,000㎡である。

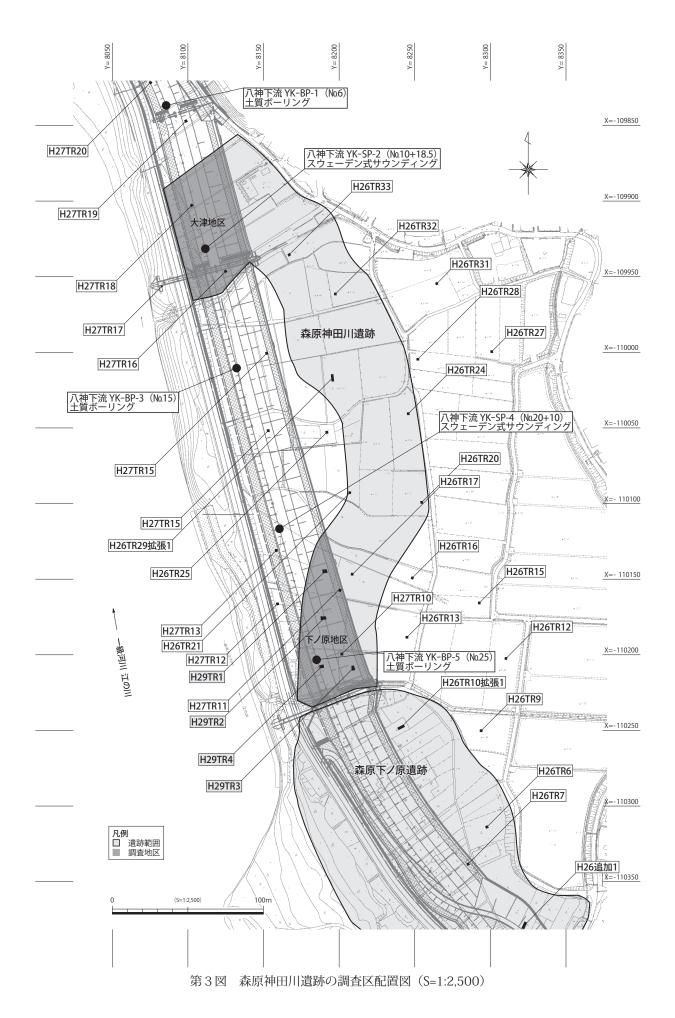
なお、本報告書では、下ノ原地区の調査成果について報告することとし、大津地区の調査成果については『森原神田川遺跡大津地区』(島根県教育委員会 2020)を参照していただきたい。

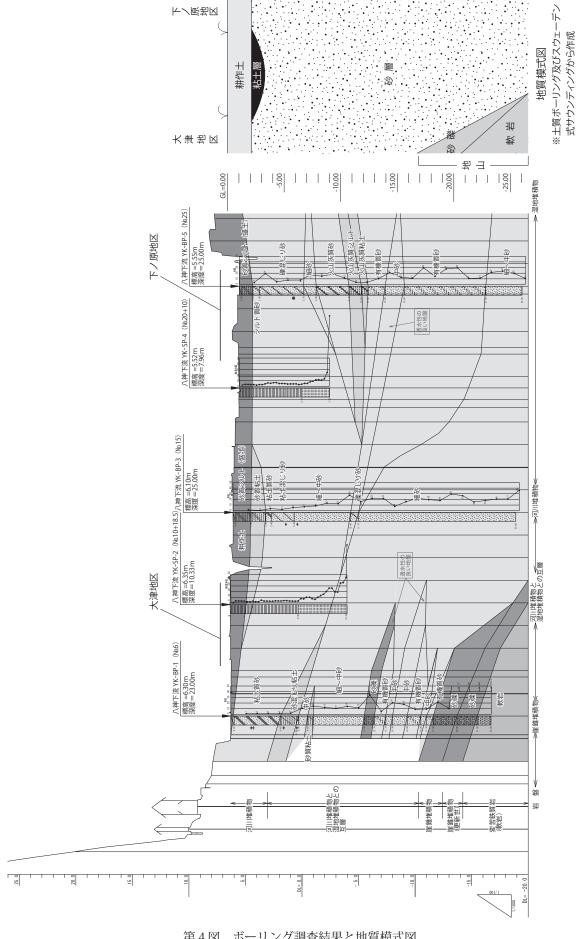
2. 発掘作業

調査対象地は、大津地区と同じ平野の南部に位置する。下ノ原地区の南側には、小河川を挟んで森原下ノ原遺跡が存在する微高地が存在する(第3図)。調査区は事業区画に合わせて設定し、平成30(2018)年5月21日から発掘作業に着手した。調査区には近現代の水田耕作土が堆積しており、これを重機で掘削したのち、6月4日から人力による包含層掘削を開始した。

調査区東側では地表下約 1.2 mでほぼ水平に堆積する粘質土層を確認した。この粘質土層は、後述する SR10 によって形成された自然堤防の最上位に堆積していることがわかった。また、粘質土層上面で東から西へ流れる $SR01 \sim 05 \cdot 07$ の 6 つの自然流路、水路を確認した。なお、 $SR06 \cdot 08 \cdot 09$ については、遺構番号を整理した結果、欠番とした。

その後、SR01~05・07の調査を行い、中世後期から近世のものであることがわかった。この





第4図 ボーリング調査結果と地質模式図



7

うち SR01 については第3章2節で後述するが、所属時期も考慮し部分的な調査にとどめた。

SR01 ほか自然流路、水路の調査を終えた後、10月 15日から調査区西側の包含層掘削を開始した。 包含層は西側に行くほど深くなっており、現在の江の川に平行するように南北方向に流れる大きな 河道の埋土であることが判明したため、この河道を SR10 とした。SR10 の最深部からは古墳時代 後半の土器片が大量に出土したほか、滑石製勾玉(第 56 図 8)などの祭祀関連遺物も確認された。 11月 4日には遺跡の現地公開を行い、地元を中心に約 30 名の参加があった。

11月13日には中村唯史氏の調査指導を受け、2つの自然堤防に挟まれ、淵状になった旧河道に 洪水でオーバーフローした砂が堆積して埋没したことなど教示を受けた。また、古環境復元のため 文化財調査コンサルタント株式会社に委託し、SR10の堆積土から花粉分析及び珪酸体分析用の資 料を採取した。

11月15日には空中写真撮影を実施した。その後11月19日に完了検査を受け、作業が終了した。その後調査区の埋め戻しを行い、国土交通省に引き渡しを行った。

なお、この間、全国に大きな被害をもたらした平成30(2018)年7月豪雨が発生した。当地域においても7月6日夜~7月7日早朝にかけて江の川が氾濫した。調査区が水没し、土砂も流入したため発電機など発掘用の機材にも被害が出た。復旧作業には10日余りを要し、作業再開は7月19日であった。

3. 整理作業

遺物の水洗・注記・接合作業は現地調査に並行して実施し、冬季は埋蔵文化財調査センターにて復元・実測等の整理作業を行った。このほかに、現地調査時に採取した土壌サンプルを基に、遺跡周辺の古環境復元のための分析を実施した。分析結果は第4章第2節で報告する。また、出土鉄滓・鉄塊などの鍛冶関連遺物及び鉄素材の一部についても分析を実施した。結果は第4章第1節に記載した。

令和元・2年度には、現地調査終了後に整理した図面・写真等の記録類について引き続き総合的な整理検討を行い、遺構・遺物のトレース、遺物の写真撮影、割付、原稿執筆を行った。画像処理・図版作成・編集等には Adobe 社のソフトを使用した。

第3節 調査体制

発掘調査・報告書作成は次の体制で行った。

調查主体 島根県教育委員会

平成 30 年度

事 務 局 教育庁文化財課

課長 萩 雅人、文化財グループ GL 神田康夫、管理指導スタッフ調整監 池淵俊一 埋蔵文化財調査センター

所長 椿 真治、総務課長 石橋 聡、高速道路調査推進スタッフ調整監 今岡 操、 管理課長 守岡正司、調査第二課長 角田徳幸

(担当者) 調査第二課調査二係長 宮本正保、同主事 今福拓哉、 嘱託職員 柳浦俊一、臨時職員 幸村康子・無川美和子 令和元年度

事 務 局 教育庁文化財課

課長 萩 雅人、文化財グループ GL 桑谷昭年、管理指導スタッフ調整監 池淵俊一 埋蔵文化財調査センター

所長 椿 真治、総務課長 和田 諭、高速道路調査推進スタッフ調整監 角田徳幸、 管理課長 守岡正司

(担当者) 調査第二課長 宮本正保、嘱託職員 柳浦俊一、臨時職員 角森玲子 令和2年度

事 務 局 教育庁文化財課

課長 萩 雅人、文化財グループ GL 桑谷昭年、管理指導スタッフ調整監 池淵俊一 埋蔵文化財調査センター

所長 椿 真治、総務課長 和田 諭、高速道路調査推進スタッフ調整監 角田徳幸、 管理課長 守岡正司

(担当者) 高速道路調査推進スタッフ企画幹 宮本正保

【参考文献】

国土交通省 2007『江の川水系河川整備基本計画』

島根県 2014『江の川水系下流支流域河川整備計画』

国土交通省 2016『江の川水系河川整備計画 国管理区間』

国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所ホームページ

江津市教育委員会 2018『八神上ノ原Ⅱ遺跡』

島根県教育委員会 2018『田渕遺跡』

島根県教育委員会 2020『森原神田川遺跡大津地区』

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

森原神田川遺跡は、島根県江津市松川町太田~八神に所在する。遺跡は中国地方最大の河川である江の川下流域右岸に位置し、急峻な山塊が囲う約 16ha ほどの沖積平野に形成された自然堤防とその後背低地に立地する(第6図)。現状で自然堤防は国道や竹林となっている。後背低地は水田あるいは畑地として利用され、集落は平野部東側の山地の麓に展開する。自然堤防は江の川の流路と並行して発達しているが、標高は8m程度であり、集中豪雨の際には自然堤防を越流し氾濫原として低地に河川堆積物がもたらされたことがうかがえる。今回調査地の標高は約5~6mであり、江の川の氾濫形態による影響を直接的に受ける立地といえる。

1. 江の川と流域の成り立ち

江の川は、広島県北広島町の阿佐山に源を発し、三次市、邑南町、江津市など8市7町を経て日本海に注ぐ一級河川である。流域面積は約3,900k㎡、幹川流路延長194.0kmと中国地方最大の河川であり、「中国太郎」の別名をもつ。「江の川」の名称は、昭和41(1966)年の一級河川指定に際し定められたものであり、旧河川法時代には「江川」(島根県:昭和5年告示)、「郷川」(広島県:大正8年告示)とされていた。

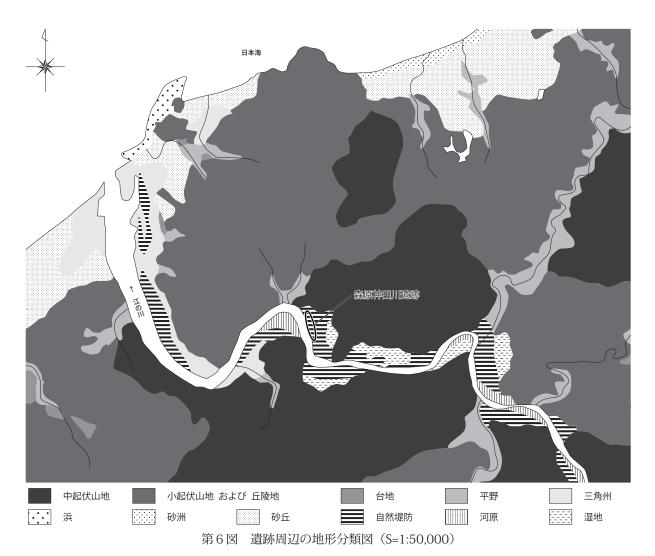
江の川は全国的にも珍しい、山地を横断する「先行河川」である。新生代第三紀末葉に起こった 地盤隆起にもかかわらず、江の川の流れはそれ以上のスピードで下刻浸食を続け、結果として中国 山地を断ち切って日本海へと流れ下る、長大な水系が形成された。上流域には中生代白亜紀の溶結 性凝灰岩質岩石帯が広がる。流域の大部分が山間の狭隘部にあたり、西城川や馬洗川などが合流す る広島県三次盆地付近を除き、規模の大きな平坦地は存在しない。

こうした地勢的条件のもと、人々は急峻な山と川に挟まれた狭小地に居を構え、古くから生活を営んできた。流域の土地利用状況を見ると、山林が約92%、水田や畑地等が約7%、宅地等の市街地は僅か1%である(国土交通省2016)。平坦な土地が限られるため、流域には比較的小規模な集落が数多く分散、点在している。流域内人口は約18.4万人である。

2. 江の川と水運

江の川では水運が古くから盛んであった。これまで発掘調査例はほとんどないが、江の川を横断する横舟(渡し舟)だけでなく、上り下る荷舟が立ち寄る船津が各地に存在したことは間違いない。古記録によれば、少なくとも中世後半には上流域から河口までを走破する物資輸送も行われていたようである。江の川沿岸には中世の山城が点在しており、江の川が戦略上の理由だけでなく物流の動脈としても意識されていたことがうかがえる。

一般に荷舟による物資輸送は、河川整備が進められた近世から発達するが、江の川においては少し事情が異なっていた。上流域では、広島藩による津留統制(藩外交易の禁止措置)によって越境輸送が制限されていたため、舟運は短距離を主体とするものが中心であったらしい。一方、中・下



流域では東岸に石見銀山を中心とする天領が置かれると、流域には荷抜けや抜け売りを防ぐため川舟番所(口番所)が各地に設置された。積み荷のある舟は、番所で荷の内容に応じ運上金を支払い通行する必要があった。記録によれば、江の川流域の口番所の運上金額は、日本海沿岸のそれを大きく上回っており、江の川舟運の繁栄がうかがわれる。近世後半の江の川流域では鈩製鉄が盛んに行われており、操業に必要な砂鉄や木炭をはじめ、生産された銑鉄などの輸送はもっぱら舟運が担っていた。木炭は灰吹き法を用いる銀精錬においても必要不可欠であり、各地におかれた御立山由来の木炭の輸送も江の川に支えられていた。江の川河口に位置する郷津(江津)は、北前船の寄港地として栄え、同時に江の川を介した山間部への中継基地でもあった。そのため郷田村(現江津町付近)は江の川西岸に位置しながら、永らく石見銀山領とされていた。中・上流域からは銑鉄や木炭のほか木材や和紙などの特産物が、沿岸部からは塩や米などが運ばれた。

明治時代の幕開けとともに津留統制が解かれると、舟運はさらに発展した。明治 20 年代には 800 隻を超える荷舟が稼働し、流域の船着き場は 50 か所を数えたという。江津一三次間約 120 kmを「下り 2 日、上り 5 日」で結んだ。便数は粕淵一郷田間が月平均 50 往復、都賀一粕淵間が同70 往復に達した。大正時代にはプロペラ船も投入され、江津一粕淵間を 1 日 2 往復した。しかし、発電所の取水堰建設により三次への航路が分断されたこと、沿岸の道路網整備の進展などにより、物流の中心は陸上輸送へと転換してゆき、舟運は急速に衰退をはじめる。大正 15 (1926) 年から始まった国鉄三江線(2018 年全線廃線)の建設工事は、昭和 5 (1930) 年の石見江津一川戸間開

業を皮切りに順次延伸し、昭和 12 (1937) 年には当初計画の浜原までが全通した。こうして流域の物流を担ってきた江の川の舟運は、終焉を迎えることとなった。

第2節 歷史的環境

江の川は広島県北部の中国山地に源を発し、三次盆地を経て中国山地脊梁部を貫流して日本海に注ぐ。上流域にあたる広島県側では支流河川が合流する三次盆地が形成され、低丘陵上に大規模な古墳群など数多くの遺跡が密集する。一方、中・下流域では、山間の峡谷化した流域の両岸に形成された小規模な河岸段丘や自然堤防上に遺跡が孤立的に点在するところに特徴があり、現状で大規模な集落跡や古墳等は知られていない。従って、江の川沿岸部の遺跡の様相は不明瞭な点が多いといえるが、森原下ノ原遺跡(第7図2)では、縄文時代から江戸時代前期にかけての遺物が多数出土し、遺構面も複数確認するなど、同一箇所で生産活動が継続して営まれる様子が明らかになりつつある。ここでは、日本海沿岸部も含めた江の川下流域における遺跡の変遷や概要を述べる。

1. 旧石器・縄文時代

江の川流域においては、旧石器時代の遺跡は現在のところ確認されていない。縄文時代の遺跡は海浜部に多く、後期に入ってから内陸部にもみられるようになる。主な縄文時代の遺跡としては、尾浜遺跡(49)、埋築遺跡(63)が知られており、尾浜遺跡では縄文時代後期のクロスナ層からまとまった遺物が出土した。埋築遺跡では、晩期の突帯文土器が確認されている。また、波子遺跡(江津市波子町)は中期の遺跡として古くから知られている。

2. 弥生時代

弥生時代の遺跡は、江の川以東では埋築遺跡と波来浜遺跡(60)、江の川以西では古八幡付近遺跡(江津市敬川町)などがあり、時期が下るにつれて遺跡数が増加し一円に広がっていく。

集落遺跡としては、埋築遺跡、高津遺跡(65)が知られている。埋築遺跡では、前期の土器を伴う溝状遺構が調査された。また、包含層からは中期の土器も出土している。高津遺跡では、後期の住居が確認されている。

波来浜遺跡では、中期から後期にかけての貼石をもつ墳丘墓が確認されている。特に中期の墳丘墓は、特徴的な貼石の様子から四隅突出型墳丘墓の祖型ではないかという指摘もある。後期の墳丘墓には副葬品や規模などに差異がみられ、階層差を示しているとの指摘もされている。

3. 古墳時代

古墳時代の集落遺跡としては、高津遺跡で古墳時代初頭から中期の住居が確認されている。また、後期の粘土採掘坑と思われる土坑群が発見されており、人々が古墳時代を通じてこの周辺で生活をしていたことがうかがえる。尾浜遺跡では前期の土師器が数点表採されており、波来浜遺跡では集落の全容は把握できないものの、土師器、須恵器、鉄斧などが出土している。

この地域では大型の古墳は知られていないが、古墳時代後期になると、高野山古墳群(江津市千田町・二宮町)や佐古ヶ岡横穴墓群(59)などが築かれる。これらは、横穴式石室を持つ前者と、

横穴墓からなる後者で異なった様相をみせている。

4. 古代

律令時代には、中央政府が地方支配を円滑に進めるための道路網の整備が求められ、全国で地方主要道が設定されていく。山陰地方にも山陰道が設けられ、さらに一定の距離ごとに駅馬を備えた駅家が置かれた。『延喜式』によれば、石見地方では、波祢・託農・樟道・江東・江西・伊甘の6駅が設置された。

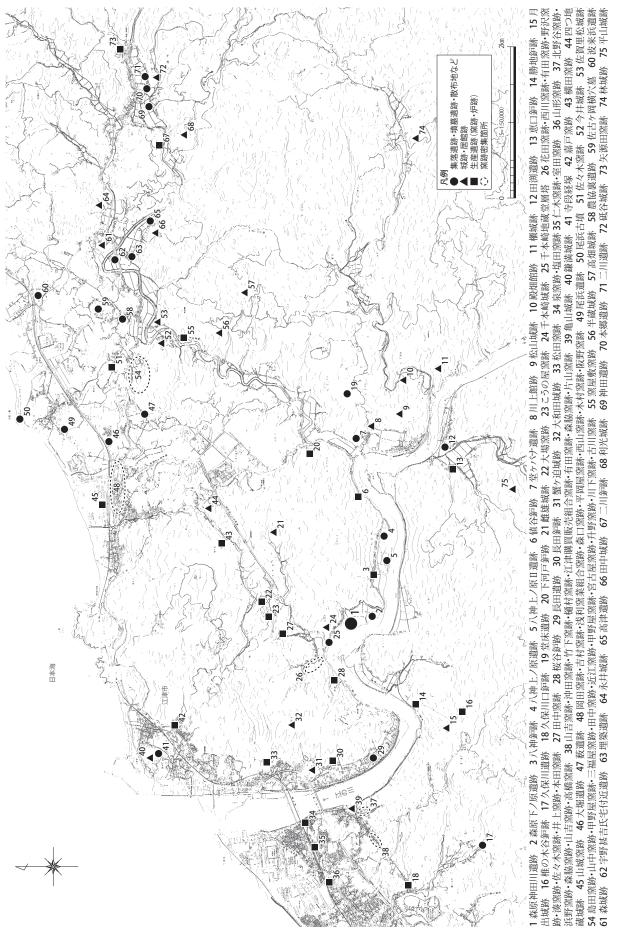
江津市内における古代山陰道の経路は、歴史地理学の推定作業によると、江の川以東は幅6~14 mの道路痕跡が、畿内の方向へは室神山(浅利富士)を正面に、石見国府方面には大崎鼻を目がけてほぼ一直線につながるという。また江の川両岸には、江東駅・江西駅が設置されていたとされる。現状で駅家といえる遺跡は確認されていないが、江の川沿いの長田遺跡(29)、東部の高津遺跡、波来浜遺跡は、推定されている古代山陰道の経路付近に位置しており、関係性が考えられている。長田遺跡では、奈良から平安時代にかけての土師器片・須恵器片が採集されている。また、高津遺跡では、「郡」のへラ描き須恵器坏が出土している。波来浜遺跡では、同時期の須恵器片が数百点出土しており、その他にも製塩土器、土錘や須恵器・石帯を伴った火葬墓が調査されている。なお、『日本書紀』(720 年成立)に「素戔嗚尊下至於安藝国可愛之川上也」」)との記載がある。広島県域では江の川上流を「可愛川(えのかわ)」と呼ぶことから、江の川を「可愛川」に比定する説もある。

5. 中世

中世前期の江の川の様相は、資料が乏しく不明な点が多い。しかし、江の川は古くから水運が盛んであり、この頃には遠く三次周辺まで往来していたという。詳細は不明ながら、江の川下流域にも多くの船着き場が存在していたことは確実であり、山陰道、温泉津道や福光道とともに地域内交通の要として機能していたと考えられる。江の川左岸の田渕遺跡(12)は、松川を経て跡市へ続く街道筋に位置し、12~13世紀を中心とする柱穴列や小鍛冶炉が確認された。江の川右岸に位置する八神上ノ原遺跡(4)でも、ほぼ同時期の建物や遺物が見つかっており、当時交通の要衝として栄えていた一端がうかがえる。

南北朝期の動乱の際には、当時の地頭であった中原氏をはじめ石見の諸将の多くが南朝方に与しており、度々北朝方と争っていた。江の川右岸の松山城跡(9)は、南北朝期に地頭として近江国から入部した中原氏(河上氏)により築城されたと伝えられており、建武3(1336)年に北朝方の攻撃を受け、翌4年にも城付近で戦闘が行われたとの記録が残る。詳細は不明だが、森原神田川遺跡の北側丘陵には千本崎城跡(24)があり、丘陵先端には千本崎地蔵堂層塔(25)が1基存在する。森原神田川遺跡内には小字名として「大津」が認められるなど、周辺は江の川水運の拠点的地域の一つであったことがうかがえる。

また 16 世紀半ばから 17 世紀には、金や銀が国内外の貿易において重要な位置を占めるようになる。日本列島の各地で、鉱物資源の開発が競って進められ、数多くの鉱山や鉱山町が出現した。石見においても、博多の豪商神屋寿貞が大永 7 (1527) 年に石見銀山(大田市大森町)を再発見した。石見銀山では、灰吹法による銀精錬が早くから行われ、銀生産が本格的になると人々の来往や物資



第7図 周辺の遺跡(S=1:50,000)

の搬入が進み、鉱山一帯は都市的様相を示すようになる。石見銀山で生産された銀は、国内での流 通のみならず朝鮮半島や中国へ輸出され、東アジアの交易に大きな影響を与えた。そのため、銀山 は中国地方支配のための焦点となり、大内氏、毛利氏、尼子氏ら戦国大名に加え、石見地方の各領 主たちの領地争いも交えた争奪戦となる。

永禄4 (1561) 年、福屋氏が同じく地方領主であった小笠原氏と所領に関する争いから、毛利方を離反した。松山城は櫃城(11) を支城とし、福屋氏の拠点として機能していたため、毛利氏と福屋氏の対立の激戦地となる。永禄5 (1562) 年、毛利氏の軍勢により櫃城とともに落城し、福屋氏は滅亡。後に松山城は小笠原氏や、毛利氏の一族である吉川氏の領有となったという。

6. 近世・近代

慶長5 (1600) 年、徳川家康が石見国の7ヶ村に禁制を出し、江戸時代に石見銀山を中心とした地域は幕府直轄の領地となる。海陸交通の要衝であった郷田村を除き、江の川西岸の村は元和5 (1619) 年以降は浜田藩に属する。東岸は一部が西岸と同じく浜田藩の領地となるが、替地により幕府領に復し、石見銀山領として幕末まで継続した。また、全国各地の幕府領では、奉行や代官により盛んに新田開発が行われていた。森原神田川遺跡大津地区(1)では、大規模な近世水田と畠が確認されている。時期的に各地の新田開発に関連する可能性がある。

江戸時代中期から明治時代にかけて、江の川流域やその支流近くの村で、恵口鈩跡(13)、桜谷 鈩跡(28)、価谷鈩跡(6)など銑鉄を中心とした鈩製鉄の経営が盛んになる。恵口鈩は、浜田藩 の御手鈩であった高丸鈩が、安永元(1772)年、「恵口御手鑪所」として移築されたものである。原料となる砂鉄は水運によって運ばれ、薪炭の供給も周辺の森林資源により豊富であった。江戸後期に最盛期を迎え、明治まで経営が継続された。

またこの時期には、石見地方における主要な地場産業の一つである石見焼の窯業も盛んに行われるようになり、瓦窯と丸物窯を主体とする窯跡が各地に点在している。江の川流域の松川町では花田窯跡(26)や田中窯跡(27)、こうの屋窯跡(23)、日本海沿岸部の都治町・浅利町では岡田窯跡(48)、島田窯跡(54)など多数の窯跡が存在するなど、石見において江津市域は石見焼生産の中心地として広く認知されている。

(註)

1) 『日本書紀』巻第一第八段一書第二

【参考文献】

伊藤 創 2017「江津市における石見焼生産の特徴」『近世・近代の石見焼の研究』島根県古代文化センター研究論集 第 17 集

角田徳幸 2011「たたら吹き製鉄の地域的展開」『山陰におけるたたら製鉄の比較研究』島根県古代文化センター

角田徳幸 2014『たたら吹製鉄の成立と展開』清文堂出版

門脇俊彦 1973『波来浜遺跡発掘調査報告書』江津市

黒田明憲 1999「江の川の舟運と川舟」『広島県立歴史民俗資料館研究紀要』第2集

江津市 1982『江津市誌 上巻』

江津市教育委員会 1982『平成3年度埋蔵文化財調査報告書』

江津市教育委員会 2002 『埋築遺跡』

第2章 遺跡の位置と環境

江津市教育委員会 2005『高津遺跡』

江津市教育委員会 2012『波来浜遺跡-保存・活用のための確認調査報告書-』

江津市教育委員会 2018『八神上ノ原遺跡・森原上ノ原遺跡』

江津市教育委員会 2018『八神上ノ原Ⅱ遺跡』

国土交通省 2016『江の川水系河川整備計画 国管理区間』

島根県 2014『江の川水系下流支流域河川整備計画』

島根県教育委員会 1997『石見の城館跡』

島根県教育委員会 2002 『増補改訂島根県遺跡地図Ⅱ (石見編)』

島根県教育委員会 2005『価谷鈩跡発掘調査報告書』島根県古代文化センター調査研究報告書 26

島根県教育委員会 2008『中祖遺跡・ナメラ迫遺跡』

島根県教育委員会 2016『考古基礎資料調査にかかる生産遺跡調査報告書 在地陶磁器集成1(石見部・陶器編)』

島根県古代文化センター調査報告書 52

島根県教育委員会 2018『田渕遺跡』

高屋茂男編 2017『石見の山城 山城50選と明らかにされた城館の実像』ハーベスト出版

広島県立歴史民俗資料館編 1984・1985・1991『江の川の漁労』

平凡社地方資料センター編 1995『日本歴史地名体系第33巻 島根県の地名』 平凡社

三浦史峰ほか 2003「江津の鑪跡」『石見潟』第 22 号 江津市文化財研究会

『江の川ものがたり』各号 山陰中央新報社

第3章 調査方法と成果

第1節 調査の方法

1. 発掘調査区の立地

調査対象地は、江の川右岸に開けた小規模な氾濫原の南部に位置する標高約6mの平地で、調査前は水田として利用されていた(第8図)。調査区南側には小規模な河川を挟んで森原下ノ原遺跡が立地する微高地がある。この微高地は、後背に江の川に張り出す山塊が存在しており、この下流側に形成された砂州に由来すると考えられる。また、調査区北側約200mには森原神田川遺跡大津地区が位置する。

2. 発掘調査区とグリッドの設定

本発掘調査の対象範囲は、平成 29 年度に島根県教育委員会が実施した試掘確認調査の結果に基づいて決定し(詳細は第 1 章第 2 節参照)、遺跡の範囲と工事対象範囲から平面形が三角形となる調査区を設定した(第 9 図)。調査にあたっては、世界測地系の第Ⅲ座標系に基づき座標軸を合わせた 10 m四方のグリッドを設定した。また、調査区内に設定した土層観察用の畦を基準にした区画も補助的に使用して調査を行った。

3. 調査の方法

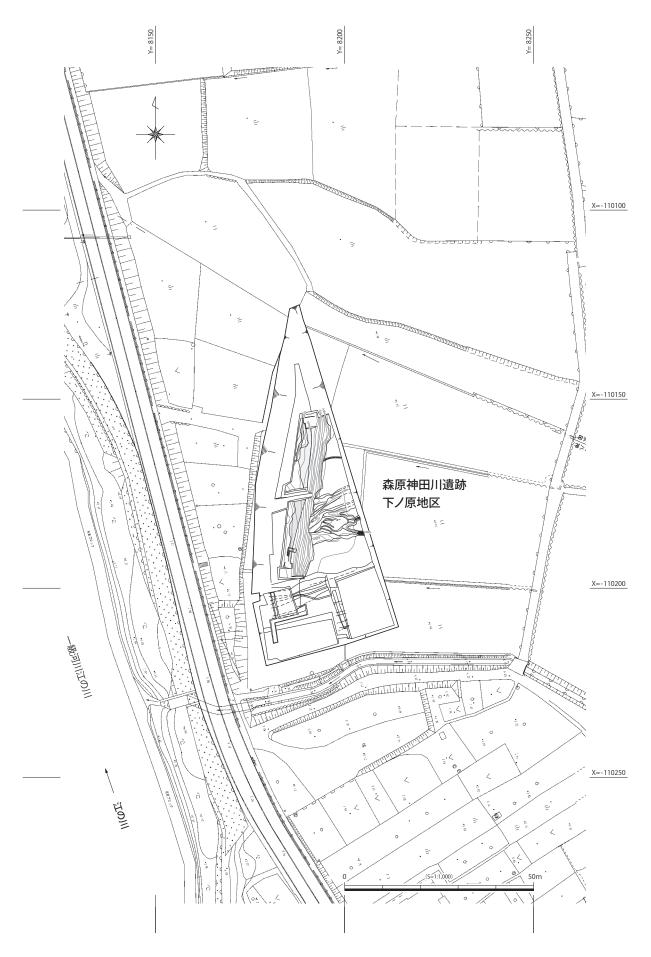
調査前の現地の状況は沖積平野に広がる水田であった。試掘確認調査で確認された遺物包含層までは耕作土が厚く堆積するため、バックホーを用いて耕作土を取り除く必要があった。重機掘削はバケットに平爪を装着し、少しずつ漉き取るようにして面的に掘り下げた。併せて土層観察を行いながら、遺物包含層まで余裕を持たせて掘削を停止した。

その後はベルトコンベアを設置し、スコップ・ジョレンを用いた人力による掘削を行った。遺物 包含層についてはスコップを用いて人力で掘り下げたが、出土する遺物の粗密に応じて適宜移植ゴ テ等の道具を併用し、取り上げに際しては地点と層位の記録を行った。遺構検出にはジョレン・草 削りを使用した。

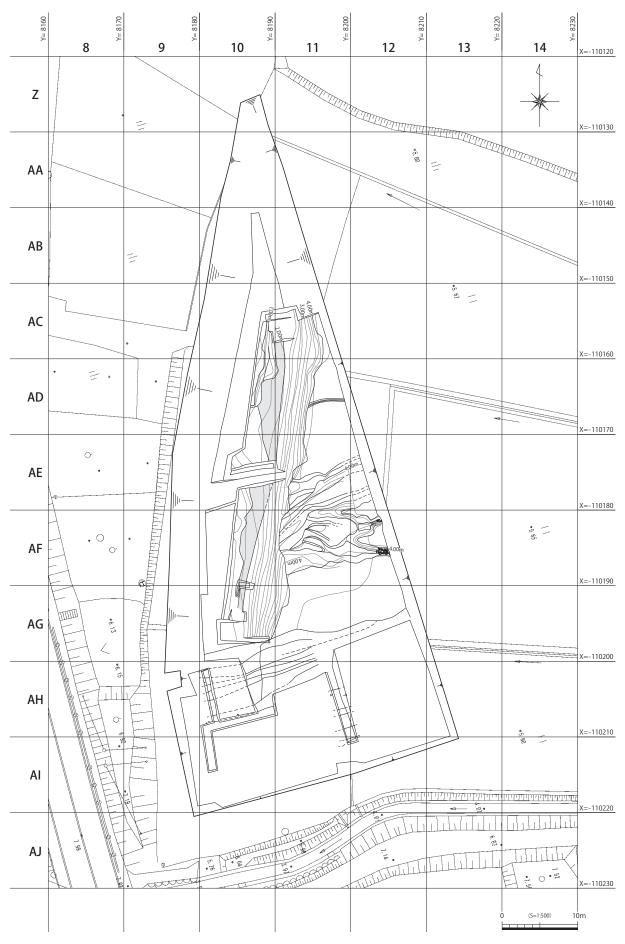
水路・流路の埋土掘削では、移植ゴテ・草削りを使用したが、大形の流路・水路ではスコップを 併用した。掘削にあたっては適宜ベルトを設定し、土層観察を行いつつ掘り下げた。土層断面につ いては写真撮影を行い、必要に応じて断面図を作成した。遺構からの出土遺物については、出土状 況を記録した後、必要に応じて取り上げNoを与え、取り上げを実施した。

遺構の平面図は、株式会社 CUBIC 社の遺跡調査システム「遺構くん」を用いて測量し、出力後補正を行った。断面実測図についてはオートレベルを用いて測量を行った。遺構等の写真は、原則としてデジタルカメラで撮影を行い、報告書に掲載が見込まれるものは 6 × 7 判フィルム(モノクロネガ・カラーポジフィルム)でも撮影を行った。

現地調査期間は平成30年5月21日から11月14日、調査面積は3.000㎡である。



第8図 下ノ原地区の調査区位置図及び周辺地形(S=1:1,000)



第9図 下ノ原地区調査グリッド(S=1:500)

第2節 基本層序

地表面から標高 4.5 m付近までは、近年までの水田耕作土(I 層)と縄文時代から近世にかけての遺物包含層(II 層)が堆積する。標高 4.5 m付近では、調査区東側で粘質土(黄褐色系粘質土)が検出され、場所によっては厚さ $40\sim50$ cmに達する堆積も認められる(第 19 図 $4\sim6$ 層・第 20 図 5 層)。この粘質土層は SR10 の自然堤防を形成する土層と考えられる。また、この標高で河道や流路が検出されており、それら河道・流路の埋土をIII 層とした。III 層は調査区西側では、SR01 を検出した南部を除き、SR10 の埋土となる。III 層の下は先述した粘質土や砂質土となり、さらにその下で粒子の粗い砂(青灰色砂)を確認した(第 31 図土層 A:44 層、土層 B:41 層など)。この青灰色砂はいずれの土層断面でも認められており、SR10 が形成される以前の堆積土であるとみられる。粘質土や青灰色砂は SR10 の自然堤防を形成する土層として認識できるため、これらの土層をIV 層とした。なお、IV 層中には古墳時代前期の土器が含まれており、SR10 の形成時期は早くともこの時期以降であることが判明している。

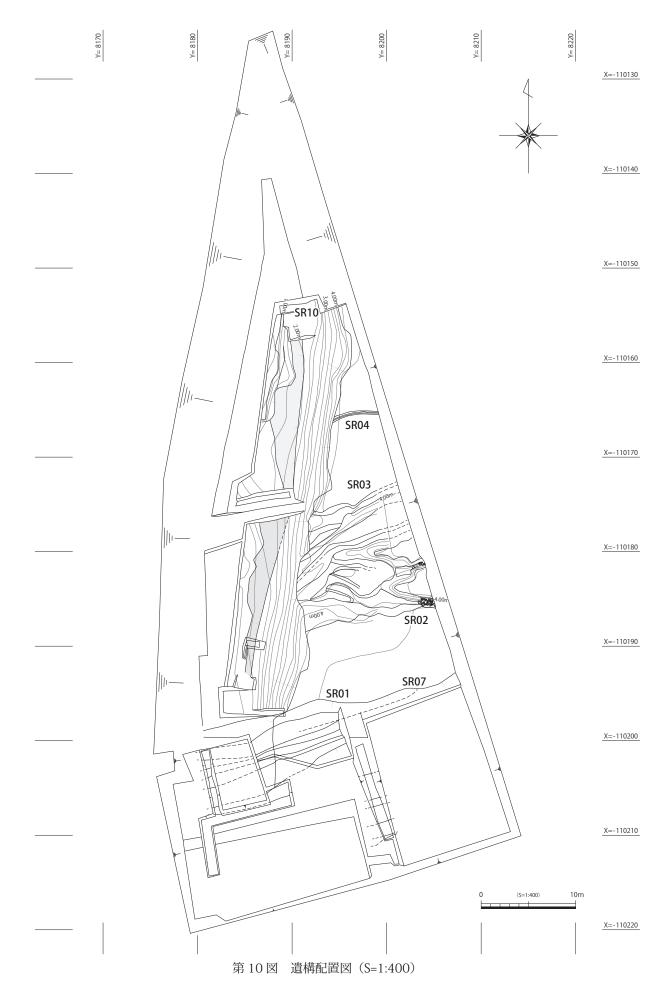
第3節 検出遺構とその遺物

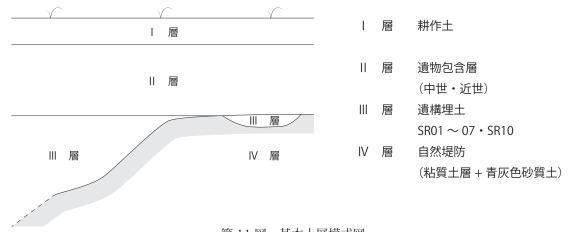
1. 調査の概略と検出遺構

森原神田川遺跡下ノ原地区は、江の川下流右岸に面した標高約6 mの平野部に位置する。現状は水田となっており、試掘確認調査の結果から最上位には近年まで利用された水田の耕作土が存在するほか、その下位にもそれより古い時期の水田耕作土が厚く堆積することがわかっていた。本発掘調査に伴いこれらの耕作土を除去したところ、調査区東側では標高 $4.5 \sim 4.7$ mで黄褐色系の粘質土層が平面的に検出された。この粘質土層の検出と同じレベルで、東から西へ流れる水路、流路を確認し、SR01・02・03・04・05・07 とした。このうち SR02 は複雑な切り合いを持っていたため、枝番号をつけて細分した。

最も南側に位置する SR01 は、南端を確認できなかったが、検出した範囲で幅約 20 m、深さは 検出面から約 2 mの大形の水路である (第 13・14 図)。現在、調査区のすぐ南側には江の川に向かっ て流れる水路が存在するが、この過去の流路が SR01 とみられる。時期は、出土遺物から江戸期代 前期に属すると考えられる。また、SR07 は SR01 に重複して検出されている。

SR02~05 は調査区中央付近で検出されたもので、粘質土層が平面的に確認できる調査区東側ではこの粘質土層を切っている。SR02 は、調査区東端では比較的幅が狭い水路に分かれているが、それらが合流して複雑な切り合いをもつ幅広な水路となる。このうち、SR02-2、SR02-3 は調査区東側で幅が狭くなっており、この部分の埋土から大形の石材が積み重なった状態で検出されている。このことから、人工的に堰を設け、水量調整などを行ったことがうかがえる。時期は、いずれも江戸時代前期(17世紀後半代)と考えられる。SR03 は、幅 6.3 mの大形の水路である。東端をSR02 に切られているが、東側で幅が狭くなるように見え、SR02-2、SR02-3 と同様な性格の水路であった可能性が考えられる。SR03 の時期は、切り合い関係から SR03 が SR02 より古いことがわかるが、出土遺物からは SR02 との時期差はそれほど認められず、江戸時代前期(17世紀後半代)に属するものである。





第11図 基本土層模式図

これらの水路の調査を終え、粘質土層が存在しない調査区西側の掘削を実施したところ、南北方向に流れる大形の河道を確認し、SR10とした。確認した規模は長さ40m、幅6~9m、深さ3.2m以上である。部分的ではあるものの、この自然河道の落ち込みに沿って粘質土が堆積しており、調査区東側で検出された粘質土は、この河道の東岸に形成された自然堤防を形成する土層であると考えられる。SR10は明らかに調査範囲の西側に広がっており、幅は確認したものよりかなり大きくなるものと見られる。出土遺物は古墳時代中期から後期を中心とした、土師器・須恵器のほか、ミニチュア土器や甑・竈といった土製品、勾玉も確認されている。

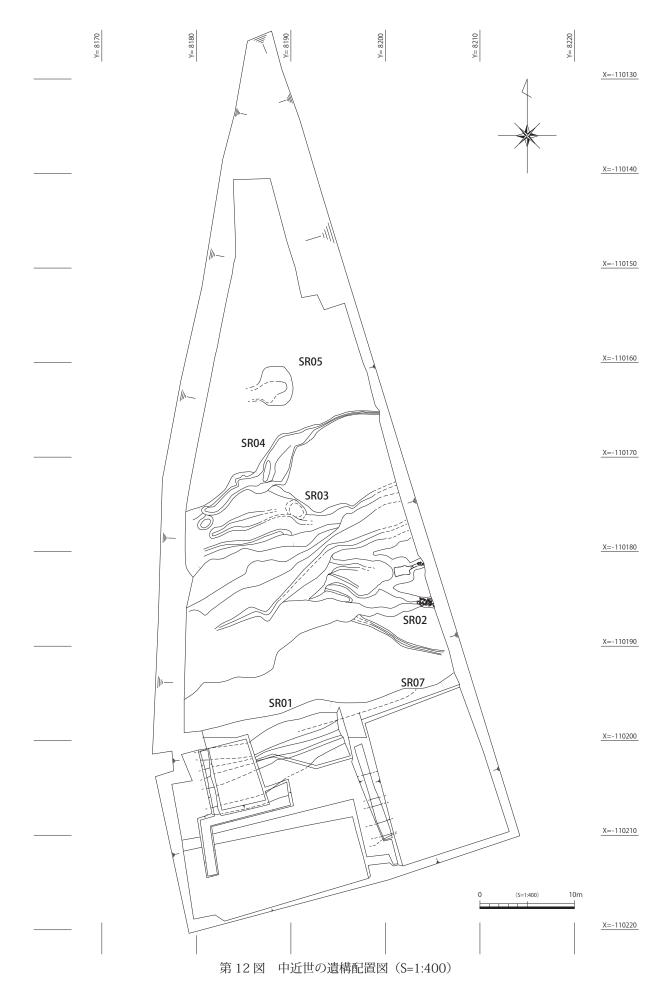
2. 検出遺構と出土遺物

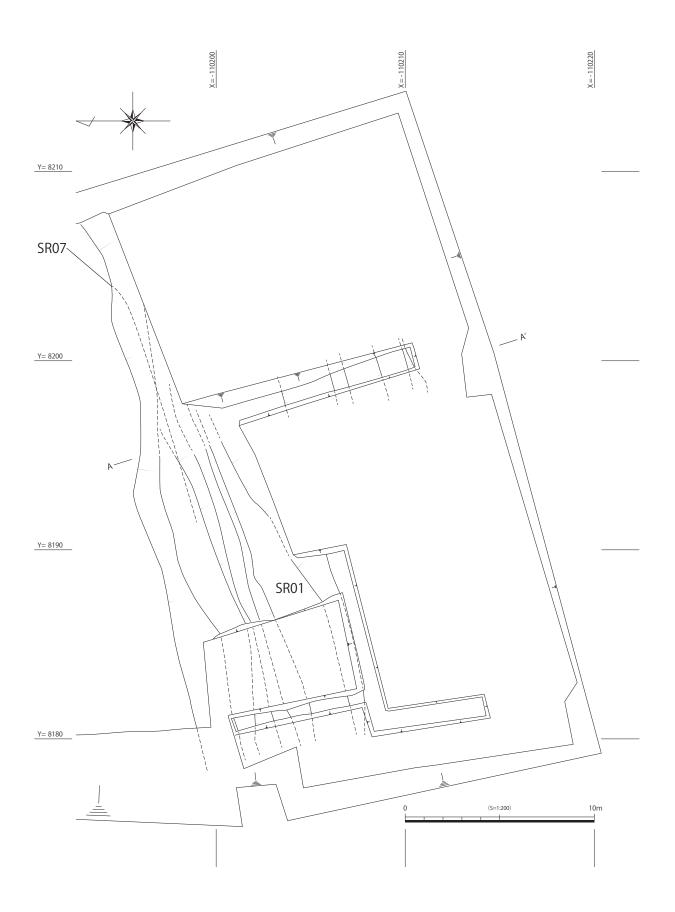
下ノ原地区では、河道 2(SR01・10)、流路 4(SR02 ~ 05)が検出された(第 10・12 図)。 これらは、自然堤防を形成する粘質土(第 11 図IV層の上面)を精査した段階で平面プランを検出した。SR10 が現在の江の川に沿って南北方向に検出されたのに対し、SR01 ~ 05・07 はそれに直行するように東西方向に検出された。時期的には SR10 が古墳時代前~後期、その他が中世後半から近世中期の遺物を包含し、SR10 が埋没したのちに SR01 ~ 05 が形成されている。なお、SR01 ~ 05 はいずれも近世に形成されていると推測できるが、SR03(古) \rightarrow SR02・04(新)の新旧関係を土層の切り合いや平面プランでの重複状況も確認している。

出土遺物は、SR10 を除いたいずれの遺構 (河道・水路) も縄文時代から近世のものがある。 SR10 についても縄文時代から古墳時代の遺物が含まれている。 SR01 \sim 05 は中近世の陶磁器がまとまって出土しており、これが遺構に関連するものと考えられる。そのため、遺構出土の遺物としては中近世の遺物のみを取り上げる。それ以前の遺物については、SR10 や近隣の遺跡からの二次的な堆積と判断されることから、遺構外出土遺物と同一に扱い、一括して後述することにする。

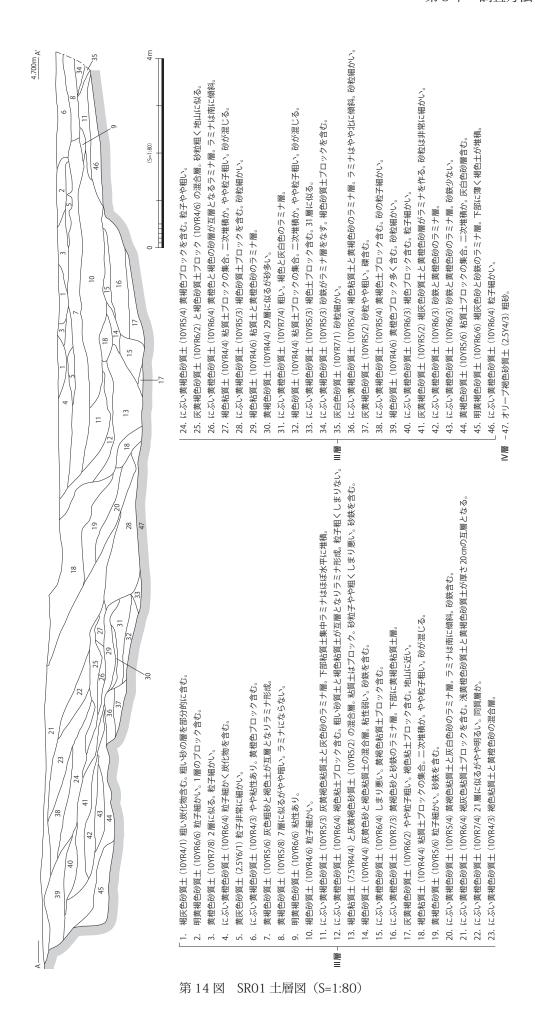
SR01 (第 13 ~ 16 図, 図版 3・7・80)

調査区の南端に位置する河道跡で、平面で確認できた面積は約700㎡である。SR01の調査では、 廃土の搬出が困難であるなどの問題が生じたこと、SR01の時期が近世に属するといった要因から、 詳細な時期や規模が把握できる資料が得られる範囲に発掘調査をとどめた。そのため、部分的な調 査となっている。ただし、SR01の幅を確認するため東西のトレンチを設定し、発掘調査を実施した。 なおかつ、河岸形状が残る西北側の一部を拡張して、全形復元に必要な資料が得られるよう努めた。





第13図 SR01平面図 (S=1:200)



確認できた SR01 の範囲は南北約 20 m、東西約 42 mである。最深部は検出面より約 2m(標高約 2.6m 付近)を測る。平面形が確認できた面(第IV層上面)は第 14 図 21 層上面だが、大部分は基盤層(第 14 図 47 層:オリーブ褐色砂質土)を削り込んで形成されていた。底面の高さは、東部最深部と西端最深部とで約 0.6 mの高低差があり、西に向かうにしたがって緩やかに低くなっている。このことから、水は東から西に向かって流れていたと考えられる。断面形状は、北岸が比較的急傾斜に削り込まれており、北岸より南約 13 mで最深部に達し、底面はそこから南側が徐々に高くなっていた。これは、南岸に向かう傾斜と考えられた。南岸は検出することができなかったが、調査区外南側にあると推測される。現在 SR01 と並行して流れている水路と連続する可能性もある。

土層(第 14 図・図版 3-2)は、基本的には灰色系砂質土と褐色系砂質土が互層に堆積していた。これらの多くには粘質土がブロック状に含まれる。また、調査区の南側が水平に近く堆積していたのに対し、北側は傾斜して堆積している状況がうかがえた。とくに中程の $12 \sim 15$ 層付近、 $21 \cdot 28$ 層北側層境界、45 層北側層境界では傾斜が急になっている。これは、河川が繰り返し移動した痕跡と推測される。

SR01 内からは、縄文時代から近世に至るまでの各時期の土器、陶磁器、石器、石製品などが出土している。これらの遺物は、層位的、平面分布的にまとまりが見られず、小片が多いことから、いずれも河川の埋没過程での二次堆積と考えられた。このうち近世陶磁器は、17世紀代のものが最も多い。年代の新しい陶磁器から考えると、SR01 は遅くても 17世紀後葉~18世紀前葉には埋没していたと考えられる。なお、第 15 図 25・26 は最下層から出土した肥前系磁器皿である。25は 1630 年前後、26 は 1630~ 1650 年代と比較的古い年代である。

出土遺物 (第15・16 図, 図版7・80)

図示しなかったものも含めて、中世陶磁器は第1表に、近世陶磁器は第2表に集計した。いずれ も破片を1点と数えており、個体数を表すものではない。

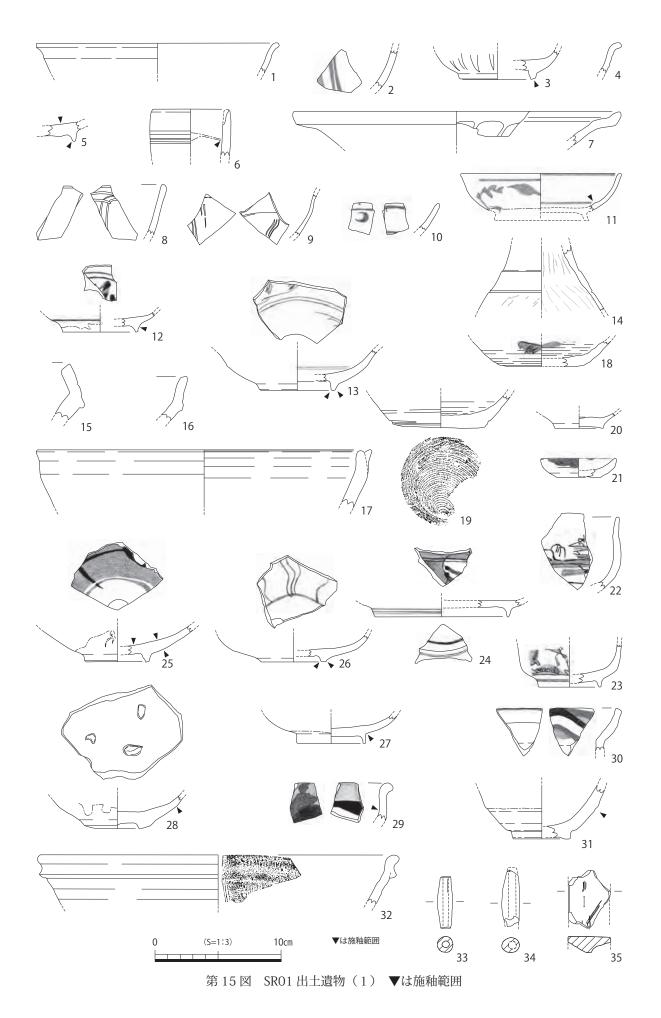
陶磁器(第15図1~32,図版7) 中世前半の中国製陶磁器は、同安窯系青磁(同図2・9)、内面に飛雲文が描かれた龍泉窯系青磁碗大宰府 I 類(同図8)、褐釉陶器瓶細片などが少数出土している。この時期の国産陶磁器としては、越前系鉢(同図17)、燻された瓦質土器(火鉢)などわずかである。

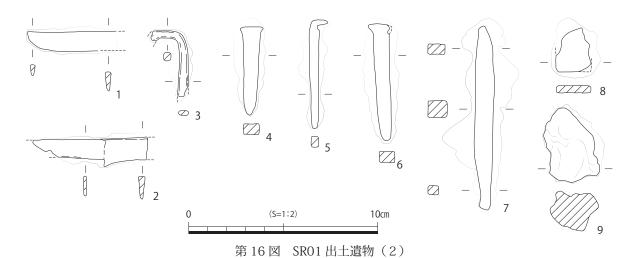
中世後半の貿易陶磁は、中国製がピロースク?白磁皿(第 15 図 1)、龍泉窯系青磁の片彫蓮弁文碗(同図 3)、同碗・皿(同図 4・5)などがある。龍泉窯系香炉(同図 6)や同盤(同図 7)などもこの時期であろうか。朝鮮製としては、褐釉瓶(同図 14)が出土している。日本産陶磁器は、備前焼擂鉢(同図 15・16)がこの時期に当たる。土師質土器は、褐色系、灰白色系ともに出土しているが、褐色系が多い。同図 19 は底径の大きい坏形、同図 20・21 は煤が付着した燈明皿である。

16世紀末~17世紀初頭は、中国漳州窯系青花(第15図10~13)や肥前系陶器(同図28)が出土している。

17世紀から 18世紀前半は肥前系陶磁器が多くなり、須佐焼(擂鉢:第 15 図 32)、瀬戸焼(天目)が若干混じる。器種は磁器が碗(同図 23)、皿(同図 24 ~ 26)、陶器が碗(同図 22・27)、皿、香炉(同図 29)、鉢(同図 30)、壺・甕、片口である。

石製品(第 15 図 35, 図版 7) 第 15 図 35 は砥石残片である。3 面に使用痕が認められる。きめ





数量

第1表 SR01 中世陶磁器集計表 種

地

別

器

種

分 類

出土地点 産

SR01 <u>∵ ロ−スク?</u> 中国 白磁 袋物 1 中世前半 碗皿坏細片 1 同安窯系青磁 碗 大宰府碗 | 2 龍泉窯系青磁 大宰府碗Ⅰ類 1 碗 上田B類 1 上用D類 1 Ш 皿分類不明 1 盤 1 香炉 碗皿分類不明 15~16C前半 1 漳州窯系青花 碗 2 2 m 不明 褐釉陶器 2 朝鲜 瓶 日本 越前 鉢 擂鉢 VB期 備前 3 2 2 壺 不明陶器 壺 1

第2表 SR01 近世陶磁器集計表

出土地点	種	別	産	地	器 種	器形	数量
SR01	磁器	(J)	肥前系	(B)	碗(1)	丸形U字高台	4
						丸形U字高台低(e)	1
					皿 (2)	初期伊万里(a)	1
						平形(初期伊万里)	2
						丸形(e)カ	1
						平形 (k)	2
	陶器	(T)	肥前系	(B)	碗(1)	呉器手(a)	3
						丸形薄手	1
						丸形灰釉	2
					皿 (2)	胎土目	5
						京焼風(c)	1
					鉢 (5)	刷毛目(a)	2
					香炉・ 火入れ (9	その他	1
					壺・	格子目	1
					甕(15)	その他	1
					片口 (23)	灰釉	1
					不明		5
			須佐		擂鉢 (29)		2

の細かい石材で、仕上げ砥石であろうか。

不明(火鉢?

褐色系

灰白色系

坏・皿

瓦質土器 (燻)

十師器

土製品(第 15 図 33・34, 図版 7) 第 15 図 33・34 は土錘である。ともに小型・細身で、紡錘 形をしている。

1

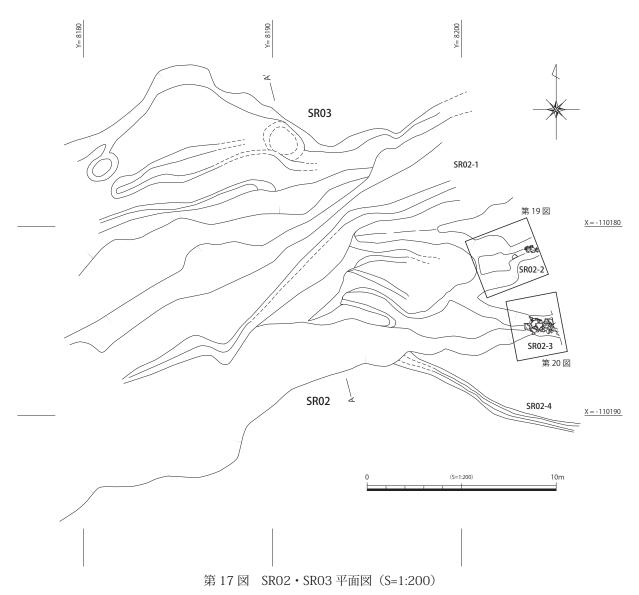
31

5

鉄器(第16図, 図版80) 刀子、釘、金具などの鉄製品及び鉄素材とした鉄塊、棒状鉄、未成品 と考えられる板状鉄が出土した。ここでは製品と未成品を区分するため、明らかに完成品として認 められるものを鉄製品とし、未成品や鉄塊については鉄素材として報告する。なお、鉄製品及び鉄 素材とも流れ込みの可能性が否定できないが、遺構から出土したものはここで報告する。また、非 掲載のものを含めた集計表は第25表に示す。

鉄製品 (第 16 図 1 ~ 6、図版 80) 第 16 図 1・2 は刀子で完形で遺存するものはない。刃部は断 面三角形を呈し、関の形状は2が直角関である。1・2とも刃部の幅は1cmであり、小型の刀子で あると考えられる。同図3は金具片である。断面は楕円形を呈し、本来は隅丸長方形の鐶状金具で あると考えられる。同図4~6は和釘である。4・6は平釘、5は皆折釘となる。

鉄素材(第16図7~9) 棒状鉄、板状鉄、鉄塊が出土している。第16図7は矠に近い形状であるが、 両先端が不整形であることから棒状鉄とした。板状鉄 (同図8)は厚さ0.4cmであり、SR03などで

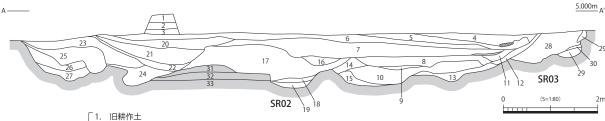


出土した板状鉄同様に鉄製品製作過程のものと判断した。同図9は鉄塊である。周辺で行われていた鉄製品製作や鉄素材の生産に供されたものと考えられる。

SR02 (第 17 ~ 25 図, 図版 3・4・8 ~ 12・80・81・86)

調査区の中央をほぼ東西に横断するように検出された(第 17 図)。検出した範囲では長さ約 30m、幅約 $8.5 \sim 13$ m である。全体の幅は約 10m を測るが、これは 4 つの溝($SR02-1 \sim 4$)が一つに合流あるいは重複した結果の規模と考えられる。底面の高さは東端より西端が低く、最深部の比高差は約 0.6m あることから、東から西に向けて水が流れていたと考えられる。また、東部では SR03 と重複していたが、土層観察により SR02 が SR03 を削り込んで形成されたことが確認できた(第 18 図)。土層は、基本的に砂層と粘質土層の互層堆積で、下位はレンズ状に、上位は水平に近く堆積している。

SR02-1~4は、調査区東端から約5m 西で合流している。各流路がこの地点で合流し、以西は1条の流路となっていたのか、あるいは時期的な差異があり重複を繰り返していたのかは不明である。土層(第18図、図版4)では、上位に堆積する①(第20~22層)と、②(第7・8・11層)が流路内の堆積と想定できるが、平面的には確認できなかった。この他にも、③(24~28層)、



|| 屋 _ 2. 旧耕作土

- 3. にぶい黄色土 (2.5Y6/3) やや粗い砂層中に灰黄褐色粘土ブロック含む。しまり悪い。
- 4. 灰黄色砂質+(2.5Y6/2)粘土混じりの砂質+。粒子細かい。浅黄色粘土ブロック含む。
- 5. 浅黄色砂質土 (2.5Y7/4) 粘土ブロックの集合層。ブロック以外は砂層。粒子細かい。
- 6. 暗灰黄色砂質土 (2.5Y5/2) 粒子細かい。粘性なし。
- 7. にぶい黄色砂質土(2.5Y6/2)灰黄色砂とにぶい黄色粘土が互層となるラミナ層。砂粒細かい。
- 8. にぶい黄色砂質土 (2.5Y6/2) 7層と同質だがラミナとなっていない。粘土はブロック状をなす。
- 9. オリーブ褐色砂質土 (2.5Y4/3) 砂と粘土の混合層。粘土が多い。粘土は大きなブロック状。
- 10. にぶい黄色砂質土 (2.5Y6/2) 7層と同様なラミナ層。粘土層が7層ほど厚くない。
- 11. 暗灰黄色砂質土 (2.5Y4/2) やや粘性のあり。粒子非常に細かい。炭化物含む。 12. 暗灰黄色砂質土 (2.5Y4/2) 黄褐色の粘土ブロックを含む。 やや粘性のある砂質土。
- 13. 黄褐色砂質土 (2.5Y5/4) 粘質土ブロックの集積。粘性強い。ボロボロしている。
- 14. オリーブ褐色砂質土 (2.5Y4/4) 8層・10層と同質のラミナ層。大きな粘質土ブロック主体の層。
- 15. 13層と14層の混合層。 黄褐色粘土ブロック主体の層。
- 16. にぶい黄色砂質土(2.5Y6/2)7層と同質だがラミナとならない。にぶい黄色粘質土ブロックと浅黄色砂層の混合層。
- 17. 暗オリーブ褐色砂質土 (2.5Y3/3) 粘質土ブロックの集合層と淡黄色砂層の混合層。大部分は淡黄色砂。
 - 18. にぶい黄色砂質土 (2.5Y6/4) 粒子の粗い砂層。
 - 19. オリーブ褐色砂質土 (2.5Y4/6) 粘質土ブロックの集合層。
 - 20. 褐灰色粘質土 (10YR6/1) 粘性弱い。細かい砂粒含む。
 - 21. オリーブ褐色砂質土 (5YR4/3) やや粒子の粗い砂層。 暗オリーブ褐色の粘土小ブロック含む。
 - 22. 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) しまり悪い。粒子細かい。粘性弱い。
 - 23. にぶい黄色砂質土 (2.5Y6/4) 細砂層。褐色小粘土ブロックを少し含む。
 - 24. 黄褐色砂質土 (2.5Y5/3) 細砂のラミナ層と黄褐色粘土ブロックの混合層。細砂層はしまり悪い。粘土ブロックは粘性弱い。
 - 25. にぶい黄色砂質土 (2.5Y6/2) 7層と同質だがにぶい黄色粘土のラミナ層が薄い。ラミナは水平。
 - 26. 褐色砂質土 (10YR4/6) 褐色粘質土ブロックと灰色砂の混合層。粘土は固くしまる。砂は粒子細かい。
 - 27. にぶい黄色砂質土 (2.5Y6/2) 25層と同様のラミナ層。粒子は25層よりやや粗い。
 - 28. 灰黄色砂質土 (2.5Y7/2) 27層に似るが粘土層のラミナは非常に薄い。ラミナは南側にやや傾斜。砂粒やや粗い。
 - 29. にぶい黄褐色砂質土 (10YR5/4) 粘質土ブロックの集合層。 粗砂貫入。 粘土は粘性強い。
 - 30. 灰白色砂質土 (10YR7/1) 細砂層。28層に似るがラミナ各層は非常に薄い。
 - -31. 灰色砂質土 (5Y6/1) やや粗い粒子の砂層。均質
- 32. 灰白色砂質土 (5Y7/1) 粒子の細かい砂層。均質
 - _33. 灰色砂質土 (5Y6/1) やや粗い粒子の砂層。 均質

第 18 図 SRO2·SRO3 土層図 (S=1:80)

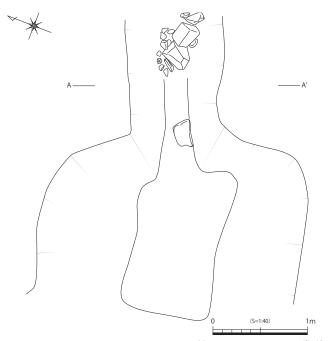
④ $(17 \sim 19 \,\mathbb{R})$ 、⑤ $(9 \sim 14 \cdot 18 \,\mathbb{R})$ の 3 回の削り込み痕跡が見られ、北から南に向かって流路が移動した様子がうかがえる。土層の堆積からは、古い順に ⑤→④→③→②→①と流路が形成 されたと考えられる。また、底面には凹凸があり、幾度も流路が移動したような印象をうけた。

SR02-1 と SR02-2 はほぼ並行して配置しているように見えるが、SR03・04 はやや南側から合流 している。そのため、全体としては合流点を起点に放射状の平面配置にみえる。

SRO2 からは縄文時代から近世まで各種の遺物が出土している。どの時期も細片がほとんどで、 層位的に時期区分できるような状況にない。また、細別した流路ごとに時期的なまとまりがあるよ うには見られなかった。なお、第22図22は最下層で出土した肥前系陶器皿で、1594~1610年 代の製造とされている。また、同図 26 は 18 世紀前半代製造と、SRO2 出土陶磁器でもっとも新し いものと考えられた堺・明石系陶器擂鉢である。

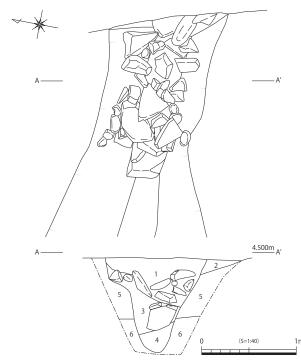
SR02-1 もっとも北に位置する流路で、SR02-1 に特定できる規模は長さ幅約 6.3 m、深さ $1\sim1.1$ mを測る。北岸は多少の乱れがあるものの、そのまま西端に向けて伸びており、SRO2 北岸として 検出したラインは、すべて SRO2-1 北岸と考えていいかもしれない。

SR02-2 (第19図, 図版4) SR02-1の南2.5mの位置にある。調査区東端では幅が約1mと狭い



- 1. にぶい赤褐色土 (5YR5/4) 水田最下層床土
- 2. にぶい黄橙色砂質土 (10YR6/3) やや粗い。暗褐色粘土ブロック含む。
- 3. 褐色粘質土 (7.5YR4/3) 粘性強くしまりよい。
- 4. 明黄褐色粘質土 (10YR6/6) 粘性強く固くしまる。
- 5. にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/3) 粒子細かい。やや粘性あり。しまり悪い。
- 6. にぶい褐色粘質土 (7.5YR6/3)
- 10. 灰褐色砂質土 (7.5YR5/2) 黒褐色粘質土ブロック含む。
- 11. 灰白色砂質土 (10YR7/1)
- 12. 灰黄色砂質土 (2.5Y7/2)
- 13. 暗灰黄色砂質土 (2.5Y5/2)
- 14. 灰黄色砂質土 (2.5Y7/2) 暗灰黄色粘質土ブロックを含む。
- 15. 黒褐色粘質土 (2.5Y3/2) 黄灰色砂含む。

第19図 SR02-2 礫群実測図 (S=1:40)



- 1. オリーブ褐色砂質土 (2.5Y4/3) 粒子やや粗い。粘性ややあるがしまり悪い。炭化物少量含む。
- 2. 灰黄色砂質土 (2.5Y6/2) 粒子粗い。
- 3. にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/4) 5層の崩落か。5層よりやや暗い。
- 4. 暗灰黄色砂質土 (2.5Y5/2) 黄褐色土ブロック含む。灰色砂と暗茶色砂質土が互層になるラミナ層。徐々に広がっていく。東端では礫群が
- 5. 明黄褐色粘質土 (10YR6/6) 固くしまる。
- 6. にぶい黄橙色砂質土 (10YR6/4) 粒子細かい。やや粘性あり。しまり悪い。

第 20 図 SR02-3 礫群実測図 (S=1:40)

のための施設と考えられる。

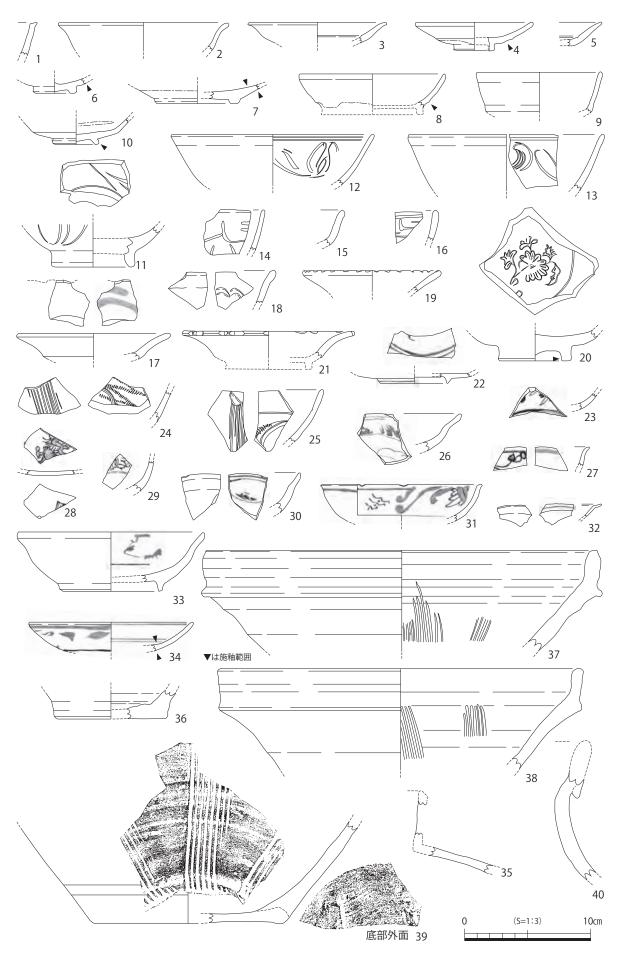
SR02-4(図版 4) 長さ 10m、幅 $0.5 \sim 0.8$ m、深さ $0.06 \sim 0.25$ m と、浅く細長い溝状の遺構である。 SR02 に斜行して取りつき、SR02-3 とはほぼ平行に配置されている。

出土遺物 (第 21 図~第 25 図、図版 8~ 12・80・81・86)

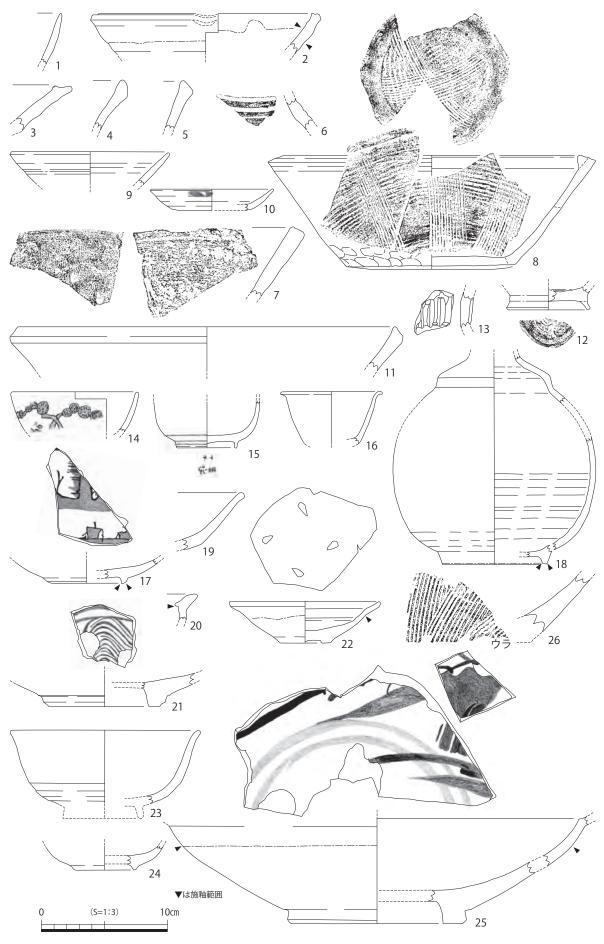
図示しなかったものも含めて、中世陶磁器は第3表に、近世陶磁器は第4表に集計した。

流路で、長さ 1.2 mほど西に延びたのちに急に幅 1.7 mに広がる。この部分の広がりと形状から、自然の営為によるものではなく人為的な加工と思われる。この広がりは西に向かうに従って広くなっていくようである。深さは検出面から約1mを測る。東端では礫群が検出された。水利調節のために設置されたものの一部と思われたが、これらの礫群は上位層に堆積していることから、原位置を保っていない可能性がある。

SR02-3 (第 20 図, 図版 4) SR02-2 の 南約 7m に位置する。SR02-2 とは平行ではなく、プランは東側がやや開く形で検出された。東端では幅 1.2 m、深さ1m と幅が狭いが、西に向かうに従って徐々に広がっていく。東端では礫群が詰まった状態で検出された。礫群は第 4層堆積後に詰められたもので、水利調節



第21図 SRO2出土遺物(1)



第22図 SR02出土遺物(2)

陶磁器(第21・22図) 中世前半の中国製陶磁器は、大宰府CD期の白磁(第21図1・5)、同安窯系青磁(同図24・25)、龍泉窯系青磁碗大宰府I類(同図12・13)、褐釉陶器四耳壺(同図35)、同壺(同図36)などが少数出土している。この時期の国産陶磁器には、東播系須恵器(第22図4・5)、土師質土器(鉢:同図11)のほか、瓷器系陶器(第21図40)などがある。

中世後半の貿易陶磁は、中国製がピロースクと思われる白磁皿 (第 21 図 7)、龍泉窯系雷文帯青磁碗(第 21 図 14・16)、同稜花皿 (同図 17・19・21)、同坏 (同図 15) などがある。第 21 図 18 は内面に人形手文様がつけられた玉縁口縁の碗、同図 20 は見込みに印花文が施された碗である。この時期の国産陶器は、備前焼擂鉢 (第 21 図 37 ~ 39)、防長系瓦質土器 (第 22 図 8)、瓦質土器鉢 (同図 7)・同火鉢 (同図 6) である。土師質土器は、褐色系のみが出土している。図示した同図 10 は 燈明皿である。

16世紀末~17世紀初頭は、中国漳州窯系青花(第21図22·26~30·33·34)、景徳鎮窯系(同図23·31·32)や肥前系陶器(第22図22)が出土している。第21図31は龍泉窯系輪花皿である。

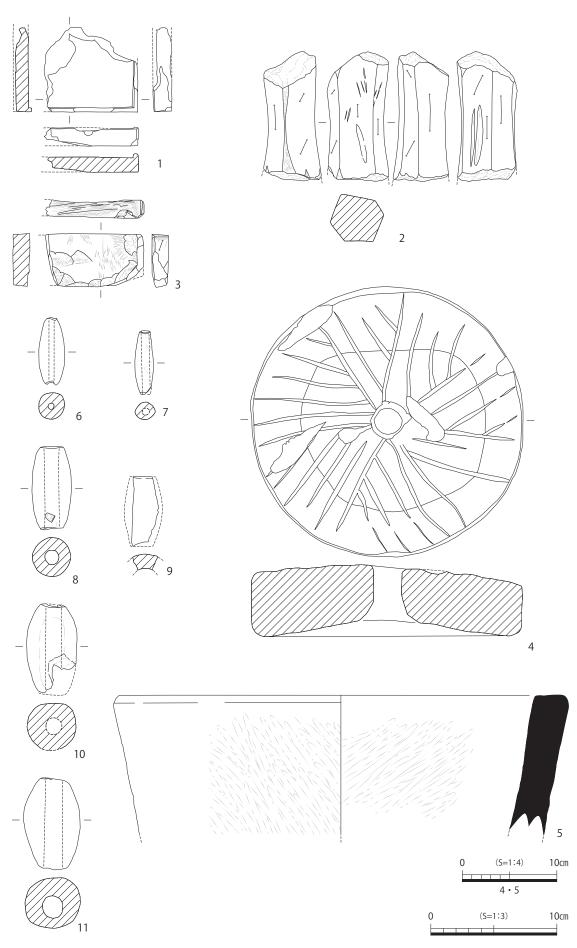
17世紀から 18世紀前半は肥前系陶磁器がほとんどで、堺・明石系陶器擂鉢(第 22 図 26)、が若干混じる。器種は磁器が碗(同図 14・15)、皿(同図 17)、坏(同図 16)、那須形瓶(同図 18)、陶器が碗、皿(同図 22)、香炉・火入れ(同図 20)、鉢(同図 19・21・25)、片口鉢(同図 23)、壺・甕がある。第 22 図 24 は高取系の鉢である。

石製品(第 23 図,図版 11・12)第 23 図 $1 \sim 3$ は砥石である。1 は石硯を転用したもので、図の右辺と下辺に硯縁が低く残る。2 は断面形が六角形を呈す砥石で、各面ともわずかに凹面をなす。一面に深いくぼみがあるものの全体として平滑で、ところどころ非常に細かい研磨痕が観察できる。上端は研磨痕や加工痕は観察できないが、丸く磨滅しているのでこれが本来の形状と考えられる。3 は平面形長方形を呈す平板な砥石である。左端は欠損しており、本来は細長い形状だったと思われる。左端以外は各面で研磨痕が観察できるが、一部には剥離面が痕跡的に残っている。これらの砥石はいずれもきめ細かい石材を使用しており、仕上げ砥石と考えられる。同図 4 は石臼(下臼)である。主溝は6 分割され、副溝は $3 \sim 5$ 条である。同図 5 は石製手水鉢である。内外面に細かな加工痕が観察できるが、口唇部から口縁内面にかけて、及び外面の一部に磨滅がみられる。使用痕跡かもしれない。

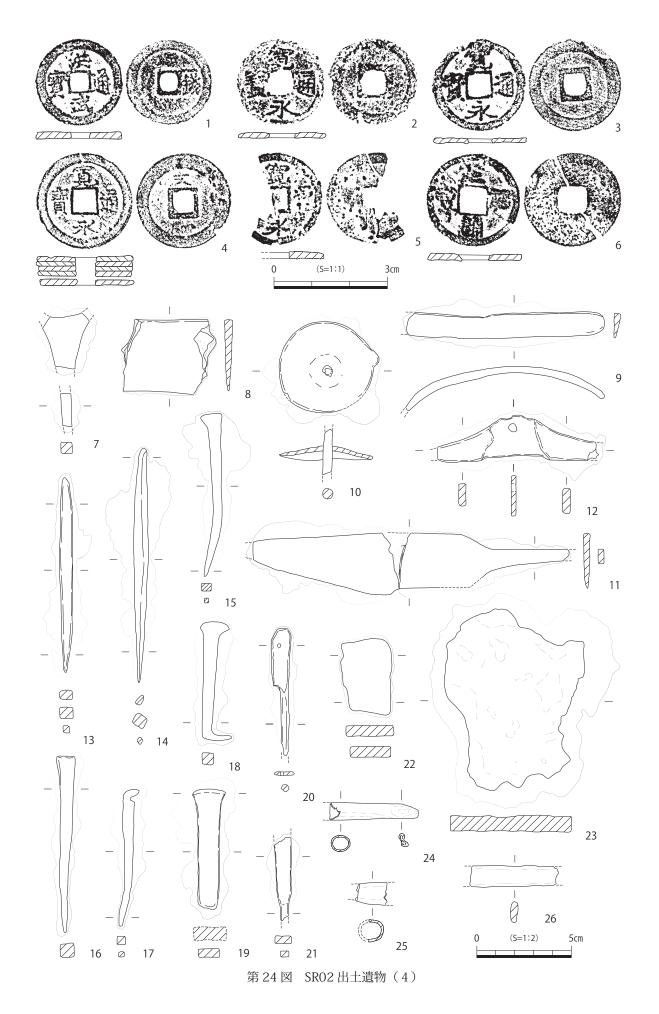
土製品(第 23 図,図版 11)第 23 図 $6 \sim 11$ は土錘である。いずれも中膨らみの形状であるが、細身の小型品(I 類: $6 \cdot 7$)と中型品(I 類: $8 \sim 11$)の 2 タイプがある。

銅製品(第 24 図,図版 86) 古銭、煙管などが出土している。古銭は 10 点確認されており、初 鋳年が古いものから、洪武通寶、寛永通宝であり、不明のものも含まれる。第 24 図 1 の洪武通寶 は背面に「銭」が鋳込まれている。同図 4 は古銭が 5 枚固着して出土している。本来は紐で束ねら れていたものと考えられ、5 枚目背面には「文」が鋳込まれていることから寛永通寶の「文銭」で あることがわかる。 $2 \sim 4$ 枚目の銘は不明であるが、寛永通宝が束ねられていると推測される。同 図 $24 \cdot 25$ は煙管である。 24 では鍛接部分の観察ができる。 同図 26 は器種不明である。

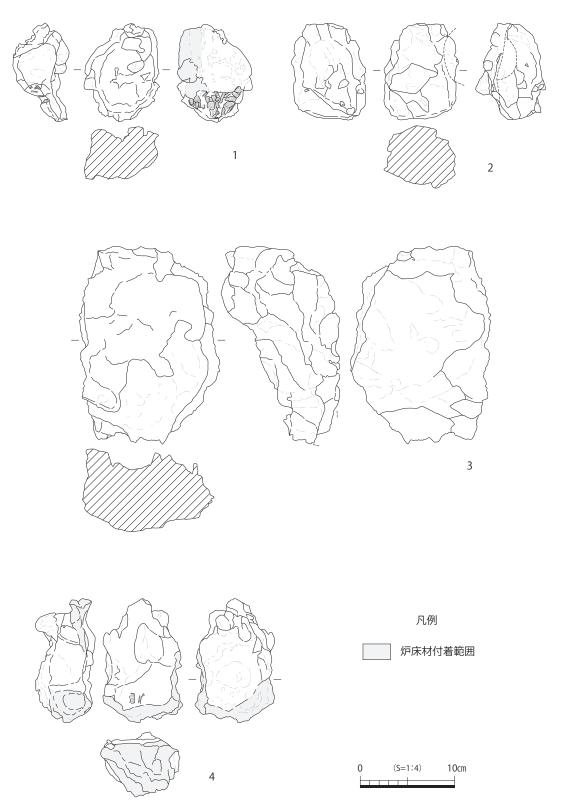
鉄器(第24回,回版80・81) 鉄鏃や刀などの武具が出土するほか、刀子、包丁、火打金、矠などの日常生活品や、紡錘車や鉇などの生業に関する鉄製品が出土している。また、鉄素材及び鉄滓も出土している。他の遺構同様に、鉄製品、鉄素材に区分し、鉄滓については鍛冶関連遺物として報告する。なお、鉄製品及び鉄素材とも流れ込みの可能性が否定できないが、遺構から出土したも



第23図 SR02出土遺物(3)



36



第 25 図 SRO2 出土遺物 (5)

のはここで報告する。また、非掲載のものを含めた集計表は第25表に示す。

鉄製品 (第 24 図 7 ~ 21, 図版 80・81) 第 24 図 7・21 は鉄鏃である。7 は雁股形の有茎の鉄鏃で、茎部の断面は方形となる。21 は長頸鏃の頸部及び茎部の一部が遺存している。関部の形状はナデ関である。同図 8 は断面長三角形の刀の身部片である。同図 9 は断面形状から刀子とした。ただし、身は湾曲しており、先端は丸みを帯びている。木材などの削りに用いられた大工道具である可能性がある。同図 10 は紡錘車で、軸が遺存する。同図 11 は包丁とした。関部は両関で刃側が二段に切れこむ形状を呈している。同図 12 は山形の火打金で、打撃部両端が厚くなり、頭部には孔がある。同図 13・14 は両端が細くなることから矠とした。13・14 ともに断面は方形を呈す。同図 15

第3表 SR02 中世陶磁器集計表

第 4 表 SR02 近世陶磁器集計表

出土地点		種 別	器 種	分 類	数量
SR02	中国	白磁	碗	大宰府碗 V-4類	6
				大宰府碗/II類?	1
				不明	1
				大宰府C・D期	5
			ш	森田D群	1
				ビロースク 皿 ?	1
				不明	1
			坏	森田D群	3
				不明	2
			不明	森田D群	1
				中世前半	1
			碗皿坏	細片	9
		同安窯系青磁	碗	大宰府碗 類	4
		龍泉窯系青磁	碗	大宰府碗 I -2類	2
		BESS CARROLL FOR FAMILY	50	大宰府碗 類	2
				大宰府碗IV類	1
					8
				上田碗CII類	
				上田B類	0
				上田D類	1
			·-	印花文	2
			坏		1
			稜花皿		3
			碗皿細片	15~16C前半	7
		景徳鎮窯系	<u>m</u>		2
		青花	碗皿細片		2
			輪花皿		1
			碗皿細片		2
		漳州窯系青花	Ш		5
			坏?		1
			小坏		1
			不明		1
			碗皿細片		4
		褐釉陶器	四耳壺		1
			壺		1
			不明		1
	朝鮮	褐釉陶器	瓶		3
	日本	瀬戸・美濃	天目碗		1
			直縁鉢		1
			不明		2
		備前	擂鉢	VA	5
				VB	5
				胴底部	6
		瓷器系陶器	壺		1
		不明	壺甕	細片	3
			鉢	rsul/ I	
		東播系須恵器 防長系	擂鉢		2 1
		瓦質土器			
		瓦質土器 (燻)	火鉢		6
		瓦質土器	鉢		6
		須恵器			3
		土師器坏・皿	褐色系	Ш	3
	I	1	1	坏	1

出土地点	種	別	産	地	器 種	器 形	数量
SR02	磁器	(J)	肥前系	(B)	碗(1)	丸形U字高台	1
						丸形U字高台低(e)	1
					Ⅲ (2)	初期伊万里(a)	1
						平形 (初期伊万里)	1
						平形 (k) カ	2
					瓶(10)	茄子形力	1
						その他	1
					不明		5
	陶器	(T)	肥前系	(B)	碗(1)	丸形藁灰	1
						丸形薄手	1
						呉器手(a)	4
						その他	2
					皿 (2)	胎土目	9
						砂目 (b)	14
						鉄釉総掛	1
					鉢 (5)	刷毛目(a)	2
						三島 (b) カ	1
						その他	4
					香炉・ 火入れ (9)	鉄釉火入れ	3
					壺•	青海波	1
					甕(15)	その他	2
					片口 (23)		1
					不明		3
			堺・ 明石系	(E)	擂鉢(29)		5

~19は釘で、平釘、皆折釘が出土している。同図20は簪とした。頭部は扁平で孔が施される。 差し込み部は断面が円形に近い形状となる。差し込み部には鍛接の痕跡が確認できることから、扁 平な板状の鉄板を折り返して鍛接していると考えられる。

鉄素材 (第 24 図 22・23, 図版 81) 板状鉄、鉄塊が出土している。第 24 図 22 は板状鉄としたが、不整形であり鉄素材ではない可能性も残る。同図 23 は鉄塊で、形状は不整形であるが、断面は長方形となる。なお、分析の結果、鋳鉄塊(斑鋳鉄)であることが判明している。

鍛冶関連遺物(第25図1~4,図版86) 鍛冶関連遺物として鉄滓が出土している。分析の結果、第25図2は砂鉄製錬滓、同図3は鍛錬鍛冶滓であることが判明している。

SR03 (第 17 · 18 · 26 · 27 図, 図版 3 · 4 · 5 · 12 \sim 14 · 81 · 82)

SRO2 から分岐するように西に延びる流路で、SRO2 の北岸に接して重複している。土層の観察で、SRO3 は SRO2 によって切られていることが確認された。また、北側では SRO4 と重複しており、平面プランの観察で SRO3 が古いことがわかった。SRO3 は自然堤防を形成する明黄褐色粘質土(第11 図IV層の上面)上面およびこれと同一レベルで検出した。その後の調査の結果、西半は SR10上位埋土層を削り込んで形成されたことが判明した。

SR03 の平面形は東側が細く西側が広がる形状をし、確認できた範囲では長さ約 15 m、幅は東端で 2.5 m、西端で 6.3 mを測る。深さは東側で約 0.3m、西端で約 0.6m、東西底面の比高差は約 0.3m で、東から西に水が流れていたことがわかる。西側半分の底面中央には帯状の高まりがあり、流路が移動したか 2 本の流路が合流した可能性が考えられる。土層は、上位層が砂層、下位に暗褐色系で粘土ブロックを含む砂質土が堆積していた。大部分は水平に近く堆積していたが、南岸際では傾斜堆積していた。

出土遺物 (第 26・27 図 図版 12 ~ 14・81・82)

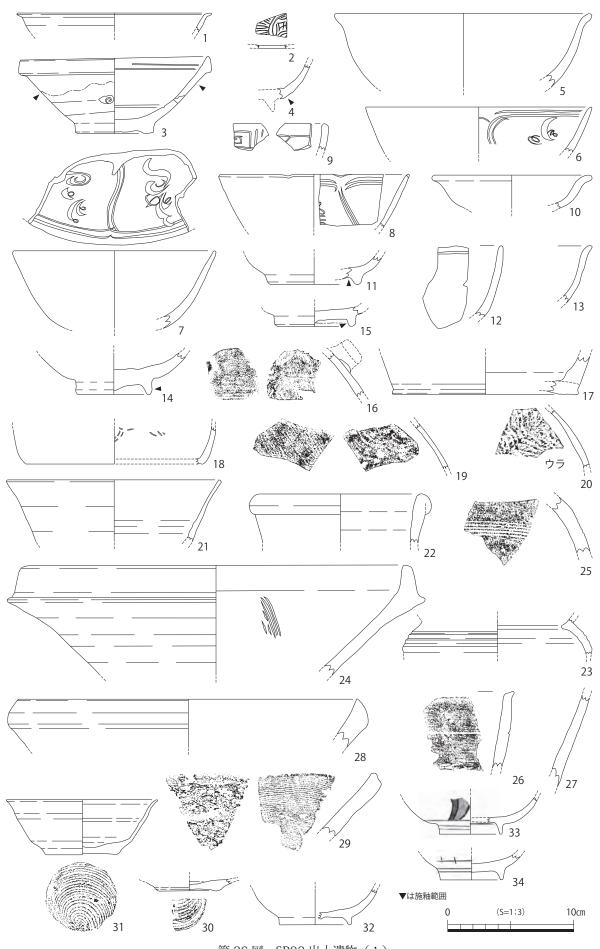
図示しなかったものも含めて、中世陶磁器は第5表に、近世陶磁器は第6表に集計した。

出土遺物は、縄文時代から近世までの各時期の遺物が出土しているが、いずれも細片である。ここでは中世の陶磁器が比較的多く出土したが、近世陶磁器も混在していることから、SRO3 が中世までさかのぼる可能性は低いと思われる。第 26 図 9 は最下層から出土した 15 世紀の龍泉窯系青磁である。第 27 図 7・8・11 は下位の層から出土した肥前系陶磁器で、7・8 が 17 世紀前半代、11 が 17 世紀後半代とされる。また、最も新しい年代の陶磁器は第 27 図 10 で 18 世紀前葉の製造とされる。

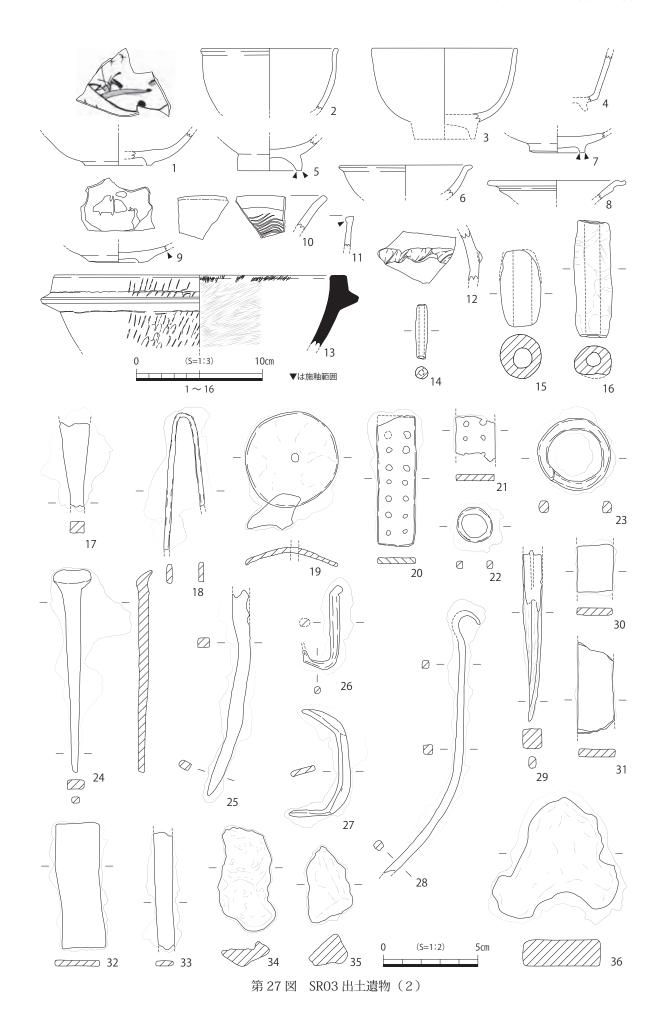
陶磁器(第 26・27 図, 図版 12 ~ 14) 中世前半の中国製陶磁器は、大宰府 C 期の白磁碗Ⅳ類(第 26 図 3)をはじめとして、龍泉窯系青磁(大宰府碗 I 類:第 26 図 6 ~ 8)などが出土している。 この時期の国産陶器としては、東播系須恵器鉢(同図 26・27)、須恵器鉢(同図 28)がある。

中世後半の貿易陶磁は、中国製が龍泉窯系雷文帯碗(第 26 図 9)、同坏(同図 10)、同稜花皿(同図 15)などがある。朝鮮製陶器は、耳壺(同図 16)、褐釉瓶(同図 18・19)、灰青沙器碗(同図 21)が認められる。この時期の国産陶器は、備前擂鉢(同図 24)、同壺(同図 22・23・25)、瓦質土器鉢(同図 29)である。土師質土器は褐色系 15 片、灰白色系 5 片と、前者が多い。同図 30・31 は、灰白色系坏または皿である。

17世紀から18世紀前半は肥前系陶磁器がほとんどで、須佐擂鉢がわずかに混じる。肥前系磁器・



第 26 図 SRO3 出土遺物 (1)



陶磁器は、第 26 図 32・33 (碗)、第 27 図 1 (皿)が磁器、第 26 図 34、第 27 図 2 ~ 12 が陶器である。第 26 図 34、第 27 図 4・5 が碗、第 27 図 3・6 ~ 9 が皿、10 が鉢、11 が香炉、12 が甕である。製造年代は 17 世紀前半のものが多く、17 世紀後半~末葉は少ない。

石製品(第 27 図、図版 14) 第 27 図 13 は、滑石製鍋である。外面には削り痕が明瞭に残り、内面には細かな擦痕が観察できる。この擦痕は、使用痕か加工痕か不明である。

土製品(第 27 図, 図版 14) 第 27 図 14 ~ 16 は土錘である。いずれも土師質で、14、15 がやや中膨らみ、16 が円柱形を呈す。14 が小型(I類)、15 が中型(II類)、16 が大型(II類)である。 鉄器(第 27 図, 図版 81・82) SR03 からは鉄鏃や小札などが出土するほか、釣針、紡錘車、金具、簪などの日常生活品や生業に関する鉄製品が出土している。また、鉄素材や鍛冶関連遺物も出土している。他の遺構同様に、鉄製品、鉄素材、鍛冶関連遺物に区分して報告する。なお、遺構から出土したものはここで報告し、非掲載のものを含めた集計表は第 25 表に示す。

鉄製品 (第 27 図 17 ~ 29, 図版 81・82) 第 27 図 17 は方頭形の鉄鏃とした。鏃身部先端は欠損しているが、茎部の形状は無関である。同図 $18 \cdot 25 \cdot 28$ は簪(鑷子状)とした。18 は差込み部が二股の簪であり、先端は欠損している。 $25 \cdot 28$ は先端に向かって曲がり、頭部形状は確認できる 28 では鉤状を呈する。同図 19 は紡錘車であり、軸は遺存していない。同図 $20 \cdot 21$ は小札であり、遺存状況のよい 20 では孔が 2 列 14 カ所に施されていることが認められる。同図 $22 \cdot 23$ は鐶状金具であり、断面は隅丸方形状となる。23 では鍛接箇所が観察できる。同図 $24 \cdot 29$ は和釘であり、24 は幅広の頭部が確認できる。29 は頭部が欠損しているが、木質が付着している。同図 26 は釣

第5表 SR03 中世陶磁器集計表

出土地点 産 種 器 数量 SR03 中国 白磁 大宰府碲IV類 碗 1 大宰府碗 V-2類 1 碗分類不明 1 中世前半 1 不明 6 碗皿 袋物 不明 龍泉窯系青磁 大宰府碗 | 類 4 碗 上田CII類 1 上田D類 4 上田E類 1 碗不明 碗不明 1 Ш 青白磁 1 坏 1 坏か皿 坏か皿 1 稜花皿 青白磁 1 15~16C前半 碗坏皿細片 12 褐釉陶器 3 毒 朝鮮 耳壺か 瓶 2 不明 1 青灰沙 碗 碗 1 備前 日本 毒 IVA期 1 不明 4 VB期 2 擂鉢 鉢 1 不明 0 東播系須恵器 鉢 2 不明陶器 壺甕 5 瓦質土器 2 瓦質土器 (燻) 火鉢 1 土師器 1 灰白色系 m 1 褐色系坏皿 小片 15 灰白色系坏皿 小片 5

第6表 SR03 近世陶磁器集計表

出土地点	種	別	産	地	器 種	器形	数量
SR03	磁器	(J)	肥前系	(B)	碗 (1)	初期伊万里(a)	2
						丸形V字高台(c)	3
						丸形U字高台高(d)	4
						その他	3
					皿 (2)	初期伊万里(a)	4
						平形(初期伊万里)	2
						その他	2
					坏 (6)	端反形(b)	2
					不明		2
	陶器	(T)	肥前系	(B)	碗(1)	天目形	1
						丸形薄手	2
						呉器手 (a)	15
						陶胎染付(f)	3
						青緑釉(i)	1
						その他	1
					皿 (2)	胎土目カ	2
						砂目 (b)	6
						透明釉(砂目)(d)	1
					鉢 (5)	刷毛目(a)	2
						その他	1
					香炉・ 火入れ(9	筒形香炉	1
					壺・	青海波叩き	1
					甕(15)	その他	2
					片口 (23)	青海波叩き	1
						その他	2
			須佐		擂鉢(29)		1

針とした。針先は欠損しているが、外方に折れるチモトが確認できる。断面は胴・フトコロともに 楕円形となる。同図 27 は鎹の可能性もあるが、折り返しが甘く、鎹としては機能しないことから 締め金具であると考えられる。

鉄素材 (第 27 図 30 ~ 33・35・36, 図版 82) 棒状鉄、板状鉄、鉄塊が出土している。第 27 図 30 ~ 32 は板状鉄であり、遺存状況のよい 32 では中央付近がやや細くなるものの、同図 20・21 の小札と形状が類似するようにも見える。同図 33 は棒状鉄としたが、他の遺構出土の棒状鉄とは厚みが異なるため、鉄製品の可能性が残る。同図 35・36 は鉄塊である。分析を実施していないが、割鉄と考えられる。

鍛冶関連遺物(第 27 図 34,図版 82) 鍛冶関連遺物として鉄滓が出土している。図示した 34 のほかにも SRO3 からは鉄滓が出土している。銹化しており詳細は不明である。

SR04 (第 28・29 図, 図版 5・15)

SR03 の北約 8m に位置し、やや湾曲して南に延びる流路で、長さ約 21.5 mの範囲で検出した。 東端では幅 0.4 mと狭いが、中程で約 3.5 m、西端で約約 1m の幅を測る。西端は SR03 と重複しており、平面観察により SR04 が埋没後の SR03 を削り込んで形成されていることを確認した。深さは $0.3 \sim 0.4$ mである。検出面より高い位置では土層は水平に堆積し SR04 を被覆しているので、流路本来の上部は削平されている可能性がある。底面は東端が高く西端が低くなり、その比高差は約 0.3 mである。内部には砂質土が傾斜して堆積していた。

ここでは主に中世陶磁器が出土し、近世陶磁器は1点(第29図9)のみの出土だが、切り合いからSR03がSR04に先行していることは明らかなので、SR04はSR03より新しいと考えてよい。

出土遺物 (第 29 図 1 ~ 12, 図版 15)

図示しなかったものも含めて、中世陶磁器は第7表に集計した。

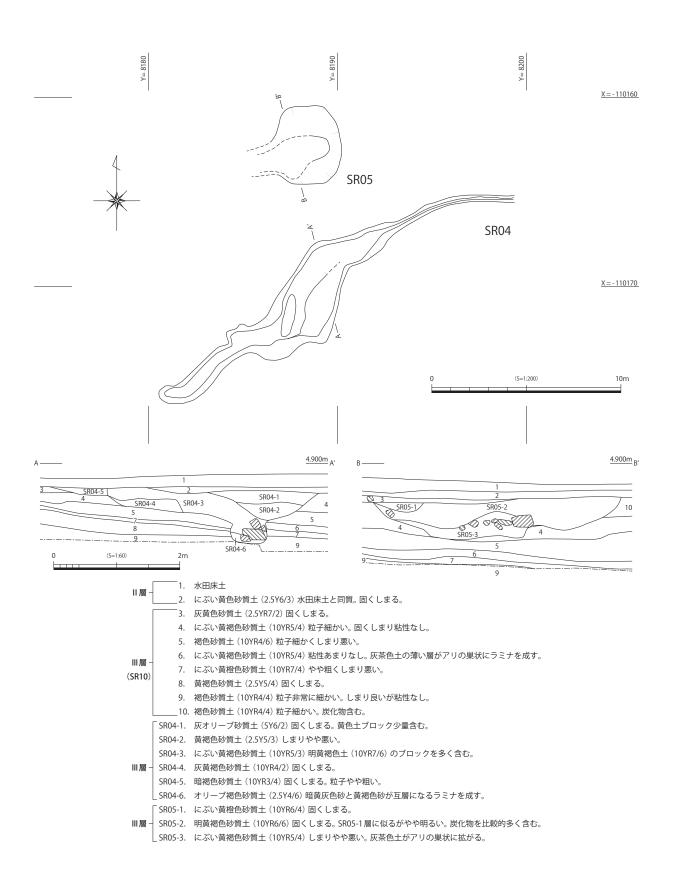
陶磁器(第29回,回版15) 中世前半の中国製陶磁器は、同安窯系青磁碗 I 類(第29回3)が最も古く、瓦質土器(同図8)がそれに続く。同図1・2・4は龍泉窯系青磁で、いずれも15~16世紀のものである。7は瀬戸・美濃系陶器(卸目大皿)で、15世紀と考えられる。6は漳州窯系青花皿で、16世紀後半とされる。9は肥前系二彩皿で、17世紀後葉と考えられる。

このほか、図示しなかったが備前壺IVA期や、瓦質土器の火鉢などが出土している。

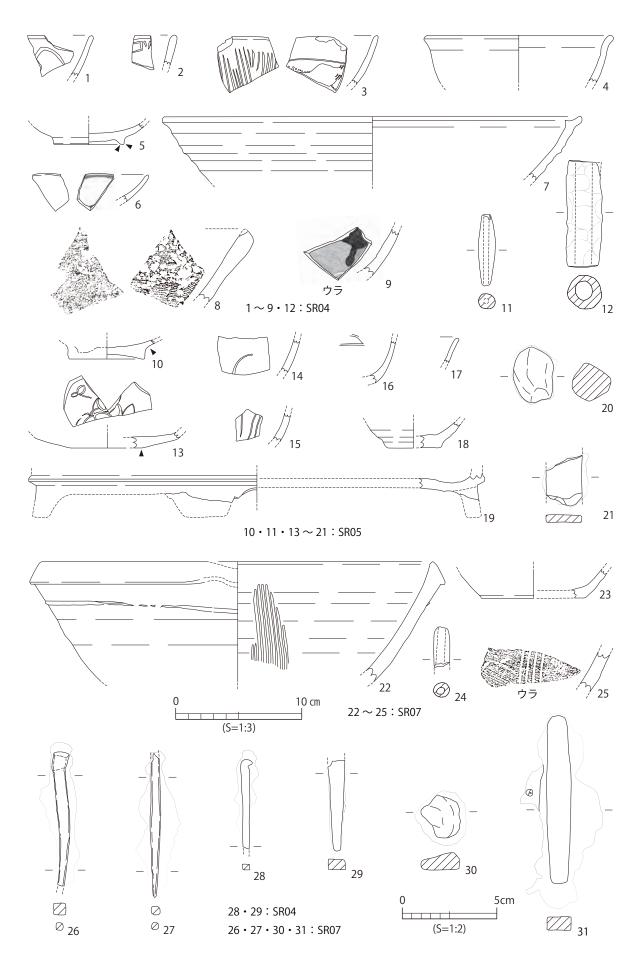
土製品(第 29 図, 図版 15) 第 29 図 12 は土錘である。円柱形を呈する大型(Ⅲ類)のものである。 両端部を刃物で切断しているとみられる。

鉄器(第29図, 図版82) SR04からの鉄器出土は少ないが、鉄鏃、和釘、棒状鉄、鉄塊が出土している。他の遺構同様に明らかに完成品として認められるものを鉄製品として報告する。また、遺構から出土したものはここで報告する。なお、鉄素材については遺存状況が悪く、図示していない。非掲載のものを含めた集計表を第25表で示す。

鉄製品 (第 29 図 28・29) 第 29 図 29 は鉄鏃の茎部と判断した。遺存状況が悪いものの、茎部は無関を呈する。28 は和釘であり、形状から皆折とした。このほかにも図示していないが、平釘が数点出土している。



第 28 図 SR04・05 平面図・土層図(平面図 S=1:200, 土層図 S=1:60)



第 29 図 SR04・05・07 出土遺物

SR05 (第 28・29 図, 図版 5・15・82)

SR04 の北約 3 mの位置で検出された、底面付近が一部だけ残る流路である。平面形は 0.4×0.4 mの不整な円形を呈し、深さは 0.3 m、底面はレンズ状である。検出面より高い第 $28 \boxtimes 1$ 層 (水田耕作土) が SR05 を被覆していることから、流路本来の上部は削平されていると考えられる。 SR04 とほぼ同じ高さで検出されたこと、ともに上部が削平を受けていると考えられることから、 SR04 と SR05 はほぼ同時期の流路かもしれない。

出土遺物で時期が判明したものは中世の年代を示すものばかりだが、層位的な所見からは SR05 が中世までさかのぼるとは考えにくい。

出土遺物 (第29図, 図版15・82)

図示しなかったものも含めて、中世陶磁器は第8表に集計した。

陶磁器(第29図, 図版15) もっとも古い第29図13が白磁皿(大宰府皿VI類)で、中世前半までさかのぼるものである。他はいずれも中世後半期である。同図14~16は龍泉窯系青磁で、14・16は雷文がつく碗、15は蓮弁文が線描される碗である。同図10は徳化窯系の白磁碗である。ほかに朝鮮製灰青沙器小皿(同図17)、瓦質土器火鉢(同図19)、褐色系土師器坏(同図18)などが出土している。

土製品(第 29 図, 図版 15) 第 29 図 11 は土錘である。やや中膨らみで、小型(I類)のものである。 **鉄器**(第 29 図, 図版 82) SR05 からの鉄器出土は少なく、鉄素材が数点出土するのみである。なお、 集計表を第 25 表で示す。

鉄素材 (第 29 図 20・21, 図版 82) 第 29 図 20 は鉄塊である。分析は未実施のため詳細は不明である。同図 21 は板状鉄と判断した。遺存状況が悪いものの、断面は長方形を呈している。

SR07 (第 29 図、図版 3・15・82)

SR01 の北岸東側部分に接して川岸のラインが検出されたため、SR01 とは別の流路が存在すると考え、SR07 として調査を進めた。調査の結果、南側では、北岸で検出した川岸に対応するものが検出されず、また SR01 との重複関係がうかがえる土層の切り合いも確認できなかった。SR01

第7表 SR04 中世陶磁器集計表

産 地	種 別	器 種	分 類	数量
中国	白磁	碗	大宰府C・D期	1
		Ш		1
	同安窯系青磁	碗	碗 類	1
	龍泉窯系青磁	碗	上田碗BII類	2
			上田碗D類	1
		碗皿細片	15~16世紀前半	2
			不明	1
	漳州系青花	Ш		1
日本	瀬戸・美濃	直縁鉢		1
	備前	壺	IVA	0
	瓦質土器	火鉢		1
	中国	中国 白磁 同安窯系青磁 龍泉窯系青磁 龍泉窯系青磁 海州系青花 日本 瀬戸・美濃 備前	中国 白磁 同安窯系青磁 碗 龍泉窯系青磁 碗 碗皿細片 溶川紙片 海州系青花 皿 日本 瀬戸・美濃 直縁鉢 備前 壺	中国 白磁 碗 大宰府C・D期 同安窯系青磁 碗 碗 I 類 龍泉窯系青磁 碗 上田碗BII 類 上田碗D類 碗皿細片 15~16世紀前半 本州系青花 皿 日本 瀬戸・美濃 直縁鉢 備前 壺 IVA

第8表 SR05 中世陶磁器集計表

出土地点	産 地	種	別	器	種	分	類	数量
SR05	中国	白磁		Ш		大宰府Ⅱ	IVI期	1
		徳化窯		Ш		皿		1
				碗		碗Ⅰ類		1
		龍泉窯系	青磁	碗		上田碗B	IV類	1
						上田碗C	Ⅱ類	2
				碗皿細	片	15~16世	紀前半	1
		中国製?		碗				1
	朝鮮	青灰沙		小皿				1
	日本	瓦質土器	-	火鉢				2
		土師器		坏・皿		褐色系		4

第9表 SR07 中世陶磁器集計表

出土地点	産	地	種	別	器	種	分	類	数量
SR07	日	本	備前		擂鉢		IVA期		1
			不明		壺甕				1
			防長系 瓦質土	器	擂鉢				1
			土師器		坏・皿		褐色系		1

北岸際に傾斜堆積した層を別の遺構と誤認した可能性が高いが、これが SR01 の一部である確信も得られなかったので、ここでは出土遺物を「SR07 出土遺物」として提示しておく。

出土遺物(第29図,図版15・82) 図示しなかったものも含めて、中世陶磁器は第9表に集計した。 陶磁器(第29図,図版15) 第29図22は備前擂鉢IVA期、同図25は瓦質土器擂鉢である。前 者はSR07出土の備前ではもっとも古く、14C後半とされる。後者は中世後半と考えられる。23 は土師質土器坏で、褐色系である。

このほか図示できなかったものとして、防長系瓦質土器擂鉢(15~16世紀)、産地不明の壺あるいは甕片が出土している。これらもおおむね中世後半と思われる。

土製品(第29図, 図版15) 第29図24は小型土錘(I類)で円柱形を呈す。

鉄器(第 29 図, 図版 82) SR07 からの出土遺物は少ないが、和釘、矠、棒状鉄、鉄塊が出土している。 他の遺構同様に鉄製品、鉄素材に区分して報告する。また、流れ込みの可能性が否定できないが、 遺構から出土したものはここで報告し、非掲載のものを含めた集計表を第 25 表で示す。

鉄製品 (第 29 図 26・27, 図版 82) 第 29 図 26 は和釘、同図 27 は矠である。26 は先端が欠損しているが頭部の形状から平釘とした。図示した和釘以外にも数点の出土が認められる。27 は上端部が欠損しているが、断面が隅丸方形を呈していることから矠とした。

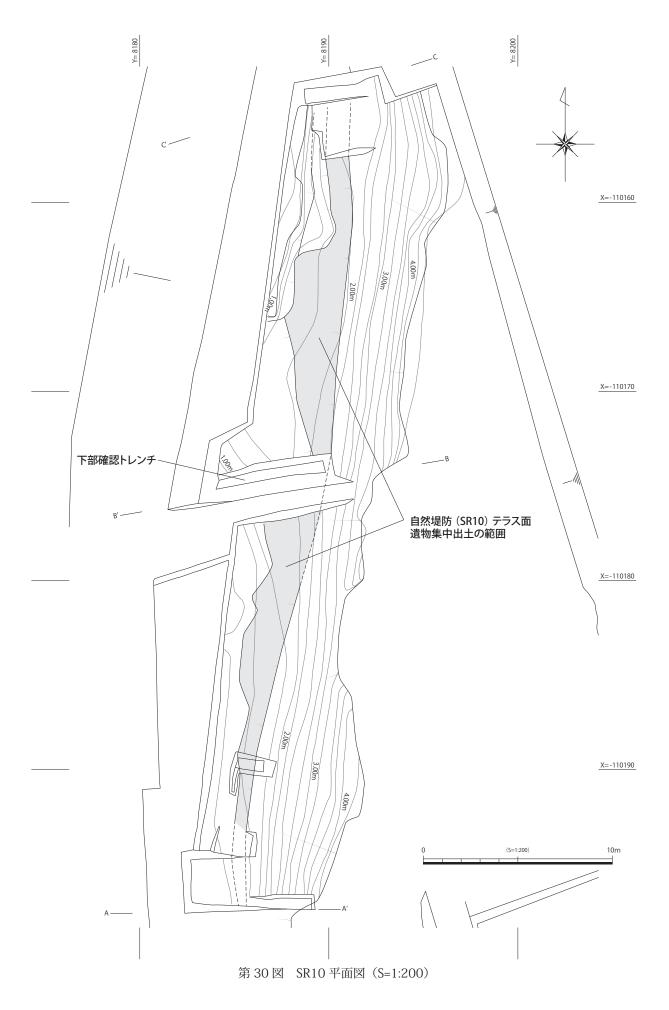
鉄素材 (第 29 図 30・31, 図版 82) 棒状鉄、鉄塊が出土した。第 29 図 31 は棒状鉄で、両端部が丸みを帯びるものの、断面は長方形を呈し、他の遺構から出土した棒状鉄と類似する。同図 30 は鉄塊としたが、銹化が著しく様相は不明瞭である。

SR10 (第 30 \sim 57 図,図版 6 \cdot 16 \sim 59 \cdot 83 \cdot 84)

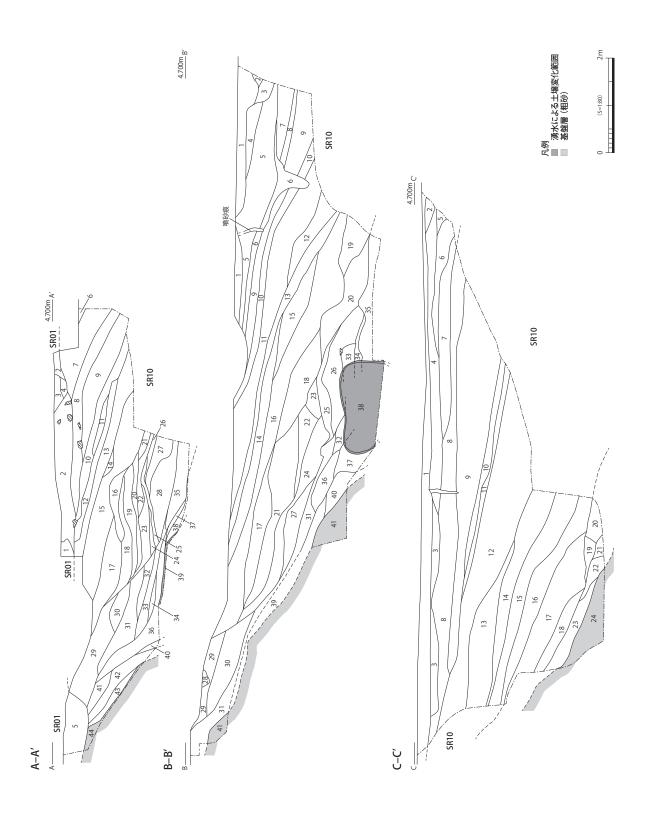
調査区のほぼ西側半分を占める流路で、方向は現在の江の川とほぼ平行している。SR10 は、東河岸が平面プランで長さ約 45 mの範囲で検出された。既述の SR01 \sim 05・07 は SR10 の上部堆積土(遺構埋土)を削り込んで形成されている。

調査当初に実施した土層確認用のための調査で、東河岸から多くの土師器が出土することが確認されたことから、調査は東河岸付近を中心に行い、あわせて流路底面の検出を試みた。安全勾配を考慮しつつ調査を進めた結果、幅約8mの範囲で流路内堆積土を完掘することができた。東岸は20~30度の傾斜を持ち、東端から約3mの位置で平坦面をなすが、西端でさらに下降しているようである。

検出面は、粘質土(第 31 図土層 B-31 層など)上面である。土層は上部層(第 31 図土層 C: 1 ~ 7 層)が SR10 埋没後の土層(第 11 図 II 層)、その下位の①(土層 A:6 ~ 28 層、土層 B:1 ~ 19 層、土層 C:8 ~ 12 層)・②層(土層 A:29 ~ 35 層、土層 B:20 ~ 30 層、土層 C:13 ~ 16 層)が SR10 内の堆積土(第 11 図 III 層)と考えられる。流路内の土層はいずれも基盤層の傾斜に沿って堆積しており、流れを徐々に西へ移しながら埋没していった様子がうかがえる。上位の① 層は厚さ 50cm前後の土層が互層に堆積していたが、遺物の出土は少ない。それより下位の②層は 20 ~ 30cmの厚さで黄褐色系の砂層と黒褐色系の砂質土がやや乱れて互層に堆積していた。②層では黒褐色系の土層から古墳時代の土器が大量に出土し、土器溜り状を呈していた。ここの層位は数層に分層されたが、出土遺物に大きな年代差は認められなかった。遺物は河岸斜面に集中して出土していたことから、河岸上から投棄されたものと思われる。



48



第 31 図 SR10 土層図 (S=1:80)

C-C,	 1. みな品では、 2. はるない機能色が関土(10/NS/4) 砂子相かい。及在土とのラミナをなす。 3. はるない機能色が関土(10/NS/5) 砂子相かい。及在土とのラミナをなす。 4. はるない機能色が関土(10/NS/2) 数子相かい。上まり思い。 5. はるめの関策(12/NS/2) 数子相かい。上まり思い。 6. 都色的第1 (10/NS/2) 数子相かい。以上まり思い。 7. 教徒色が選生(10/NS/4) を対しまりとない。 8. はるめの選生(10/NS/4) を対しまりとない。 9. はるたい機能色が増土(10/NS/4) を対しまりがない。 10. 想色的質生(10/NS/4) を対しまりがない。 11. はるい機能色が増土(10/NS/4) が表出しまりない。 12. は色的質土(10/NS/4) が表出しましまいなな中を性あり。以行物合立。当物色含層 11. によい、機能色が増土(10/NS/4) が表出しましまりない。 13. 気を砂砂質土(10/NS/4) 超子相かい。とよりよいな性をから、単しましましましましましましましましましましましましましましましましましましま
B–B'	 正の正の東江(10年) 4月22年(2017年7728) 株住在し、上すりやや弱い。 第27年(2017年70年7月27日) 本での変換性の資生 (10787428) 株住在し、上すりやや弱い。 直接1 mの別代は帯を少量含む。 4月24年(2017年704年7月28日) 2月24年(2017年7日) 2月24年(2017年7日) 2月24年(2017年7日) 2月24年(2017年7日) 3月24年(2017年7日) 3月24
A-A'	 15.25.少業権色必須上 (107874) 対学者(日本)とは、おいたの場合と変し、対したる。

②層の下部(③層: 土層 B: $31 \sim 40$ 層)では古墳時代の遺物は出土せず、③層上面が古墳時代中・後期の底面と思われたが、土層 B で下位の状況を確認したところ、同 $32 \sim 38$ 層で弥生時代後期から古墳時代前期の土器(第 32 図 $8 \sim 16$)がまとまって出土したことから、土層 B- $32 \sim 38$ 層は古墳時代前期以降の堆積と考えられる。

その下には青灰色細砂層と黄褐色砂質土とのラミナ層(土層 B:35 層下層)が確認され、さらに古い底面が下位に存在すると思われた。下部の様相を確認するため中央部(土層 B)を部分的に深掘りしたが、遺物の出土は認められず、これ以上深く掘り下げることは危険と判断して調査を停止した。

出土遺物 (第 32 図~ 57 図, 図版 16 ~ 59・83・84)

SR10では、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、ミニチュア土器、鉄器、鍛冶関連遺物、石製品、石器が出土した。とくに②層から古墳時代の土師器がまとまって出土したことから、②層出土の土師器、須恵器を中心に図示した。ミニチュア土器・鉄器・鍛冶関連遺物についても古墳時代に属する可能性が高いため、ここで扱う。また、その下位層では古墳時代中期の土師器を混じえずに弥生土器を中心として土器が出土した。SR10の自然堤防を形成する土層であるが、第11図Ⅱ層で示した包含層とは性格が異なるため、ここで扱う。

これ以外の縄文土器、石器については、SR10形成に関係ない二次的な堆積と考えられたため遺構外出土遺物として後述する。

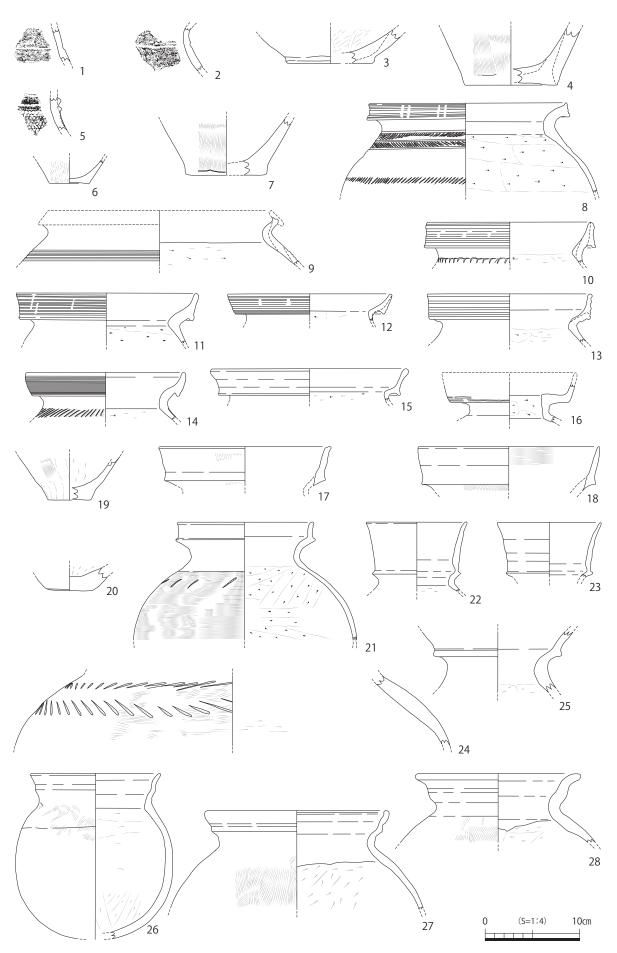
土層 B (32 ~ 38 層) 出土土器

弥生土器(第 32 図 1 ~ 16・19・20, 図版 16・17) 第 32 図 1・2 は I 様式の壺である。1 は上向き、2 は下向きの段がつけられている。同図 3 は壺底部で、I 様式の可能性がある。同図 $4 \cdot 7$ は I 様式の甕底部である。同図 5 は壺頸部片で、突帯 2 条と櫛状工具による刺突文が施される。Ⅲ -1 様式である。同図 6 は内面にケズリ調整がみられない底部で、外面に縦方向のヘラミガキが観察でき、中期と考えられる。同図 $8 \cdot 9$ は口縁部が内傾する $V \cdot 1$ 様式の甕である。8 の口縁部には凹線文、肩部には有軸羽状文、9 の肩部にはクシ描沈線文が描かれている。同図 $10 \sim 14$ は $V \cdot 2$ 様式の甕で、口縁部には擬凹線文が描かれている。14 の肩部には、口縁部と同一原体による押引き状の刺突文が施されている。同図 $19 \cdot 20$ は、内面にケズリ調整が見られる $IV \sim V$ 様式の底部であるが、小片のためいずれの時期か決定できない。

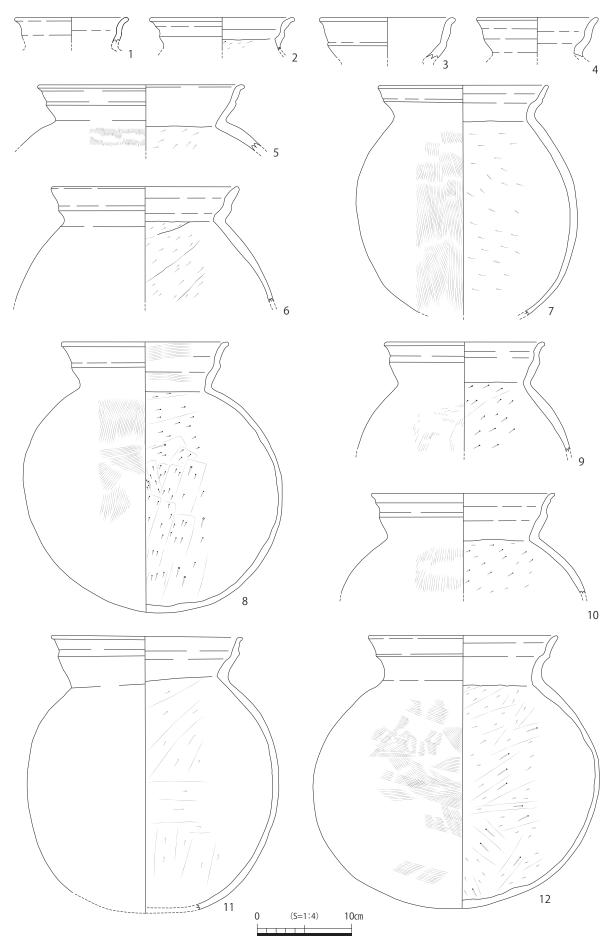
土師器(第32図17・18・21~24,図版16・17) 第32図17・18・21は古墳時代前期の甕である。いずれも複合口縁だが、21は口縁部がやや短く直立気味である。同図22・23は複合口縁の小型丸底壺で、口縁部は長く直立気味に外反する。同図24は壺または甕の肩部で大型品である。肩部に板状工具による羽状文が施されている。

第②層土器だまり出土遺物 (第 32 図~第 57 図, 図版 16 ~ 59・83・84)

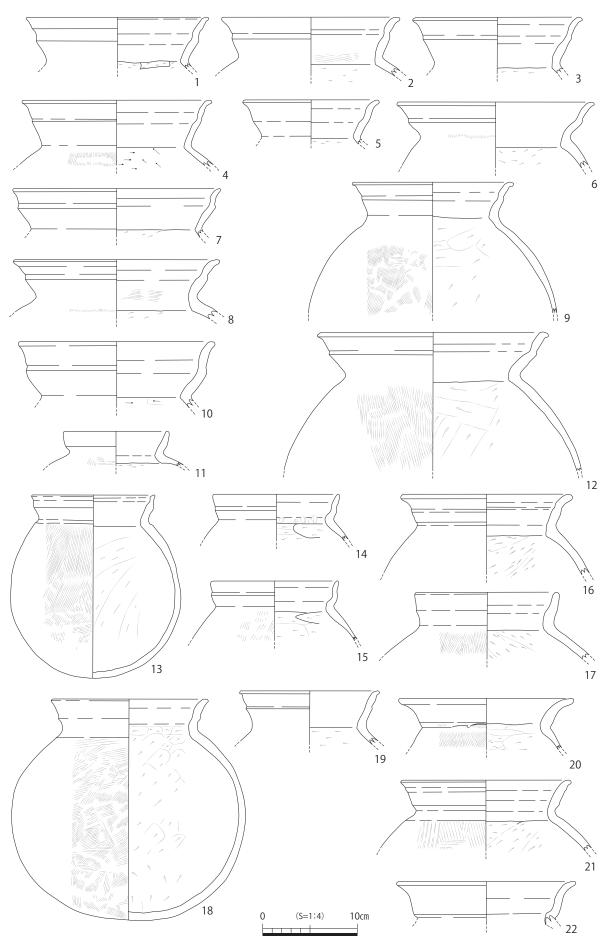
土師器・甕(第 32 ~ 42 図 図版 16 ~ 31) 複合口縁の形状を残すものを甕 I 類、単純口縁で口縁部がやや内湾・外傾・外傾するものを甕 II 類、単純口縁で頸部の屈曲が弱く肩部が張らないものを甕 II 類、壺に近い形状のものをⅣ類、小型の鉢形を V 類とし、各類を形状の違いからさらに細分した。 I 類は複合口縁系、 II A・B 類は布留式系を、III 類は出雲部の横穴墓や奈良時代集落から出土する甕を念頭に置いた。



第32図 SR10出土遺物(1)

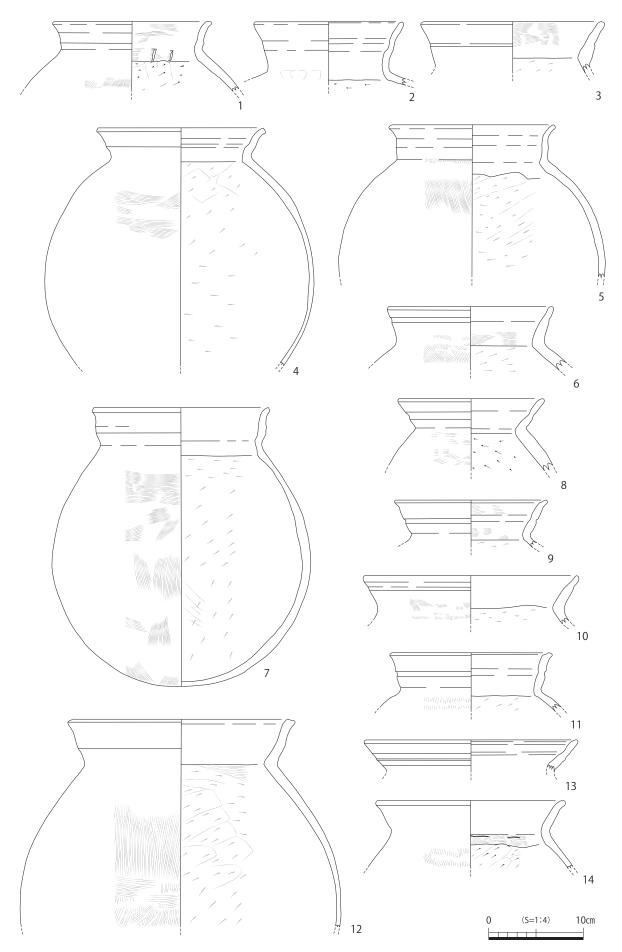


第33図 SR10出土遺物(2)

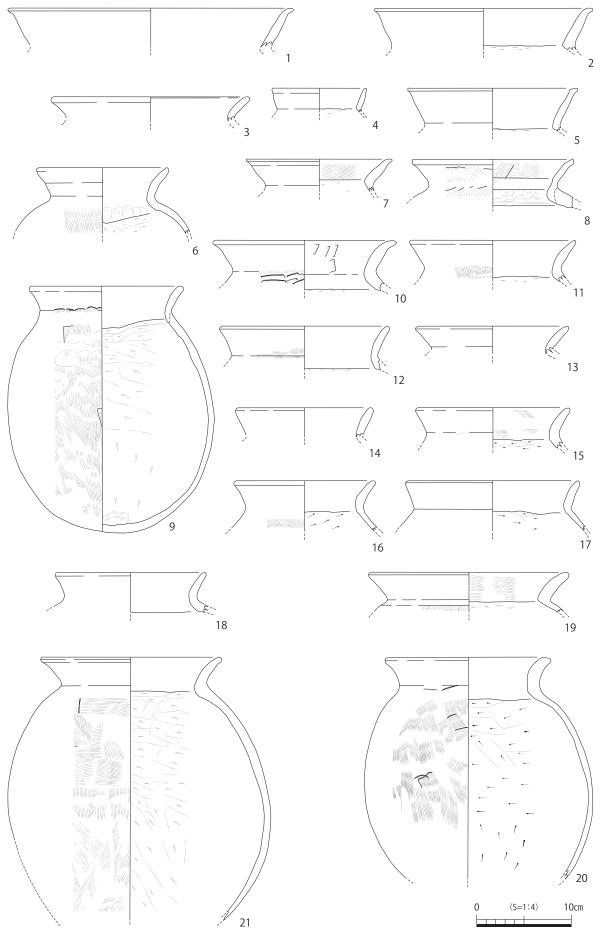


第34図 SR10出土遺物(3)

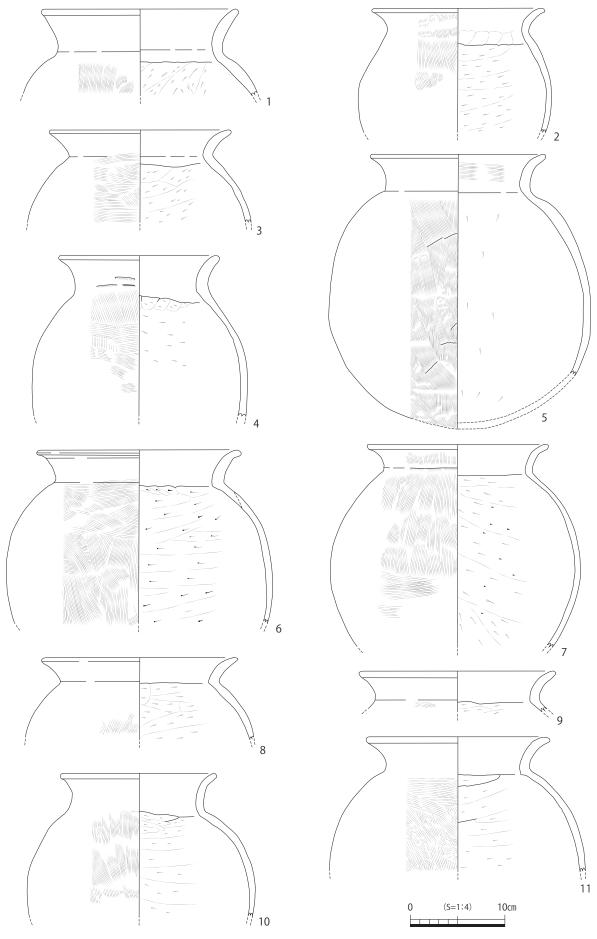
- **甕 I A 類**(第32 図 25, 図版 16) 複合口縁の形状をよく残すが、口縁下の稜が突帯状に丸く太いもの。
- **甕 I B 類**(第 32 図〜第 34 図,図版 $16 \sim 20$) 稜を段や稜線で強調するもの。この部分の内面は 凹面をなすことが多い。頸部と口縁部の形状から $a \sim c$ に 3 細分する。
 - **a 類**(第32 図26~第33 図10) 稜以下の頸部が短く、稜より上の口縁部が長いもの。
 - **b類**(第33図11~第34図1) 稜より上の口縁部が短く、頸部が長いもの。
 - **c 類**(第34 図 11・13 ~ 15) 口縁部が直立気味なもの。
- **甕 I C 類** (第 34 図・35 図, 図版 20 \sim 22) 複合口縁の形状がわずかに残るもので、稜が丸いなど痕跡的である。稜の作出方法により 3 細分する。
 - **a 類**(第 34 図 $16 \sim 19 \cdot 21$) 稜をわずかな段・稜線で表現するもの。 I B 類よりさらに痕跡 的である。
 - **b類**(第 34 図 20・22 ~第 35 図 5・7・12) 稜が丸く作出されるもの。頸部が非常に短いもの(第 34 図 20・22) や非常に痕跡的なもの(第 35 図 5) などがある。
 - **c 類** (第 35 図 $6 \cdot 8 \sim 11 \cdot 13$) 稜を凹線で作出するもの。凹線が 1 条めぐるものが多いが(第 35 図 $6 \cdot 8 \sim 11$)、まれに 2 条のもの(同図 13)がある。
- **甕ⅡA類**(第 35・36 図,図版 21・22) 単純口縁のものうち、口縁部が内湾するものを甕ⅡA類 とした。
 - **a 類** (第 35 図 14 ~ 第 36 図 2・4・5) 口縁内面が凹面をなすもの。
 - **b類**(第36図3・6~13) 口縁部内面が凹面をなさないもの。
- **甕川B類**(第 36 図 14 \sim 19, 図版 22・23) 口縁が外傾するもの。II C 類と区別が困難なものがある。
- **甕川 C 類** (第 36 ~ 38 図・第 41 図 11, 図版 23 ~ 26・30) 口縁が外反するもの。口縁形態により 2 細分する。
 - **a 類**(第 36 図 20 ~ 第 38 図 11・第 41 図 11) 口縁が大きく外反するもの。ほとんどは口頸部が厚いが、第 41 図 11 は全体に器壁が薄い特異な土器である。別に分類したほうがいいかもしれない。
 - **b類**(第38図12~16) 口縁が直立気味に外反するもの。
- **甕川 D類** (第 39 \sim 40 図、図版 26 \sim 28) 口縁部中程あるいは上部で屈曲し、口縁部上半がさら に大きく外反するもの。形態により 2 細分する。
 - **a 類** (第 39 図 1 \sim 5) 頸部から口縁部にかけて全体に外反するもので、口縁上半が屈曲気味 にさらに大きく外反するもの。 II C a 類と区別が難しいものがある。
 - **b類**(第 39 図 6 ~ 第 40 図 5・7・第 41 図 9) 口縁部下半が直立気味で、上半が屈曲して大き く外反するもの。下半が内傾するもの(第 39 図 14 など)も含めた。
- **甕 III A 類**(第 40 図 8 ~第 41 図 4・6,図版 28・29) 胴部の張りが弱いもののうち、口縁部が 長いもの。
- **甕川 B 類**(第 40 図 6・第 41 図 5・7・8・10・12・15,図版 29・30) 胴部の張りが弱いものの うち、口縁部が短く外反するもの。甕 Π 類と区別が難しいものがある。
- 甕Ⅳ類(第41 図13・14・16~第42 図3, 図版29・30) 口頸部が長いもので、壺に近い形態をなす。



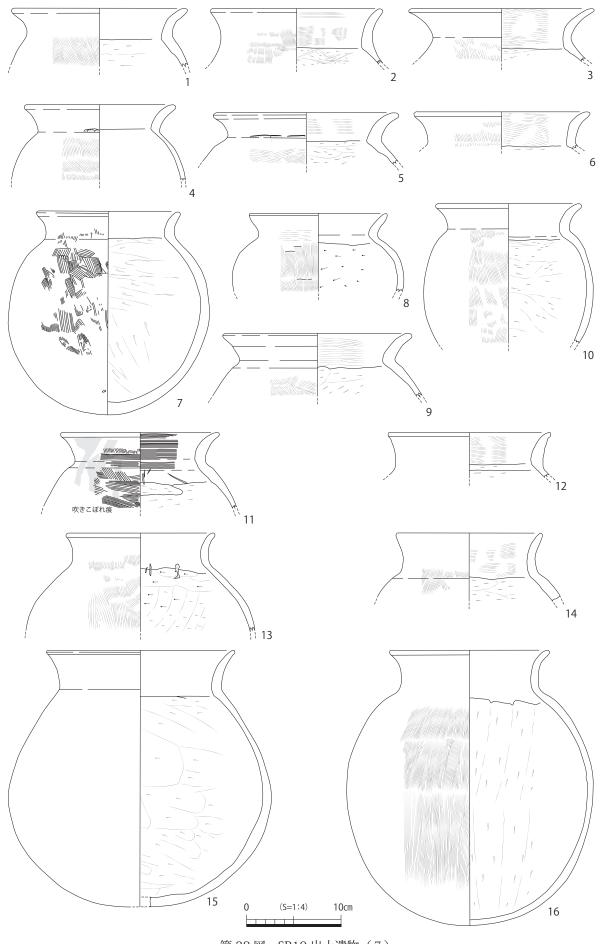
第35図 SR10出土遺物(4)



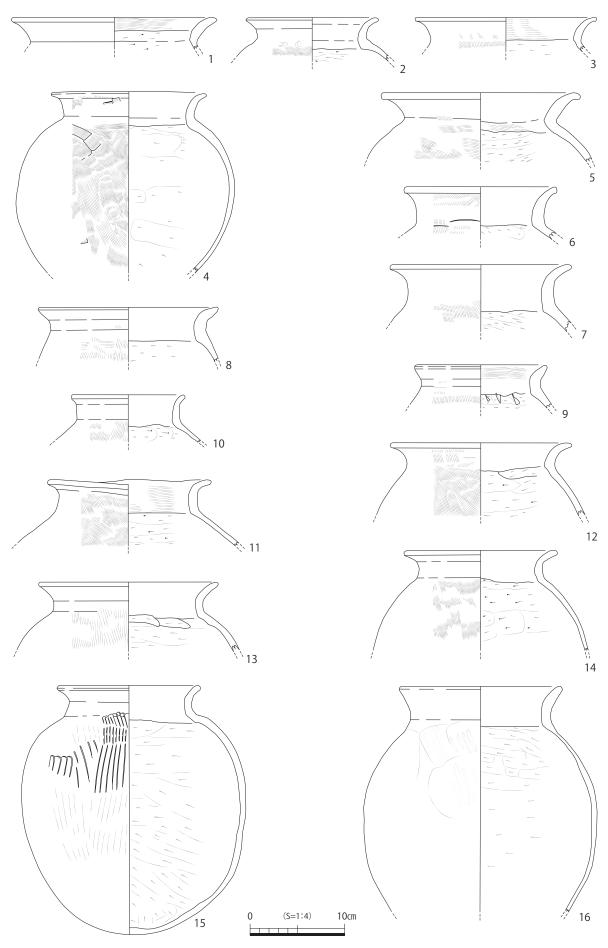
第36図 SR10出土遺物(5)



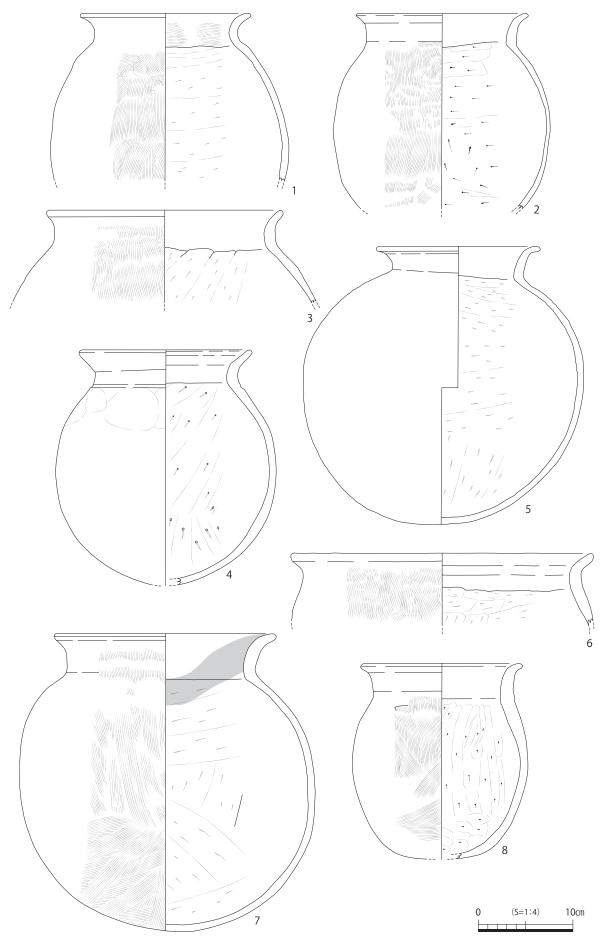
第37図 SR10出土遺物(6)



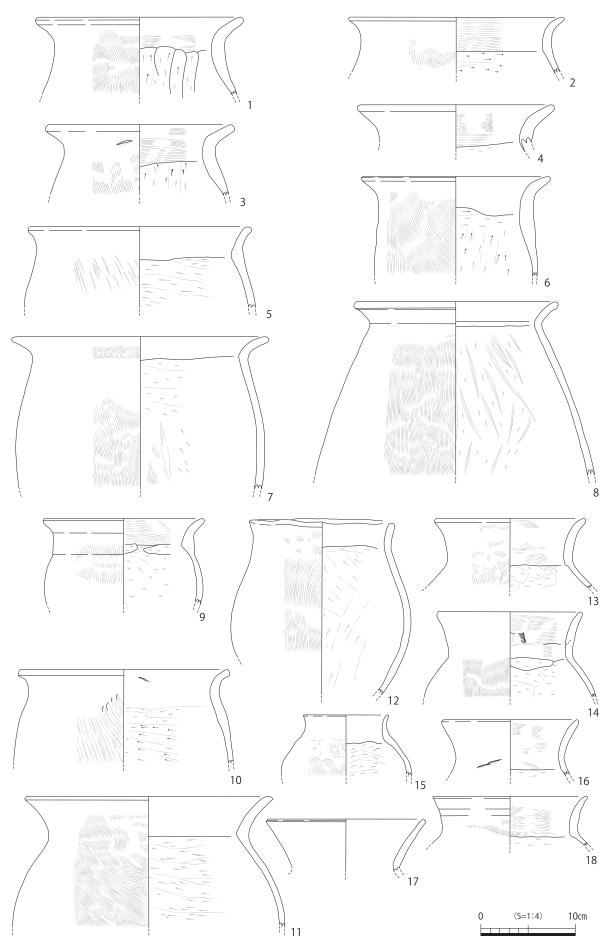
第 38 図 SR10 出土遺物 (7)



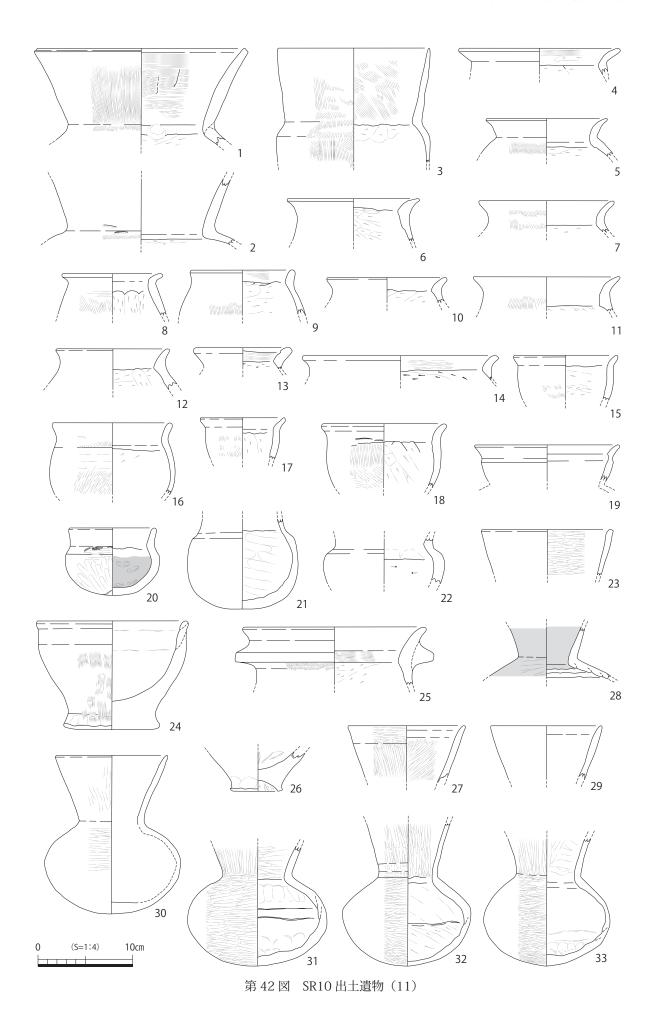
第39図 SR10出土遺物(8)



第 40 図 SR10 出土遺物 (9)



第 41 図 SR10 出土遺物 (10)



63

調整が甕と同じであること、当地の古墳時代中・後期に中型壺が存在するかどうか不明なことなど から、これらも甕として扱う。

甕 V 類(第 42 図 4 ~ 19, 図版 30・31) 口径 10 ~ 17cm程度の小型である。第 42 図 20 など参考にすると、鉢としたほうがよいかもしれない。ほとんどは甕 II C 類と同様の外反口縁を持つが、同図 19 は甕 II B b 類と同じ複合口縁系列の口縁である。

鉢(第42図23・24・26,図版31・32) 口縁が直口気味に開くもので、鉢と考えた。第42図24は完形に近いもので、底部は平底である。同図26は上げ底で、底外面はケズリ調整が施されている。24の例から、鉢と判断した。24・26とも、古墳時代中・後期ではあまり見ない底部だが、調整・胎土など他の土師器と同じであることから、この時期と考えた。

鍔付土器(第 42 図 25, 図版 31) 頸部に太い突帯がめぐる特異な土器である。突帯以外の部分 や調整が甕 Ⅱ C 類と同であることから、古墳時代中・後期と考えた。細片も含めて同様な土器はこ れ以外に出土していない。

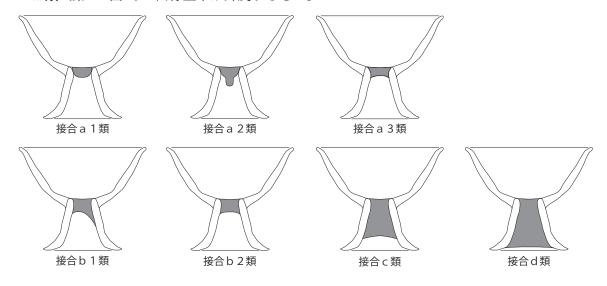
壺(第 42 図 20 ~ 22・27 ~ 33・第 44 図 1・2, 図版 31 ~ 33) 器高 17㎝程度の小型の壺である。頸部が長いものが多く、第 44 図 2 のような短頸は少ない。いずれも外面には非常に丁寧な調整が施され、とくに口頸部は縦方向のミガキが特徴的である。第 42 図 28 の肩部内面には粘土 紐積上げ痕跡が明瞭に残り(図版 32)、同図 31・33・第 44 図 1 の内底面には指押圧痕が顕著である。第 42 図 20 ~ 22 は短頸の小型壺とみられる。

高坏(第 $43 \sim 45$ 図,図版 $33 \sim 40$) 図示したもの以外は全形が残るものがないため、坏部と脚部を別に形態分類する。また、それとは別に坏部・脚部の接合方法によって細分する。表記は、全形がわかるものは坏部・脚部各分類の組み合わせとし(例えば「 I A 」など)、坏部・脚部一方のみ残るものは「 I]・I 」などのみ記述する。さらに接合方法分類を加える(例えば「 I A a I 」など)。脚部形がわかるものは両者の組み合わせを記述し(I A a I 」など)、接合のみが判別できるものは接合方法のみを記載する(I a I 」など)。

坏部 | 類(第 44 図 3・5 ~ 13・第 45 図 1) 口縁下部で屈曲するもの。

Ⅱ類(第44図14~25) □縁が内湾するもの。小片では土師器碗と区別できない。

Ⅲ類(第44図4) □縁上半が外反するもの。



第 43 図 高坏接合部模式図

脚部 A 類(第 44 図 3・6 ~ 8) 筒部が細長い円筒形を呈すもの。

- **B類** (第 44 図 4・10 \sim 13, 第 45 図 1 \sim 6・8 \sim 10) 脚高が高いもの。脚全体が末広がり となって脚端部に達する。
- **C類**(第 44 図 15 ~ 25・第 45 図 11 ~ 23) 脚高が低いもの。脚全体が末広がりとなって脚端部に達する。

接合(第43図) 接合については、坏部底部の粘土充填の差異により a ~ c に 3 分し、さらに細部の違いにより細分した。煩雑になるため、ここでは代表的な資料を挙げて説明するが、観察表にはすべてに分類番号を記載しているので参照していただきたい。

接合 a 類 (第 44・45・66 図, 図版 33・34・36・69) 充填が坏部底面にとどまっているもの。 3 細分する。

- **a 1類**(第 44 図 3・6, 図版 36) 充填粘土が半球形をなすもの。
- **a 2 類**(第 44 図 7・第 66 図 25, 図版 33・69) 充填粘土が脚部に若干はみ出すもの。なお、 遺構外出土遺物ではあるが、第 66 図 25 は脚部から剥離した充填粘土である。
- **a 3 類**(第 44 図 4·8 ~ 13, 図版 34) 脚部にはみ出した充填粘土を脚部側から調整したもの。 **接合 b 類**(第 45 図, 図版 37) 充填粘土が脚部上部まではみ出すもの。下から調整される。
 - **b 1 類**(第 45 図 6 · 8 · 10,図版 37) 充填粘土が脚内面の一方に偏っているもの。
 - **b 2 類**(第 44 図 15, 第 45 図 2 ~ 5・7・9・11・12, 図版 37) 充填粘土を下から全面に調整し、 脚部と一体化したもの。

接合 c 類 (第 44 図 16 ~ 22・24・25, 第 45 図 13 ~ 18 など, 図版 38・39) 脚中程まで粘土を充填するもの。

第10表 SR10出土土師器(甕)集計表

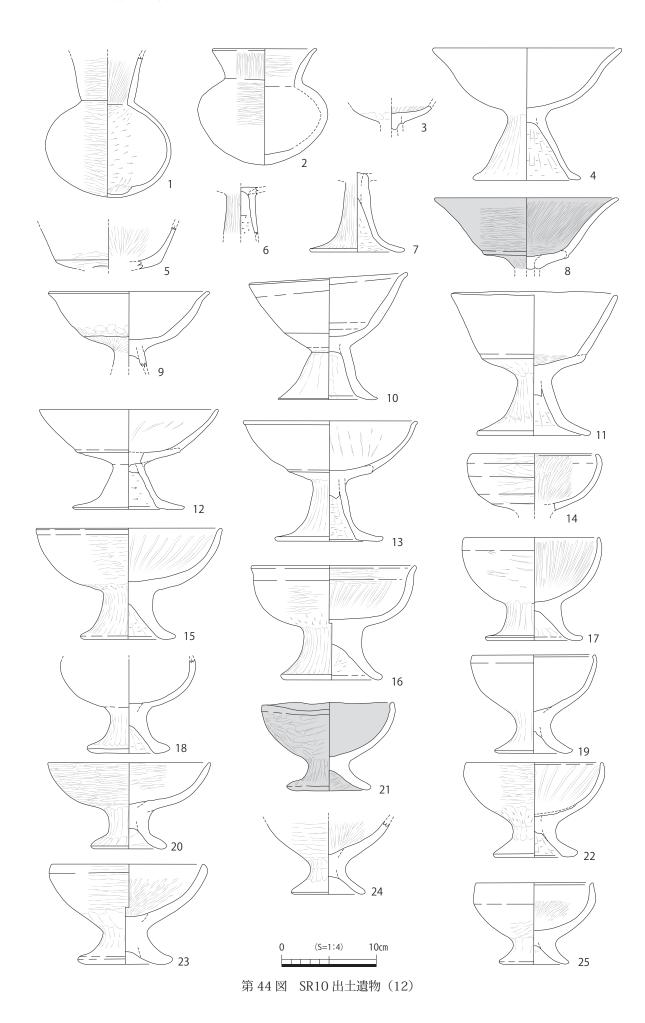
ΙΑ	ΙВа	ΙΒb	ΙВс	IB口縁	I C a	I C b	ΙСс	I類	
10	25	39	4	6	5	27	11		1
10	IB類計	+		74	I C類計 43				1
II A a	II A b	II B	II C a	II C b	II D a	II D b	III A	IIIB	
4	26	59	133	19	192	64	20		22

第11表 SR10出土土師器(高坏)集計表

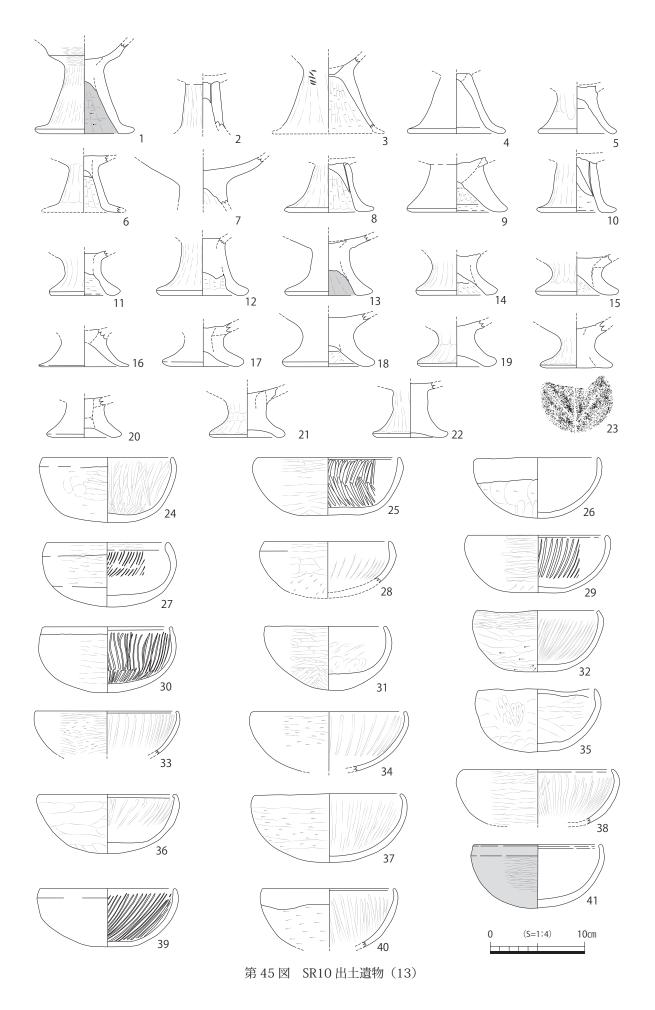
器形	接合						
全形	a 1	a 2	a 3	b 1	b 2	С	d
IA類	1		2				
IB類			3		1		
ⅡC類					1	10	1
ⅢB類			1				
脚	a 1	a 2	a 3	b 1	b 2	C	d
A類							
B類			3		4	6	
C類			1		15	10	4

第12表 SR10出土土師器(碗)集計表

類							
а		b		С		底部	
	21		16		4		24
II類							
							18



66



接合 d 類 (第 44 図 23, 第 45 図 $1 \cdot 19 \sim 23$, 図版 39) 脚端部付近まで粘土を充填するもの。底面がわずかに凹面をなすもの(第 45 図 $19 \sim 22$)と平坦面をなすもの(同図 23)があるが、細分しない。 $20 \cdot 21$ の破面の観察で、充填痕跡が認められた。23 の底面には木葉痕がみられる。 碗 (第 45 · 46 図, 図版 $40 \sim 44$) 丸底と平底があり、前者を I 類、後者を I 類とする。 I 類は I 気限10 では小片しかなく、全形がわかるものは包含層(第 I 層)から出土している(第 66 図 I の)。 I 類は口縁部形態の差異により I 3 細分する。碗と思われる破片は多数出土したが、口縁形態は高坏とよく似ていることから、破片では碗と断定することは困難である。各分類の集計を第 I 2 表に示したが、これは碗であることが確実なものに限った。高坏の可能性があるものを含めた口縁部破片数は、a 類が I 205、b 類が I 31、c 類が I 22 である。

- **Ⅰ a 類** (第 45 図 26・29・31・33 ~ 35・38 ~ 40・第 46 図 3) 口縁部が単純に内湾するもの。 全面ミガキまたはナデ調整のもの(1 類:第 45 図 29 など)と、外面口縁部付近にケズ リ境界があり底部にかけてケズリ調整されるもの(2 類:第 45 図 26 など)がある。
- **Ⅰ b 類**(第 45 図 24・25・27・28・30・32・36・37・41 ~第 46 図 2・4 ~ 7・9) □縁部 が単純に内湾するが、□縁部外面に稜が付くもの。稜がケズリ境界となっており、以下底 部にかけてケズリが施されている。
- **Ⅰ c 類**(第 46 図 8 10 ~ 12) □縁端部が外反するもの。この類も丸底である。

甑(第 46 図 $13 \sim 21$ ・第 47 図 $1 \sim 6$,図版 $44 \sim 46$) 第 46 図 $13 \sim 21$ は把手、第 47 図 $1 \sim 6$ は全形がうかがえるものであり、口径 $19 \sim 25$ cm、底径 $7 \sim 10$ cm、器高 $23 \sim 27$ cmの中型である。いずれも胴部中程に 2 カ所把手をつけ、調整は比較的丁寧である。破片では口縁 69、底部 50、把手の数が 50 である。甑 1 個体に把手が 2 個付属するなら、甑は 25 個体以上(第 47 図 $1 \sim 6$ を加えると 31 個体以上)あったことになる。

把手は指押圧痕が残るものが多く、本体に比べて雑な作りである。上外方に湾曲するものが多く、第 46 図 21 は極端な屈曲である。同図 14・18 は扁平、同図 20 は非常に小型の把手である。把手は本体胴部に円孔を穿いた後に基部が埋め込まれている。第 47 図 2 の内面には把手接合痕跡が明瞭に残り、第 46 図 15・20 の基部は擬口縁となって接合状況が観察できる。

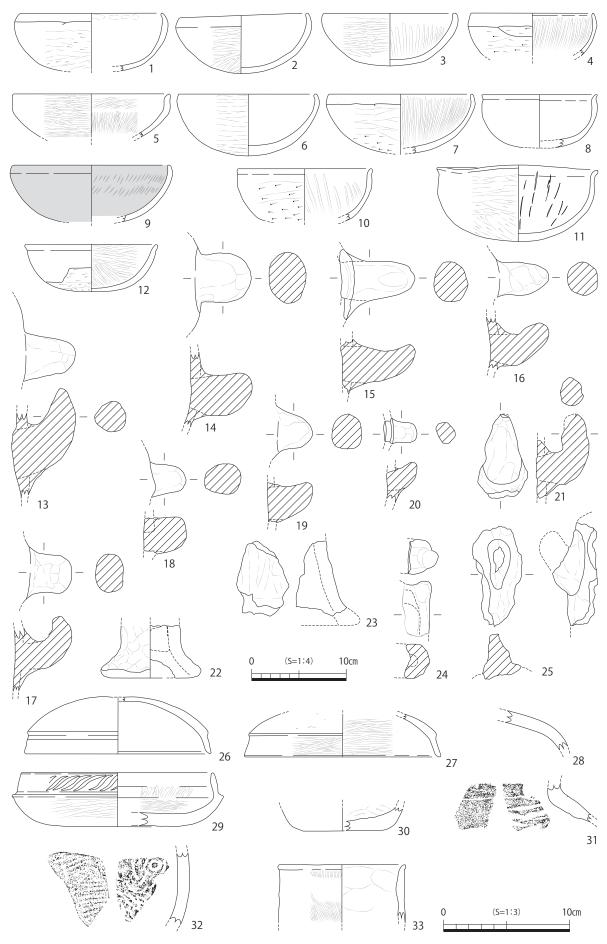
竈(第 47 図 7 ~第 48 図 13, 図版 45 ~ 48) 庇がつくもの(第 47 図 7 ~ 9)と庇がないもの(第 48 図 1 ~ 3)がある。前者は、庇の設置部位が焚口上部に限られ、焚口両側は素縁のものばかりである。全体に竈にしては器壁が薄く、華奢な印象がある。口縁部は短く外反し、小片だと甕 II C 類と区別できない。内面は大部分ケズリ調整が施され、底部付近はナデ(第 48 図 1)、指押圧痕(同 図 4 ・11)がみられる。また、11 の底部内面には板目状圧痕もみられる。底面はナデ調整されるものが多く、12・13 には板目状圧痕がみられる。

庇は破片で13点出土しており、竈は少なくとも21点以上存在したことがわかる。

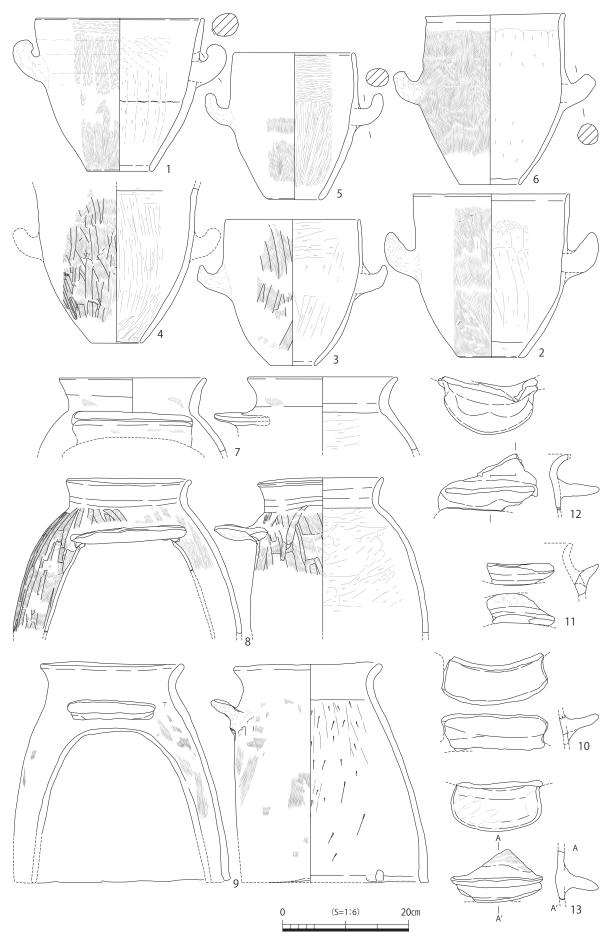
土製支脚 (第 46 図 22 \sim 25, 図版 44) 全形がうかがえるものは出土してない。出土数は少なく、図示しなかったものも含めて破片 14 点に過ぎない。

第 46 図 22・23 は底部付近、同図 24・25 は小突起部分の破片である。22 の底面は凹面をなす。 いずれも器面に凹凸が著しい。破面の観察では、まず中空の筒形を作成後、内部に粘土を詰め込ん で作られたように思われた。

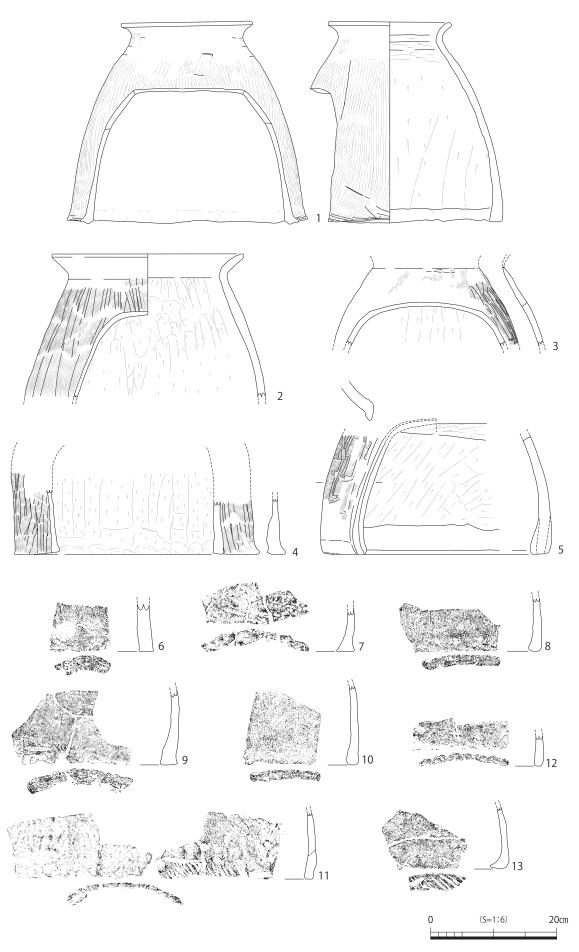
須恵器模倣土師器 (第 46 図 26 ~ 32, 図版 43 ~ 45) 第 46 図 26 ~ 28 は、須恵器坏蓋を模倣



第 46 図 SR10 出土遺物(14)



第 47 図 SR10 出土遺物 (15)



第 48 図 SR10 出土遺物 (16)

したものである。同図 28 は天井部小片だが、同図 26・27 は稜を作り出し比較的忠実に模倣している。同図 29 は坏身の模倣品で、受部は短く形骸的である。天井部・底部外面は回転ヘラケズリが施され、口縁部や内面はミガキが多用される。同図 30 は平底の小型土器で、小型の坏が模倣された可能性がある。これらはいずれも黒く焼かれている。同図 31・32 は甕の模倣である。外面に平行タタキ、内面に同心円状の当具痕がある。ともに忠実に須恵器甕を模しているが、色調は黄橙色で土師器の色調を呈す。

製塩土器(第46図33,図版44) 直口の小型土器で、器面の凹凸が著しい。外面はハケメ、内面には指押圧痕が観察できる。製塩土器と考えたが、別種かもしれない。このほか、図示できなかったが内面に布目痕がある薄手の製塩土器が1点出土している。

須恵器蓋坏(第 49・50 図,図版 48 \sim 52) 古墳時代の蓋坏を I 類、TK217 式以降の金属器模倣 のものを II 類とした。

蓋 | 類 (第 49 図 $1 \sim 21$, 図版 $48 \sim 50$) 稜の形状で $A \sim D$ 類に、口唇部の形状で $a \sim d$ 類に細分した。天井部は丸みを持つもの(同図 $1 \cdot 3$ など)と平坦なもの(同図 $7 \sim 9$ など)があり、観察表では前者を「丸」、後者を「平」と分類番号の後に付してある。稜と口唇部の相関は、第 13 表に示した。天井部は基本的に回転へラケズリが施されるが、小型の 21 はケズリ調整がみられない。

A類 (第 49 図 $1 \cdot 3 \sim 6 \cdot 9 \sim 11$) 稜を作り出して突出させるもの。比較的しっかりと作られたものが多い。

B類(第49図2・7・8・12) 稜を沈線で表現するもの。

C類(第49図13·16) 屈曲させることで天井部と口縁部の境界を表すもの。

D類(第49図14・15・17・21) わずかに稜の痕跡があるもの。小型のものが1点ある(21)。

口唇 a 類(第49図1・7) 口唇が凹面をなすもの。

口唇 b 類 (第 49 図 2 \sim 6 · 8 · 9 · 11 · 12) 口唇が段をなすもの。

口唇 c 類(第 49 図 14 ~ 16) 口唇が丸いもの。

第13表 SR10出土須恵器 (蓋坏)集計表

	蓋Ⅰ(i	古墳)										蓋川(古代)		
分類	ΙAa	IAb	ΙАс	ΙA	ΙВа	IBb	IBd	ΙВ	I C c	IDc	IDd	蓋IIA	蓋IIB	蓋IIb	
破片数	2	11	1	10	1	3	1	7	1	2	1	2	5	3	
		I A Ēt						I B計	IC計		ID計		•	川計	
計	24							12	1		3			10	
	坏」(7	古墳)						坏Ⅱ (古代)							
分類	ΙAa	IAb	ΙАс	ΙВс	ΙСс	ケズリ有	ケズリ無	П	III A c	III A	ШВb	III B	III B b	・ a 口縁	・ b 口縁
破片数	2	1	14	14	8	85	11	3	1	1	1	4	1	12	32
		I	A計	IB計	IC計			Ⅱ計		•		•	≡計		
計			17	14	8	85	11	3					8	12	32

第 14 表 SR10 出土須恵器(高坏)集計表

坏Ⅱ脚B	坏Ⅲ脚B	坏 I	坏Ⅲ	脚A	脚B	透孔あり	透孔なし
1	1	1	4	3	15	6	17

第15表 SR10出土須恵器(壺・甕)集計表

器種	中型壺口縁	中型壺口頸部	小型壺	短頸・丸底壺	長頸壺	邷	提瓶	横瓶	甕口頸部
数量	18	12	8	5	2	7	1	1	11

第 16 表 SR10 出土須恵器 (甕当具痕) 集計表

分類	当具痕 A	当具痕 B	当具痕C	輪花a類	輪花b類	輪花c類
数量	83	175	114	1	3	9

口唇 d 類(第 49 図 10・13・17) 口唇が面をなすもの。

このうち、天井部内面に同心円当具痕がみられるもの(第 49 図 $7 \cdot 14 \cdot 18 \sim 20$)、天井部外面に板目状圧痕がみられるもの(同図 18)がある。内面に当具痕が認められるものは図示したものを含め 8 点を確認した。

坏 | 類 (第 49 図 22 ~第 50 図 15, 図版 49 ~ 52) 立ち上がりの長さ・形状により A ~ C 類に分類した。口唇部は蓋に準じて a ~ c 類に分類したが、凹面をなす a 類は小片が 2 点、段を持つ b 類は第 49 図 22 のみであった。他はすべて丸いままの c 類である。

A類(第49図22~第50図8) 立ち上がりが1.5~2cm前後と長いもの。

B類(第50図9) 立ち上がりが1.2cm 前後とやや短いもの。

C類 (第 50 図 $10 \sim 14$) 立ち上がりが 5mm前後と短いもの。

底部外面は回転へラケズリ調整が施されるものがほとんどで、第 50 図 11・15 がヘラ切り痕跡を残す。第 49 図 23・第 50 図 3・10 には板目状圧痕がついている。第 49 図 22 の内面には当具痕跡が観察でき、同図 22・23・第 50 図 1・2・10 の内面には放射状にシワがみられる。後者も、当具痕跡かもしれない。

蓋川類(第50図16~18, 図版52) 口縁端部の形状により、A~C類に分類した。なお、第50図18の天井部外面には板目状圧痕がみられる。

A類(第50図16・17) 口縁内面にかえりを持つ、小型の蓋。

B類 口縁端部が屈曲してやや長いもの。SR10では図示できるものがなかった。

C類 口縁端部が三角形状に短くつまみ出されるもの。SR10 では図示できるものはなかった。

つまみ a 類 擬宝珠形のつまみ。SR10 では図示できるものはなかった。

つまみ b 類(第 50 図 18) 輪状のつまみ。

坏 II 類 (第 50 図 19 \sim 21, 図版 51・52) 高台のないものを II 類とした。第 50 図 19 はやや深身の碗形、同図 20 は粗雑な作りで、須恵質のミニチュア土器ともいうべき土器である。

坏Ⅲ類(第 50 図 25・27・28・30・31,図版 51・52) 高台の付くもので、高台の位置により A・B 類に細分する。底部の切り離しは、ヘラ切りがほとんどである。

A類(第50図27) 口縁・底部境界の内側に高台がつくもの。

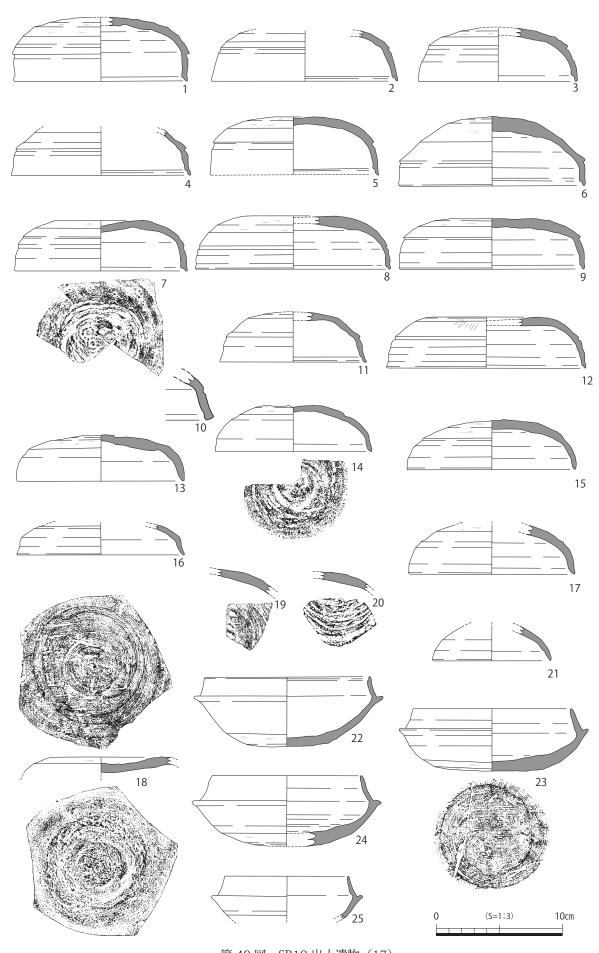
B類(第50図25・28・30・31) 口縁部・底部境界付近に高台がつくもの。

底部を欠損したものはⅡ類とⅢ類の区別できないので、ここで口縁部の細分を示しておく。

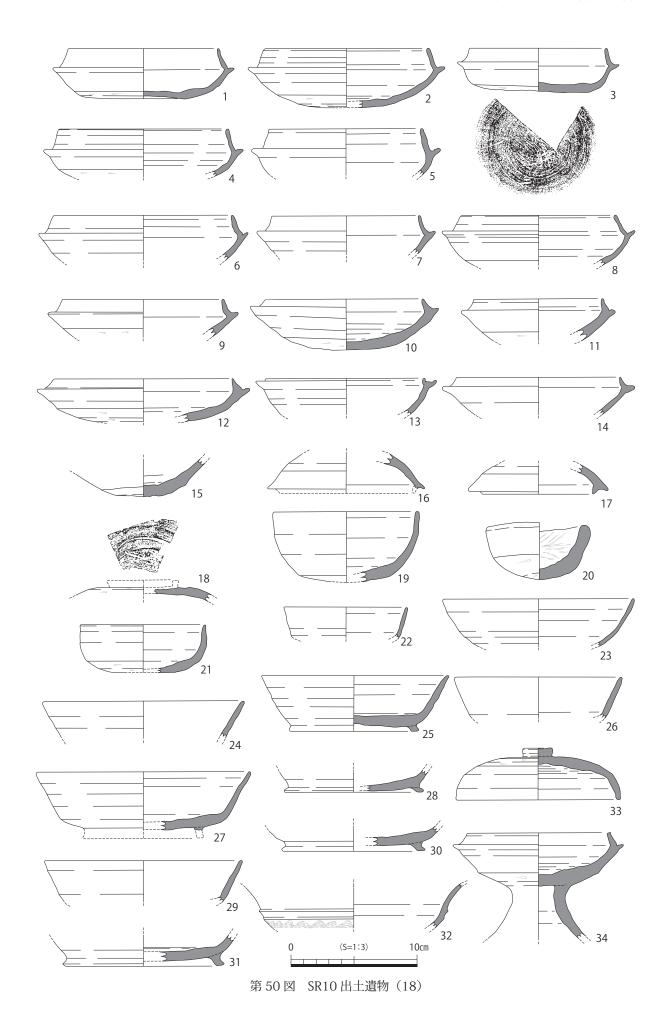
a 類(第 50 図 23) 口縁部が内湾するもの。

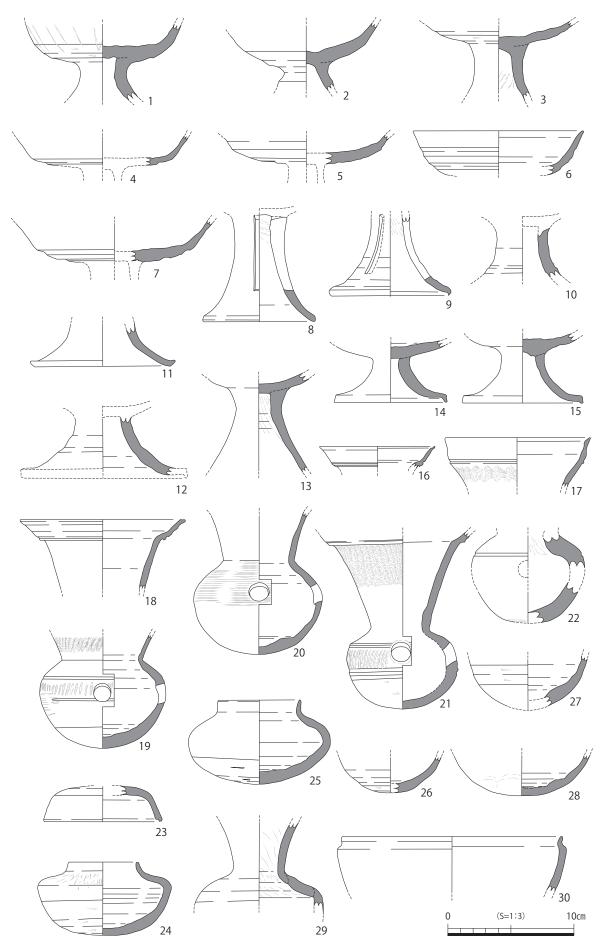
b類(第50図22・24~27・29) 口縁部が外傾または外反するもの。

高坏(第 50・51 図, 図版 51 \sim 54) 第 50 図 33 は蓋だが、有蓋高坏の蓋と考えたためここに入れた。 天井部にボタン状のつまみが付き、稜は表現されていない。同図 32 は坏部片で、胴部の稜がしっ

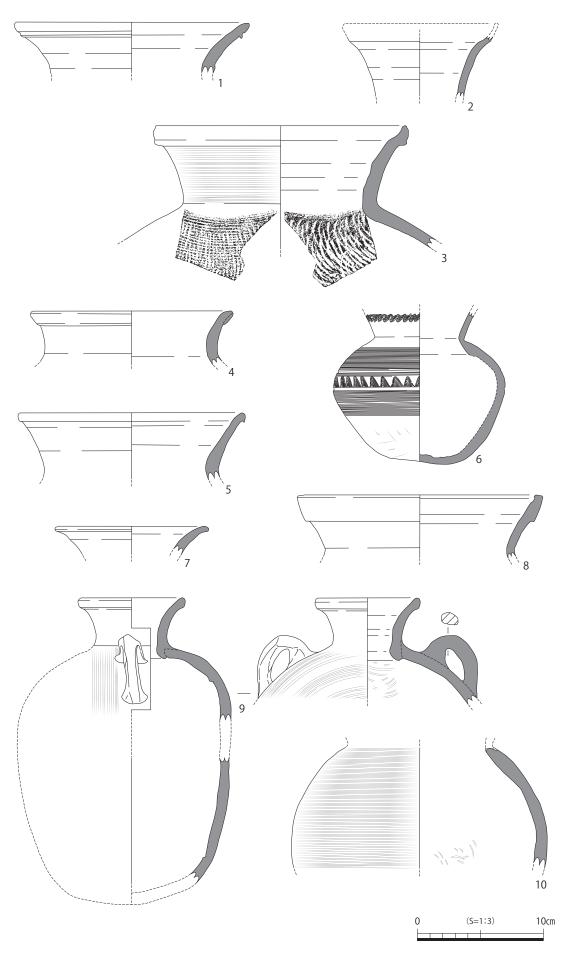


第 49 図 SR10 出土遺物(17)

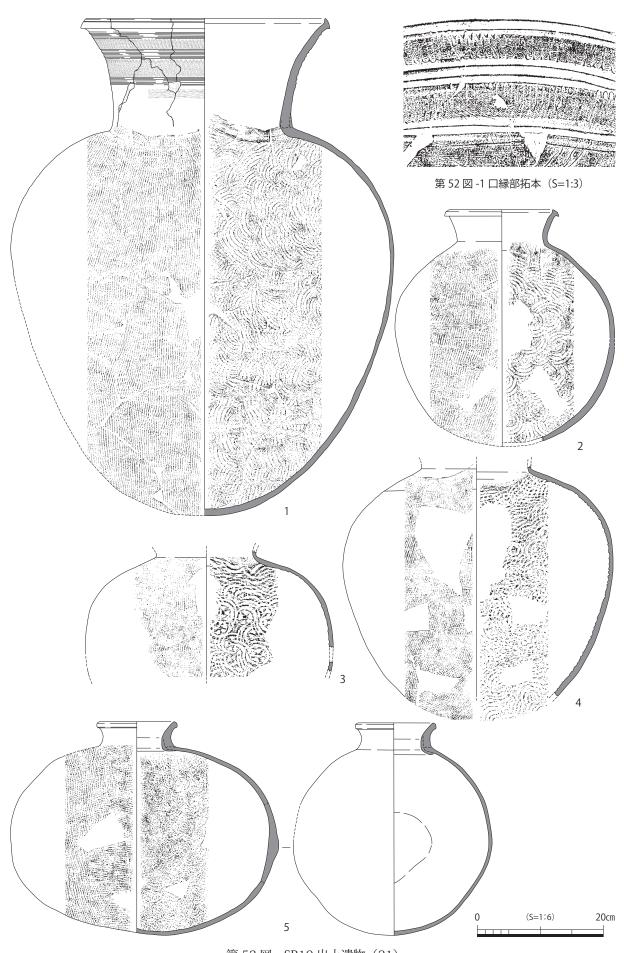




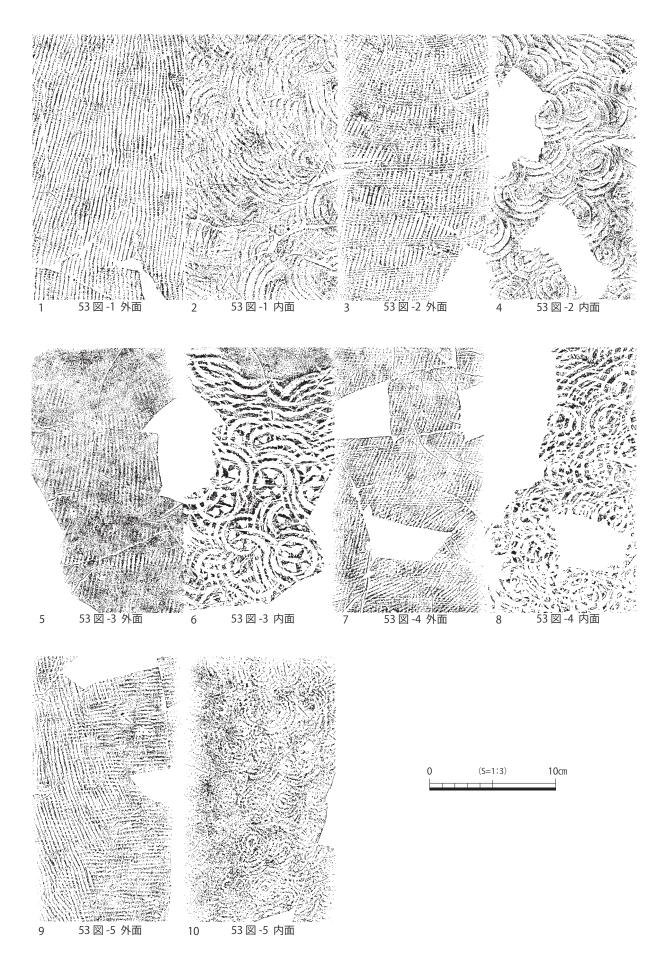
第51図 SR10出土遺物 (19)



第52図 SR10出土遺物 (20)



第53図 SR10出土遺物 (21)



第54図 SR10出土遺物 (タタキ痕・当具痕)

かりと表出されている。下部には波状文が描かれ、他の高坏より古い印象がある。同図 34 は有蓋高坏で、立ち上がりは坏 I B類に近い。第 51 図 1 には斜行する細沈線が施されている。全形がうかがえるのは第 50 図 34 のみで、他は坏部、脚部の小片である。確実に透孔を有するものは 6 個、持たないもの 17 個を確認している。

形態により坏部をⅠ~Ⅲ類、脚部をA・B類に細分する。

坏部 | 類(第50図32) 体部に稜が付き、口縁上半が大きく外反するもの。

Ⅱ類(第50図34) 立ち上がりをもつ有蓋高坏。

Ⅲ類(第51図1~7) 無蓋高坏で口縁部が内湾または直立するもの。

脚部 A 類 (第51 図8・9) 長脚で筒部が細身のもの。長方形の透孔がみられる。

B類(第50図34~第51図3・10~15) 接合部分から脚が急に広がるもので、短脚(第51図12・14・15 など)と長脚(第50図34・第51図13)がある。B類で透孔を持つものはない。 **B**(第51図16~22,図版53・54) 頸部がやや太いもの(第51図18~20)と細いもの(同図21・22)がある。口縁部の屈曲・突線は明瞭で、第51図17・19・21の頸部には波状文、19・21の胴部には刺突文が施されている。

長頸壺 (第 51 図 29・第 52 図 2, 図版 54・55) 第 51 図 29 は肩部が鈍く屈曲する。内面には絞り痕跡が認められる。第 52 図 2 は上端がわずかに屈曲するように観察できたため、屈曲した器形に復元したが、単純にそのまま外反するかもしれない。

短頸壺(第 51 図 23 \sim 28, 図版 53 \cdot 54) 肩が強く張り、扁平な器形である。第 51 図 26 \sim 28 は횷底部の可能性もある。同図 23 は短頸壺蓋と考えられたためここに配置した。

鉢(第51図30,図版54) 口縁部がわずかにくびれるもの。小片のため、鉢と断定できない。 古墳時代にはあまりみない器種だが、SR10埋土から出土しているので、ここで取り上げた。

壺 (第 52 図 $1\cdot 3 \sim 8\cdot 10$, 図版 $54\cdot 55$) 第 52 図 1 は口縁端部に突線がめぐるもの、同図 $3\cdot 4\cdot 8$ は口縁部に肥厚帯を持つもので、いずれも中型の壺である。6 は小型で頸部と胴部に波状文をめぐらす。同図 10 は外面カキ目、内面は当具痕をナデ消している。

提瓶(第52図9, 図版54)やや扁平な胴部と形の崩れた環状把手を有している。直接には接合できないが、胎土・色調・焼成などから同一個体と考えた。

横瓶(第53図5,図版56) 一方の側面に円形の変色がみられる(図版56)。焼き台の痕跡だろうか。 焼き台痕とすれば、これを下にして、長軸が鉛直になるよう置かれたと推定される。

甕 (第 53 図 1 \sim 4, 図版 55) 第 53 図 1 は大型、同図 2 \sim 4 は中型の甕である。1 の口縁部には凹線文と波状文がめぐっている。

なお、内面は同心円状の当具痕だが、圧痕形状に違いがある。当具痕は遺構外出土のものも含め、 おおまかに A~C 類に分類できる。

当具痕A(第53図1・第54図2) 圧痕で凸部が狭く、凹部が広いもの。

B (第53 図5・第54 図4) 圧痕で凸部が広く、凹部が狭いもの。

C (第 69 図 2) 凸部、凹部ともに狭いもの。SR10 では出土していない。

また、少数ながら輪花状の圧痕がみられる。遺構外出土のものも含め、おおまかに a \sim c 類に分類できる。

輪花a類(第69図6) 細かく、放射状を呈するもの。

b類(第53図3・第54図6) 放射状だが、a類より粗く、星形に近いもの。

c類(第69図8) 放射する線が1条のもの。原体のひび割れの可能性もある。

ミニチュア土器 (第 55・56 図,図版 56 \sim 59) ミニチュア土器は、土師器に混じって出土したことから、おおむね古墳時代中・後期のものと考えられる。

丸底が多いが、平底も一定量存在し、さらに口縁部・頸部がくびれるものが少数ある。これらを作るにあたってモデルとなった器種が数種類あり、それが器形に反映されていると考えられる。ここでは形態により I ~Ⅲ類に分類した。成形はおおむね手づくねで、内外面とも凹凸が顕著である。とくに内面は底部から口縁部にかけて掻き上げたような痕跡がよくみられる。

| 類 (第 55 図 1 ~ 30) 丸底の碗形を呈すもの。最大径が 4.5cm程度の小型のものを A 類 (第 55 図 1 ~ 5)、6 ~ 7cm程度の中型を B 類 (同図 6 ~ 27)、それ以上の大型のものを C 類 (同図 28 ~ 30) とした。

Ⅱ類(第55図31~第56図5) 底部が平底のもの。器高が低いものをA類(第55図31~33・35・37・第56図2・3)、器高が高いものをB類(第55図34・第56図1)とした。

Ⅲ類(第56図6・7) 口頸部がくびれ、壺形を呈すものである。全形をうかがえるものはなく、 底部形態などは不明である。

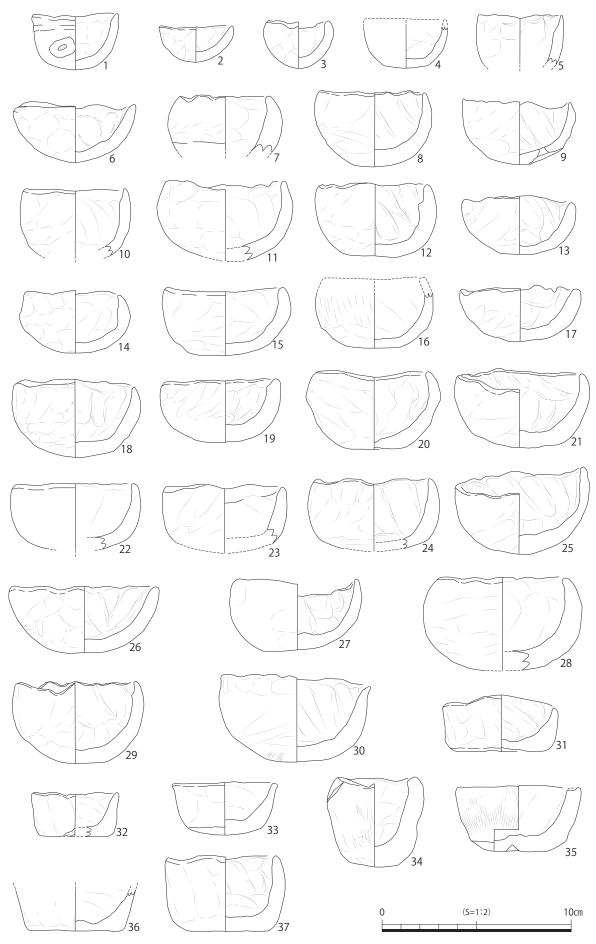
玉類(第56図8・9, 図版59) 勾玉(第56図8)、管玉(同図9)が各1点出土している。

8は滑石製勾玉で全面に削り痕が顕著に残る。9は碧玉製管玉で、片面穿孔である。濃緑色を呈し、 色調・質感から松江市花仙山産と思われる。

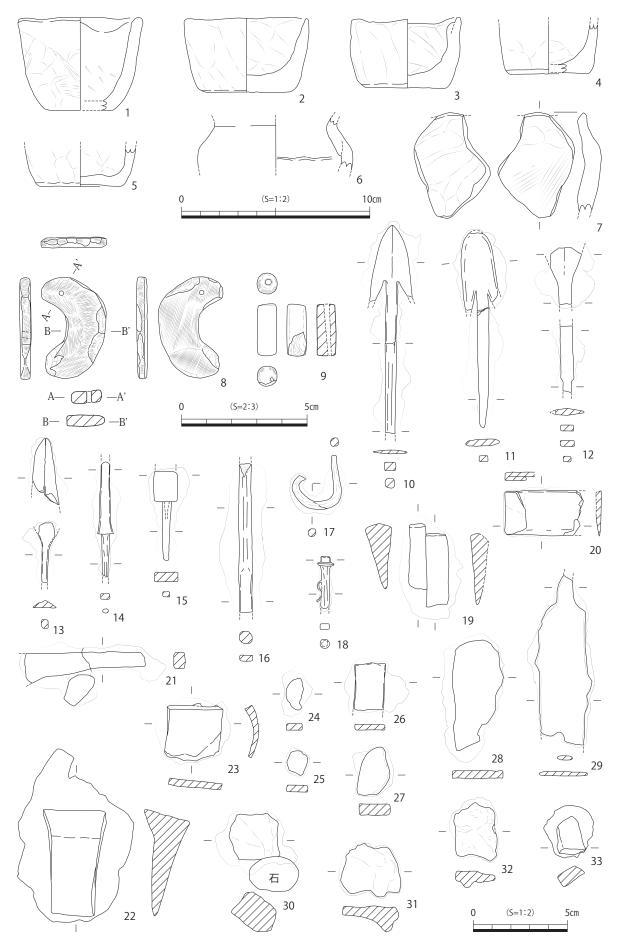
鉄器 (第 56 図, 図版 83) SR10 からは鉄鏃、弓金具などの武器・武具が出土するほか、鏨状鉄器、 鉄製模造品、板状鉄片などが多く出土している。特に、鉄製模造品や板状鉄片は形状から鉄器単体 として何らかの機能を有していたとは考えにくく、SR10 出土のミニチュア土器や滑石製勾玉や碧 玉製管玉などと共に祭祀に関連する遺物である可能性が高い。また、鉄素材及び鍛冶関連遺物が 出土しているが、これらの遺物も祭祀に関連している可能性も考えられる。詳細は第 5 章総括で 述べることとし、ここでは事実関係についての記載にとどめる。なお、SR10 で出土する板状鉄片 については先述したように祭祀に関連する遺物であると考えられるため鉄製品として報告する。な お、非掲載のものを含めた集計表を第 25 表で示す。

鉄製品 (第 56 図 10 ~ 29, 図版 83) 第 56 図 10 ~ 16 は鉄鏃である。鏃身部の平面形態は 10・11 が長三角形、12・13 が柳葉形、15 が方頭形を呈する。断面は 10 が両丸造、11 が平造、12 が両鎬造、13 が片鎬造となる。鏃身関部は 10・11 が腸抉、12・13 がナデ関、14 が角関である。頸部形は断面長方形(10 ~ 12・14・15)、方形(13)、円形(16)が確認でき、頸部関は無関(10・11・16)、ナデ関(12)、台形関(14)が確認できた。同図 17 は釣針である。針先が内方に折れ、断面は胴、フトコロともに円形となる。同図 18 は弓金具とした。両頭金具であると考えられ、上部の頭部及び下部の折り返し部より下方は欠損している。両頭金具を着装する飾り弓が存在したと推測できる。同図 19・22 は鏨状工具とした。19 は小型の鏨状工具が 2 点固着して出土している。20 は摘鎌と同様の形態をもつものの、短辺の折り返しが身に密着している。実用には不都合な形第 17 表 SR10 出土ミニチュア土器集計表

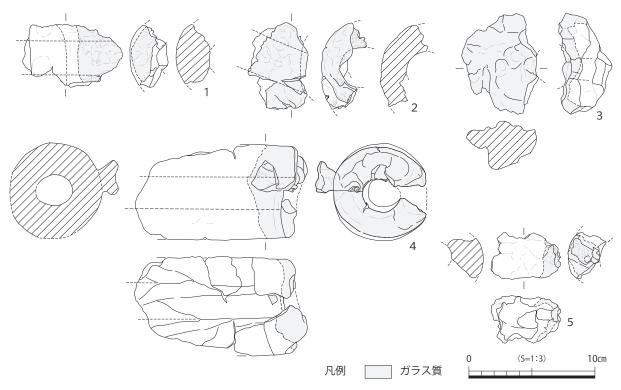
分類	ΙA	ΙВ	I C	ΠΑ	ΗВ	=	Ш	小片	合計
数量	30	36	6	7	2	3	3	18	106



第55図 SR10出土遺物 (22)



第 56 図 SR10 出土遺物 (23)



第 57 図 SR10 出土遺物 (24)

状となっていることから模造品とした。同図 21 は刀子の関部から茎部にかけて遺存している。関部は斜角関とみられ、茎部は茎尻に向けてやや幅を狭める。同図 23 \sim 29 は板状の鉄破片で、折り曲げ加工や不整形のものの一部を図化している。23 は意図的に湾曲させた鉄片であると考えられる。26・28・29 は鉄板などを鏨状工具などにより裁断した残部である可能性がある。24・25・27 は断面が長方形を呈しており、板状鉄片の裁断片である可能性があり一部を図化している。これらの板状鉄片は先述したように、SR01 \sim 05・07 で出土した板状鉄とは異なり、意図的に折り曲げられる点や不整形な形態をしていることから、鉄製模造品などとともに祭祀に関連した遺物である可能性がある。

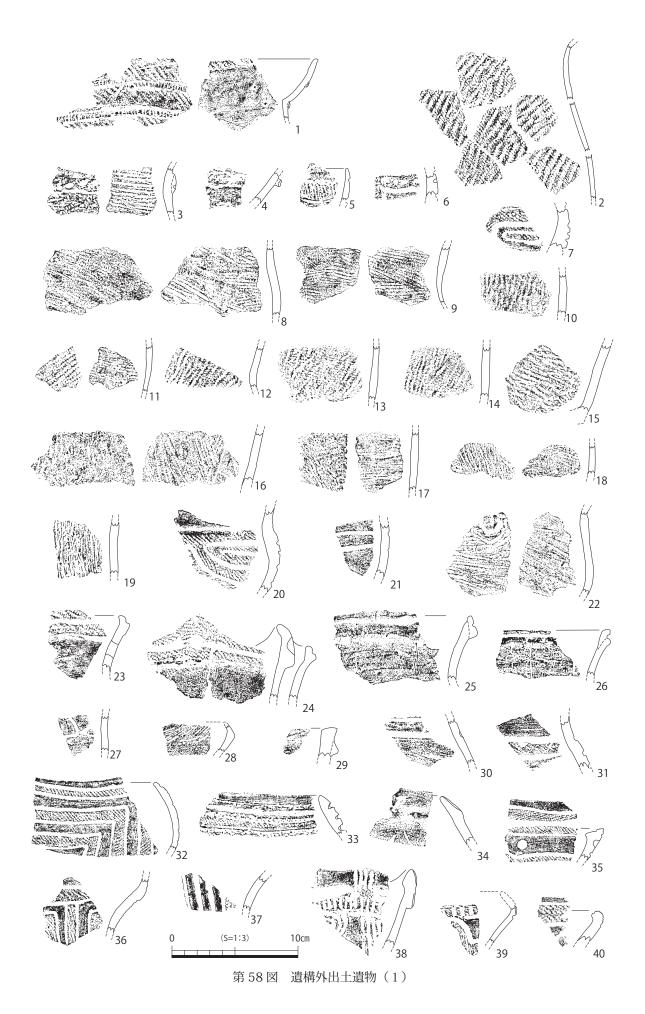
鉄素材 (第 56 図 30 \sim 33, 図版 83) 第 56 図 30 \sim 33 は鉄塊で、先述した板状鉄片と同様に祭祀に関連した遺物である可能性が考えられるが、鉄素材として報告する。板状鉄片と異なり、厚みをもち断面形態も不整形な点が指摘できる。なお、33 は断面が長方形であり、板状鉄片の可能性も残る。

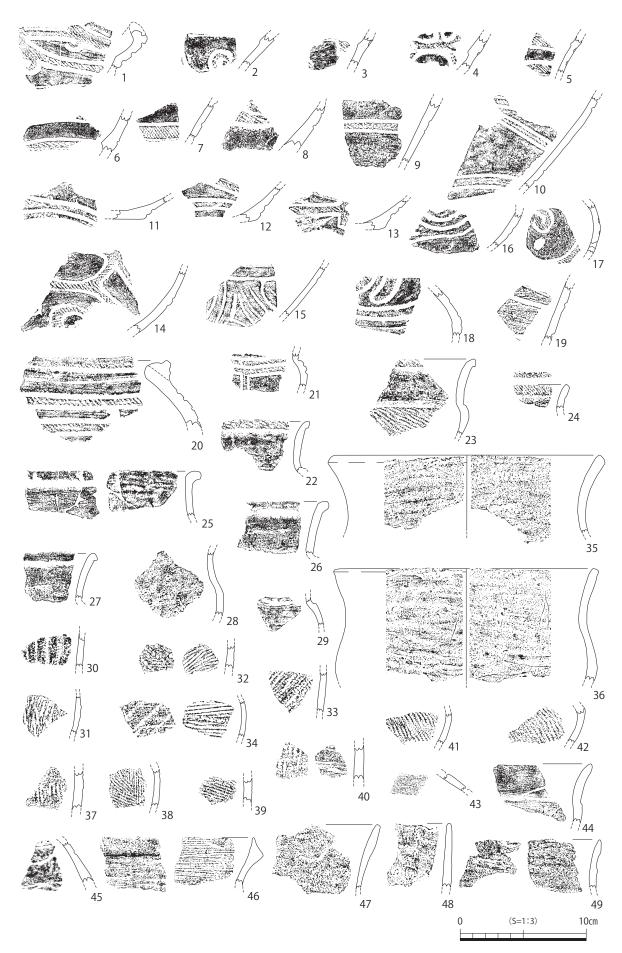
羽口(第 57 図 $1 \sim 5$,図版 84) 第 57 図 $1 \sim 5$ はすべて羽口である。羽口は棒状工具の表面に粘土を張り付けて成形したと考えられるが孔内面に痕跡はみられなかった。先端部には溶損が確認でき、被熱の状況を踏まえると羽口の設置俯角は 10 度前後の水平に近い状態で使用されたもの($1 \cdot 3 \cdot 4 \cdot 5$)と 20 度程度のやや角度をもって設置されたもの(同図 2)が認められる。

4. 遺構外出土遺物

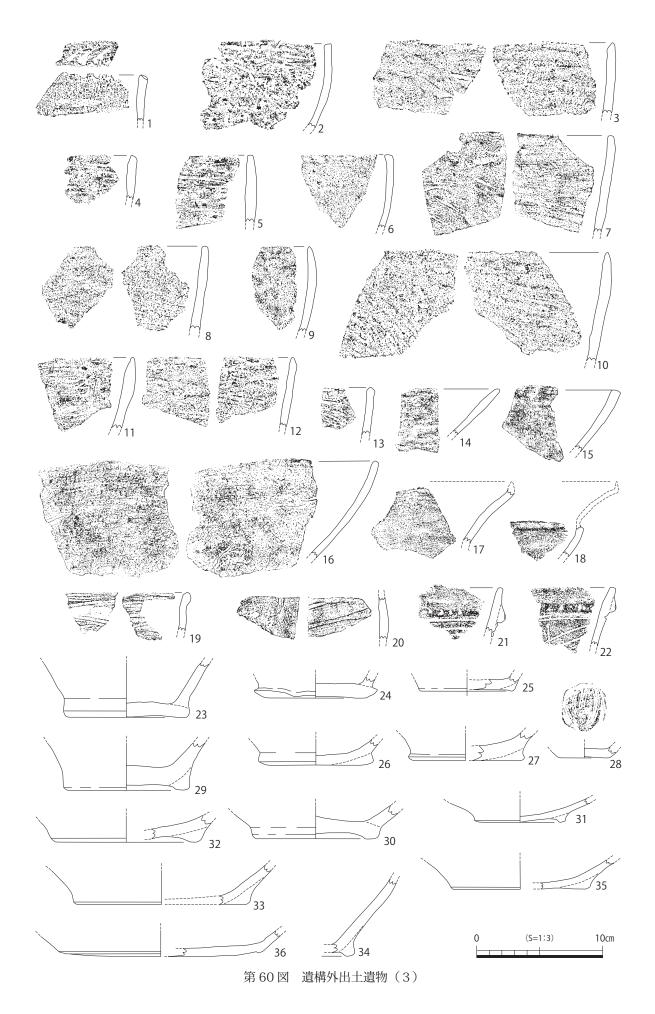
遺構外出土遺物(第 58 ~ 76 図,図版 60 ~ 80 • 84 ~ 86)

SR01 \sim 05・07・10 以外から出土した遺物を一括する。ほとんどは大別 Π 層(第 11 図)である包含層から出土したものだが、遺構出土でも縄文土器・石器など明らかに混入と判断されたものはここに含めた。 Π 層から出土した遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、中近世陶磁器、





第59図 遺構外出土遺物(2)



87

石器、鉄器、石製品、土製品などである。

縄文土器 (第 58 ~ 60 図,図版 60 ~ 63) 前期末~中期にかけてのもの、後期前葉のものが中心となっているほか、少数の晩期土器が出土している。

前期末~中期(第 58 図 1~19) 第 58 図 1 は前期末・大歳山式あるいは中期初頭・鷹島式の土器である。 Σ 状刺突文を有す結節隆帯文が付されるが、口唇部は明瞭な角頭状をせず、いずれか決しがたい土器である。口縁部内面にも RL 縄文が施されている。同図 2 は RL 縄文のみ施される稀文土器である。1 に色調等が似るが、内面に指押圧痕がみられる、内面に条痕が観察できることなどから前期末の可能性がある。同図 3 ・ 4 は隆帯文が付される土器である。 4 は隆帯文が円形意匠を描くように観察でき、船元 I 式かもしれない。 3 は隆帯文が太く、船元 II 式と思われる。同図 5 は上部に波長の小さな波状文、下部に連弧文と思しき沈線文、その間に撚糸文が施される。里木 II 式と思われる。同図 6 は左端に垂下隆帯があり、右に三日月状の区画文を考えた。区画文内には円形の刺突文列が施されている。この復元が正しければ、里木 II ・ III 式新段階の可能性がある。同図 7 は RL 縄文を地文として楕円形意匠の沈線文が描かれる。中期末であろうか。同図 8・9 は内外に二枚貝条痕が施される土器である。前期の可能性があるが、文様がないため時期の認定は難しい。同図 10~ 14・16 は縄文、同図 17~ 19 は撚糸文が施文される土器である。同図 15 は撚糸文か無節 R 縄文か、判断できなかった。11・16 が LR、12~ 14 が RL である。10~ 16 は船元式の縄文のようにも見えるが、後期土器の縄文である可能性もある。17~ 19 は里木 II 式か。

後期(第58 図 20~第59 図 46) 有文土器は、暮地式から布勢式にかけてのものが多い。第58 図 23~26・28 は布勢式の深鉢口縁部で、24 は縁帯文の深鉢口縁部にかなり近くなっている。同図 20~22・30・31 は同様の深鉢の胴部文様と考えられる。第58 図 32~第59 図 18 は浅鉢で、第58 図 32~38 は布勢式と思われる。第58 図 39~第59 図 18 は磨消縄文帯の様相や、第59 図 1~6 内面にみられる段が暮地式の浅鉢の特徴を示している。第59 図 18 は、注口土器または壺形土器の肩部であろうか。第59 図 20 は、九州・鐘崎式と思われる。第59 図 22~27 は、玉縁状の口縁部を持ち、胴部が張る器形の鉢形土器で、布勢式から崎ヶ鼻1式に伴うことが多い。28・29・41・42 はこれの胴部と考えられる。第59 図 30~34・37~40 は縄文施文の土器である。後期の縄文にみえるが、他の時期に属す可能性もある。第59 図 45 は波状文が描かれる磨消縄文で、権現山式古段階と思われる。同図 43 は、巻貝による疑似縄文が施文される注口または壺形土器で、第18表 縄文土器型式別集計表

型式	大歳山・鷹島	里木Ⅱ	中期末	暮地~布勢	権現山	凹線文	滋賀里Ⅱ・Ⅲa	中山B式
数量	26	5	1	76	2	2	3	2

第19表 縄文撚り集計表

中期		後期磨消縄文			
船元?LR	船元?RL	LR	RL		
13	10	5	1	35	

第20表 縄文時代後期無文土器集計表

深鉢				鉢形	浅鉢	生制 □ 绿	生制	深鉢底部	注針庇如	
外反口縁	直口口縁	二枚貝条痕	その他条痕	ナデ	少中 ハン	泛 邺	相衣口称	相表现几	冰外区印	/文学/区印
2	37	32	30	244	5	6	5	29	22	9

権現山式新段階である。同図 44・49 は凹線文が描かれる。後期後葉から末にかけての土器であろうか。

晩期(第60図17~19・21・22)第60図17・18は晩期・滋賀里2式に並行する浅鉢、19は 頸部に太い凹線が入る土器で滋賀里3a式に並行する鉢と思われる。同図21・22は晩期末の中山 B式である。

後晩期無文土器(第 59 図 35・36・47・48・第 60 図 $1 \sim 16 \cdot 20 \sim 23 \sim 36$) 第 59 図 47・48、第 60 図 $1 \sim 12$ は、後晩期の粗製無文土器深鉢である。外面には原体不明の条痕調整が施されるが、第 60 図 $8 \cdot 9$ のようにその後ナデ調整が加えられるものがある。総じて内面は丁寧なナデ調整が施される。第 60 図 $13 \sim 16$ は無文の浅鉢である。ミガキなど丁寧な調整が施されることから、浅鉢と判断した。いずれも口縁部が内湾する皿形を呈す。第 60 図 $23 \sim 36$ は底部である。同図 $23 \sim 30$ が深鉢、同図 $31 \sim 36$ が浅鉢と考えられる。有文土器では暮地式から布勢式がもっとも多いことから、無文土器はこれらに伴う可能性が高い。

本調査区出土の縄文土器は、以上のように前期末から晩期まで出土しているが、第 18 表に示すとおり、前期末・中期初頭(大歳山式~鷹島式)と後期前葉(暮地式~布勢式)に出土のピークがある。本調査区周辺にこの 2 時期を主体とした集落が存在する可能性が高い。

後期前葉の土器については、暮地式と認識できるのは浅鉢が、布勢式は深鉢が多く、あたかも2型式の深鉢と浅鉢が器種補完しているような状況である。このことは、本調査区が2型式の遷移過程にあることを示しているのかもしれない。

石器 (第 61 ~ 65 図、図版 63 ~ 67)

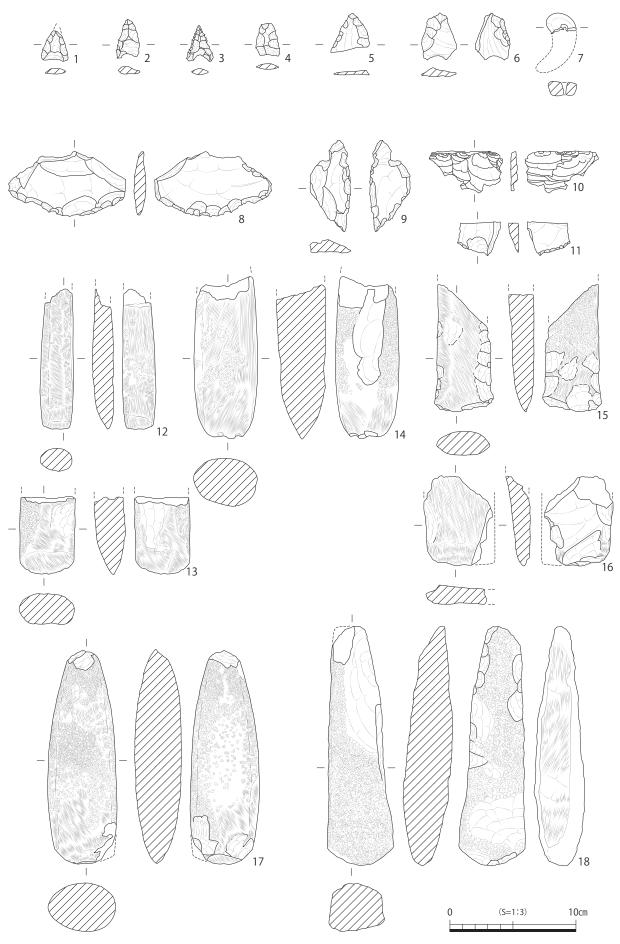
石鏃 (第 61 図 $1 \sim 6$) 第 61 図 $1 \sim 4$ は成品で、いずれもサヌカイト製である。 1 は両面とも、2・4 は片面の中央に大きな剥離面を残す。 3 は両面とも調整剥離が中央まで及んでいる。 4 は先端に細かな剥離がみられ、刃部再生途中と思われる。 $5 \cdot 6$ は未成品で、ともに側縁に調整剥離がみられる。 5 がサヌカイト製、 6 が黒曜石製である。

剥片石器(第 61 図 8・9・11) 第 61 図 8 は刃器で、サヌカイト製である。主に下辺に両面から調整剥離が施され、刃部をなしている。一部に礫面が残る。第 61 図 9 はサヌカイト製の石匙である。上部の両側縁に小さく抉りを入れ、側縁に両面から調整剥離が施されている。左図右側縁が鋭角に整形され、これが刃部となっている。左図左側縁は平坦な礫面をなしたままである。第 61 図 11 は両面に大きな剥離面を残す剥片で、下辺に使用痕と思われる微細剥離が観察される。

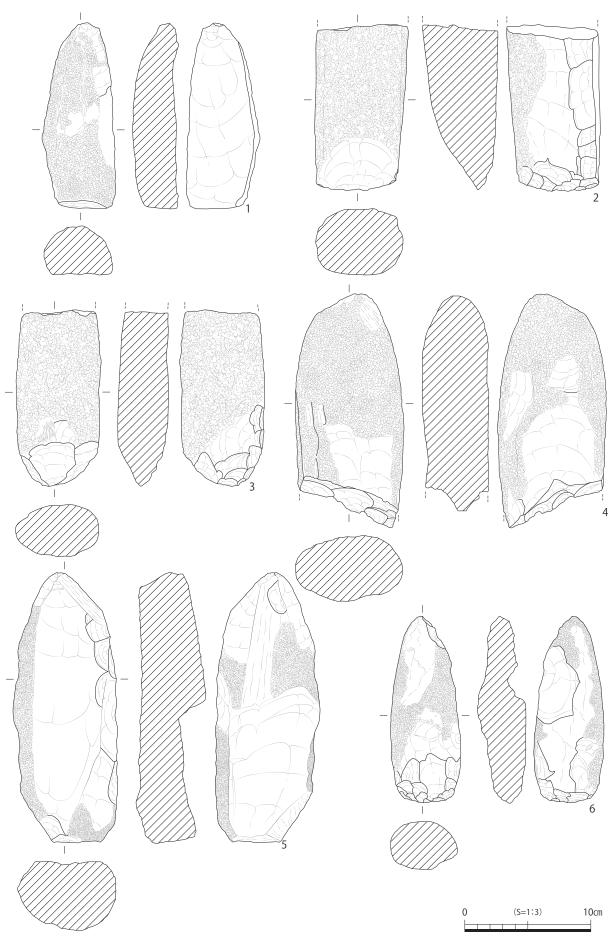
石核(第 61 図 10) サヌカイト製の石核である。大き目の剥片を素材としており、両面ともに上 部から剥片剥離を行っている。なお、剥片石器石材については、第 21 表に集計を示す。

勾玉(第61図7,図版63) 頭部のみ残存する。白色の石材を使用している。全面に丁寧な仕上 げ研磨が施され、穿孔は片面穿孔である。

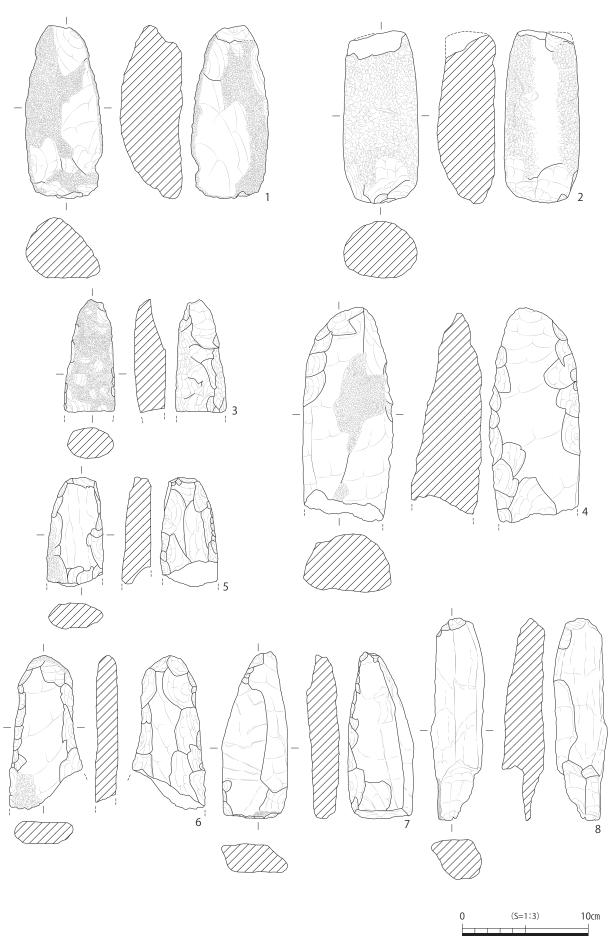
磨製石斧(第 61 図 12 ~ 17) 第 61 図 12 は細身で小型の石斧である。基部は欠損しているが、全体の形状をみると欠損部分はそれほど大きくないように思われる。全面研磨され、一部に敲打痕が残る。同図 13・14・17 は刃部を中心に研磨され、基部や側面には敲打痕が残る。剥離面が若干残り、研磨は徹底されていない。13・14 の刃部には刃こぼれ様の使用痕が観察できる。同図 15・16 は剥離面が各所に残り、研磨による刃部の作り出しが認められない。製作途中か刃部再生品の可能性もある。



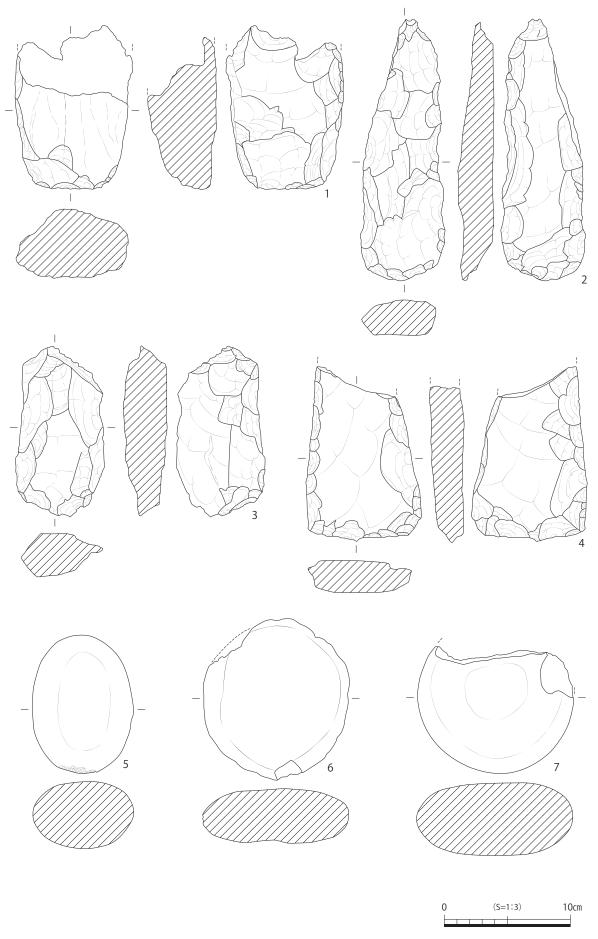
第61図 遺構外出土遺物(4)



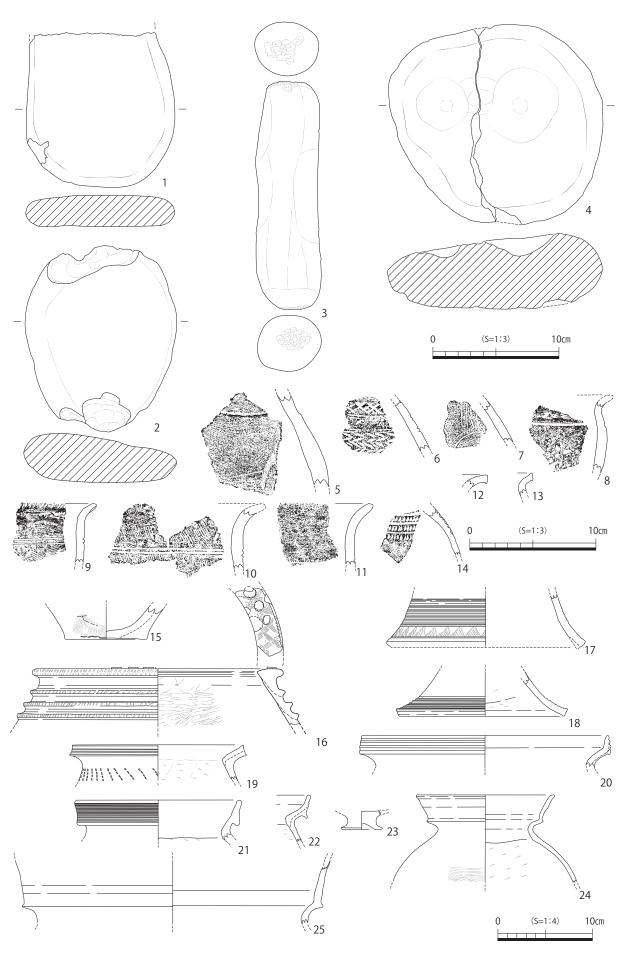
第62図 遺構外出土遺物(5)



第63図 遺構外出土遺物(6)



第64図 遺構外出土遺物(7)



第65図 遺構外出土遺物(8)

磨製石斧未成品(研磨)(第 61 図 18) 大部分に敲打痕が認められるもので、一側面のみに研磨 痕が観察できる。刃部は丸いままで鋭さはない。

磨製石斧未成品(敲打)(第62図1~第63図6) 敲打痕が顕著で、刃部が生成されていないものを集めた。第62図1は刃部に当たる部位が平坦面をなす礫面で、一面に敲打痕、一面に大きな剥離面を残す。この剥離面は製作時の欠損とも考えられる。同図2は刃部の形状に作られているが、両面とも剥離面を残す。一面には刃部以外に敲打痕があり、一面には調整剥離面が残る。第62図3~第63図2は刃部に調整剥離がみられるが、刃部が鋭角に作られていない。第63図4は欠損後に調整剥離が加えられ、刃部を再生しようとしている。同図6は一部に礫面を残すもので、刃部には調整剥離がみられ、端部はやや摩滅しているように思われる。打製石斧として使用したかもしれない。

石斧未成品(荒割)(第63図7・8) 荒割段階の未成品である。打製石斧の未成品の可能性もある。 第63図7は側面の一部に細かな調整剥離がみられるが、刃部相当部分は大きな剥離面を残したま まである。表面に礫面を大きく残す。同図8は表面の大部分が礫面で、両端に大きな調整剥離が みられる。

打製石斧(第 64 図 $1 \sim 4$) 第 64 図 1 は一面に礫面、一面に大きな剥離面がみられるもので、周縁には調整剥離が施されている。厚みがあり剥離が雑なこと、刃部と想定した下端が厚いままであることから、未成品の可能性も考えられる。ただし、欠損した部分が刃部の可能性もあるので、天地が逆かもしれない。同図 2 は周縁に大きな調整剥離がみられる。刃部が磨滅しており、使用痕と思われる。同図 3 は上端にやや小さな調整剥離がみられる。欠損後の再生の可能性がある。同図 4 は刃部を再生したものと思われるが、磨滅などの使用痕は観察できない。

敲石・磨石(第64図5~第65図1・3) いずれも川原石を利用したもので、第64図6・7・第65図1を磨石、第64図5・第65図3を敲石とした。第64図5の一端と第65図3の両端には打痕が観察でき、第64図7の両面中央には平滑な面がみられる。第64図6は三瓶山起源の軽石で、整った円形を呈していることから磨石と考えたが、使用痕等は観察できない。第65図1も使用痕は観察できず、自然礫の可能性もある。

石錘 (第 65 図 2) 1 点のみ確認した。重さ 540 g を測る大型の打ち欠き石錘である。三瓶山起源の軽石を使用している。

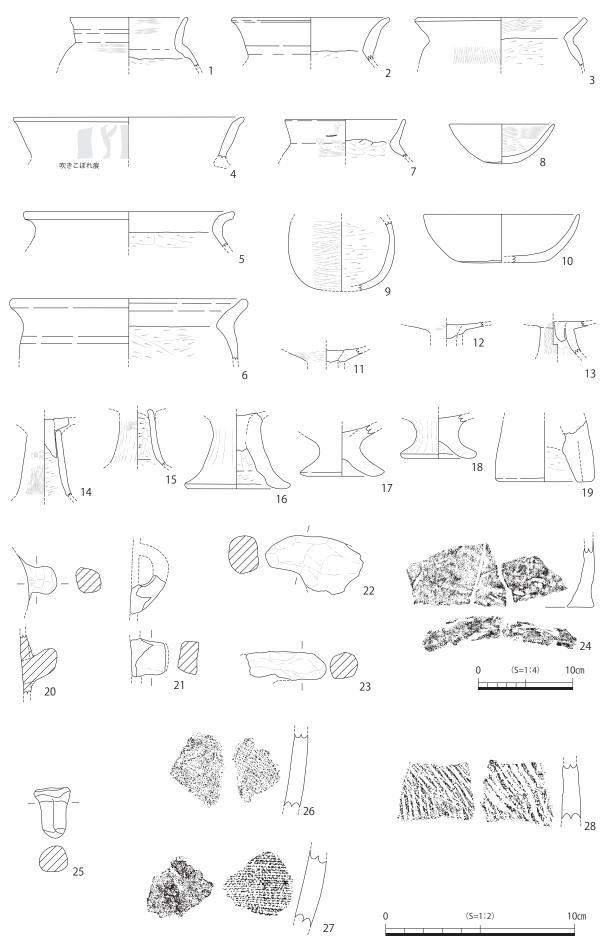
凹石(第65図4) 凹石としては小型である。中央に3カ所の凹みがみられる。中央の凹みは非常に浅いが、左右の凹みは7~12mmと深い。三瓶山起源の軽石を使用している。

弥生土器 (第 65 図 5 \sim 23, 図版 67 \sim 68) 第 65 図 5 \sim 11・15 は I 様式の土器である。同図 第 21 表 石斧集計表

段階	磨製石斧 製品	磨製石斧 研磨途中		打製石斧? 敲打痕有	打製石斧 (使用痕有・刃部再生)	製品?欠損(研磨痕無)	製品欠損(研磨有)	石器製作時 剥片
数量	6	1	16	4	7	5	1	11

第22表 剥片石器・剥片等集計表

石材	黒曜石	サヌカイト	頁岩	玉髄	碧玉	不明
数量	7	22	1	1	1	1
重量計(g)	1. 95	87. 94	12. 19	3. 13	1. 07	14. 49



第66図 遺構外出土遺物(9)

 $5 \sim 7$ は壺で、5 には段、6 には斜格子文と羽状文、7 には垂下沈線文と連弧文が描かれている。 $8 \sim 11$ は甕で、肩部に $1 \sim 2$ 条のヘラ描き沈線文がみられる。15 は甕の底部である。同図 $12 \sim 14 \cdot 16 \sim 18$ は中期の土器である。12 は II 様式、13 は II 様式の甕口縁部であろうか。14 は刺突文と沈線文を重畳する器種不明土器で、IV -2 様式か。16 は III -1 様式の無頸壺である。 $17 \cdot 18$ は IV -2 様式の脚で、18 は高坏、17 は台付鉢か。同図 $19 \sim 22$ は後期の土器である。 $19 \sim 22$ はいずれも甕で、 $19 \cdot 20$ が V -1 様式、22 が V -2 様式、21 が V -3 様式と思われる。

土師器(古墳時代前期)(第 65 図 23 ~ 25, 図版 68) 第 65 図 24・25 ともに複合口縁の甕である。 23 は低脚坏の脚であろうか。

土師器(古墳時代中期以降)(第 66 図 1 ~ 25, 図版 68 ~ 70) 分類は SR10 に準じる。

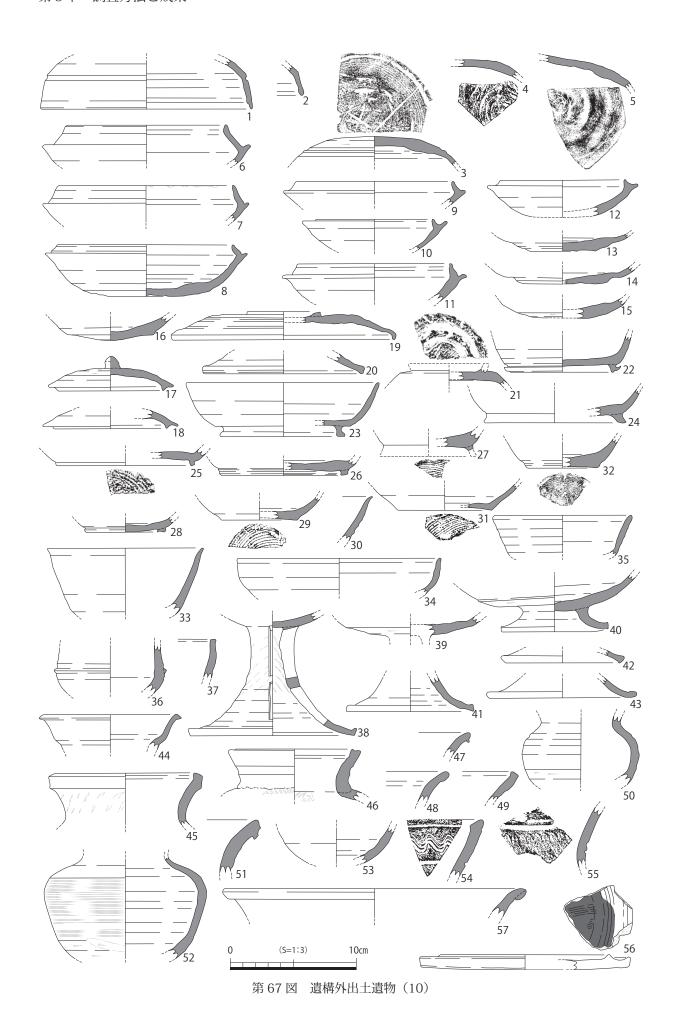
第66図1・2は甕ICb類、4・7は甕IAa類、3は甕IB類、5・6は甕IIB類である。同図8・10は平底の碗II類である。口縁が大きく開き、底部との境界は稜がつき明瞭である。SR10で多く出土した碗I類とはかなり趣が違う。全形がわかるものがSR10にはなかったので、これらを碗II類の代表例とする。同図9は小型の壺である。SR10の長頸壺と違い、雑な調整である。同図11~18・25は高坏である。同図11・12は接合a1類で半球状の充填粘土が、同図13は接合a2類で、下部にはみ出した不整形な充填粘土が観察できる。11は充填粘土中央に小孔が穿たれている。同図14・15は脚A類である。14は接合b1類で、充填・接合方法がよくわかる資料である。15は上端が擬口縁となっている。同図16は接合b2類の脚B類で、内面の調整が甘く充填がよくわかる。同図17・18は接合c類の脚C類である。25はa2類の剥落した充填粘土と思われる。同図19・22・23は土製支脚である。22・23は突起部分で、19は脚端部片である。19は底面をくぼませているが、このような例は本遺跡ではこれのみである。同図20は甑把手である。SR10出土の甑と変わらない。同図21は弥生時代末から古墳時代前期の甑形土器の半環状把手か。同図24は竈底部である。底面には指押圧痕が観察できる。

その他の遺物(第 66 図 26 \sim 28, 図版 69) 第 66 図 26・27 は製塩土器である。ともに内面には布圧痕がついている。同図 28 は須恵器甕を模倣した土師器である。外面に並行タタキ、内面に同心円状当具痕がみられる。

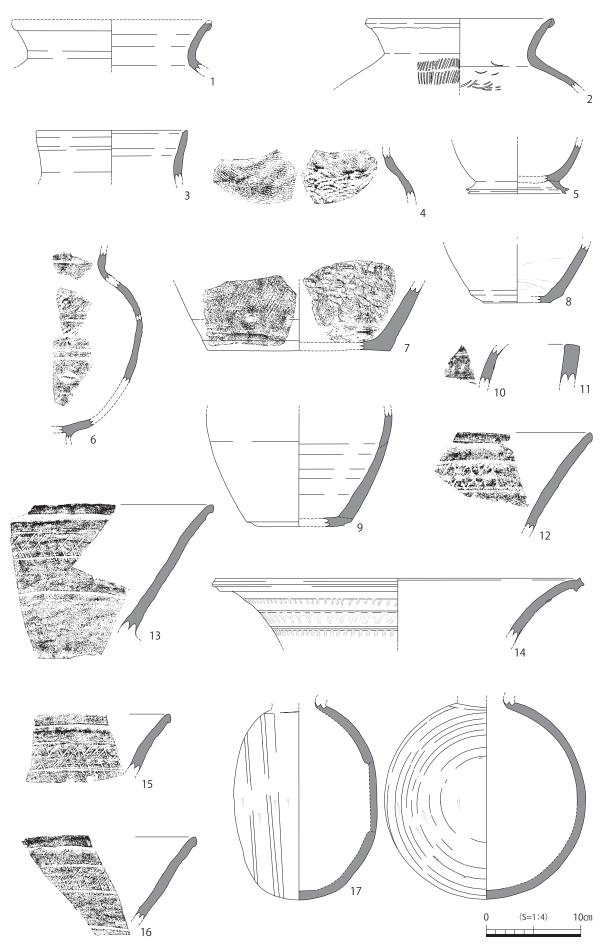
須恵器(第 67~69 図, 図版 70~74) 分類は SR10 に準じる。第 67 図 1~5 は、蓋 I 類である。1・3 は稜が沈線によって表現される B 類である。1 の口唇は段が付く(口唇 b 類)。3 の天井部には「×」形のへラ記号がつけられている。4・5 の内面には当具痕が観察できる。同図 6~16 は坏 I 類である。6 が A 類、7 が B 類、8~12 が C 類で、10~12・16 は小型である。13・16 の底部はヘラ切り痕がみられ、15 には手持ちヘラケズリが施されている。

同図 $17 \sim 21$ は蓋 II 類である。 $17 \cdot 18$ は小型の II A 類で、17 には擬宝珠つまみが付く。19 は II B 類で、輪状つまみがつく。20 は口縁端部が三角形の II C 類である。21 は輪状つまみが付き、その内面に静止糸切りらしい痕跡が観察できる。同図 $22 \sim 28$ は高台が付く坏 II 類である。23 が III A 類のほかは、高台が口縁部境界につく III B 類である。22 に静止糸切り痕、 $25 \cdot 27$ に回転糸切り痕、 $23 \cdot 26$ にへう切り痕が観察できる。同図 $29 \cdot 31 \cdot 32$ は、底部に回転糸切り痕を持つ無高台の坏または碗である。いずれも 9 世紀以降に属すると思われる。

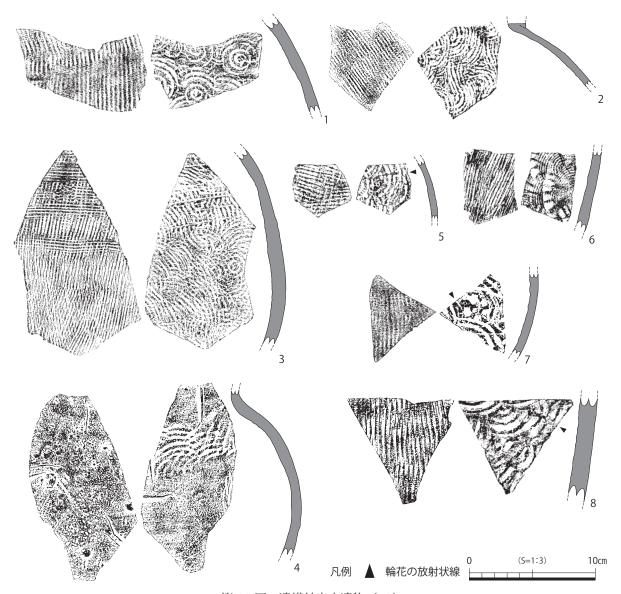
第 67 図 30・33 ~ 35 は坏の口縁部であるが、高台の有無は不明である。30・33 は 9 世紀以降 の可能性がある。



98



第68図 遺構外出土遺物(11)



第69図 遺構外出土遺物(12)

第67図36は碗か。口縁部中程に突線がめぐる。

第67図37は鉢口縁部か。緩く屈曲している。下半にはカキメが施されている。

第 67 図 38 \sim 43 は高坏で、38 が細身の脚 A 類で、長方形 2 段透かしである。40 \sim 43 は脚部 B 類か。40 は高坏というより脚坏皿と呼ぶほうがふさわしいかもしれない。

第67図56は円面硯である。内面には突線がめぐり、その内側には墨痕が残る。

第 67 図 45 ~ 55・57・第 68 図 5・6・8・9 は中・小型の壺である。第 67 図 47・51 は口縁端部が幅狭に肥厚し、鈍い突線がめぐる。45 は口縁部が屈曲、48・49 は口縁部に段が付き、45・49・54 の口唇は平坦面をなす。46 は頸部に凹線がめぐり 54・55 は頸部に波状文が描かれる。第 67 図 50・52 は小型壺の胴部、同図 53・第 68 図 5・8・9 は小型・中型壺の底部である。第 68 図 5 は高台がついている。第 67 図 6 は胴部上半に沈線文と斜線文が描かれ、底部に高台を持つ。第 67 図 57・第 68 図 3・4・7・10 ~ 16 は、これより大型の壺甕類である。第 67 図 57・第 68 図 1・2 は口縁に段が付く甕である。第 68 図 2 は焼成が非常に悪い。同図 3 は口縁部が直立気味の壺である。第 68 図 11 は口唇部に布圧痕がついている。同図 12 ~ 16 は同一個体の口縁部である。頸

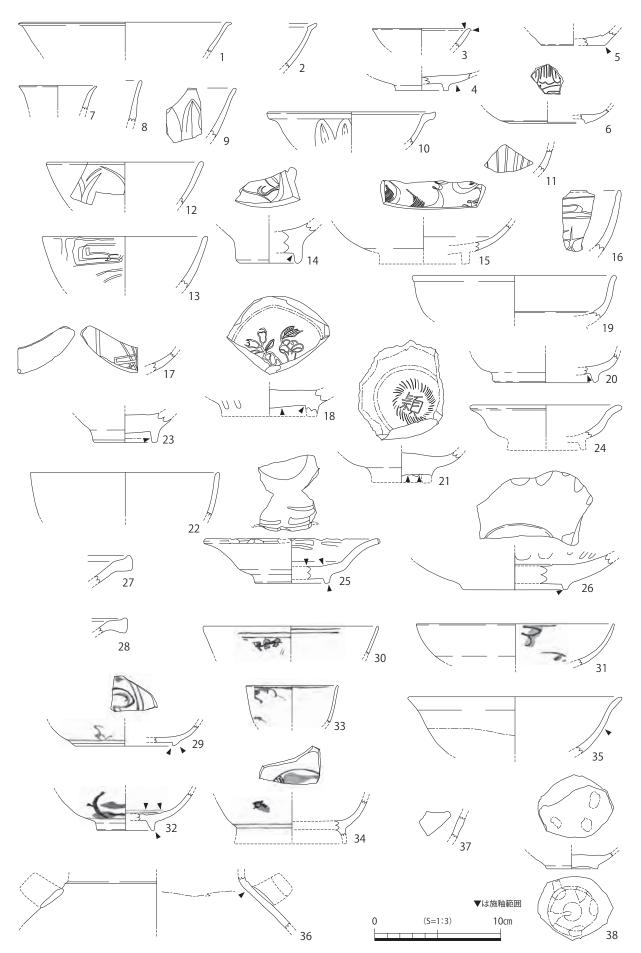
部に沈線文と斜格子文が描かれる。第 68 図 17 は提瓶である。口頸部が欠損している。焼成が悪く、軟質で瓦質状を呈す。第 69 図 $1 \sim 8$ は甕胴部のタタキ痕と当具痕を示した。当具痕の分類は、SR10 に準じる。 $1 \sim 4$ は同心円状の当具痕で、 $3 \cdot 4$ が当具痕 A、1 が当具痕 B、2 が当具痕 C である。 $5 \sim 8$ は輪花状の当具痕で、6 が輪花 A 類、B が輪花 B が輪花 B の

中世陶磁器・土器(第 $70 \sim 72$ 図,図版 $74 \sim 77$) 図示しなかったものも含めて、第 23 表に集計しておいた。

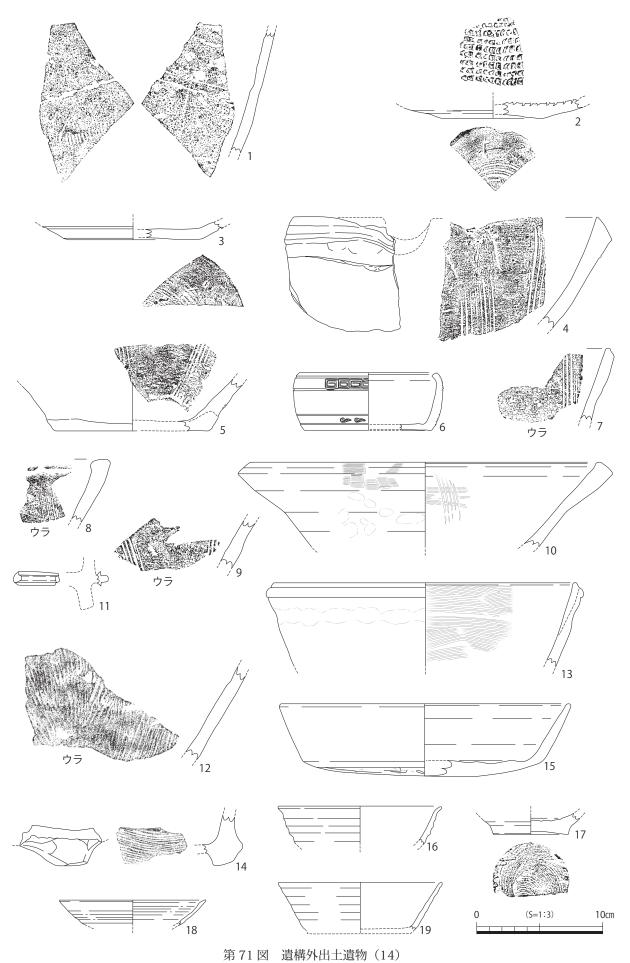
第 70 図 1 ~ 5 は中世前半の白磁で、1・2 が碗(大宰府碗V‐2 類かⅧ類)、3・5 が皿(同皿Ⅸ類) である。同図 $6 \sim 8$ は中世後期の白磁で、6が皿、 $7 \cdot 8$ が坏(ともに森田E群)である。第70図 9・10・15 は中世前期の龍泉窯系青磁碗である。9 が大宰府碗Ⅱ B 類、10 が同坏Ⅳ類、15 が 同 I - 3 類である。同図 11 ~ 14 · 16 · 19 · 22 ~ 28 は中世後期の龍泉窯系青磁である。11 ~ 14・16・19・22・23 が碗で、上田BⅣ類碗(11・23)、同BⅡ類(12)、同CⅡ類(13・16)、 同 D 類 (19)、同 E 類 (22)、同 B IV類? (14) などがある。24 は坏、25 は稜花皿、26 ~ 28 は 盤で、これらも中世後期の龍泉窯系青磁である。第 70 図 30・33・34 は景徳鎮窯系の青花、同図 29・31・32 は漳州窯系の青花である。いずれも 16 世紀後半から 17 世紀初頭のものである。同 図 35 は中国製の青磁碗と考えたが、陶器の可能性もある。詳細が不明な陶磁器である。同図 36 は中国製の耳壺で、中世前半の褐釉陶器である。同図 37・38 は朝鮮製陶器の皿で、37 が刷毛目 粉青、38 が灰青沙器である。第 71 図 1 は産地不明の輸入陶磁器である。褐釉の壺または甕である。 同図2・3は瀬戸・美濃系である。2は内面に卸目がある卸目大皿、3は内面にミガキ様の掻き取 り痕がみられる皿である。同図 4・5 は備前系擂鉢である。4 は備前N A1 期である。同図 6 ~ 15 は瓦質土器である。6 は香炉で、口縁部に雷文帯がめぐる。11・14 は火鉢、12・13 は鉢、15 は皿、 7~ 10 は擂鉢である。13 は硬い焼きの須恵質、12・14 は燻し、他は土師質であるが、11 は硬 質、6 はやや硬質に焼けている。第 71 図 16 ~第 72 図 4 は土師質土器である。第 71 図 18 が皿で、 他は坏である。第 71 図 16・17・19 は褐色系、同図 18・第 72 図 1 ~ 4 は灰白色系である。

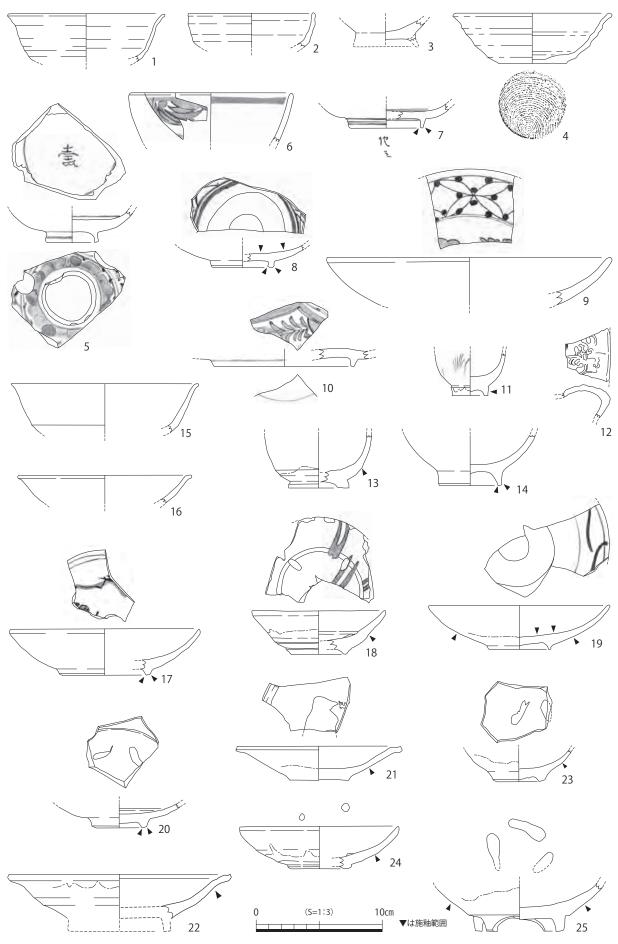
近世陶磁器(第72図~第73図9,図版77·78) 図示しなかったものも含めて、第24表に集計した。第72図5~12・17 は肥前系磁器である。碗(5~7)、皿(8~10)、坏(11)、水滴(12)などがある。6・17 は初期伊万里である。他は17世紀後半のものが多いが、13は17世紀前葉と比較的古い。12は18世紀代と比較的新しく、5は19世紀前葉ともっとも新しい年代を示す。第72図15・16~第73図9は肥前系陶器である。碗(第72図15)、皿(同図16・18~24)、火入れ(第72図25・第73図2)、火鉢(第73図1)、香炉(同図3・4)、擂鉢(同図7)、壺または甕(同図5・6・8・9)がある。第72図15・19~21・23・第73図5・7は17世紀前半代と比較的古く、第72図18は1600年前後ともっとも古い製作年代である。肥前系陶器のうち、17世紀後半以降に下るもの(第73図1など)はあまり多くない。なお、第72図24は萩焼の可能性がある。

土錘(第 73 図 $10 \sim 17$,図版 79) 円柱形・中膨らみの両方があり、土師質のものがほとんどである。細身の小型品(I 類: $10 \sim 12$)、中型品(I 類: $13 \sim 15$)、大型品(I 類: $16 \cdot 17$)がある。 $10 \sim 13 \cdot 15$ はやや中膨らみ、 $14 \cdot 16 \cdot 17$ は円柱形である。 $10 \sim 12 \cdot 14 \cdot 15$ の表面は比較的丁寧に調整が施されるが、 $13 \cdot 16 \cdot 17$ は凹凸が顕著で、特に $16 \cdot 17$ は指押圧痕が明瞭に残る。



第70図 遺構外出土遺物(13)





第72図 遺構外出土遺物(15)

土錘は、SR01 \sim 04 出土を含めて合計 36 個が出土しているが、 I 類が 12 個、 II 類が 18 個、 III 類が 6 個の割合である。土錘は SR10 からは出土せず、中近世の遺物が出土した SR01 \sim 04・07 やそれを覆う II 層から出土していることから、中世から近世にかけての遺物と考えられる。

瓦(第73 図 $18 \sim 22$ 、図版 79) 第73 図 $18 \cdot 19$ は軒瓦で、唐草文の一部が残る。小片のため、軒平瓦なのか軒桟瓦なのかは不明である。同図 20 は玉縁の丸瓦、同図 21 は桟瓦である。これらはいずれも燻されて黒灰色を呈す。同図 22 は暗赤褐色を呈す施釉赤瓦である。

桟瓦は 1674 (延宝 2) 年に発明されたとされるが、江戸での普及は 1730 (享保 15) 年以降というので、21 は 18 世紀以降と思われる。施釉赤瓦は 18 世紀末以降とされる。

土製品(第73 図 23, 図版 79) 燻瓦片を転用したもので、略方形を呈す。整形後に3方の側面に研磨が施されているが、一方の側面は瓦本来の端部面が残る。図示した表面にも研磨が施されている。暖房具である温石の可能性がある。

鉄器(第73 図 24~第75 図 4, 図版 84~86) 鉄鏃、小札といった武器・武具及び鉇、摘鎌、 刀子などの工具などの鉄製品が出土している。また、板状鉄片や鉄鐸などの祭祀に関連する遺物も 出土している。鉄素材及び鍛冶関連遺物も出土している。これらの遺物は遺構外からの出土であり、 各遺物の時期比定は難しいが、本来は SR01~07 及び SR10 に関連する鉄器であるといえる。遺 構出土遺物同様に、完成品及び祭祀に関連する遺物であると考えられるものは鉄製品として報告す る。また、棒状鉄や鉄塊については鉄素材とし、鉄滓については鍛冶関連遺物として報告する。な お、非掲載のものを含めた集計表を第25表で示す。

鉄製品(第 73 図 24 ~第 74 図 14・18 ~ 20,図版 84・85) 第 73 図 24・第 74 図 3 ~ 6 は鉄 鏃である。鏃身部の平面形態は第 73 図 24・第 74 図 4 がナデ関の柳葉形、第 74 図 3 が雁股形を 呈する。断面は確認できる第 73 図 24・第 74 図 3 が平造となる。頸部関は無関(第 73 図 24)、 角関(第 74 図 4)、台形関(第 74 図 3・6)が確認できた。第 73 図 25 は小札破片である。SR03 出土遺物(第27図20・21) 同様に2列に孔が施される。第73図26は摘鎌としたが、銹化によ り基部の観察ができておらず、刀子の身部片の可能性が残る。第73図27は刀子の関部とした。 関部は刃・背ともに浅く切れこむ両関であり、茎に目釘穴が施される。第 74 図 1 は鎌の形状とな るが、断面形態が長方形であり、刃部を有さない。鉄製模造品の可能性がある。第74図2・9は 器種不明の鉄製品である。同図2は断面が三角形で刃部である。同図9は長方形の断面をもち、 部分的に弧状に幅広となる鉄板に鋲が2カ所施される様子が確認できる。木材などの部材と合わ せたものと推測でき、工具の可能性がある。第 74 図 7 は簪の差込み部残片、同図 8 は鉇とした。 同図 10 は鎹としたが、両端部の折り返しが甘く、鉄製模造品の可能性がある。第 74 図 11・16・ 18・19・20 は板状鉄片とした。11・18 は意図的に折り曲げた鉄片であると考えられる。19 は端 部が幅広となっており、鉄鋌状の形態となる。これらの板状鉄片は SR10 出土の板状鉄片と同様に、 意図的に折り曲げられる点や不整形な形態をしている。鉄製模造品などとともに祭祀に関連した遺 物であろうか。第 74 図 12・13 は鐶状金具である。小型の 13 は方形断面、12 は円形断面となる。 第 74 図 14 は 2 点が固着して出土しており、平面形態は長三角形となる。先端に孔が施されてい ることから鉄鐸とした。端部は欠損しているとみられ、全体の様相は不明である。鉄製模造品や板 状鉄片とともに祭祀に関連した遺物といえる。

鉄素材(第 74 図 15・21 ~ 23,図版 85) 棒状鉄及び鉄塊を図化した。第 74 図 15 は棒状鉄で

ある。長方形の断面を呈し、両端部が整っている。棒状鉄は SR01・03・04・07 出土の棒状鉄と 同様に鉄製品の未成品段階と考えられる。同図 21~23 は鉄塊とした。同図 23 は厚みが薄いものの、 板状鉄片や板状鉄と比較して大型であるため鉄塊とした。

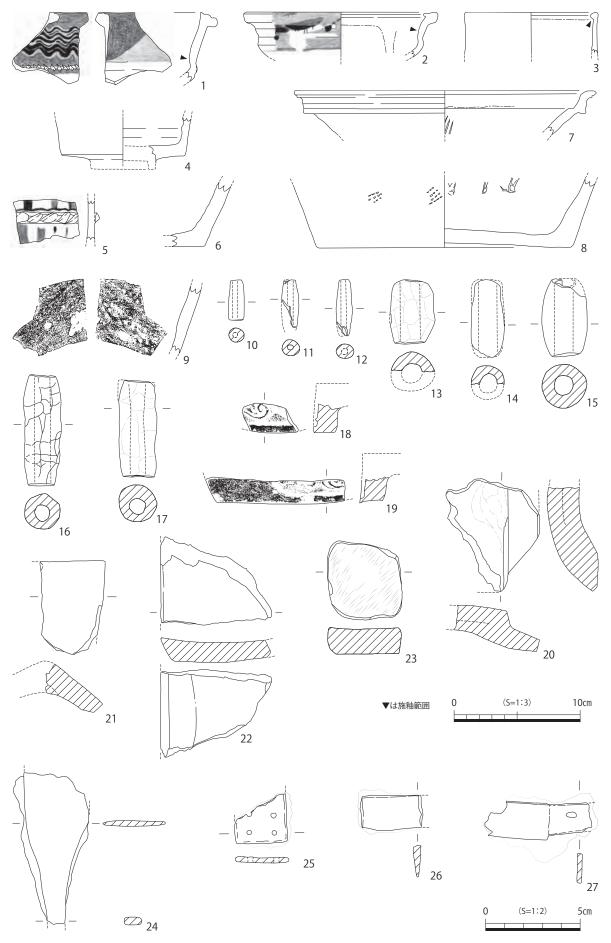
鍛冶関連遺物(第 74 図 17, 第 75 図 $1 \sim 4$, 図版 $85 \cdot 86$) 鍛冶関連遺物として鉄滓が出土している。第 75 図 $1 \cdot 4$ は椀形鍛冶滓である。1 は分析の結果、精錬鍛冶滓であることが判明している。第 75 図 3 についても分析を実施しており、砂鉄製錬滓であることが判明している。

第23表 遺構外中世陶磁器集計表

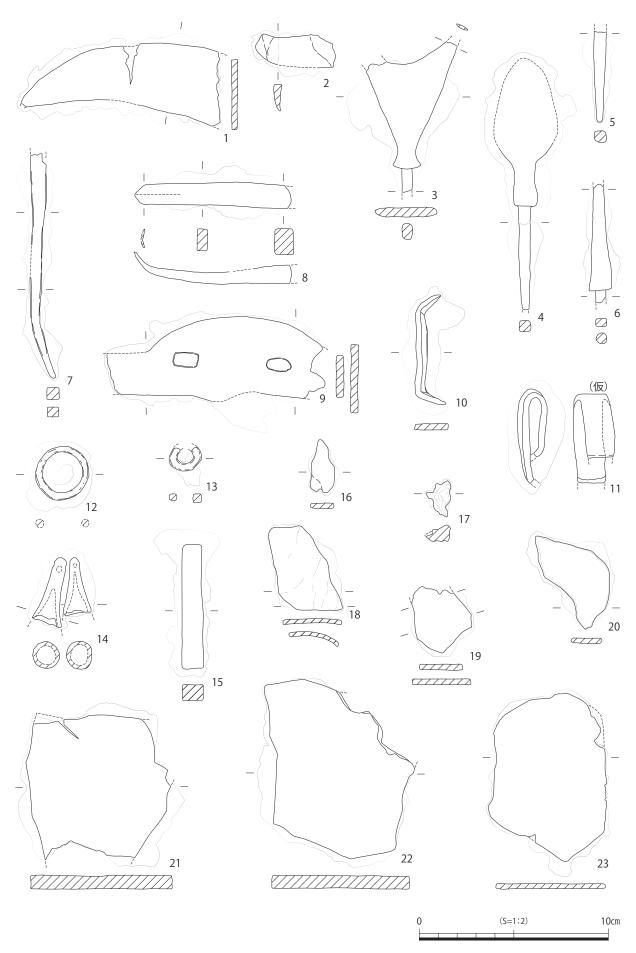
第24表 遺構外近世陶磁器集計表

出土地点	産 地	種 別	器 種	分 類	数量
遺構外	中国	白磁	碗	大宰府碗Ⅳ類	1
			Ш	大宰府皿 V-2類?	2
				大宰府皿IX類	2
				森田D群	1
				森田E群	1
			碗皿	森田D群	4
				大宰府CD期	3
				不明	4
			坏	森田E群	2
		龍泉窯系青磁	碗	大宰府碗 I -3類	5
				大宰府碗 II -2類	1
				大宰府碗IV類	1
				上田B II 類	1
				上田BIV類	3
				上田C II類	2
				上田C類	1
				上田E類	1
				15~16C	3
			坏	15C	2
			稜花皿		1
			盤		3
		同安窯系青磁	碗	同安碗 類	5
		景徳鎮窯系	碗	1 350 1700	1
		青花	坏		2
		漳州窯系青花	Ш	小野B 1 類	1
		74711M7K1116	碗皿	111012	1
		中国陶器	耳壺		1
	朝鮮	青灰沙	<u> </u>		1
	刊八州十	刷毛目粉青沙	ш		1
	参 2 100 90				1
	輸入陶器 日本	瀬戸・美濃	壺甕 知日十m		1
	口本	- 楔尸・夫辰	卸目大皿皿		1
		備前	擂鉢	IV A 1期	1
		UEI ETU	川田学	底部	1
		瓦質土器	鉢(土師質)	产品	3
		(土師質)	擂鉢(土師質)		1
			香炉(土師質)		1
			火鉢(燻)		7
		瓦質土器	鉢(須恵質)		1
		(須恵質)	擂鉢(須恵質)		1
			皿(須恵質)		1
		防長系?	擂鉢		3
		土師器	褐色系	坏	2
			rej Lizik	坏皿	25
			白色系	坏	1
					4
				坏皿	6
	<u> </u>	Į.		—	

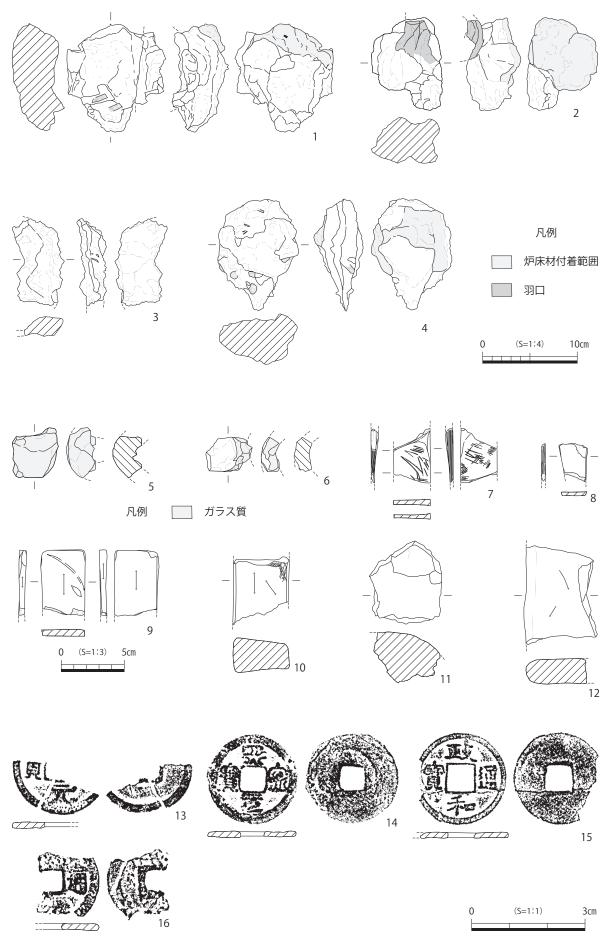
出土地点	種	別	産 地	ļ.	器 種	器 形	数量
遺構外	磁器	(J)	肥前系(E	3) [碗(1)	初期伊万里(a)	3
						底部無釉(b)	5
						丸形	6
						丸形U字高台高(d)	6
						粗雑(g)	3
						梅樹文(v)	2
						小丸形(j)	2
						小丸or顔料(j or g)	1
						端反碗(n)	2
				Ī	皿 (2)	初期伊万里(a)	6
						平形(初期伊万里)	6
						丸形U字高台	4
						平形 (k)	6
						蛇の目凹形高台	1
						その他	3
				1	鉢(5)	初期伊万里(a)	3
				L		端反形(b)	1
				:	坏 (6)	端反形(b)	8
				L		その他	1
				-	猪口 (7)		1
					香炉・ ル λ ゎ (0)	筒形香炉(a)	1
					火入れ(9) 瓶(10)		2
				-	水滴(10)		1
				-	不明		14
	R6-90	(T)	m 44.42 (c	-		原壬戌如無點	
	門石石	(1)	肥前系(E	ן (י	P9世(I)	厚手底部無釉	11
						丸形薄手	11
						呉器手(a)	23
						陶胎染付(f)	13
				ŀ	m (2)	青緑釉(i)カ	2
				ľ	皿 (2)	胎土目	14
						砂目 (b)	12
						砂目(b)カ	16
						青緑釉(a)	1
						透明釉(砂目) (d)	3
				ŀ	0 + ⟨ Γ \	その他	5
				3	鉢(5)	刷毛目(a) その他	5
				ŀ	香炉・	筒形香炉	4
					_{晉炉} ・ 火入れ (9)	刷毛目火入れ	1
						鉄釉火入れ	2
				-	瓶(10)	- CIMP CA CIT	2
				-	壺・甕	青梅波叩き	3
					(15)	格子目叩き	4
						その他	5
				Į,	片口 (23)	鉄絵	4
						その他	5
			京・ 信楽系([) [‡]	碗(1)	半球碗(b)カ	4
			萩系 (H)	ŝ	鉢 (5)		4
			堺・ 明石系(E)	擂鉢(29)		2
			須佐	-	擂鉢(29)		3
					土錘		1
			在地系	ł	碗(1)	半球形	1
					鉢 (5)	木葉形	13
	土器[伏見ヵ	\neg	人形 (60)		1



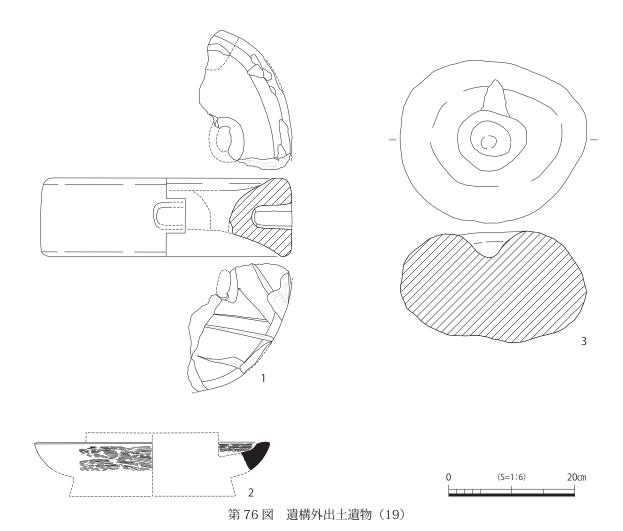
第73図 遺構外出土遺物(16)



第74図 遺構外出土遺物(17)



第75図 遺構外出土遺物(18)



第25表 出土鉄器集計表

集計表	刀	鉄鏃	小札	鉇	刀子	包丁	鎌	矠	釣針	紡錘車	鏨	弓金具	鉄鐸	鉄製 模造品	板状 鉄片	板状 鉄片?	釘 (平)	釘 (皆折)	火打金	簪 (鑷子)	棒状鉄	棒状鉄 残片?	板状鉄	鉄塊	鉄滓	不明
SR01					2												9	4			1	1	2	1		
SR02	1	4			2	1		4		1					2		15	11	1	1		1	1	7	5	2
SR03		1	2					2	1	2					1		13	3		4	1	1	3	4	5	2
SR04		1															4	1			1			1		
SR05																							1	1		
SR07								1									2				1			2		
SR10		11			1				1		3	1	2	1	6	8								5		1
遺構外		10	1	1	2		1							2	6	3	5			1	2	1		3	5	4

※SR10・遺構外からは羽口出土

羽口(第75 図 5・6, 図版 79) 小片であり、成形痕跡などは確認できなかったが先端部の溶損が認められる。

石製品(第75 図 7~12・第76 図,図版 79・80) 第75 図 7~10 は砥石である。7~9 は厚さが $0.3 \sim 0.6$ cmと非常に薄く、かなり使い込まれている。7 は赤褐色を呈し、石硯の転用かもしれない。10 は厚さ 3.1cmと厚く、4 面が使用されている。第75 図 12 は全面非常に滑らかな川原石で、研磨されたものと考えた。ただし、使用痕・研磨痕は定かではない。小型石皿の可能性もある。第75 図 11・第76 図 3 は、石塔の一部と思われる。ともに三瓶山起源の軽石が使用されている。第75 図 11 は、小片だが球体に成形された部分が残っている。大きさからすると、五輪塔・空風輪の一部か。第76 図 3 は五輪塔・水輪である。全面整形されているが、扁平で平面形もいびつである。一面に大きな凹みが穿たれている。第76 図 1 は粉碾臼の上臼である。投入口は一方に偏るようで、平面形楕円形、断面形ロート状を呈す。側面には長方形の横打込穴がある。下面の主溝は

6分画であるが、摩滅のため副溝の大部分は観察できない。第76図2は茶臼の下臼である。内外に細かな擦痕が観察できる。

銅製品(第 75 図 $13 \sim 16$,図版 86) 古銭が 4 点確認されている。銘が読み取れるものとして、 凞寧重寶(第 75 図 14)、政和通寶(同図 15)がある。ともに北宋銭である。このほかにも、 \Box 元 \Box ① 同図 13)、 \Box \Box 回 \Box ① 同図 16)が出土している。

5. 小結

森原神田川遺跡下ノ原地区では、中世〜近世の河道及び水路6と古墳時代前期〜後期の大形の河道1を確認した。前者のうち SR01・SR07 は自然河道である。SR02~05 については、大形の石を利用するなどして堰を設け、水利調節を行っていたと見られる。

SR10では古墳時代中期~後期の完形に近い土器、土製品やミニチュア土器が大量に出土し、滑石製の勾玉や管玉なども確認され、何らかの祭祀に関わるものと考えられる。自然堤防上で祭祀が行われたのち、それに用いられた道具類をSR10に投棄したものと見られる。

【参考文献】

近世瓦・石製品ほか

江戸遺跡研究会編 2001 『図説江戸考古学研究事典』柏書房 島根県古代文化センター 2017 『近世・近代の石見焼の研究』

鉄器

関 義則 1986 「古墳時代後期鉄鏃の分類と編年」『日本古代文化研究』第3号、古墳文化研究会 末永雅雄・伊藤信雄 1979『挂甲の系譜』 雄山閣

水野敏典 2013 「鉄鏃」『副葬品の型式と編年』古墳時代の考古学 4 同成社

第4章 自然科学分析

第1節 森原神田川遺跡出土製鉄~鍛治関連遺物の分析調査

鈴木瑞穂:日鉄テクノロジー(株)八幡事業所

調査対象

島根県江津市松川町森原に所在する、森原神田川遺跡から出土した鉄滓・鉄塊計 5 点 (第 26 表) を調査した。

調査項目

(1) 外観観察

鉄滓の外観的な特徴を記載した。

(2) マクロ組織

試料を端部から切り出した後、断面をエメリー研磨紙の #150、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の 3 μ m と 1 μ m で順を追って研磨し、断面全体像を撮影した。

(3) 顕微鏡組織

鉄滓の鉱物組成や金属組織の観察を目的とする。

金属反射顕微鏡を用い、特徴的・代表的な視野を選択して写真を撮影した。

(4) EPMA 調査

EPMA(日本電子製㈱ JXA-8230)を用いて、鉄滓の鉱物組成および鉄中非金属介在物の組成を調査した。測定条件は以下の通りである。加速電圧:15kV、照射電流(分析電流):2.00E-8A。

(5) 化学組成分析

鉄滓の定量分析を実施した。測定元素と分析方法は以下の通りである。

全鉄分(Total Fe)、金属鉄(Metallic Fe)、酸化第一鉄(FeO):容量法。

炭素(C):燃焼容量法、硫黄(S):燃焼赤外吸収法。

二酸化硅素 (SiO_2) 、酸化アルミニウム (Al_2O_3) 、酸化カルシウム (CaO)、酸化マグネシウム (MgO)、酸化カリウム (K_2O) 、酸化ナトリウム (Na_2O) 、酸化マンガン (MnO)、二酸化チタン (TiO_2) 、酸化クロム (Cr_2O_3) 、五酸化燐 (P_2O_5) 、バナジウム (V)、銅 (Cu)、二酸化ジルコニウム (ZrO_2) : ICP (Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer):誘導結合プラズマ発光分光分析法。

調査結果

MRH - 1: 製錬滓 (第75 図3)

- (1) 外観観察:やや扁平な樋状の鉄滓(116.0g)である。表面には部分的に黄褐色の土砂や茶褐色の鉄銹が薄く付着するが、まとまった鉄部は見られない。滓の地の色調は暗灰色で、着磁性がある。上下面とも気孔は少なく緻密である。
- (2) 顕微鏡組織:第77図① \sim ③に示す。滓中には発達した淡茶褐色多角形結晶ウルボスピネル (Ulvöspinel:2FeO \cdot TiO $_2$)、微細な白色樹枝状結晶ウスタイト (Wustite:FeO)、淡灰色柱状結晶ファ

ヤライト (Fayalite: 2FeO·SiO₂) が晶出する。

(3) 化学組成分析:第27表に示す。全鉄分(Total Fe)44.46% に対して、金属鉄(Metallic Fe)は 0.17%、酸化第 1 鉄(FeO)が 40.88%、酸化第 2 鉄(Fe $_2$ O $_3$)17.89% の割合であった。造滓成分(SiO $_2$ + Al $_2$ O $_3$ + CaO + MgO + K $_2$ O + Na $_2$ O)25.40% で、このうち塩基性成分(CaO + MgO)は 4.60% であった。製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)起源の二酸化チタン(TiO $_2$)は 12.88%、バナジウム(V)が 0.14% と高値であった。また酸化マンガン(MnO)も 1.02%、二酸化ジルコニウム($2rO_2$)0.66% と高値であった。銅(Cu)は <0.01% と低値であった。

当鉄滓は製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)起源の脈石成分(TiO_2 、V)の高値傾向が顕著であった。 この特徴から砂鉄製錬滓の可能性が高いと考えられる。

MRH - 2: 鉄塊 (第 24 図 23)

- (1)外観観察:やや扁平な椀状の鉄塊(376.0g)である。表面全体が黄褐色の土砂や茶褐色の鉄 銹で覆われる。広い範囲で強い金属探知機反応があり、表面にはまとまった鉄滓はみられない。ま とまりの良い鉄主体の遺物と推定される。
- (2) マクロ組織:第77図④に示す。端部を供試材としたため、観察面全体が銹化しているが、 斑鋳鉄組織が残存する。
- (**3**) **顕微鏡組織**:第77 図⑤⑥に示す。⑤の中央部は蜂の巣状のレデブライト(Ledeburite)で、⑥はその拡大である。また⑤の片状黒色部は黒鉛(Graphite:C)である。上述したように、斑鋳鉄組織が確認された。
- (4) **EPMA 調査**:第78 図①②に反射電子像(COMP)を示す。①はレデブライトが晶出した箇所である。内部の微細な黄褐色粒は、特性 X 線像をみると硫黄(S)に強い反応がある。定量分析値は 61.5%Fe -34.9%S(分析点 1)、61.0%Fe -32.2%S(分析点 2)であった。硫化鉄(FeS)である。また②は片状黒色部の反射電子像(COMP)である。特性 X 線像では炭素(C)に強い反応があり、黒鉛(Graphite:C)と判断される。

以上の調査結果から、当遺物は鋳鉄塊(斑鋳鉄)であったことが明らかとなった。

MRH - 3:含鉄鉄滓 (第 25 図 2)

- (1)外観観察:やや大形の含鉄鉄滓の破片(592.0g)である。表面全体が黄褐色の土砂で覆われる。 土砂中には大小の礫が付着する。弱い金属探知機反応があるが、素地部分は鉄滓で、内部にごく微 細な金属鉄が散在する状態と推測される。
- (2) マクロ組織:第78図③に示す。素地部分は灰褐色の鉄滓である。また微細な明灰色~青灰色部は銹化鉄である。観察面ではまとまった金属鉄部(またはその銹化物)はみられなかった。さらに写真左側中央の黒色部は微細な木炭破片である。内部には発達した導管が分布しており、広葉樹材の黒炭と推定される。
- (3)顕微鏡組織:第78図④⑤に示す。④上側の灰褐色粒は、熱影響を受けた砂鉄粒子(含チタン鉄鉱)である。④の下側と⑤の中央は、さらに還元・滓化が進んだ状態で、内部に微細な金属鉄(明白色粒が)多数点在している。また素地の淡茶褐色多角形結晶ウルボスピネル、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。最も一般的な砂鉄製錬滓の晶癖である。

(4) 化学組成分析:第27表に示す。全鉄分(Total Fe)52.31% に対して、金属鉄(Metallic Fe) <0.01%、酸化第1鉄 (FeO)27.30%、酸化第2鉄 (Fe₂O₃)44.45% の割合であった。造滓成分(SiO₂ + Al₂O₃ + CaO + MgO + K₂O + Na₂O)は 19.69% とやや低めで、塩基性成分(CaO + MgO)も 1.43% と低値であった。製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)起源の二酸化チタン(TiO₂)は 3.61%、バナジウム (V) は 0.12% であった。また酸化マンガン (MnO) は 0.36%、二酸化ジルコニウム (ZrO₂) 0.04%、銅(Cu) <0.01% であった。

当鉄滓は内部に還元・滓化の進んだ砂鉄粒子(含チタン鉄鉱)が多数含まれることから、砂鉄製 錬滓と判断される。

MRH - 4: 椀形鍛治滓 (第 75 図 1)

(1) 外観観察:やや大形の椀形鍛治滓(555.0g)である。表面には黄褐色の土砂や茶褐色の鉄銹が付着するが、まとまった鉄部は見られない。滓の地の色調は暗灰色で、着磁性がある。上面端部には黒色ガラス質滓が点々と付着しており、羽口粘土の溶融物と推測される。

また上面側には 1cm大の木炭痕が薄く残る。一部は木炭破片が残る。一方下面側にはより微細な木炭痕による凹凸がみられる。全体に気孔は少なく、重量感のある滓である。

- (2) 顕微鏡組織:第79図①~③に示す。滓中には淡茶褐色多角形結晶ウルボスピネル、発達した白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。砂鉄を始発原料とする精錬鍛治滓に最もよく見られる晶癖である。
- (3) 化学組成分析:第27表に示す。全鉄分(Total Fe)52.53% に対して、金属鉄(Metallic Fe)は<0.01%、酸化第1鉄(FeO)51.50%、酸化第2鉄(Fe₂O₃)17.87% の割合であった。造滓成分(SiO₂+Al₂O₃+CaO+MgO+K₂O+Na₂O)24.09%で、このうち塩基性成分(CaO+MgO)は2.34%であった。製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)起源の二酸化チタン(TiO₂)4.87%、バナジウム(V)0.12%であった。また酸化マンガン(MnO)は0.51%、二酸化ジルコニウム(ZrO_2)0.08%、銅(Cu)は<0.01%であった。

当鉄滓は製錬滓(MRH - 1)と比較すると、砂鉄(含チタン鉄鉱)起源の脈石成分(TiO₂、V)の含有割合が低いが、その影響が明瞭に残る。鍛治原料(製錬鉄塊系遺物)中の未分離の不純物(砂鉄製錬滓)除去作業に伴う精錬鍛治滓と推定される。

MRH - 5: 椀形鍛治滓 (第 25 図 3)

- (1)外観観察:非常に大形で厚手の椀形鍛治滓(2760.0 g)と推測される。黄褐色の土砂や茶褐色の鉄銹はあまり付着していない。滓の地の色調は暗灰色で、他の鉄滓よりも着磁性はやや弱い。全体に気孔は少なく、重量感のある滓である。
- (2) 顕微鏡組織:第79図④~⑥に示す。④上側の青灰色部は銹化鉄である。金属組織の痕跡は不明瞭であった。また黒灰色部は木炭破片で⑤下側はその拡大である。内部には発達した導管が分布しており、広葉樹材の黒炭と推定される。また④の素地の灰色部は鉄滓で、⑥はその拡大である。白色樹枝状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。鍛錬鍛治滓に最もよく見られる晶癖である。
- (3) 化学組成分析:第27表に示す。全鉄分(Total Fe) 36.38% に対して、金属鉄(Metallic Fe

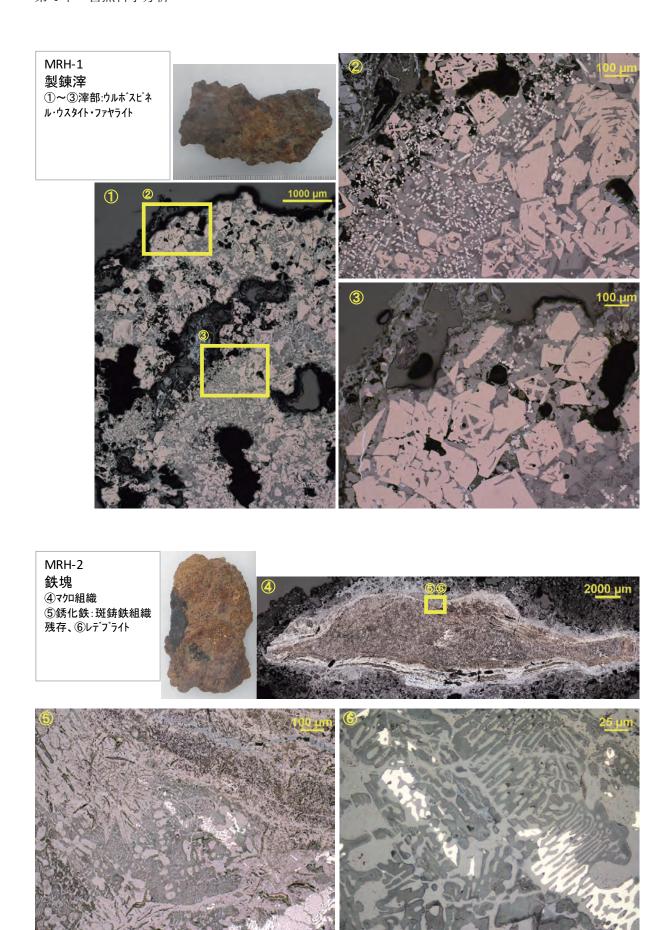
は<0.01%、酸化第 1 鉄 (FeO) 28.84%、酸化第 2 鉄 (Fe₂O₃) 19.96% の割合であった。造滓成分 (SiO₂ + Al₂O₃ + CaO + MgO + K₂O + Na₂O) の割合は 44.70% と高いが、このうち塩基性成分 (CaO + MgO) は 1.99% と低値であった。製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)起源の二酸化チタン (TiO₂) は 0.64%、バナジウム (V) が 0.03% と低値であった。また酸化マンガン (MnO) も 0.10%、二酸 化ジルコニウム (ZrO_2) <0.01%、銅 (Cu) <0.01% と低値であった。

当鉄滓は鉄酸化物(FeO)と炉材粘土の溶融物(SiO_2 主成分)主体の滓で、製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)起源の脈石成分(TiO_2 、V)の影響がほとんど見られない。この特徴から鉄材を熱間で鍛打加工した際に生じた鍛錬鍛治滓と推定される。

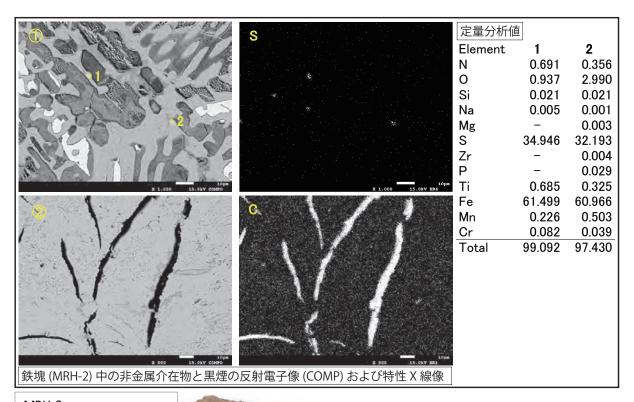
まとめ

森原神田川遺跡から出土した鉄滓 4 点を調査した結果、砂鉄製錬滓(MRH - 1、3)、精錬鍛治 滓 (MRH - 4)、鍛錬鍛治滓 (MRH - 5)が確認された。遺跡周辺で生産された鉄を鍛治原料として、精錬鍛治〜鍛錬鍛治作業が行われたことを示すものといえる。このうち、チタニアの含有割合の高い精錬鍛治滓(MRH - 4)は、鍛治原料中に不純物(砂鉄製錬滓)が多く含まれており、その除去作業が必要であったことを示すものである。鉄産地から滓との分離の悪い低炭素材(鉄〜軟鋼)が一定量搬入されていた可能性が考えられる。

一方、今回調査を実施した鉄塊(MRH-2)は斑鋳鉄であった。鍛治原料には滓ときれいに分離した高炭素材(鋳鉄)も含まれており、鍛打可能な状態まで脱炭して鍛打加工することも行われていたものと推定される。

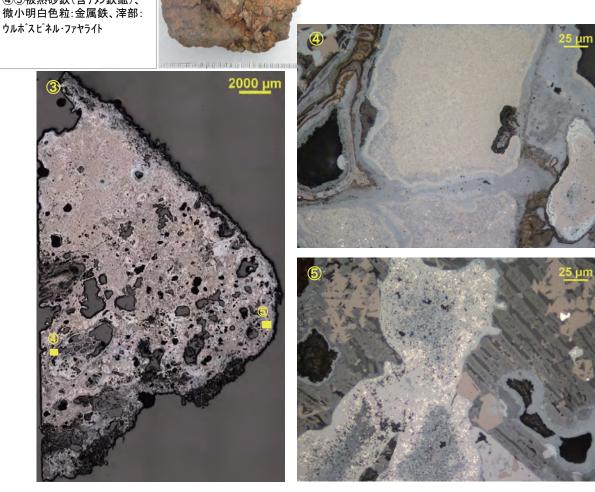


第77図 製錬滓・鉄塊の顕微鏡写真



MRH-3 含鉄鉄滓

- ③マクロ組織
- ④⑤被熱砂鉄(含チタン鉄鉱)、
- ウルホ、スピネル・ファヤライト



第78 図 鉄塊 EPMA 調査結果・含鉄鉄滓の顕微鏡写真

MRH-4 椀形鍛治滓 ①~③滓部:ウルボスピネ ル・ウスタイト・ファヤライト **⑤** MRH-5 椀形鍛治滓 ④黒色部:木炭破片、 青灰色部、銹化鉄、 滓部:ウスタイト・ファヤライト ⑤木炭破片拡大、広 葉樹材、⑥滓部拡大 4

第79図 椀形鉄滓の顕微鏡写真

第 26 表 供資材の履歴と調査項目

					計	計測值			調查項目	項目	
华	遺跡名	遺構名	遺構名 掲載番号 遺物名称		大きさ(mm)	(8)	金属探知器 マクロ 顕微鏡 反応 組織 組織	マクロ 組織	顕微鏡 組織	EPMA	化学分析
MRH-1	森原神田川 下ノ原地区	包含層 75-3	75–3	製錬滓	$89 \times 55 \times 22$	116.0 H	Ŧ		0		0
MRH-2		SR02	24–23	鉄塊	$95 \times 73.5 \times 8$	376.0 特[特し	0	0	0	
MRH-3		SR02	25–2	含鉄鉄滓	$102 \times 75 \times 44$	592. 0 H	Н	0	0		0
MRH-4		包含層 75-1	75–1	椀形鍛冶滓	 椀形鍛冶滓 108×99×46	555.0 H	Н		0		0
MRH-5		SR02 25-3	25–3	椀形鍛冶滓	椀形鍛冶滓 209×125×79.5	2760.0 銹化	銹化		0		0

第27表 供資材の化学組成

Π \$	全鉄分	全鉄分 金属鉄 酸化	酸化	酸化	二酸化	二酸化 酸化7m 酸化7m 酸化4が 酸化 酸化4h 酸化42/二酸化 酸化 硫黄 五酸化 炭素 バザジウム 銅 ************************************	酸化加引	鞍化マグ	酸化量	酸化扑	数化7ン	二酸化	酸化	硫黄	五酸化	派 //	ヾ ナジ ウム	體	二酸化	; ; ;	造滓成分 Ti02	Ti02
t L	(lotal Fe)	(Met	第 1 数 (Fe0)	弗 2 联 (Fe20 3)	连素 (Si02)	*-74 2774 (A1203) (Ce	(Ca0)	(MgO) (K20) (Na20) (MnO) (TiO2	47,17 (K20)	ر (Na ₂ 0)	(Mn0)	7%7 (Ti02)	(Cr203)	(S)	(P205)	9	3	(Cu)	۲ (Zr 02)	ソルユニアム 近洋成分 (Zr 02)	aliic 男 1 鉄 男 之 数 往 素 ミーフ4 インフ4 インフ4 ガリフ4 ガラ カラ オラシ	Total Fe
MRH-1	44. 46	MRH-1 44.46 0.17 40.88 17.89 15.11 4.53 2.81 1.79 0.77 0.39 1.02 12.88 0.08 0.026 0.32 0.22 0.14 < 0.01 0.66 25.40 0.5713 0.2897	7 40.88	17.89	15.11	4. 53	2.81	1. 79	0. 77	0.39	1.02	12.88	0.08	0.026	0.32	0.22	0.14	<0.01	0.66	25.40	0.5713	0. 2897
MRH-3	52.31	MRH-3 52.31 <0.01 27.30 44.45 13.45 4.05 0.63 0.80 0.45 0.31 0.36 3.61 0.06 0.072 0.26 0.34 0.12 <0.01 0.04 19.69 0.37641 0.06901	1 27.30	44. 45	13.45	4.05	0.63	08 .0	0.45	0.31	0.36	3.61	0.00	0.072	0. 26	0.34	0.12	<0.01	0.04	19. 69	0.37641	0.06901
MRH-4	52.53	$MRH-4 52.53 <0.01 51.50 17.87 15.78 4.65 1.22 1.12 0.92 0.40 0.51 4.87 0.05 0.024 0.20 0.12 0.12 \\ <0.024 0.20 0.12 0.12 \\ <0.012 0.12 \\ <0.012 0.08 24.09 0.4586 0.09271 \\ \\$	1 51.50	17.87	15. 78	4.65	1.22	1. 12	0.92	0.40	0.51	4.87	0.05	0.024	0. 20	0. 12	0.12	<0.01	0.08	24.09	0.4586	0.09271
MRH-5	36.38	MRH-5 36.38 <0.01 28.84 19.96 33.10 7.35	28.84	19.96	33. 10	7.35	1.47	0.52	1.34	0.92	0.10	0.64	0.04	0.015	0.92	0.74	0.03	<0.01	<0.01	44. 70	$ \begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	0.01759

第28表 出土遺物の調査結果のまとめ

							化学	化学組成(%)	(9)			
符号	遺跡名	遺構名	遺物名称	顕微鏡組織	Total Fe	Fe 2 0 3	塩基性 成分	ri02 '		n0 造》	Total Fe ₂ 03 塩基性 Ti02 V Mn0 造滓 Zr02 Fe 成分	所見
MRH-1		包含層	製錬滓	字部:U+W+F	44.46	17.89	4.60	12. 88	0.141	. 02 25.	40 0.66	44.46 17.89 4.60 12.88 0.14 1.02 25.40 0.66 砂鉄製錬滓
MRH-2	0,1	SR02	鉄塊	斑鋳鉄組織、硫化鉄(FeS)	ı	_	ı	ı	ı	_	ı	斑鋳鉄
				被熱砂鉄(含チクン鉄鉱)、微小金属鉄、滓部:U+F、								
MRH-3		SR02	含鉄鉄滓	木炭破片: 広葉樹材	52.31	44.45	1.43	3.61	0.12 0	. 36 19.	69 0.04	52.31 44.45 1.43 3.61 0.12 0.36 19.69 0.04 砂鉄製錬滓
MRH-4		包含層	椀形鍛冶滓	/李部5:W+U+F	52.53	17.87	2.34	4.87	0.12	. 51 24.	0.08	52.53 17.87 2.34 4.87 0.12 0.51 24.09 0.08 精錬鍛治滓
MRH-5		SR02	椀形鍛冶滓	滓部∶₩+F、木炭破片∶広葉樹材	36.38	19.96	1.99	0.64	0.03	. 10 44.	70 <0.01	36.38 19.96 1.99 0.64 0.03 0.10 44.70 <0.01 鍛錬鍛治滓

U: Ulvöspinel (2FeO·TiO2) 、W: Wustite (FeO) 、F: Fayalite (2FeO·SiO2)

第2節 森原神田川遺跡下ノ原地区の花粉分析・植物珪酸体分析 渡辺正巳:文化財調査コンサルタント(株)

はじめに

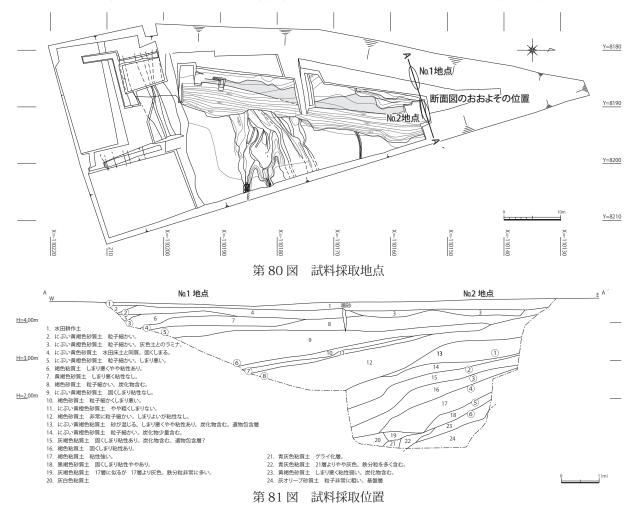
森原神田川遺跡下ノ原地区は島根県中央部の江津市松川町八神地内に位置し、一級河川江の川下 流域右岸の沖積地に立地する。

本報は「遺跡内及び遺跡周辺での植生変遷を明らかにする」目的で、文化財調査コンサルタント株式会社が島根県教育庁埋蔵文化財センターからの委託を受け実施・報告した花粉分析及び植物珪酸体分析に関する報告書を再編集したものである。

分析資料について

島根県教育庁埋蔵文化財センターと協議の上、第80図に示す2地点で文化財調査コンサルタント株式会社が分析試料を採取した。分析試料採取位置を第81図に示す。調査トレンチ法面(No.1地点)で8試料(①~⑧でおおよその採取位置を示す。)、SR10土層断面(No.2地点)で6試料(①~⑥に採取位置を示す。)を採取した。

以下に示す平面図及び土層断面図は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターより提供を受けた原図をもとに作成した。各層の説明も、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターの観察に従った。



120

分析方法

1) 微化石概查方法

花粉分析用プレパラート及び花粉分析処理残渣を 顕微鏡下で観察し、花粉(胞子)、植物片、微粒炭、 珪藻、植物珪酸体、火山ガラスの含有状況を5段階 で示した。

2) 花粉分析方法

渡辺(2010)に従って実施した。花粉化石の観察・同定は、光学顕微鏡により通常 400 倍で、必要に応じ 600 倍あるいは 1000 倍を用いて実施した。原則的に木本花粉総数が 200 粒以上になるまで同定を行い、同時に検出される草本・胞子化石の同定も行った。また中村(1974)に従ってイネ科花粉を、

第29表 同定対象分類群

同定レベル	コード	分類群	対応する栽培植物
1	1	イネ	イネ
3	3	イネ籾殻 (穎の表皮細胞)	イネ
	21	ムギ類 (穎の表皮細胞)	コムギ・オオムギ
	41	オヒシバ属(シコクビエ型)	シコクビエ
栽培植物と	61	キビ族型	ヒエ・アワ・キビ
秋垣恒初C の対応が明	62	キビ属型	キビ
らかな分類	64	ヒエ属型	ヒエ
おかなガ焼	66	エノコログサ属型	アワ
₽ Ŧ	84	ウシクサ族B	サトウキビ
	91	モロコシ属型	モロコシ
	93	ジュズダマ属型	ハトムギ
4	11	サヤヌカグサ属	サヤヌカグサ・アシカキ
	13	マコモ属	マコモ
	31	ヨシ属	ヨシ
	33	ダンチク属	ダンチク
	35	ヌマガヤ属型	ヌマガヤ
	51	シバ属型	シバ属
	71	トダシバ属	トダシバ属
	81	ススキ属型	ススキ属
	83	ウシクサ族 A	チガヤ属など
	201	メダケ節型	メダケ節
	203	ネザサ節型	ネザサ節
母植物との	205	チマキザサ節型	チマキザサ節・チシマザサ節
対応が明ら	207	ミヤコザサ節型	ミヤコザサ節
かな分類群	209	マダケ属型	マダケ属
	350	カヤツリグサ科(スゲ属など)	スゲ属
	390	シダ類	シダ類
	501	ブナ科(シイ属)	シイ類
	503	ブナ科(アカガシ亜属)	カシ類
	510	クスノキ科	バリバリノキなど(クスノキ以外)
	520	マンサク科(イスノキ属)	イスノキ属
	530	アワブキ科	アワブキ科
	540	モクレン属型	モクレン属
	570	マツ科型	マツ科
	580	マツ属型	マツ属

イネを含む可能性が高い大型のイネ科 (40 ミクロン以上) と、イネを含む可能性が低い小型のイネ科 (40 ミクロン未満) に細分した。

3) 植物珪酸体分析

藤原(1976)のグラスビーズ法に従って実施した。プレパラートの観察・同定は、光学顕微鏡により通常 400 倍で、必要に応じ 600 倍あるいは 1000 倍を用いて実施した。同定に際して、母植物との対応が明らかな、イネ亜科の機動細胞を中心とした分類群 (第 29 表) を対象とした。また、植物珪酸体と同時に計数したグラスビーズの個数が 300 を超えるまで計数を行った。

分析結果

1) 微化石概查結果

微化石概査結果を第30表に示す。ほとんどの試料で微粒炭の検出量が極めて多く、植物珪酸体、 火山ガラスはやや少なかった。一方花粉化石、植物片、珪藻化石の検出量は極めて少なかった。

2) 花粉分析結果

分析結果を花粉ダイアグラム (第82・84図)、花粉含有量ダイアグラム (第83、85図)と花第30表 微化石概査結果

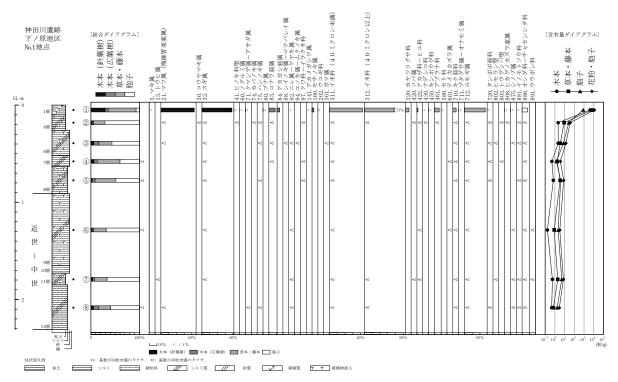
地点	地層	時代	試料No.	花粉	微粒炭	植物片	珪 藻	植物珪酸体	火山ガラス
	1		1	0	Δ	0	×	Δ	Δ
	4		2	Δ	©	Δ	×	Δ	Δ
No.	6		3	Δ	0	$\triangle \times$	Δ	0	0
1	7		4	$\triangle \times$	0	$\triangle \times$	$\triangle \times$	0	0
地	8		5	Δ×	©	$\triangle \times$	×	0	Δ
点	9	近世	6	Δ×	©	$\triangle \times$	Δ	0	Δ
	11	~	7	$\triangle \times$	0	$\triangle \times$	Δ	0	$\triangle \times$
	12	中世	8	Δ×	0	$\triangle \times$	Δ	0	Δ
	13	古代	1	$\triangle \times$	0	$\triangle \times$	×	0	0
No.	15	~	2	$\triangle \times$	Δ	$\triangle \times$	Δ	0	$\triangle \times$
2	16	古墳	3	Δ×	©	$\triangle \times$	Δ	0	$\triangle \times$
地	17	時代	4	$\triangle \times$	0	$\triangle \times$	$\triangle \times$	0	Δ
点	6'	中期	⑤	$\triangle \times$	0	$\triangle \times$	$\triangle \times$	0	$\triangle \times$
	11'	十初	6	Δ×	0	Δ×	Δ×	0	Δ×

凡例 ◎ :十分な数量が検出できる ○ :少ないが検出できる △ :非常に少ない

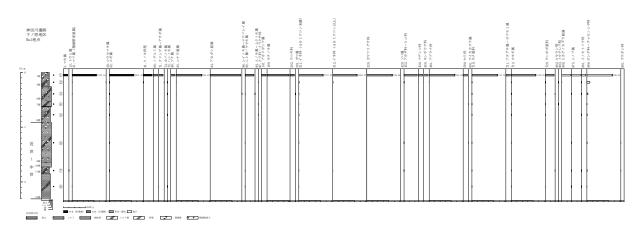
Δ×:極めてまれに検出できる × :検出できない

粉組成表(第 31 表)に示す。ほとんどの試料で花粉・胞子化石の含有量が少なく、かつ微粒炭による希釈効果のために、花粉・胞子化石の検出量が極めて少なかった。このことから花粉ダイアグラムでは、木本花粉総数が 30 粒に満たない試料について、検出できた分類群を「* 2」で示した。[総合ダイアグラム]では「木本(針葉樹)」、「木本(広葉樹)」、「草本・藤本」と「胞子」の割合を示すグラフを示した(木本(針葉樹)は黒、木本(広葉樹)は暗灰、草本・藤本は明灰、胞子は白のスペクトルで表した。)。[含有量ダイアグラム]では「木本」、「草本・藤本」、「胞子」「花粉・胞子(全ての合計)」ごとに含有量(湿潤試料 1g 中の粒数)の変化を示している。

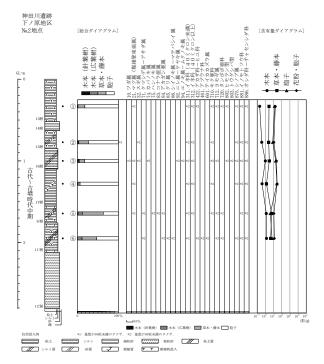
花粉 (含有量) ダイアグラムでは、分類群ごとに含有量(湿潤試料 1g 中の粒数)を算出し、スペクトルで表している(木本(針葉樹)は黒、木本(広葉樹)は暗灰、草本・藤本は明灰、胞子は白

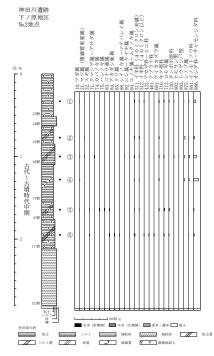


第82図 花粉ダイアグラム (第1地点)



第83図 花粉含有量ダイアグラム(第1地点)





第84図 花粉ダイアグラム (第2地点)

第85図 花粉含有量ダイアグラム(第2地点)

のスペクトルで表した。)。

花粉化石群集の特徴を、以下に地点ごとに示す。

① № 1 地点

上位の試料No. 1 でのみ 200 粒を超える木本花粉の検出量があった。その他の試料では花粉化石含有量が少なく、木本花粉含有量は $0.2 \sim 2.2$ 粒/g と極めて低い値であった。草本花粉の含有量も $0.7 \sim 8.8$ 粒/g と少なく、イネ科(40 5 つい未満)、イネ科(40 5 つい以上)ほか、キク亜科、ヨモギ属、タンポポ亜科のキク科由来の花粉がやや多く検出された。またごく少量であるが、試料No. 2、7 では栽培種のソバ属が検出された。また、これらの試料では木本花粉の検出量が 100 粒に満たないことから、花粉ダイアグラムでは検出できた種類を「*2」で示している。

試料No. 1 の木本花粉では、マツ属(複維管束亜属)、スギ属が 40%程度の出現率を示したほか、コナラ亜属が 8.1% と、これらに続いた。草本花粉では、イネ科(40 ミクロン以上)が 72.9%、イネ科(40 ミクロン未満)が 42.4%の出現率を示したほか、ヨモギ属が 26.7%、アブラナ科が 6.2%とこれらに続いた。

② № 2 地点

いずれの試料も花粉化石含有量が少なく、木本花粉含有量は $0.2 \sim 1.4$ 粒 /g と極めて低い値であった。草本花粉の含有量も $1.4 \sim 5.6$ 粒 /g と少なく、イネ科(40 ミケロン未満)、イネ科(40 ミケロン以上)のほか、キク亜科がやや多く、連続して検出できた。また、これらの試料では木本花粉の検出量が100 粒に満たないことから、花粉ダイアグラムでは検出できた種類を「*2」で示している。

また、花粉分析では、得られた木本花粉化石群集の特徴から局地花粉帯を設定(花粉分帯を行い) し、古植生、古環境を復元する。今回の分析ではほとんどの試料で木本花粉の検出量が数~10粒 程度と極めて少なく、統計処理ができなかったことから、花粉分帯が行えなかった。

3) 植物珪酸体分析結果

植物珪酸体分析の結果を、植物珪酸体ダイアグラム(第86・87図)と植物珪酸体化石組成表(第

32 表)に示す。植物珪酸体 ダイアグラムでは、検出量を 1g あたりの含有数に換算し た数を、検出した分類群ごと にスペクトルで示した。

植物珪酸体化石群集の特徴を、以下に地点ごとに示す。

① No. 1 地点

試料 No. 6 を除く 7 試料でイネが検出できた。特に上部の試料 No. 2 で 4600 粒 /gのピークを成し、上下の試料 No. 1、3 で も 2000、1000 粒 /g と低いものの一定量以上の検出密度を示した。ササ類の検出密度はおおむね高く、温

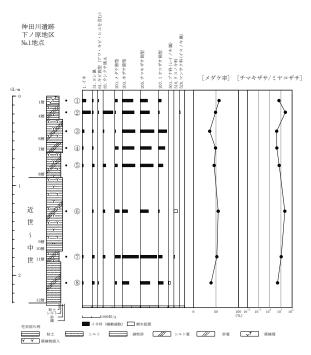
第31表 花粉化石組成表

														No.1	地点		
		試料No.		1			(2)			3			4		- 0,111	(5)	
3	マキ属	Podocarpus	- 1	0.5%	20.0												
10	ツガ属	Tsuga															
13	トウヒ属	Picea															
21	マツ属(複維管束亜属)	Pinus (Diploxylon)	90	42.9%	1797.2	3	25.0%	0.5	2	18.2%	0.4						
30	コウヤマキ属	Sciadopitys				- 1	8.3%	0.2									
32	スギ属	Cryptomeria	81	38.6%	1617.5	- 1	8.3%	0.2	2	18.2%	0.4	2	50.0%	0.3	- 1	33.3%	0.2
41	ヒノキ科型	Cupressaceae type	2	1.0%	39.9	- 1	8.3%	0.2									
60	ノグルミ属	Platycarya	- 1	0.5%	20.0												
71	クマシデ属ーアサダ属	Carpinus-Ostrya	- 1	0.5%	20.0												
74	カバノキ属	Betula				- 1	8.3%	0.2									
75	ハンノキ属	Alnus				2	16.7%	0.4	2	18.2%	0.4				- 1	33.3%	0.2
80	ブナ属	Fagus	- 1	0.5%	20.0												
83	コナラ亜属	Quercus	17	8.1%	339.5	2	16.7%	0.4	1	9.1%	0.2	1	25.0%	0.1			
84	アカガシ亜属	Cyclobalanopsis	7	3.3%	139.8												
85	クリ属	Castanea															
88	シイノキ属ーマテバシイ属	Castanopsis-Pasania							1	9.1%	0.2						
92	ニレ属ーケヤキ属	Ulmus-Zelkova	2	1.0%	39.9				2	18.2%	0.4						
94	エノキ属ームクノキ属	Celtis-Aphananthe							1	9.1%	0.2						
97	クワ科ーイラクサ科	Moraceae-Urticaceae				1	8.3%	0.2				1	25.0%	0.1	- 1	33.3%	0.2
141	アカメガシワ属	Mallotus	- 1	0.5%	20.0												
	モチノキ属	Ilex	5	2.4%	99.8												
202	ウコギ科	Araliaceae	- 1	0.5%	20.0												
301	ガマ属	Typha							1	9.1%	0.2						
311	イネ科(40ミクロン未満)	Gramineae(<40)	89	42.4%	1777.2	10	83.3%	1.8	4	36.4%	0.8	2	50.0%	0.3	5	166.7%	1.2
	イネ科(40ミクロン以上)	Gramineae(>40)	153	72.9%	3055.2	9	75.0%	1.6									
	カヤツリグサ科	Cyperaceae	10	4.8%	199.7												
420	ソバ属	Fagopyrum				- 1	8.3%	0.2									
	アカザ科ーヒユ科	Chenopodiaceae-Amaranthaceae	3	1.4%	59.9		75.0%	1.6									
	ナデシコ科	Caryophyllaceae	- 1	0.5%	20.0	1	8.3%	0.2									
	キンポウゲ科	Ranunculaceae	- 1	0.5%	20.0												
	アブラナ科	Cruciferae	13	6.2%	259.6	2	16.7%	0.4									
580	セリ科	Umbelliferae	- 1	0.5%	20.0												
	テイカカズラ属	Trachelospermum											25.0%	0.1			
710	キク亜科	Carduoideae	9	4.3%	179.7	4	33.3%	0.7	3	27.3%	0.6	2	50.0%	0.3	2	66.7%	0.5
711	ブタグサ属ーオナモミ属	Ambrosia-Xanthium	- 1	0.5%	20.0												
	ヨモギ属	Artemisia	56		1118.3		25.0%	0.5		54.5%	1.2		50.0%	0.3		166.7%	1.2
	タンポポ亜科	Cichorioideae	2	1.0%	39.9	10	83.3%	1.8		36.4%	8.0	7	175.0%	0.9	3	100.0%	0.7
	ヒモラン型	Urostachys sieboldii type							1	9.1%	0.2						
	トウゲシバ型	Urostachys serratum type	l				8.3%	0.2				1	25.0%	0.1			
	ヒカゲノカズラ亜属	Subgenus Lycopodium	2	1.0%	39.9	3	25.0%	0.5									
	シノブ属	Davallia	2	1.0%	39.9				1		0.2						0.0
881	イノモトソウ科	Pteridaceae	- 1	0.5%	20.0		25.0%	0.5		36.4%	8.0				3	100.0%	0.7
	オシダ科ーチャセンシダ科	AspidAsple.	15	7.1%	299.5	77	641.7%	13.9	24	218.2%	4.8	3	75.0%	0.4	6	200.0%	1.4
	ウラボシ科	Polypodiaceae															
	単条溝胞子	MONOLATE-TYPE-SPORE	6	2.9%	119.8		216.7%	4.7		36.4%	0.8		75.0%	0.4		66.7%	0.5
899	三条溝胞子	TRILATE-TYPE-SPORE	15	7.1%	299.5	40	333.3%	7.2	4	36.4%	0.8		125.0%	0.6	6	200.0%	1.4
	木本	ACIRCULATE-LEAVE	210		4193.5	12	6%	2.2	11	16%	2. 2	4	13%	0.5	3	9%	0.7
	草本・藤本	NON-ARBOREAL	339		6769.4	49	23%	8.8	18	27%	3.6	14	47%	1.7	15	43%	3.5
	胞子	SPORE	41	6.9%	818. 7	150	71%	27.0	38	57%	7.6	12	40%	1.5	17	49%	3.9
		•	590		11781.6	211		38.0	67		13.5	30		3.7	35		8. 1

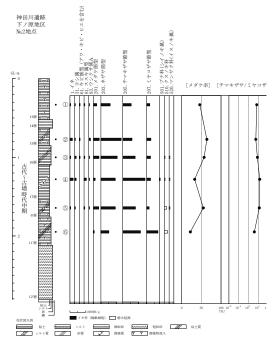
暖要素のメダケ節型・ネザサ節型が、寒冷要素のチマキザサ節型・ミヤコザサ節型がほぼ同じ割合で検出された。このほかヨシ属やウシクサ族A型が多くの試料で検出され、ブナ科(シイノキ属)、クスノキ科、マンサク科(イスノキ属)などの樹木由来の珪酸体も幾つかの試料で検出できた。

② № 2 地点

試料No.6を除く5試料でイネが検出できた。特に試料No.1、3では1600、2000粒/gと低いものの一定量以上の検出密度を示した。ササ類の検出密度はおおむね高く、温暖要素のメダケ節型・ネザサ節型が、寒冷要素のチマキザサ節型・ミヤコザサ節型がほぼ同じ割合で検出された。このほ



第86図 植物珪酸体ダイアグラム(第1地点)



第87図 植物珪酸体ダイアグラム(第2地点)

																	No.2	地点								
(6			7			8			1			(2)			3			4			(5)			6	
			1	25.0%	0.1	2	33.3%	0.2	1	100.0%	0.2					14.3%	0.1	2	100.0%	0.4	1	12.5%	0.2			
1 50.	0.0%	0.1	1	25.0%	0.1							1	100.0%	0.4	1	14.3%	0.1									
							16.7%	0.1 0.0							1	14.3%	0.1					25.0%	0.3	2	22.2%	0.3
						2	33.3%	0.2														12.5%	0.2			
1 50.	0.0%	0.1	2	50.0%	0.3	1	16.7%	0.1								14.3% 14.3%						25.0%	0.3	3	33.3% 33.3% 11.1%	0.5 0.5 0.2
6 300	0.0%	0.5		100.0% 125.0%	0.6 0.7		50.0% 33.3%	0.2		700.0% 200.0%	1.4		300.0% 300.0%	1.1		114.3% 57.1%	1.1		150.0%	0.6 0.4		62.5% 25.0%	0.8	16	177.8%	2.5
1 50.	0.0%	0.1		25.0% 25.0%	0.1 0.1				1	100.0%	0.2													1	11.1%	0.2
1 50. 1 50.		0.1 0.1	1	25.0%	0.1	2	33.3%	0.2	1	100.0%	0.2	1	100.0%	0.4	7	100.0%	1.0	2	100.0%	0.4	3	37.5%	0.5		11.1% 22.2%	
1 50.	0.0%	0.1	2	50.0%	0.3		16.7% 16.7%	0.1 0.1		100.0%	0.2 0.4				2	28.6%	0.3					162.5% 150.0%	2.1 1.9		88.9% 11.1%	
			1	25.0%	0.1			2.1		100.0%	0.2					42.9% 14.3%	0.4 0.1									
1 50. 12 600 1 50.	0.0%	0.1 1.0 0.1	3 9	75.0% 75.0% 225.0% 25.0%	0.4 0.4 1.3 0.1	1	50.0% 16.7% 16.7%	0.2 0.1 0.1	4	200.0% 400.0% 3300.0%	0.4 0.8 6.5	- 1	1100.0% 100.0% 600.0%	4.0 0.4 2.2	18	242.9% 257.1% 828.6%	2.4 2.6 8.2	7	600.0% 350.0% 3900.0%	1.4		12.5% 75.0%	0.2 1.0	3	11.1% 33.3% 122.2%	0.2 0.5 1.7
6 300 6 300	0.0%	0.5 0.5	9 10	225.0% 250.0%	1.3 1.4	5	200.0% 83.3%	0.9 0.4	5	2300.0% 500.0%	4.5 1.0	3	100.0%	0.4 1.1	16		2.4 2.3	23	600.0%	2.3 4.5	10	100.0% 125.0%	1.3 1.6	13		2.3 2.0
2 5° 10 26 26 68	6%	0. 2 0. 8 2. 2	14 36	7% 26% 67%	0. 6 2. 0 5. 1	6 9 22	16% 24% 59%	0.5 0.7 1.7	1 14 68	1% 17% 82%	0. 2 2. 8 13. 4	1 7 22	3% 23% 73%	0.4 2.6 8.0	7 21 130	4% 13% 82%	1. 0 3. 0 18. 4	2 7 132	1% 5% 94%	0. 4 1. 4 25. 5	8 35 25	12% 51% 37%	1.3 5.6 4.0	9 29 43	11% 36% 53%	1. 4 4. 5 6. 6
38		3. 2	54		7.6	37		2. 9	83		16.4	30		10.9	158		22.3	141		27.3	68		10.9	81	含有量(12.5

かヨシ属やウシクサ族 A型が多くの試料で検出され、ブナ科(シイノキ属)、クスノキ科、マンサク科(イスノキ属)などの樹木由来の珪酸体も幾つかの試料で検出できた。

花粉化石が含まれなかった原 因について

花粉分析の結果、ほとんどの試料で花粉・胞子化石含有量が40粒/g程度以下(多くは数粒/g))と極めて少ないことが明らかになった。花粉化石処理の残渣を観察する微化石概査によると、微粒炭

を除く微化石についても、植物珪酸体の含有量がやや多いものの、同様の傾向が認められた。

花粉化石の含有量が少ない原因について、一般には以下のようなことが考えられており、今回の 微化石検出傾向と比べると、以下のようになる。

1) 堆積物の特性(粒度・比重)と花粉化石の平均的な粒径、比重が著しく異なり、堆積物中に花粉化石が含まれない。

今回の分析層準(試料)では、砂主体の層(試料)が多くあり、このことが原因の一つと捉えられる。

2) 堆積速度が速いために、堆積物中に花粉化石の含有量が少ない。

花粉の生産量が毎年ほぼ一定であると仮定すると、堆積速度が速いほど花粉化石の含有量は少なく、遅いほど含有量は多くなる。また、花粉化石に限らず、堆積中に付加される微化石の量は、堆積速度が遅いほど多くなる。

今回分析を行った試料は洪水堆積物の可能性があり、堆積速度が速かったと考えられ、このこと が原因の一つと捉えられる。

3)「土壌生成作用」の及ぶ期間が短く、花粉の付加量が少なかった。

「土壌生成作用」に伴って花粉粒が、炭片、植物片などの有機物とともに、堆積面から地中に取り込まれる場合もある。年間「付加量」が一定と仮定すると、「土壌生成作用」を受けた期間の長短によって、含有量の多少が決まる。

今回分析を行った試料は繰り返す洪水によって堆積したと考えられる。微粒炭の相対的検出量は 多かったが、試料の色調から考えると多量に含まれていたとは考えにくかった。したがって、土壌 化を受けた期間が短かったか、洪水によって土壌が削平を受けた可能性が指摘できる。

- 4) 堆積の過程で、花粉粒が紫外線により消滅した。
 - 一般に、花粉化石は紫外線によって劣化・消滅する。花粉粒は、地表面に落下した直後から、紫

外線の影響下に置かれる(例えば畑作環境)が、水中で堆積した場合(例えば水田環境)、紫外線が遮断され、影響は軽減される。花粉分析結果では、コウヤマキ属、アブラナ科、キク亜科、ヨモギ属の外、胞子などが、選択的に高率を示す傾向にある。また、後述の「堆積後の化学変化による劣化・消滅」との区別は困難である。

今回の花粉分析結果では、コウヤマキ属はほとんど検出されないが、キク科、ヨモギ属はほぼ全ての試料で検出される。また、胞子の割合も高い。さらに、紫外線の影響を受けにくい炭片の含有量が相対的に多いことなど、紫外線の影響で花粉粒が劣化・消滅した可能性が指摘できる。

第32表 植物珪酸体化石組成表

地点			No.1地点		
試料No.	1	2	3	4	5
1 イネ	4	9	2	1	
	20	46	10	5	
	0.59	1.34	0.30	0.15	_ <u>_ 0</u> .1
31 ヨン底	5	5	5	5	1
	0.31	0.32	0.32	0.32	0.6
	† - <u>- 0.01</u>	<u>1</u>	0.02		
	5	5	-	-	
	1				L
 81 ススキ属型	-	-	-	-	
	-	-	-	-	
	↓ =				
83 ワンクサ族A	_	1 5	1 5	_	
		5	5	_	
201 メダケ節型	3	1	1	4	
201777112	15	5	5	20	
	0.17	0.06	0.06	0.24	0.
	12	<u> </u>	14		
	60	66	71	66	
	0.29	0.32	0 <u>.3</u> 4	0.32	0.
205 チマキザサ節型	8	10	15	12	
	40	51	76	61	
	0.30	0.38	$ \frac{0.57}{0}$		0.
20/ ミヤコザザ即型	3 15	1 5	9 46	7 36	
	0.04	0.02	0.14	0.11	0.
501 ブナ科(シイ属)	0.04	0.02	0.14	0.11	0.
001 2 7 17 (2 1 /maj)	-	_	_	_	
	-	-	-	_	
510 クスノキ科	T				
	-	-	-	-	
	<u> </u>				
520 マンザク科(イスノキ属) ― ― ―	-	1	-	-	
	_	5	-	_	
プラント・オパール総数	-	-	- 40	-	
プラント・オハール総数 カウントガラスビーズ数	32 496	38 473	43 475	38 477	4
ラントのラスピース数コウント総数	528	511	518	515	5
プラフト 総数 式料重量(×0.0001g)	8750	8930	8840	888	89
ガラスビーズ重量(×0.0001g)	237	234	233	237	2
¥ダケ率(%)	57.00	49.00	36.00	49.00	46.
チマキザサ節型/ミヤコザサ節型	6.70	25.00	4.20	4.30	7.

上段 検出粒数

たが、堆積後の化学変化により花粉化石が消滅した。

花粉粒や植物片などの有機物、珪藻や植物珪酸体など鉱物質のものも、グライ化などの化学変化に伴い(程度に差があるものの)分解してしまう(堆積後の化学変化は酸化鉄や酸化マンガンの沈着として現れ、多くは水田耕作における灌漑によるグライ化(鉄、マンガンの還元作用)と落水による鉄、マンガンの酸化作用の結果と考えられる。)。一方炭片は化学的に安定しており、堆積後に消滅することがない。花粉分析結果では、コウヤマキ属、アブラナ科、キク亜科、ヨモギ属の外、胞子などが、選択的に高率を示す傾向にある。また、前述のように「紫外線による劣化・消滅」との区別は困難である。

今回の分析層準(試料)では、酸化鉄や酸化マンガンの顕著な生成は認められなかった。一方、花粉分析結果では胞子の割合が高く、キク科が比較的多く検出されるなど、堆積後の化学変化(あるいは紫外線)による影響を示唆する結果も得られている。さらに、化学変化に安定な炭片の含有量が多く、堆積後の化学変化の影響で花粉粒が劣化・消滅した可能性が僅かながらある。

6) 有機物に極めて富む堆積物で、花粉以外の有機物(炭片、植物片など)が多く、希釈効果により花粉化石が回収できなかった。

多くの試料で花粉分析プレパラート内での炭片の含有量が多かった。一方、花粉・胞子化石含有量は数粒 /g 以下になるような極端に含有量の少ない試料も多くあった。これらのことから、花粉

			No.2地点						
6	7	8	1	2	3	4	5	6	
- - <u>-</u> 1	1 5 0.16 2	1 5 	1 5 _ <u>0.14</u>	3 16 0.47	1 5 0. <u>14</u> 2	4 20 0.60 2	1 5 0 <u>.1</u> 6	- - <u>-</u>	
5 0.31 -		11 0 <u>.66</u> 1	5 <u>0.</u> 31_ 1	5 0.3 <u>4</u> 1	10 0. <u>62</u> 1	10 0 <u>.6</u> 4 	5 	- <u>-</u>	
	- -	5 	5 1 5	5 - — — - -	5 1 5	- 3 15		- -	
$ \frac{-}{2}$	2 11	 	0.06_ 1 5	- 2 11	0.06 1 5	0 <u>.19</u> 1 5	<u>0.07</u> 1 5	<u>-</u>	
5 25 0.29	32 0.37	2 11 0.12	2 10 0.11	5 27 0.31	7 35 0.40	2 10 0.12	6 33 0.38	1 5 0.06	
6 30 0.14 9	91 0 <u>.4</u> 4	7 37 <u>0.1</u> 8 10	12 59 0.28 11	24 129 _ <u>0.62</u> 11	21 104 — — <u>0.5</u> 16	18 92 0 <u>.44</u> 28	17 92 	10 51 0.25 22	
45 0.33 1 5	$-\frac{0.68}{4}$	53 	54 <u>0.41</u> 4 20	59 <u>0.44</u> 5 27	79 0. <u>59</u> 25	142 1 <u>.07</u> 5 25	81 	113 0.85_ 14 72	
0.01	0.06	0.08 2 11	0.06	0.08	0.07 - -	0.08 0.08 1 5	0.05 - -	0.22 - -	
$-\frac{1}{4}$		⁻	-		_ 1 5	 1 5		- 4 21	
		 - -	<u>-</u> - -				1 5 	- - -	
28 478 506 8950	470 520	30 471 601 8750	34 487 521 8910	52 483 535 8430	57 490 547 8960	66 478 544 8940	49 457 506 8500	51 470 521 8990	
232 55.00 22.50	237 52.00	237 39.00 5.00	234	240 64.00 5.50	237 57.00 8.00	238 33.00 14.00	231 55.00 12.50	237 22.00 3.90	

化石と比重の近い炭片や植物片が多量に含まれていたことによって花粉粒の濃縮が進まなかったことより、花粉・胞子の含有量が本来少なかったものと考えられる。

以上のことを整理でという所試料の多くでというが試料の多くでルであるとの多くがは、地種では、力ないが、地種では、大変を変が、ないのは、大変というできない。

響も少なからずあったものと考えられる。このほか、土壌化を受けた期間が短く花粉・胞子の集積が進まなかった可能性や、洪水により土壌そのものが削平を受けていた可能性も指摘できる。

従来の分析結果との比較

江の川流域では近年、河川改修に伴う発掘調査が行われるようになり、伴って自然科学的調査も実施されるようになった。花粉分析は森原神田川遺跡大津地区(渡辺,2020)や、調査地上流左岸の田渕遺跡で実施されている(渡辺,2018)。両地点とも堆積時期が近世と、今回よりやや新しい時期の堆積物が主であるが、花粉・胞子化石(特に木本花粉)含有量が少なく、微粒炭の検出量が多いことから、「たたら場」や「鍛冶場」の操業に伴い、調査地周辺の山林が伐採され、「ハゲ山」状態であった可能性が指摘されていた。

また、今回の試料No.1で得られた花粉化石群集は、マツ属(複維管東亜属)、スギ属が高率を示し、コナラ亜属が続くなど、森原神田川遺跡大津地区でのI帯や田渕遺跡の試料No.1と対比できる。

古植生について

花粉分析結果及び植物珪酸体分析結果を基に、調査地周辺の古植生について考察する。また、植生変遷を明確にするために、過去から現在へ向かい、遺物からの推定堆積時期に沿って考察を行う。

1) 古墳時代中期~古代(No. 2 地点試料No. 6 ~ 1)

植物珪酸体分析ではイネが僅かながら連続して検出されており、近隣でイネの栽培が行われていたと考えられる。また、キビ族型も選出されており、可能性は低いもののアワ、キビ、ヒエなどの雑穀が近隣で栽培されていたと考えられる。また、水際にはヨシ類が生育し、自然堤防上にはススキ類やチガヤ類が生育していたと考えられる。また、花粉分析ではキク亜科やヨモギ類が検出されており、ススキが生育する以前の春から夏にかけて、あるいはススキ類などと住み分けてキク科の草本が生育していたと考えられる。

ササ類の比を用いたメダケ率、チマキザサ節/ミヤコザサ節比による気候変化推定について、メダケ率の変化が激しいことから寒暖の推定ができなかった。一方、チマキザサ節/ミヤコザサ節比は 10 前後の値を示し、チマキザサの推定生産量がミヤコザサの推定生産量より多い(関東地方での積雪 50cm 以上の地域の指標とされる)ことから、多雪であったと考えられる。

植物珪酸体分析では、シイノキ属、クスノキ科、イスノキ属などの木本由来の植物珪酸体も検出されている。調査地周辺の丘陵にシイノキ類、クスノキ類、イスノキ類を要素とする照葉樹林が広がっていた可能性が示唆される。これらの内、クスノキ科、イスノキ属は花粉化石の検出ができないとされている種類である。シイノキ類は「シイノキ属 - マテバシイ属」として僅かに検出されており、同時にアカガシ亜属も検出されることから、照葉樹林の構成種として、先の3種類にカシ類も加わっていたと考えられる。

2) 中世~近世(No. 1 地点試料No. 8~6)

前時期と比べ植物珪酸体群集には、明らかな変化が認められず、前時期同様の植生、気候が推定できる。ただし、木本由来の植物珪酸体は徐々に減っており、田渕遺跡や森原神田川遺跡大津地区の調査で指摘された「ハゲ山」化に由来する可能性もある。

花粉分析では断続的にソバ属が検出され、近辺では稲作に加え、畑作(ソバ栽培)も行われていたと考えられる。

3) 中~近世以降(No. 1 地点試料No. 5 ~ 1)

上位の2試料で、下位から変化に乏しかった植物珪酸体群集に変化がみとめられた。イネの検出密度が急激に高くなり、試料No.2では稲作の指標とされる5000粒/gに迫る4600粒/gという値を示した。また、試料No.1ではこれよりやや減じる2000粒/gの値であった。試料No.1(1層)は花粉化石が唯一豊富に検出された試料であり、花粉化石群集の特徴の一つにイネ科(40ミカル以上)の高率での出現が挙げられた。1層は現地観察で「水田床土」とされているなど、1層(試料No.1層準)が耕作土であった可能性は極めて高い。また、畑作物関連のアブラナ科の含有量も多く、高率で検出された。アブラナ科は畑作雑草との区別ができないが、量的な面と、隣接する森原神田川遺跡大津地区でも同様の傾向にあることから、栽培されていた可能性が示唆される。

4層(試料№2)についても前述のように多量のイネ植物珪酸体が検出されたほか、ソバ属花粉が検出されているなど、「耕作土」であった可能性がある。ただし、花粉化石の検出量が少ないことから、「水田」の可能性は低い。イネについて、「陸稲」の可能性もある。

1層で豊富に検出された木本花粉化石群集は、前述のように田渕遺跡での近代〜現代の花粉化石 群集に対比できる。したがって、周辺の山地はアカマツ類やコナラ類を主要素とする二次林とスギ 植林で覆われ、現在の景観に近かったと考えられる。

まとめ

森原神田川遺跡下ノ原地区での花粉分析を実施した結果、以下の事柄が明らかになった。

- 1) 花粉・胞子化石含有量が少なかった原因について考察した。洪水堆積物であったことによる、花粉・胞子粒の付加量が少なかったことが、主因と考えられた。また、紫外線や化学反応による劣化・消滅が少なからず影響したと考えられた。さらに、土壌化を受けた期間が短く花粉・胞子の集積が進まなかった可能性や、洪水により土壌そのものが削平を受けていた可能性も指摘できた。
- 2) 唯一、統計処理ができた№ 1 地点試料№ 1 (1層) について、隣接する森原神田川遺跡大津地区、 江の川流域の田渕遺跡での花粉分析結果と比較し、両地域での近代~現代の花粉化石群集と対比で きた。
- 3) 植物珪酸体分析結果、花粉分析結果を基に、古墳時代中期以降の遺跡内及び遺跡周辺の植生変遷を推定した。特筆すべき事柄は以下の通りである。

古墳時代中期~古代の時期には、近隣での稲作が明らかになったほか、アワなどの雑穀栽培の可能性が指摘できた。また、周辺の丘陵に照葉樹林が分布していたものと推定できた。

中世〜近世には稲作の外ソバ栽培も行われたが、丘陵の照葉樹林は分布を狭めたと考えられる。 あるいは田渕遺跡などで指摘される「ハゲ山」化に由来する可能性も指摘できる。

最上位の1層が「耕作土」で、稲作が行われていた。また、アブラナ科の植物が栽培されていた可能性が指摘できる。4層ではイネ植物珪酸体分析が多く検出できたが、花粉化石がほとんど検出できなかった。また、ソバ属花粉が検出された。これらのことから、イネについて「陸稲」の可能性が指摘できた。

【引用・参考文献】

藤原宏志(1976)プラント・オパール分析法の基礎的研究(1) - 数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法 - . 考古 学と自然科学, 9, 15-29

中村 純(1974) イネ科花粉について、特にイネを中心として. 第四紀研究, 13,187-197.

渡辺正巳(2010) 花粉分析法. 必携 考古資料の自然科学調査法, 174-177. ニュー・サイエンス社.

渡辺正巳 (2018) 田渕遺跡周辺地域における古植生などの古環境変遷について.田渕遺跡,一級河川江の川直轄河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書,1,48-56. 国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所・島根県教育委員会.

渡辺正巳(2020)森原神田川遺跡大津地区発掘調査に伴う自然科学分析.森原神田川遺跡大津地区,一級河川江の川直轄河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書,2,65-100.国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所・島根県教育委員会.

第3節 土器付着の種子圧痕について

はじめに

森原神田川遺跡出土土器にイネ種実らしい痕跡が認められる土器片が2点確認された。1点は縄文土器片、1点は土師器片である。圧痕にシリコン樹脂を注入して複製を作成し(レプリカ法)、そのレプリカを走査(型)電子顕微鏡(SEM)で観察、写真撮影を行った。レプリカの作成とSEMによる観察・撮影は、島根県古代文化センター原田敏照・岩本真実が行い、SEMは島根県産業技術センターの機器を使用した。

資料の説明と観察結果

走査(型)電子顕微鏡(SEM)で観察した資料及びその結果は以下のとおりである。

資料1(写真1) 遺構外から出土した縄文土器片で、第60図20に図示した。圧痕は外面にある。 小片のため詳細な時期は不明であるが、後晩期の粗製無文深鉢と思われる。採取されたレプリカは、 長軸6.636m、短軸3.356mを測る。

資料 2 (写真 2) SR10 から出土した土師器甕で、圧痕は頸部外面にある。古墳時代中期から後期 と思われる。採集されたレプリカは、長軸 6.554mm、短軸 3.381mmを測る。

まとめ

両者ともに、平面形が紡錘形を呈し、表皮に顆粒状突起、外頴と内頴の境界が確認されたこと から、イネ籾の圧痕と判断した。資料1は詳細な時期が不明な土器である。森原神田川遺跡では、





写真 1 資料 1 (縄文土器) のレプリカ作成箇所と走査 (型)電子顕微鏡 (SEM)写真





写真 2 資料 2 (土師器) のレプリカ作成箇所と走査 (型)電子顕微鏡 (SEM) 写真

第 60 図 21・22 のように中山 B 式が出土している。今のところ突帯文期以前には圧痕を含めイネ 資料がないという指摘(濱田 2019)を踏まえると、資料 1 は突帯文期末の蓋然性が高いと考えられる。

資料2は古墳時代中後期に属する土師器である。古墳時代にイネが存在することは当然だが、 当遺跡では同時期の土器が大量に出土しているにもかかわらず、古墳時代のイネ籾圧痕はこれのみ である。土器の製作場所とイネの保管またはイネに関わる作業の場とが、違っていたのかもしれな い。

【参考文献】

濱田竜彦 2019「中国地方におけるイネ科穀物栽培の受容」『農耕文化複合形成の考古学』(上) 設楽博己編 雄山閣

第5章 総括

第1節 遺構と出土遺物について

森原神田川遺跡下ノ原地区では、調査区を横断するように東から西へ流れる河道及び水路と、現在の江の川に平行するように南から北へ流れる大規模な河道を確認した。以下、これらの性格について、出土遺物からの検討を行いたい。

1. SR10 について

SR10 は、SR01 ほか東西方向の水路・流路より古く、南北方向の大形の流路である。方向は現在の江の川に平行しており、その規模の大きさから江の川の流路であったと見られる。

SR10 東岸の自然堤防を形成する粘質土は、基盤層である砂層(第 31 図 A-A'44 層、B-B'41 層など)の上に存在し、河道底面の形状に沿って標高 $1 \sim 2$ mの底面まで続いている。この粘質土層は SR10 の洪水による氾濫が収束した後に堆積したものと考えられる。この粘質土から出土した最も新しい遺物の時期は古墳時代前期であることから、遅くともこの時期までには標高 5 m付近まで基盤層が堆積しており、それを切って SR10 が流れたことがわかる。その後、氾濫が収束する過程で、自然堤防(第 11 図IV層)が形成され黄褐色系粘質土が堆積した。その後 SR10 には土師器・須恵器やミニチュア土器などが大量に出土した②層が堆積する。なお、自然堤防上はほぼ平坦で、遺構や河道は確認できなかったことから、後世の地形改変などにより削平された可能性もある。

2. SR10 出土土器について

SR10からは須恵器、土師器が多量に出土しており、特に土師器甕が多く出土している。これらの出土土師器甕のうち、複合口縁の形状を残す I 類と単純口縁の II 類を合わせると全体の 94%と大多数を占める。周辺地域の類例を見ると、カミヤ遺跡(江津市跡市町)では甕Ⅲ類に奈良時代の須恵器が共伴するが、甕Ⅱ類は認められないことから、甕Ⅱ類はⅢ類より古いものと推定される。また、半田浜西遺跡(江津市都野津町)では、土器溜から 6 世紀後半~ 7 世紀初めの須恵器とともに土師器の甕、高坏、甑、竈、土製支脚など食膳具・煮炊き具がセットで出土している。ここで出土した土師器の甕は甕 II C 類、同 II D 類に分類されるものである。また、高坏についても坏部 II 類で脚部 B・C 類、接合 C 類に分類されるものが出土している。

これらから、土師器甕 II 類と高坏は古墳時代後期に属するものと考えられ、SR10 出土の甕、高坏は古墳時代中期~後期ということができよう。須恵器についても、坏蓋をみると古墳時代のものが大多数を占める(第 13 表)。奈良時代以降に属する須恵器の数量はわずかで、出土遺物の時期は古墳時代中期~後期を中心とするということができる。

3. SR10 土器溜出土遺物の性格について

SR10 の埋土のうち、②層からは、須恵器、土師器、土製品など多種多様な遺物が大量に出土している。須恵器の蓋坏、土師器の椀などの食膳具のほか、甕・甑・竈などの煮炊き具も認められる。また、手捏ねのミニチュア土器は破片を含めると 100 点以上出土したほか、滑石製の勾玉、管玉、

鉄製品も確認した。ミニチュア土器や玉類などは明らかに祭祀に関連する遺物であるが、食膳具や 煮炊き具もその出土量や出土状況から、祭祀に使用されたものと考えられる。

また、鉄器については鉄製模造品以外にも、飾り弓に伴うと考えられる両頭金具や鉄鐸が出土するほか、湾曲した板状鉄片が認められる。板状鉄片として報告した資料には、意図的に曲げられたものや不整形に加工・切断されたと考えられる資料が含まれており、非実用品的な性格をもつものといえる。ミニチュア土器や玉類、食膳具などと共に祭祀に伴う遺物と考えられ、下ノ原地区では鉄を使用する祭祀が行われていたと推測される。

4. 祭祀関連遺物について

森原神田川遺跡下ノ原地区では、ミニチュア土器や煮炊き具が大量に出土したこと、滑石製勾 玉、鉄器模造品など特殊な遺物を確認したことから、古墳時代後期を中心とする時期にこれらを使 用した祭祀が行われたことがあきらかになった。祭祀は自然堤防上など河道に比較的近い場所で行 われ、その後 SR10 に投棄されたと考えられる。

島根県内において、古墳時代の溝及び河道における祭祀が認められる遺跡としては、大家八反田遺跡(大田市)や、前田遺跡(松江市)が挙げられる。これらの遺跡は小規模な河川の周辺に水田をもつ平野に位置し、河川から灌漑水路への取水堰周辺で祭祀に関連する遺物が出土しており、農耕儀礼との関連が想定できる。また、静間川下流に位置する平ノ前遺跡(大田市)においても、祭祀遺物が出土した溝は灌漑のための水路とされている。

下ノ原地区を見ると、この時期の遺構は農耕に関連するものを含め確認されていない。また、祭 祀遺物が出土した層も江の川と考えられる大きな河道の埋土であり、祭祀と農耕との関連は考えに くい。一方、遺跡の立地は河口からややさかのぼった江の川下流域であるが、河川の規模を考える と海岸に近い河口付近といえよう。ここで行われたのは、海浜地域で行われる祭祀である可能性が 考えられる。

海浜地域に立地する祭祀遺跡の出土遺物には共通点が指摘されている。鉄器・鉄鋌・板状鉄片とともに青銅鏡、滑石製模造品・玉類などの遺物が出土する点である(野島 2012)。野島氏は千歳下遺跡(京都府舞鶴市)の調査成果をもとに、これらの遺物を基礎的祭祀具として使用・遺棄あるいは破棄する古墳時代海浜祭祀遺跡を、海上交通の安全を祈願する目的をもつものと想定している。また、海浜祭祀遺跡には韓半島南部で生産されたと考えられる単合笵鋳造斧形品が出土する事例が含まれることなどから、祭祀は韓半島への航海の安全祈願であった可能性にも触れ、千歳下遺跡が所在する舞鶴湾から日本海を経て韓半島への海路の存在を示唆している。

平ノ前遺跡では古墳時代中期から後期にかけて、北部九州など他地域との活発な交流がうかがえるが、これには日本海をルートとする海上交通が利用されたものと推定される。さらに金銅製歩揺付空玉の出土から朝鮮半島、特に「新羅」地域との関連性が指摘され(島根県教育委員会 2019)、千歳下遺跡の調査成果を踏まえると、古墳時代中期~後期には石見地方から韓半島へ至る海上ルートが存在した可能性が考えられよう。

森原神田川遺跡下ノ原地区の祭祀のあり方は、鉄を消費する祭祀であるとともに、滑石製模造品や玉類が出土するなど、その様相は野島氏が指摘する西日本の海浜部における祭祀形態に共通する点が多く認められる。このことは、当遺跡で海上交通の安全を祈る祭祀が行われたことを示すとと

もに、海上交通に関わった集団の存在を示すものといえるかもしれない。

5. SR01 ~ 07 について

SR01 \sim 07 については、中世〜近世にかけて機能した水路・河道と考えられ、SR01 をのぞき 17 世紀後半には埋没したことがわかる。

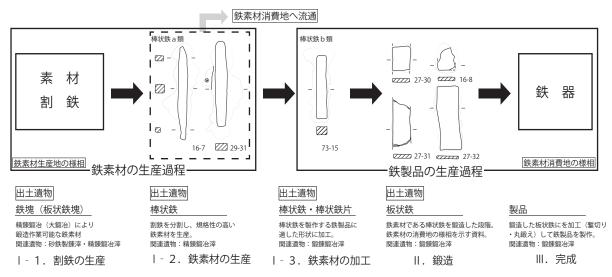
SR01 は自然流路で、現在も調査区東側の微高地縁辺を流れる水路の江戸時代以前の姿であろう。 SR02 は大形の石材などで堰を設けて水位調節を行ったと考えられ、おそらく自然堤防の東側に広がっていたであろう水田へ給排水を行うための水路であったと見られる。 SR03 も東側で幅が狭くなることから SR02 と同様な機能を持つ水路と考えられる。 SR04・05 についても、大形の石が埋土に認められており、やはり水位調節の機能を持っていたとみられる。

一方、SR01 ~ 03 では縄文前期~近世までの遺物が出土しており、これらの河道・水路の上流域にあたる範囲には、縄文時代以降集落が形成されていたことを物語る。また、調査区北側に位置する SR04・05 では中世以降の遺物のみが出土していることを考えると、調査区の南東に位置する微高地上に縄文時代~奈良時代の集落が存在したことが想定される。

6. 出土鉄関連遺物について

SR01 ~ 04・07を中心に鉄塊、棒状鉄及び板状鉄が出土している。これらは共伴遺物から中世後半~近世中期に位置付けられ、棒状鉄や板状鉄については鉄素材または鉄器未成品として報告した。鉄塊には板状のものが含まれており、鍛造作業が可能な割鉄も含まれると推測される。これらの板状の鉄塊は厚さが 1.0cm前後でまとまりをもつ点が確認できる。また、棒状鉄も板状の鉄塊と同様に、厚さが $0.7 \sim 1.0$ cmとなり、鉄塊の厚みと近似値を示している。このことから、板状の鉄塊(割鉄)から分割して棒状鉄を生産している可能性がある。

鉄素材である棒状鉄は資料数が少ないものの、両端部が不整形なもの(a 類:第 16 図 7・第 29 図 31)と両端面が整っているもの(b 類:第 74 図 15)が認められる。 a 類の体積が第 16 図 7 で 8.7 cm、第 29 図 31 で 8.1cmと近似値を示し、規格性の高い様相が見られることから中世後半以降、規格性の高い鉄素材の生産が行われていることが考えられる。さらに、b 類は 5.8cmと a 類より体積



第88図 下ノ原地区における鉄製品製作工程想定図

の少ない様相が認められる。b類がa類の両端部を切断などにより加工したものとすれば、製作工程を示すものとして理解できる。また、鉄素材として整理した板状鉄を、棒状鉄を製品へ加工する段階のものととらえれば、棒状鉄を利用した鉄製品の生産が行われたとの想定も可能である。

なお、当地区では鉄滓も出土している。第4章第1節で報告されているように砂鉄製錬滓、精錬鍛冶滓、鍛錬鍛冶滓が認められる。調査区内で鍛冶関連遺構が検出されていないことから、周辺で鉄生産や大鍛治、小鍛冶が行われていることが想定できる。同地区出土の鉄素材はこのような生産活動地で生産・消費されたものであると考えられる。また、鉄素材生産地と鉄製品生産地双方の様相が確認できる点から、鉄生産地と消費(加工)地が近いことも推測される。なお、本遺跡周辺のみで規格性の高い鉄素材が消費されるとは考えにくく、周辺地域などに流通している状況が想定される。

第2節 まとめ

森原神田川遺跡下ノ原地区は、江の川が形成した氾濫原である平地に立地する。このため、当地区は江の川の流路の移動や洪水などの影響を強く受けてきた。今回の調査成果から、遺跡の変遷過程を推測してみる。

弥生時代以前

江の川は、当遺跡の周辺を幾度となく流路を変えながら氾濫原を形成していったと考えられ、隣接する森原下ノ原遺跡の調査¹⁾から、遅くとも縄文時代にはある程度の堆積が進んでいたものと推測される。当調査区内では、弥生時代以前の遺構や河道は確認できないが、SR01~03埋土や遺物包含層から縄文時代前期末~中期初頭・後期後半の土器が一定量出土しているほか、弥生時代前期~後期の土器も認められる。また、磨製石斧の未成品・製品も多く出土している。突帯文期のイネ籾圧痕も確認され(第4章第3節)、この時期の農耕を示唆する。森原下ノ原遺跡をはじめ、当地区に近接する地域では人々の居住・生産活動が営まれているのがわかる。

古墳時代前期

当地区周辺は、この頃には標高 5 m付近まで基盤層の堆積が進んでいたものとみられる。そして、この時期に、江の川の流路は調査区内に移動し、氾濫を起こしたのち収束して、SR10 が形成される。また、自然科学分析の結果から、この時期には周辺でイネの栽培がおこなわれていたとみられる。栽培地の特定は難しいが、調査区の東側に存在が想定される後背湿地であった可能性が高い。

古墳時代中期~奈良時代

SR10 は引き続き調査区内を流れる。SR10 の近接地では祭祀が繰り返し行われ、祭祀関連遺物が SR10 東岸から投棄されたとみられる。SR10 埋土から大量に出土した食膳具・煮炊き具、ミニチュア土器などがそれを裏付けるが、調査区内で当該期の遺構は確認できず、祭祀が行われた場所は明らかでない。

自然科学分析から、前代に引き続きイネの栽培が行われていたと推定されているが、周辺で水稲 農耕を行っていた集団は祭祀にも関わっていたことが考えられる。その後も SR10 は洪水を起こす が、それに由来する堆積により比較的短期間に埋没した²⁾。これ以降、大形の流路は確認できず、 江の川は当調査区の外へ流路を移す。

中世以降

SR10 が完全に埋没した後、SR02 ~ 05 が造られる。これらの溝が造られた時期は判然としないが、SR04・05 出土遺物から、中世前半であった可能性がある。農業用水を管理するため、地盤が安定していた自然堤防の粘質土部分に石組による堰を設け、流路上流にあたる調査区東側で耕作を行ったのであろう。自然科学分析から、周辺でソバの栽培が行われていた可能性も指摘されている。SR01 もこの時期に機能していたものと思われる。

中世以降、中国地方では製鉄遺跡が増加し、砂鉄採取のため鉄穴流しによる大量の土砂が河川の下流域にもたらされる³⁾。江の川流域でも同様な状況が考えられ、氾濫原への土砂の供給も加速していったとみられる。SR01~07も近世後期には埋没し、さらにその後、当調査区を含む平野全体が水田化していったと考えられる。

【註】

- 1) 中村唯史氏の御教示による。
- 2) 島根県教育委員会 2020『島根県教育庁埋蔵文化財調査センター年報』28
- 3) 角田徳幸 2014『たたら吹き製鉄の成立と展開』清文堂出版

【参考文献】

江津市教育委員会 2008 『カミヤ遺跡・羽代前田遺跡』

島根県教育委員会 1995 一般国道 9 号江津道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書(鹿伏山・半田浜西・二宮 C 遺跡・ 久本奥窯跡)』 1995

松尾充晶 2015 「古墳時代の水利と祭祀」『古代文化研究』第 23 号 島根県古代文化センター

島根県八雲村教育委員会 2001 『前田遺跡』(第Ⅱ調査区)』

島根県教育委員会 2019 『平ノ前遺跡』

島根県教育委員会 2018 『田渕遺跡』

島根県立古代歴史博物館編 2019 『たたら-鉄の国出雲の実像-』

末永雅雄・伊藤信雄 1979 『挂甲の系譜』雄山閣

野島 永 2012 「総括」58 ~ 64 頁『舞鶴市千歳下遺跡発掘調査報告書』 広島大学大学院文学研究科考古学研究室・舞 鶴市教育委員会

第33表 SR01出土遺物観察表

弗 3 陶磁	グ衣 哭	3	KUI Щ.	工退物街	学衣									
挿図 番号	遺物番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	分類	法量(cm)		色訓	再	胎士	Ė	文様: 調	整: その他
15	1	7	SR01	白磁	ш	ビロ- スク ?	' 口径(19.2)	透明釉	1		灰白色		14~15	C 前半
15	2	7	SR01	同安窯系青磁	碗	大宰府Ⅰ	類	青磁釉	1		灰色		12C 後半	¥~13C 後半
15	3	7	SR01	龍泉窯系青磁	碗	上田B類	底径(6.0)	青磁釉	h		灰色		片彫蓮弁	ì文 高台内無釉 15 ~16C
15	4	7	SR01	龍泉窯系青磁	碗	上田D類	1	青磁釉	1		灰色		端反口絲	录 15C
15	5	7	SR01	龍泉窯系青磁	ш			青磁釉	1		灰白色		内面釉剥	尚 高台内無釉 15~16C 前半
15	6	7	SR01	龍泉窯系青磁	香炉			青磁釉	1		灰色		外: 沈線	文 時期不明
15	7	7	SR01	龍泉窯系青磁	盤			青磁釉	1		灰白色		内: 鎬文	中世前半
15	8	7	SR01	龍泉窯系青磁	碗	大宰府	Ą	青磁釉	i i		灰色		内: 飛雲	文 12C後半
15	9	7	SR01	同安窯系青磁	碗	大宰府Ⅰ	類	青磁釉	1		にぶい橙色	b	12C 後半	¥~13C 後半
15	10	7	SR01	漳州窯系青花	ш	粗製		透明釉	、青料		にぶい淡樹	色	16C後半	¥
15	11	7	SR01	漳州窯系青花	碗	粗製	口径(12.8)	透明釉	、青料		灰黄色			、草花文 内: 圏線 内面釉剥 半~17C 初
15	12	7	SR01	漳州窯系青花	ш	粗製		透明釉	、青料		灰色			内: 二重圏線、草花文 高台内無釉 4~17C 初
15	13	7	SR01	漳州窯系青花	碗	粗製	底径(5.7)	透明釉	、青料		灰白色			圏線、草花文 高台内無釉 畳付釉剥 ≚~17C 初
15	14	7	SR01	朝鮮陶器	瓶			褐釉			褐灰色		外: 回転 15C 後半	ナデ、沈線 内: 絞り痕 ¥~16C
15	15	7	SR01	備前	擂鉢	VВ			ぶい赤褐(色(5YR6/6	色(5YR4/3) 5)	砂粒微量含 灰赤色	ì t	15C	
15	16	7	SR01	備前	擂鉢	VВ			色(7.5YR4 色(7.5YR4		砂粒少量含 灰褐色	計 む	重ね焼き	・痕 15C
15	17	7	SR01	越前陶器	鉢		口径(13.2)		褐色(7.5Y ぶい褐色(R5/2) 7.5YR5/3)	砂粒少量含 灰褐色	ì t	口唇凹絲	泉 13C 後半
15	18	7	SR01	土師器	燈明皿		底径(6.4)		黄橙色(7.1 黄橙色(7.1		砂粒少量含	計 む	外: 回転 褐色系:	糸切り 内外煤付着 上師器
15	19	7	SR01	土師器	ш		底径7.0		色(5YR7/8 色(5YR7/8		砂粒微量含	計 む	外: 回転	糸切り 褐色系土師器
15	20	7	SR01	土師器	燈明皿		底径(3.8)		黄褐色(10 色(2.5Y2/		砂粒少量含	} ₺	外: 回転	糸切り 褐色系土師器
15	21	7	SR01	土師器	燈明皿		口径(5.8) 器高1.5 底径(3.5)			7.5YR7/4) 7.5YR7/4)	砂粒微量含	む	外: 回転 褐色系:	糸切り 内外煤付着 L師器
15	22	7	SR01	肥前系陶器	碗	TB-1-f		呉須、	透明釉		灰白色		内: 山水	文 陶内染付 1680~(1740)年
15	23	7	SR01	肥前系磁器	碗	JB-1-B	底径(5.0)	呉須、)	透明釉		灰白色		外: 松葉	文他 1690~1703年
15	24	7	SR01	肥前系磁器	ш	JB-2-e	底径(10.8)	呉須、)	透明釉		灰白色		外: 圏線	内: 芙蓉手文 1690 ~1703 年
15	25	7	SR01	肥前系磁器	ш	JB-2-k	底径(5.0)	呉須、	透明釉		淡橙色		内: 草花 1610 ~	文、蛇の目釉剥ぎ 高台内無釉 40年
15	26	7	SR01	肥前系磁器	ш	JB-2-k	底径(5.2)	呉須、	透明釉		灰白色		内: よろ 1630 ~	け縞文 畳付アルミナ砂 1650 年
15	27	7	SR01	肥前系陶器	碗	TB-2-c	底径(5.4)	透明釉	1		淡黄色		高台削 · 1710 ~	リ深い、京焼風 20年
15	28	7	SR01	肥前系陶器	ш	TB-2	底径5.0	透明釉	H		淡橙色			り痕 内: 目跡3 点 高台内無釉 1610 年代
15	29	7	SR01	肥前系陶器	香炉か 火入れ	TB-9		白化粧	生土に透明	釉、鉄釉	暗褐色		1650 ~	1690 年
15	30	7	SR01	肥前系陶器	鉢	TB-5-a		白化粧	注土に透明	釉、鉄釉	灰褐色		18C 前半	学代
15	31	7	SR01	瀬戸美濃	天目碗	TC-1-a	底径(4.6)	褐釉			灰白色		16C 前当	学代
15	32	7	SR01	須佐陶器	擂鉢	須佐-29		銹釉			褐色		内: 擂目	1 単位10 条 17C 後葉~18C 前半代
土製	遺物	図版	出土遺構	l										
番号	番号	番号	層位	種別	器種	分類	法量(cm) 長さ4.2 幅1.3 厚さ1.3		重量(g)		語		土	備考 調整:ミガキ、ケズリ
15	33	7	SR01	土製品	土錘(瓦質)	類	R径0.5 長さ(4.5) 幅1.4 厚さ1		6.0	黄灰色(2.5)		砂粒少	量含む	両端部刃物により切断 中膨み 調整:ナデ
15	34	7	SR01	土製品	土錘(瓦質)		孔径0.6		5.52	にぶい褐色	(7.5YR5/3)	砂粒微	量含む	中膨み
石製	遺物	図版	出土遺構	種別	器種		2+ = (am)			종무				件並
番号 15	番号 35	番号 7	層位 SR01	石製品	砥石	ドナブ明	法量(cm) 幅(3.3) 厚さ不明			15.9	3 面に研磨組	古		備考
 鉄器			Shui	11200	1840	及さ小明	幅(3.3) 序さ小り			15.9	3 国化研磨机	DX.		
挿図	遺物	図版	出土遺物	種別	器種		法量(cm)		Ī	重量(g)				備考
番号 16	番号 1	番号 80	層位 SR01	鉄製品	刀子	長さ(4.75)	幅1.0 厚さ0.3			(8.0)	刃部			
16	2	80	SR01	鉄製品	刀子		幅1.5(関) 厚さ0.4			(10.0)	直角関			
16	3	80	SR01	鉄製品	金具		幅0.5 厚さ0.4			(6.0)	断面楕円形			
16	4	80	SR01	鉄製品	釘		幅1.2 厚さ0.55			(16.0)	平釘			
16	5	80	SR01	鉄製品	釘		■0.8 厚さ0.6			(10.0)	皆折釘			
					_									

挿図 番号	遺物 番号	図版 番号	出土遺物 層位	種別	器種	法量(cm)	重量(g)	備考
16	6	80	SR01	鉄製品	釘	長さ6.2 幅(1.0) 厚さ0.6	(23.0)	平釘
16	7	80	SR01	鉄素材	棒状鉄	長さ9.7 幅1.0 厚さ0.9	(26.32)	端やや細くなる a類
16	8	80	SR01	鉄素材	板状鉄	長さ(2.3) 幅1.85 厚さ0.4	(15.0)	鉄製品加の加工過程か
16	9	80	SR01	鉄素材	鉄塊	長さ4.0 幅2.6 厚さ2.0	(32.0)	錬鉄か 磁着度:5 メタル度:H

第34表 SR02出土遺物観察表 陶磁器

陶磁	器									
挿図 番号	遺物 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・調整・その他
21	1	8	SR02	中国白磁	碗	大宰府 V-4 類		透明釉	灰白色	折れ縁口縁 12 C 後半~13C 前半
21	2	8	SR02	中国白磁	碗		口径(13.6)	透明釉	灰白色	端反り口縁 16C
21	3	8	SR02	中国白磁	ш			透明釉	淡橙灰色	端反り口縁 内面段 16C
21	4	8	SR02	中国白磁	ш	森田D 群	口径(9.4)	透明釉	灰白色	15C
21	5	8	SR02	中国白磁	碗	大宰府VII類?		透明釉	灰色	12C 後半~13C 前半
21	6	8	SR02	中国白磁	坏	森田D 群	底径3.0	透明釉	灰白色	高台内無釉 15C
21	7	8	SR02	中国白磁	ш	ピロースク ?	底径(5.4)	透明釉	灰色	高台内無釉 14~15C 前半
21	8	8	SR02	中国白磁	坏	森田D 群	口径(11.4)	透明釉	淡灰褐色	15C
21	9	8	SR02	中国白磁	坏			透明釉	灰色	時期不明
21	10	8	SR02	中国白磁	坏	森田D群?	底径(3.6)	透明釉	灰白色	高台内無釉 15C ?
21	11	8	SR02	龍泉窯系青磁	碗	上田CII類?	底径(7.6)	青磁釉	灰白色	外: 片彫 内: 刻花文 15C
21	12	8	SR02	龍泉窯系青磁	碗	大宰府 -2 類	口径(16.0)	青磁釉	暗灰色	内: 片彫劃花文 12C 後半~13C 前半
21	13	8	SR02	龍泉窯系青磁	碗	大宰府Ⅰ類	口径(15.4)	青磁釉	灰色	内: 片彫劃花文 12C 後半
21	14	8	SR02	龍泉窯系青磁	碗	上田C II類		青磁釉	灰色	外: 雷文 15C
21	15	8	SR02	龍泉窯系青磁	坏			青磁釉	灰色	玉縁口縁 15C
21	16	8	SR02	龍泉窯系青磁	碗	上田C II類		青磁釉	灰白色	内: 雷文 15C
21	17	8	SR02	龍泉窯系青磁	稜花皿			青磁釉	灰色	内: 平行沈線文 15C 後半~16C
21	18	8	SR02	龍泉窯系青磁	碗			青磁釉	灰色	内: 人形手 玉縁口縁 15C
21	19	8	SR02	龍泉窯系青磁	稜花皿		口径(10.7)	青磁釉	灰白色	15C 後半~16C
21	20	8	SR02	龍泉窯系青磁	碗	上田D I 類	底径(5.6)	青磁釉	灰色	内: 印花文 高台内無釉(重焼痕あり) 15C
21	21	8	SR02	龍泉窯系青磁	稜花皿		口径(13.4)	青磁釉	淡灰褐色	15C 後半~16C
21	22	8	SR02	漳州窯系青花	ш	精製	底径(5.3)	透明釉、青料	灰白色	外: 圏線 内: 圏線他 畳付釉剥 16C 後半~17C 初
21	23	8	SR02	景徳鎮窯系 青花	ш	精製		透明釉、青料	白色	内: 草花文 16C 後半~17C 初
21	24	8	SR02	同安窯系青磁	碗	同安 類		青磁釉	灰白色	内外: 櫛目文、沈線文 12C 後半~13C 後半
21	25	8	SR02	同安窯系青磁	碗	同安 類		青磁釉	灰白色	外: 櫛目文 内: 櫛目文、沈線文 12C 後半~13C 後半
21	26	8	SR02	漳州窯系青花	ш	粗製	口径(10.8)	透明釉、青料	灰白色	16C 後半~17C 初頭
21	27	8	SR02	漳州窯系青花	小坏	粗製		透明釉、青料	灰白色	外: 圏線、草花文 内: 圏線 16C 後半~17C 初頭
21	28	8	SR02	漳州窯系青花	不明	精製		透明釉、青料	灰白色	外: 文字(不明) 内: 獅子文 16C 後半~17C 初頭
21	29	8	SR02	漳州窯系青花	坏か	粗製		透明釉、青料	灰白色	16C 後半~17C 初頭
21	30	8	SR02	漳州窯系青花	ш	粗製		透明釉、青料	淡橙灰色	内: 圏線 16C 後半~17C 初頭
21	31	8	SR02	景徳鎮窯系 青花	輪花皿	精製	口径(12.5) 底径(12.8)	透明釉、青料	白色	外: 圏線 内: 圏線、くずれた草花文 16C 後半
21	32	8	SR02	景徳鎮窯系 青花	ш	精製	口径(16.4)	透明釉、青料	白色	内: 圏線 折れ縁口縁 16C 末~17C 初頭
21	33	8	SR02	漳州窯系青花	ш	粗製	口径(14.8) 器高4.7 底径(7.6)	透明釉、青料	淡灰褐色	内: 草花文 畳付無釉 16C 末~17C 初頭
21	34	8	SR02	漳州窯系青花	ш	粗製	口径(13.0)	透明釉、青料	淡灰色	外: 木の葉文 内: 圏線 内外底面釉剥 16C末~17C 初頭
21	35	8	SR02	中国陶器	四耳壺			褐釉	灰褐色	外: ナデ、被熱 内: 当て具痕、ナデ 中世前半
21	36	8	SR02	中国陶器か	壺		底径(9.0)	褐釉	褐灰色	外: 回転ヘラケズリ 内: 回転ナデ 底外面無釉 中世前半
21	37	9	SR02	備前	擂鉢	VA	口径(31.0)	外: 橙色(2.5YR6/6) 内: 橙色(2.5YR6/6)	砂粒やや多く含む 灰赤色	擂目1 単位10 条以上 16C 前半
21	38	9	SR02	備前	擂鉢	VB	口径(29.0)	外: にぶい赤褐色(2.5YR5/4) 内: にぶい赤褐色(2.5YR5/4)	砂粒微量含む 灰赤色	擂目1 単位6 条 16C 後半
						1		[, J. 16-3-0 93-14] [(2.3 113/4)	1×421-0	1

挿図 番号	遺物番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	分類	1	法量(cm)		色記	周	胎	±		文様・調整・その他
21	39	9	SR02	備前	擂鉢		庭	琵径(14.8)	外: 橙色(2 内: 橙色(2			砂粒少量 橙色	含む	底部外	: 下駄痕
21	40	9	SR02	瓷器系陶器	甕					赤褐	色(2.5YR5/4)	砂粒多く 灰褐色	含む	中世前	*
22	1	9	SR02	瀬戸美濃	平碗			口径(12.0)	灰釉			灰黄色		14C ~	·15C 前半
22	2	9	SR02	瀬戸美濃か	卸皿			口径(16.6)	灰釉			灰黄色		14C ~	15C
22	3	9	SR02	瀬戸美濃	直縁鉢				灰釉			灰褐色		不明	
22	4	9	SR02	東藩系須恵器	鉢				外: 灰白色 内: 灰白色			砂粒少量	含む	中世前	*
22	5	10	SR02	東藩系須恵器	鉢				外: 灰色(N 内: 灰色(N	N5/)		砂粒少量	含む	中世前	*
22	6	10	SR02	瓦質土器 (燻)	火鉢				外: 灰色(1 内: 灰色(1	0Y4/		砂粒微量 灰黄色	含む	外: 凹絲	泉3条 中世後半
22	7	10	SR02	瓦質土器	鉢				外: 浅黄色内: 黄灰色	2(2.5Y	7/3)	砂粒微量	含む	内外: /	√ケメ 14C中~後半
22	8	12	SR02	防長系瓦質土器	擂鉢]径(23.4) 器高9.0 底径(13.3)	外: 灰色(N	N5/)		砂粒少量 灰色	含む	外: 指持	甲圧痕 内: 種子痕跡 15 ~16C
22	9	10	SR02	土師器	Ш			口径(12.4)	外: 橙色(7 内: 橙色(7	7.5YR7		砂粒微量	含む	褐色系	土師器
22	10	10	SR02	土師器	燈明皿			1径(9.6) 器高(1.7) 底径(6.3)	外: 橙色(5	YR6/	6)	砂粒微量	含む	外: 回轉 褐色系	伝糸切り、煤付着 内: 回転ナデ
22	11	10	SR02	土師質土器	鉢			1径(30.0)	外: 淡黄色 内: 浅黄橙	E(2.5Y	(8/3)	砂粒微量淡橙色	含む	中世前	
22	12	10	SR02	土師器	坏		庭	氏径(6.3)		黄橙	色(10YR6/4)	砂粒少量	含む	外: 回轉	
22	13	10	SR02	瓦質土器	火鉢				外: 浅黄橙 内: 浅黄橙	色(7.	5YR8/3)	砂粒含ま 淡灰褐色	ない	風呂の	可能性あり 中世後半
22	14	10	SR02	肥前系磁器	碗	JB-1-d /	かe ロ	口径(10.2)	呉須、透明		31110/3/	灰白色		松竹梅	文 17C後葉~18C 初
22	15	10	SR02	肥前系磁器	碗	JB-1-€	e 底	延径4.8	呉須、透明	釉		白色		裏底銘	「大明年製」 1710~1720年代
22	16	10	SR02	肥前系磁器	坏	JB-6-b	b 🗆	1径(8.0)	透明釉			白色		17C 後	葉
22	17	10	SR02	肥前系磁器	Ш	JB-2-(a	(a) 底	延径(6.2)	呉須、透明	釉		淡灰褐色		畳付無	釉 1630~40年代
22	18	10	SR02	肥前系磁器	茄子形瓶	JB-10	0 底	毛径(8.4)	鉄釉			灰色		畳付釉	剥 17C 中葉頃
22	19	10	SR02	肥前系陶器	鉢	TB-5	5		藁灰釉			褐灰色		二次焼	成 18C 前半代
22	20	10	SR02	肥前系陶器	火入れ	TB-9	9		鉄釉			灰褐色		1650 ~	~1690 年代
22	21	10	SR02	肥前系陶器	鉢	TB-5-a	-a 底	毛径(8.8)	透明釉、白	色釉		褐色			安状文、目跡2点 高台内無釉 原なと標 176 第3 四半期内 3
22	22	10	SR02	肥前系陶器	Ш	TB-2)	1径(12.0) 器高3.3 底径4.0	灰釉			淡黄色		畳付に	原指標 17C 第3 四半期中心 糸切り痕 目跡4 点 高台内無釉 ~1610 年代
22	23	10	SR01	肥前系陶器	片口鉢	TB-23		1径(15.2)	灰釉			淡灰黄色			マリ後ナデ 1650~1690 年代
22	24	10	SR02	上野高取陶器	鉢	TB-5	5 底	氏径(5.2)	灰釉			暗褐色		17C 前	·····································
22	25	11	SR02	肥前系陶器	三彩鉢	TB-5-	-a 底	氏径(14.0)	錆釉化粧 :	がけ、	透明釉	淡赤橙色			文内:目跡2点 高台内無釉
22	26	10	SR02	堺·明石系陶器	擂鉢	TE-29	9		外: 橙色(5			橙色			葉~18C 前葉 目 18C 前半代
土製	L 品								内: 橙色(5) T NO/	0)				
挿図 番号	遺物番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	分類		法量(cm)	重	量(g)	色詞	周	胎	±	備考
23	6	11	SR02	土製品	土錘	I類	長さ5.4 孔径0.4	4 幅2.0 厚さ2.1 45	1	17.0	にぶい黄橙((10YR7/3)	<u> </u>			調整: ナデ 中膨らみ
23	7	11	SR02	土製品	土錘	I類		1 幅1.5 厚さ1.5	7	7.29	橙色(7.5YR6,	/6)			調整: 側面指押圧痕中膨らみ
23	8	11	SR02	土製品	土錘	Ⅱ類	_	6 幅3.1 厚さ1.0	5	50.0	にぶい橙色(7.5YR7/4)			調整: ナデ、木目圧痕 中膨らみ
23	9	11	SR02	陶器	土錘	Ⅱ類		7 幅不明 厚さ1.	.1 (1	14.0)	釉薬: 銹釉		褐色		須佐焼 18C代?
23	10	11	SR02	土製品	土錘	Ⅱ類	長さ(7.	.0) 幅3.9 厚さ(3	.6) (6	50.0)	橙色(7.5YR7)	/6)			調整: 両端部ケズリ
23	11	11	SR02	土製品	土錘	Ⅱ類	長さ6.6	6 幅3.1 厚さ1.0	9	98.0	橙色(5YR6/6)			調整: ケズリ
石製	品			J.			JULE 1.								1 80 2 77
挿図 番号	遺物 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種			法量(cm)			重量				備考
23	1	11	SR02	石製品	硯	長さ((7.3) 幅	(6.7) 厚さ1.5			(69.7)	硯縁高	わずか	砥石に	転用
23	2	11	SR02	石製品	砥石	長さ(*	(13.7)	幅6.2 厚さ6.0			(68.0)	6面(全	面) 使用		
23	3	11	SR02	石製品	砥石	長さ()	(7.8) 幅	4.2 厚さ1.3			(73.6)	剥離面	残る 3	面使用	
23	4	12	SR02	石製品	石臼	径29.0	.0 孔径	3.0 厚さ(最大)7.	5			下臼	副溝3~	5条	
23	5	12	SR02	石製品	手水鉢	口径(4	(47.2)						具による		整
銅製	品						H 12 (17 (2)					, , , , ,			
挿図 番号	遺物 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	名称			法量(cm)			量目(g)				備考
24	1	86	SR02	銭貨	洪武通寶	径2.25	25 × 2.27	7 孔0.47 ×0.47 厚	き0.15		2.71	(裏面)	「■銭」		
24	2	86	SR02	銭貨	寛永通寶	径2.3	31 ×2.28	3 孔0.59×0.59	厚さ0.11		2.07				
23 石製 挿図 番号 23 23 23 23 3 4 4 4 5 4 7 2 4 2 4	11 日 週物 番号 1 2 3 4 5	図版 番号 11 11 11 12 12 12	SR02 出土遺構 層位 SR02 SR02 SR02 SR02 SR02 SR02 SR02	主製品 種別 石製品 石製品 石製品 石製品 石製品	土錘 器種 硯 砥石	旧類 長さ(長さ(径29.0 口径(4	孔径(1. 長さ6.6 孔径1.1 (7.3) 幅 (7.8) 幅 (7.8) 幅 (47.2)	22) 6 幅3.1 厚さ1.0 1 法量(cm) 3(6.7) 厚さ1.5 幅6.2 厚さ6.0 [4.2 厚さ1.3 (3.0 厚さ(最大)7.	5 5 5		種量 (69.7) (68.0) (73.6) 量目(g) 2.71	現縁高 6面(全 刺離面 下臼 内外: コ次焼	でである。 では、 では、 では、 では、 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	面使用 5条 5削り調	中膨らみ調整・ケズリー・膨らみ偏考

挿図 番号	遺物番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	名称	法量(cm)	量目(g)	備考
24	3	86	SR02	銭貨	寛永通寶	径2.44×2.45 孔0.56×0.55 厚さ0.0	0.97	
24	4	86	SR02	銭貨	寛永通寶	径2.56×2.56 孔0.65×0.64 厚さ0.09	18.6(5 枚分)	5 枚固着(5 枚目裏面「文」) 法量計測値は一番上のみ
24	5	86	SR02	銭貨	寛永通寶	径2.36×? 孔0.47×? 厚さ0.12	(1.71)	
24	6	86	SR02	銭貨	不明	径2.44×2.44 孔0.64×0.65 厚さ0.12	1.89	
24	24	86	SR02	銅製品	煙管	長さ(4.7) 径1.0 厚さ0.1	(2.18)	
24	25	86	SR02	銅製品	煙管	長さ(1.7) 径1.2 厚さ0.1	(0.17)	
24	26	86	SR02	銅製品	不明	長さ(4.7) 幅1.2 厚さ0.4	(7.76)	器種不明
鉄器								
挿図 番号	遺物番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	法量(cm)	重量(g)	備考
24	7	80	SR02	鉄製品	鏃	長さ不明 幅不明 厚さ0.6	(23.40)	雁股形
24	8	80	SR02	鉄製品	Л	長さ(4.3) 幅3.8 厚さ0.4	(21.0)	刃部
24	9	80	SR02	鉄製品	刀子	長さ(10.5) 幅1.3 厚さ0.3	(33.0)	弧状
24	10	80	SR02	鉄製品	紡錘車	長さ4.8 幅不明 厚さ0.3	(35.0)	軸遺存
24	11	81	SR02	鉄製品	包丁	長さ17.75 幅3.3 厚さ0.4	(44.94)	
24	12	81	SR02	鉄製品	火打金	長さ(8.4) 幅2.15 厚さ0.4	(43.0)	山形 頭部に孔有 打撃部両端厚い
24	13	81	SR02	鉄製品	矠	長さ10.3 幅0.7 厚さ0.55	(30.0)	断面方形
24	14	81	SR02	鉄製品	矠	長さ12.4 幅0.8 厚さ0.7	(50.0)	断面方形
24	15	81	SR02	鉄製品	釘	長さ8.6 幅1.1 厚さ0.4	(28.0)	
24	16	81	SR02	鉄製品	釘	長さ9.3 幅1.0 厚さ0.7	(24.0)	平釘
24	17	81	SR02	鉄製品	釘	長さ7.3 幅0.6 厚さ0.6	(18.0)	皆折釘
24	18	81	SR02	鉄製品	釘	長さ6.3 幅1.5 厚さ0.6	(32.0)	
24	19	81	SR02	鉄製品	釘	長さ6.4 幅1.7 厚さ0.7	(45.0)	平釘
24	20	81	SR02	鉄製品	簪	長さ(6.7) 幅1.0 厚さ0.4	(10.0)	孔あり
24	21	81	SR02	鉄製品	鏃	長さ(4.4) 幅0.9 厚さ0.4	(10.0)	長頚鏃 ナデ関
24	22	80-81	SR02	鉄素材	板状鉄	長さ4.0 幅2.7 厚さ0.55	(20.0)	鉄製品の未成品か
24	23	81	SR02	鉄素材	鉄塊	長さ9.5 幅7.35 厚さ0.8	(376.08)	斑鋳鉄 磁着度:7 メタル度: 銹化
25	1	86	SR02	鍛冶関連	鉄滓	長さ10.3 幅7.9 厚さ5.1	320.0	鍛錬鍛冶滓か 磁着度:6 メタル度: 銹化
25	2	86	SR02	鍛冶関連	鉄滓	長さ10.2 幅7.5 厚さ(4.4)	592.0	砂鉄製錬滓 羽口痕有 磁着度:7 メタル度:H
25	3	86	SR02	鍛冶関連	鉄滓	長さ20.9 幅12.5 厚さ7.95	2760.0	大型 鍛錬鍛冶滓 磁着度:4 メタル度: 銹化
25	4	86	SR02	鍛冶関連	鉄滓	長さ13.15 幅8.2 厚さ5.7	645.0	砂鉄製錬滓か 磁着度:7 メタル度:H

第35表 SR03出土遺物観察表

陶磁器

挿図 番号	遺物 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・調整・その他
26	1	13	SR03	中国白磁	碗	大宰府V-2類	口径(15.3)	透明釉	灰白色	折れ縁口縁 11C後半~12C前半
26	2	13	SR03	中国白磁	碗皿			透明釉	白色	内: 線描き二重圏線、線描 「福」字 中世後半
26	3	12·13	SR03	中国白磁	碗	大宰府Ⅳ類	口径15.0 器高6.1 底径6.2"	透明釉	灰白色	製作欠陥の孔あり 内: 沈線 高台内無釉 11C 後半〜12C 前半
26	4	13	SR03	中国白磁	碗	大宰府C·D 期		透明釉	白色	内面段 中世前半
26	5	13	SR03	龍泉窯系青磁	碗	上田D類	口径(10.0)	青磁釉	灰白色	端反り口縁 15C
26	6	13	SR03	龍泉窯系青磁	碗	大宰府Ⅰ類	口径(19.0)	青磁釉	灰黄色	内: 飛雲文、劃花文 12C 後半
26	7	12.13	SR03	龍泉窯系青磁	碗	大宰府Ⅰ類	口径(16.0)	青磁釉	灰黄白色	内: 飛雲文、劃花文 12C 後半
26	8	13	SR03	龍泉窯系青磁	碗	大宰府 I 類 -4b	口径(15.0)	青磁釉	灰色	内: 飛雲文、劃花文 輪花口縁 12C後半~13C前半
26	9	13	SR03	龍泉窯系青磁	碗	上田C II類		青磁釉	灰白色	外: 雷文 15C
26	10	13	SR03	龍泉窯系青磁	坏		口径(12.3)	青磁釉	灰白色	中世後半
26	11	13	SR03	龍泉窯系青磁	坏か皿		底径(7.0)	青磁釉	淡灰橙色	高台内無釉 中世後半
26	12	13	SR03	龍泉窯系青磁	碗	上田E 類		青磁釉	淡橙色	外: 沈線文 15C

140

挿図 番号	遺物番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	分類	法量(cm)		色調	胎土	文様・調整・その他
26	13	13	SR03	龍泉窯系 青白磁	碗			青磁彩	±	灰白色	中世前半
26	14	13	SR03	龍泉窯系青磁	碗	上田D 類	底径(5.8)	青磁彩	±	灰黄色	高台釉剥 15C
26	15	13	SR03	龍泉窯系 青白磁	稜花皿	上田D 類		青磁彩	±	淡灰褐色	高台内無釉 15C
26	16	13	SR03	朝鮮陶器	耳壺か			褐釉		灰褐色	外: ハケメか 内: 同心円当具痕 15C 後半~16C
26	17	13	SR03	中国陶器か	壺		底径(15.8)	褐釉		灰褐色	不明
26	18	13	SR03	朝鮮陶器	瓶			褐釉		灰赤色	外: タタキ後ナデ 内: 回転ナデ、当具痕、ナデ 15C 後半~16C
26	19	13	SR03	朝鮮陶器	瓶?			褐釉		灰褐色	外: ハケメか 内: 同心円当具痕 15C 後半~16C
26	20	13	SR03	朝鮮陶器	瓶			褐釉		灰赤色	内: 同心円当具痕 15C 後半~16C
26	21	13	SR03	朝鮮 灰青沙器	碗		口径(17.0)	灰青彩	±	暗褐色	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ 16C
26	22	14	SR03	備前	壺	IVA	口径(12.3)		褐色(5YR5/2) 褐色(5YR5/2)	砂粒少量含む 淡灰褐色	14C 後半
26	23	14	SR03	備前	壺			内: 灰	暗褐色(7.5YR3/3) 砂粒少量含む 灰褐色(5YR4/2) 褐灰色		
26	24	13	SR03	備前	擂鉢	VB	底径(29.8)	内: 橙	色(5YR6/6) 色(5YR6/6)	砂粒少量含む 橙色	擂目1 単位5 条以上 15C
26	25	14	SR03	備前	壺			内: 灰	褐色(7.5YR3/2) 褐色(10YR5/1)	砂粒多く含む 暗灰色	外: 櫛目文5 条
26	26	14	SR03	東播系須恵器	鉢			内: 灰	色(10Y6/1) 色(10Y6/1)	砂粒少量含む	外: 沈線 中世前半
26	27	14	SR03	東播系須恵器	鉢			内: 灰	灰色(2.5Y6/1) 色(5Y6/1)	砂粒少量含む	中世前半
26	28	14	SR03	中世須恵器 (備前?)	鉢		口径(27.2)	内: 灰	色(N6/) 黄色(2.5Y5/1)	砂粒少量含む	須恵質 中世後半
26	29	14	SR03	瓦質土器 (土師質)	鉢			内: 淡	黄色(2.5Y8/3) 黄色(2.5Y8/3)	砂粒少量含む 淡黄色	内: ハケメ 中世後半
26	30	14	SR03	土師器	ш		底径(4.6)	内: 灰	白色(2.5Y8/2) 白色(2.5Y8/2)	砂粒微量含む	外: 回転糸切り 灰白色系土師器
26	31	14	SR03	土師器	坏		口径(12.0) 器高4.4 底径5.8		白色(2.5Y8/2) 白色(2.5Y8/2)	砂粒微量含む	外: 回転糸切り 灰白色系土師器
26	32	14	SR03	肥前系磁器	碗	JB-1-a	底径(5.8)	透明彩	#	灰白色	畳付釉剥 1630~50年代
26	33	14	SR03	肥前系磁器	碗	JB-1-a	底径(5.0)	呉須、	透明釉	白色	外: 圏線 1680 年代
26	34	14	SR03	肥前系陶器	碗	ТВ-1-с	底径5.0	呉須、	透明釉	灰黄色	外: 圏線、区割文様? 畳付アルミナ砂 1650 ~80 年代
27	1	14	SR03	肥前系磁器	ш	JB-2-a	底径(5.2)	呉須、	透明釉	灰白色	内: 草花文 畳付アルミナ砂 1630~50年
27	2	14	SR03	肥前系陶器	碗	TB-1-a	口径(11.0)	灰釉		灰黄褐色	1650~60年代
27	3	14	SR03	肥前系陶器	ш	TB-2-a	口径(11.6)	透明彩	<u> </u>	灰黄色	1650~1670年代
27	4	14	SR03	肥前系陶器	碗	TB-1-i		透明彩	<u> </u>	淡灰黄色	1650~90年代
27	5	14	SR03	肥前系陶器	碗	TB-1-a	底径(5.0)	灰釉		淡黄色	畳付釉剥 1690~1703 年頃
27	6	14	SR03	肥前系陶器	ш	TB-2- b	口径(10.6)	灰釉			17C前
27	7	14	SR03	肥前系陶器	ш	TB-2-(b)		透明彩	±	緑灰色	畳付釉剥 内野山北指標 17C 前半
27	8	14	SR03	肥前系陶器	ш	TB-2-d	口径(11.0)	透明彩	<u> </u>	淡灰褐色	底部無釉 1610 ~50 年代
27	9	14	SR03	肥前系陶器	Ш	TB-2-d	底径(4.6)	灰釉		淡橙色	目跡 2 1610~1650年代
27	10	14	SR03	肥前系陶器	鉢	TB-5-a		白化料	住土の上に透明釉	赤橙色	18C 前葉
27	11	14	SR03	肥前系陶器	香炉	TB-9		鉄釉	ぶい黄褐色(10YR5/3)	暗灰色	17C 後葉
27	12	14	SR03	肥前系陶器	甕	TB-15			ふい (具格色(101R3/3) 褐色(10YR3/3)	砂粒微量含む 赤褐色	刻目文を施す突帯文 17C 前半代
土製	遺物	図版	出土遺構								
番号	番号	番号	層位	種別	器種	分類	法量(cm·g) さ4.3 幅1.0 孔径0.3	色調 胎土 0.3 にぶい黄褐色 。		胎土	文様・調整・その他
27	14	14	SR03	土製品	土錘	¹ 類 重	量2.98g さ6.1 幅3.5 孔径1.5	(10YR5/3) 「 1.5 にない苦場色			中膨らみ
	15	14	SR03	土製品	土錘	押 重	量44g さ9.2 幅2.9 孔径1.2	(10YR5/3) 1.2 にぶい黄褐色			円柱形に近い 円柱形 両端切断
27 ————————————————————————————————————	16	14	SR03	土製品	土錘		量71g		(10YR5/3)		側面押圧痕顕著
石製 類別 番号	遺物番号	図版 番号	出土遺構層位	種別	器種		法量(cm)		重量(g)		文様・調整・その他
27	13	14	SR03	石製品	石鍋	口径(22.8)				外: ケズリ 内面:	細擦痕 滑石製
鉄器											
挿図 番号	遺物 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種		法量(cm)	(cm) 重量(g) 備考			備考
27	17	81	SR03	鉄製品	鏃	長さ(4.45)	幅1.55 厚さ0.6	で (30.0) 方頭形 鏃身先端欠損		·····································	
27	18	81	SR03	鉄製品	簪	長さ(7.2) 棹	副1.0 厚さ0.4	さ0.4 (19.71) 鑷子状 端部欠損			1
27	19	81	SR03	鉄製品	紡錘車	長さ5.2 厚	さ0.25		(56.0)		

挿図 番号	遺物 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	法量(cm)	重量(g)	備考
27	20	80-81	SR03	鉄製品	小札	長さ6.9 幅2.05 厚さ0.3	(15.08)	孔2 列14 力所
27	21	80-82	SR03	鉄製品	小札	長さ2.4 幅2.05 厚さ0.35	(4.10)	孔2列
27	22	82	SR03	鉄製品	金具	長さ1.9 幅0.3 厚さ0.4	(3.56)	断面隅丸方形
27	23	82	SR03	鉄製品	金具	長さ3.8 幅0.45 厚さ0.6	(24.0)	断面楕円形 鍛接
27	24	82	SR03	鉄製品	釘	長さ10.7 幅2.0(頭) 厚さ0.5	(40.0)	頭部は幅広
27	25	82	SR03	鉄製品	簪	長さ(10.9) 幅0.9 厚さ0.5	(28.0)	鑷子状 先端にかけて曲がる
27	26	82	SR03	鉄製品	釣針	長さ4.45 幅0.5 厚さ0.45	(14.0)	針先端欠損
27	27	82	SR03	鉄製品	金具	長さ5.5 幅2.2 厚さ0.2	(33.0)	締め金具か
27	28	82	SR03	鉄製品	繖	長さ(13.85) 幅0.4 厚さ0.5	(26.62)	鑷子状 頭部鉤状 身部中央付近から曲がる
27	29	82	SR03	鉄製品	釘	長さ(9.05) 幅1.0 厚さ1.0	(12.0)	頭部欠損 木質遺存
27	30	80-82	SR03	鉄素材	板状鉄	長さ(2.5) 幅1.9 厚さ0.4	(9.0)	鉄製品の未成品か
27	31	80.82	SR03	鉄素材	板状鉄	長さ(4.8) 幅1.9 厚さ0.4	(12.0)	鉄製品の未成品か
27	32	80-82	SR03	鉄素材	板状鉄	長さ6.6 幅2.3 厚さ0.3	(14.83)	鉄製品の未成品か
27	33	82	SR03	鉄素材	棒状鉄	長さ(6.2) 幅0.95 厚さ0.25	(13.0)	
27	34	82	SR03	鍛冶関連	鉄滓	長さ5.45 幅2.0 厚さ2.3	(38.0)	鍛錬鍛冶滓か 磁着度:7 メタル度: 銹化
27	35	82	SR03	鉄素材	鉄塊	長さ4.0 幅2.3 厚さ1.5	(31.0)	錬鉄か 磁着度:5 メタル度: M
27	36	82	SR03	鉄素材	鉄塊	長さ7.0 幅6.7 厚さ(1.4)	(212.0)	錬鉄か 磁着度:8 メタル度: 特L

第36表 SR04出土遺物観察表 陶磁器

нн									
遺物 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・調整・その他
1	15	SR04	龍泉窯系青磁	碗	上田B II 類		青磁釉	灰白色	片彫蓮弁文 15~16C
2	15	SR04	龍泉窯系青磁	碗	上田C II 類		青磁釉	灰黄白色	雷文 15C
3	15	SR04	同安窯系青磁	碗	同安 類	口径(13.0)	青磁釉	灰色	外: 沈線、櫛目文 内: 櫛目文 12C 後半~13C 後半
4	15	SR04	龍泉窯系青磁	碗	上田D類	口径(15.0)	青磁釉	灰黄色	端反り口縁 15C
5	15	SR04	中国白磁	Ш		底径(5.4)	透明釉	灰色	16C 後半
6	15	SR04	漳州窯系青花	ш			透明釉、青料	灰白色	内: 圏線 16C
7	15	SR04	瀬戸美濃	卸目大皿		口径(33.0)	灰釉	灰黄色	15C
8	15	SR04	瓦質土器	鉢			外: 灰色(N6/) 内: 灰色(N6/)	砂粒含まない 淡灰黄色	外: ハケメ、ナデ 内: ハケメ 中世前半
9	15	SR04	肥前系陶器	二彩鉢	TB-5		白化粧土、緑釉柄杓がけ後 透明釉	灰赤色	内: ハケメ、段 17C` 後葉
	遺物 番号 1 2 3 4 5 6 7	遺物 番号 1 15 2 15 3 15 4 15 5 15 6 15 7 15 8 15	週物 番号 図版 番号 出土遺構 層位 1 15 SR04 2 15 SR04 3 15 SR04 4 15 SR04 5 15 SR04 6 15 SR04 7 15 SR04 8 15 SR04	週物 番号 図版 番号 出土遺構 層位 種別 1 15 SR04 龍泉窯系青磁 2 15 SR04 同安窯系青磁 3 15 SR04 同安窯系青磁 4 15 SR04 市里白磁 5 15 SR04 中国白磁 6 15 SR04 瀬戸美濃 8 15 SR04 瓦質土器	週物 番号 図版 番号 出土遺構 層位 種別 器種 1 15 SR04 能泉窯系青磁 碗 2 15 SR04 龍泉窯系青磁 碗 3 15 SR04 同安窯系青磁 碗 4 15 SR04 龍泉窯系青磁 碗 5 15 SR04 中国白磁 皿 6 15 SR04 海州窯系青花 皿 7 15 SR04 瀬戸美濃 卸目大皿 8 15 SR04 瓦賀土器 鉢	週物 番号 図版 番号 出土遺構 層位 種別 器種 分類 1 15 SR04 龍泉窯系青磁 碗 上田B II 類 2 15 SR04 龍泉窯系青磁 碗 上田C II 類 3 15 SR04 同安窯系青磁 碗 同日 頁 I 類 4 15 SR04 龍泉窯系青磁 碗 上田D 類 5 15 SR04 中国白磁 皿 6 15 SR04 漳州窯系青花 皿 7 15 SR04 瀬戸美濃 卸目大皿 8 15 SR04 瓦質土器 鉢	適物 番号 図版 番号 出土遺構 層位 種別 器種 分類 法量(cm) 1 15 SR04 龍泉窯系青磁 碗 上田B II 類 2 15 SR04 龍泉窯系青磁 碗 上田C II 類 3 15 SR04 同安窯系青磁 碗 同安 I 類 口径(13.0) 4 15 SR04 龍泉窯系青磁 碗 上田D 類 口径(15.0) 5 15 SR04 中国白磁 皿 庭径(5.4) 6 15 SR04 漳州窯系青花 皿 口径(33.0) 8 15 SR04 瓦質土器 鉢	遺物 番号 図版 番号 出土遺構 層位 種別 器種 分類 法量(m) 色調 1 15 SR04 龍泉窯系青磁 碗 上田B II 類 青磁轴 2 15 SR04 龍泉窯系青磁 碗 上田C II 類 青磁轴 3 15 SR04 同安窯系青磁 碗 上田D 類 口径(13.0) 青磁轴 4 15 SR04 龍泉窯系青磁 碗 上田D 類 口径(15.0) 青磁轴 5 15 SR04 中国白磁 皿 庭径(5.4) 透明軸 6 15 SR04 漳州窯系青花 皿 透明軸、青料 7 15 SR04 瀬戸美濃 卸目大皿 口径(33.0) 灰釉 8 15 SR04 瓦賀土器 鉢 工程会 口径(15.0) 自化粧上線軸柄的がけ後	遺物 番号 図版 番号 出土遺構 層位 種別 器種 分類 法量(m) 色調 胎土 1 15 SR04 龍泉窯系青磁 碗 上田B II 類 青磁釉 灰白色 2 15 SR04 龍泉窯系青磁 碗 上田C II 類 青磁釉 灰色 3 15 SR04 同安窯系青磁 碗 上田D 類 口径(15.0) 青磁釉 灰黄色 4 15 SR04 韓泉窯系青磁 碗 上田D 類 口径(15.0) 青磁釉 灰黄色 5 15 SR04 中国白磁 皿 底径(5.4) 透明釉 灰色 6 15 SR04 漳州窯系青花 皿 透明釉、青料 灰白色 7 15 SR04 瀬戸美濃 卸目大皿 口径(33.0) 灰釉 灰色 8 15 SR04 瓦賀土器 鉢 工程会 口径(33.0) 灰釉 砂粒含まない 淡灰黄色 9 15 SR04 原理品 本 工程会 日本金 日本金 日本金 日本金 日本金 日本金

土製品

挿図 番号	挿図 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	分類	法量(cm)	重量(g)	色調	胎土	備考
29	12	15	SR04	土製品	土錘	Ⅲ類	長さ8.4 幅2.7 厚さ2.7 孔径1.35	64.0	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	砂粒微量含む	調整: ケズリ、側面指押圧痕 両端部刃物によるカット 大型・筒状

鉄器

挿図 番号	挿図 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	法量(cm)	重量(g)	備考
29	28	82	SR04	鉄製品	釘	長さ(4.8) 幅0.6 厚さ0.4	(6.0)	皆折釘
29	29	82	SR04	鉄製品	鏃	長さ(4.8) 幅0.8 厚さ0.6	(6.0)	茎部

第37表 SR05出土遺物実観察表

陶磁器

挿図 番号	遺物 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・調整・その他
29	10	15	SR05	徳化窯白磁	ш		底径5.6	透明釉	灰白色	型作り 高台内無釉 14~15C
29	13	15	SR05	中国白磁	Ш	大宰府VI類	底径(5.4)	透明釉	灰黄橙色	内: 刻花文 底部釉剥 11C後半~12C前半
29	14	15	SR05	龍泉系青磁	碗	上田C II類		青磁釉	灰色	外: 幅広の蓮弁文 15C
29	15	15	SR05	龍泉系青磁	碗	上田B IV類		青磁釉	灰黄色	内: 線描蓮弁文 16C
29	16	15	SR05	龍泉系青磁	碗	上田C II類		青磁釉	灰色	雷文 15C
29	17	15	SR05	朝鮮 灰青沙器	小皿		口径(9.8)	灰青釉	淡灰褐色	16C
29	18	15	SR05	土師器	坏か皿		底径(4.4)	外: 浅黄橙色(10YR8/3) 内: 浅黄橙色(10YR8/3)	砂粒少量含む	外: 回転糸切り 褐色系土師器

142

挿図 番号	遺物 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	分類	法量(cm)		色調]	胎士		文様・調整・その	D他
29	19	15	SR05	瓦質土器	火鉢				も (7.5 も (7.5 も (7.5		砂粒含また 淡灰褐色	il)	1日の可能性あり	
土製	品													
挿図 番号	挿図 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	分類	法量(cm)		重量(g)	色	調	胎土	備考	
29	11	15	SR05	土製品	土錘		さ5.7 幅1.4 厚さ1.2 、径0.4	!	6.69		黄橙色 R7/3)	砂粒微量	含む 調整: ナデ 小型・中膨	5 <i>a</i>
鉄器														
挿図 番号	挿図 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種		法量(cm)		重	重量(g)			備考	
29	20	82	SR05	鉄素材	鉄塊	長さ3.0 幅	2.1 厚さ2.0		(15.2)	磁着度:4 >	✓タル度: 釒	新化	
29	21	82	SR05	鉄素材	板状鉄	長さ(2.7) 巾	福1.9 厚さ0.4			(6.0)	鉄製品の未	成品か		

第38表 SR07出土遺物観察表

陶磁器

1 . 5 . 2424	нн									
挿図 番号	遺物 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・調整・その他
29	22	15	SR07	備前	擂鉢	IVA		外: 灰褐色(5YR4/2) 内: 灰褐色(5YR4/2)	砂粒少量含む 灰赤褐色	擂目1 単位9 条
29	23	15	SR07	土師器	坏		再後(8.7)	外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒微量含む	回転糸切り 褐色系土師器
29	25	15	SR07	防長系 瓦質土器	擂鉢				砂粒含まない 淡灰黄色	内: ハケメ、擂目1 単位5 条 15C ~16C

土製品

挿図 番号	挿図 番号	図版 No.	出土遺構 層位	種別	器種	分類	法量(cm)	重量(g)	色調	胎土	備考
29	24	15	SR07	土製品	土錘		長さ(3.2) 幅1.3 厚さ1.2 孔径0.6	3.78	灰白色(5Y8/1)	砂粒微量含む	調整: ナデ 小型・中膨らみ

鉄器

挿図 番号	挿図 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	法量(cm)	重量(g)	備考
29	26	82	SR07	鉄製品	釘	長さ7.1 幅0.8 厚さ0.6	(18.0)	平釘
29	27	82	SR07	鉄製品	矠	長さ(7.65) 幅0.55 厚さ0.45	(16.0)	断面隅丸方形
29	30	82	SR07	鉄素材	鉄塊	長さ2.25 幅2.05 厚さ0.95	(16.0)	磁着度:3 メタル度: 銹化
29	31	80.82	SR07	鉄素材	棒状鉄	長さ8.9 幅1.3 厚さ0.7	(57.0)	両端やや細くなる a類

第39表 SR10出土遺物観察表

弥生土器・土師器・須恵器

٠ ، د ر	— пп		1111 /SK	COURT						
挿図 番号	遺物 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・調整・その他
32	1	16	SR10 下層 (IV層)	弥生土器	壺	石見 -2 様式		外: 浅黄橙色(10YR8/4) 内: にぶい黄橙色(10YR7/4)	砂粒少量含む	外: ミガキ、段 内: ハケメ、ナデ
32	2	16	SR10 下層 (IV層)	弥生土器	壺	石見 -2 様式		外: 橙色(7.5YR6/6) 内: にぶい黄橙色(10YR7/3)	砂粒微量含む	外: ミガキ、段(ハケメ残る) 内: ナデ
32	3	16	SR10 下層 (IV層)	弥生土器	壺?底部	石見 様式?	底径(8.8)	外: 橙色(7.5YR6/6) 内: 明黄橙色(10YR7/6)	砂粒少量含む	外: ミガキ 内: ミガキ
32	4	16	SR10 下層 (IV層)	弥生土器	甕底部	石見 様式?	底径(9.9)	外: 橙色(5YR6/6) 内: 浅橙色(10YR8/4)	砂粒多く含む	外: ハケメ、ナデ(底) 内: ナデ
32	5	16	SR10 下層 (IV層)	弥生土器	壺	石見Ⅲ-1 様式		外: 灰白色(2.5Y8/2) 内: 黒褐色(2.5Y3/1)	砂粒少量含む	外: 突帯文2 条、刺突文(櫛状工具) 内: ナデ、絞り目
32	6	16	SR10 下層 (IV層)	弥生土器	底部	石見Ⅲ様式?	底径4.0	外: 灰黄褐色(10YR4/6) 内: にぶい黄褐色(10YR5/3)	砂粒少量含む	外: ミガキ、ナデ(底部) 内: ナデ
32	7	16	SR10 下層 (IV層)	弥生土器	甕底部	石見 様式	底径(8.9)	外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒少量含む	外: ハケメ、ナデ(底部) 内: ナデ
32	8	17	SR10 下層 (IV層)	弥生土器	甕	石見V-1 様式	口径(20.7)	外: 灰黄褐色(10YR5/2) 内: 黒褐色(2.5Y3/1)	無色、白色砂粒多く含む	外: 口縁凹線4条、沈線3条間に羽状文(二枚貝腹縁) 内: ナデ、ケズリ
32	9	16	SR10 下層 (IV層)	弥生土器	魏	石見V-1 様式		外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 黄橙色(7.5YR7/8)	砂粒少量含む	外: 沈線4 条以上(櫛状工具) 内: ナデ、ケズリ
32	10	16	SR10 下層 (IV層)	弥生土器	甕	石見V-2 様式	口径(17.2)	外: 明褐灰色(7.5YR7/3) 内: にぶい黄橙色(10YR7/4)	砂粒多く含む	外: 凹線文5 条、刺突文(ヘラ状工具) 内: ナデ、ケズリ
32	11	17	SR10 下層 (IV層)	弥生土器	甕	石見V-2 様式	口径19.4	外: 黄橙色(10YR8/6) 内: 黄橙色(10YR8/6)	砂粒多く含む	外: 口縁沈線7 条(櫛ではない) 内: ナデ、ケズリ
32	12	17	SR10 下層 (IV層)	弥生土器	魏	石見V-2 様式	口径(17.4)	外: にぶい黄橙色(7.5YR7/3) 内: にぶい黄橙色(10YR7/4)	砂粒少量含む	外: 擬凹線6 条 内: ナデ
32	13	16	SR10 下層 (IV層)	弥生土器	魙	石見V-2 様式	口径(17.2)	外: にぶい黄橙色(10YR7/4) 内: 明黄褐色(10YR7/6)	砂粒多く含む	外: 擬凹線4条 内: ナデ、ケズリ
32	14	16	SR10 下層 (IV層)	弥生土器	甕	石見V-2 様式		外: 灰白色(5Y8/2) 内: 浅黄色(2.5Y7/3)	砂粒多く含む	外: 口縁擬凹線10条 肩部押引き 内: ヨコナデ、ケズリ
32	15	17	SR10 下層 (IV層)	弥生土器	甕	石見V-4様 式?	口径(20.5)	外: にぶい黄橙色(10YR7/4) 内: にぶい黄橙色(10YR6/3)	赤色砂粒少量 含む	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ、ケズリ
32	16	16	SR10 下層 (IV層)	弥生土器	壺			外: 明黄褐色(10YR8/6) 内: にぶい黄橙色(10YR8/6)	無色、白色、赤色 砂粒含む	外: 口縁擬凹線か、ナデ 内: ヨコナデ、ケズリ
32	17	16	SR10 下層 (IV層)	土師器	甕	古墳時代前期	口径(18.0)	外: 黄橙色(7.5YR8/8) 内: 浅黄橙色(7.5YR8/6)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ、ハケメ後ナデ 内: ヨコナデ
32	18	16	SR10 下層 (IV層)	土師器	甕か器台	古墳時代前期	口径(19.0)	外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 明黄褐色(10YR7/6)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ、ハケメ後ナデ 内: ハケメ後ナデ
32	19	16	SR10 下層 (IV層)	弥生土器	底部	石見V様式	底径(4.4)	外: にぶい黄橙色(10YR7/4) 内: 浅黄色(10YR8/3)	砂粒多く含む	外: ハケメ、ミガキ、ナデ 内: ケズリ

143

挿図 番号	遺物番号	図版番号	出土遺構層位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・調整・その他
32	20	16	SR10 下層 (IV層)	弥生土器	底部	石見V様式	底径(4.8)	外: 浅橙色(2.5YR7/4) 内: 淡黄色(2.5YR8/4)	砂粒含む	外: 調整不明 内: ケズリ
32	21	17	SR10 下層 (IV層)	土師器	甕	古墳時代前期	口径(14.1)	外: 浅黄橙色(10YR8/4) 内: 明黄褐色(10YR7/6)	白色砂粒多く 含む	外: ヨコナデ、ハケメ 肩部に刺突文(板状工具) 内: ヨコナデ、ケズリ、ナデ
32	22	16	SR10 下層 (IV層)	土師器	小型壺		口径(10.6)	外: 橙色(7.5YR8/3) 内: 橙色(7.5YR8/3)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ、ケズリ
32	23	16	SR10 下層	土師器	小型壺		口径(10.8)	外: 浅黄橙色(10YR8/4)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ、ミガキ
32	24	16	(IV層) SR10 下層	土師器	壺	古墳時代前期		内: 浅黄橙色(10YR8/4) 外: にぶい黄橙色(10YR7/6)	砂粒少量含む	内: ヨコナデ、ミガキ 外: 肩部刺突文、ハケメ、ナデ
			(IV層) SR10				L ##477 (4.5.0)	内: にぶい黄橙色(10YR7/6) 外: 浅黄橙色(10YR8/3)		内: ケズリ 外: ヨコナデ
32	25	16	土器溜まり SR10	土師器	甕	I A	上端径(16.0)	内: にぶい黄橙色(10YR7/4) 外: 橙色(5YR7/8)	砂粒少量含む	内: ハケメ後ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ、胴部種子痕か、煤付着
32	26	17	土器溜まり SR10	土師器	甕	IBa	器高(17.5)	内: 橙色(5YR6/8) 外: 明赤褐色(5YR5/6)	含む	内: ヨコナデ、ケズリ 外: 凹線1条、ヨコナデ、ハケメ後ナデ
32	27	16	土器溜まり	土師器	甕	IВа	口径(18.4)	内: 橙色(5YR6/8)	砂粒少量含む	内: ヨコナデ、ナデ、ケズリ
32	28	16	SR10 土器溜まり	土師器	甕	IВа	口径(17.6)	外: 橙色(2.5YR6/8) 内: 橙色(5YR6/8)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、ケズリ
33	1	18	SR10 土器溜まり	土師器	熟	IВа	口径(12.0)	外: 橙色(5YR7/6) 内: 橙色(5YR6/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ
33	2	18	SR10 土器溜まり	土師器	甕	ΙВа	口径(14.8)	外: 橙色(7.5YR6/6) 内: 灰黄褐色(10YR5/2)	砂粒微量含む	外: 凹線1 条、ヨコナデ 内: ヨコナデ、ケズリ
33	3	18	SR10 土器溜まり	土師器	甕	IВа	口径(14.0)	外: にぶい黄橙色(10YR7/4) 内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ
33	4	18	SR10 土器溜まり	土師器	甕	IВа	口径(12.8)	外: 黄橙色(7.5YR7/8) 内: 黄橙色(7.5YR7/8)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ 下端は擬口縁?
33	5	18	SR10 土器溜まり	土師器	甕	ΙΒa	口径(20.8)	外: 明黄褐色(10YR6/6) 内: 明赤褐色(5YR5/6)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ、ハケメ後ヨコナデ 内: ヨコナデ、ケズリ
33	6	17	SR10	土師器	甕	I B a	口径(19.8)	外: 橙色(5YR7/8)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ
33	7	17	土器溜まり SR10	土師器	甕	l B a	口径17.7	内: 橙色(5YR7/8) 外: 明黄褐色(10YR7/6)	白色砂粒多く	内: ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ後ヨコナデ
33	8	18	土器溜まり SR10	土師器	甕	I B a	口径17.4	内: 橙色(7.5YR7/6) 外: 明褐色(7.5YR5/8)	含む 砂粒少量含む	内: ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ、胴部被熱により変色
33	9	18	SR10	土師器	甕	I B a	器高28.6 口径(16.6)	内: 橙色(7.5YR6/6) 外: にぶい黄橙色(10YR6/4)	砂粒少量含む	内: 口縁ハケメ後ナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ後ヨコナデ
			土器溜まり SR10					内: 橙色(7.5YR6/6) 外: 浅黄橙色(10YR8/4)		内: ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ、凹線1 条
33	10	18	土器溜まり SR10	土師器	甕	IBa	口径(19.0) 口径19.7	内: 明黄褐色(10YR7/6) 外: 明黄褐色(10YR7/6)	砂粒少量含む	内: ヨコナデ、ケズリ 口唇平坦面 外: ナデ 口唇平坦面
33	11	18	土器溜まり SR10	土師器	甕	IBb	器高(29.0) 口径19.8	内: にぶい黄橙色(10YR7/4)	砂粒少量含む	内: ヨコナデ、ヘラケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ後ナデ、体部下半黒変
33	12	18	土器溜まり	土師器	雅	IBb	出在19.6 器高29.0	外: 浅黄橙色(10YR8/3) 内: 浅黄橙色(10YR8/4)	砂粒少量含む	内: ヨコナデ、ケズリ
34	1	18	SR10 土器溜まり	土師器	熟	ΙΒb	口径(19.0)	外: 浅黄橙色(10YR8/4) 内: 明黄褐色(10YR7/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、凹線1 条 口唇平坦面 内: ヨコナデ、ケズリ
34	2	19	SR10 土器溜まり	土師器	甕	I B d	口径(18.8)	外: にぶい橙色(7.5YR6/4) 内: 橙色(7.5YR6/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ 内: 頸部ハケメ残る、ケズリ
34	3	19	SR10 土器溜まり	土師器	54E 25C	IBd	口径(17.8)	外: 明赤褐色(5YR5/6) 内: 黄褐色(10YR5/6)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ、ケズリ
34	4	19	SR10 土器溜まり	土師器	甕	ΙΒb	口径(19.9)	外: 黄褐色(10YR5/8) 内: 明黄褐色(10YR6/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ハケメ後ヨコナデ ロ唇平坦面 内: ヨコナデ、ケズリ
34	5	19	SR10 土器溜まり	土師器	甕	ΙΒb	口径(14.4)	外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ、ケズリ
34	6	19	SR10 土器溜まり	土師器	甕	ΙΒb	口径(20.8)	外: にぶい黄橙色(10YR6/4) 内: 明黄褐色(10YR7/6)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ、頸部ハケメ後ヨコナデ 内: ヨコナデ、ケズリ
34	7	19	SR10 土器溜まり	土師器	甕	IBb	口径(21.8)	外: にぶい黄橙色(10YR4/6) 内: 橙色(7.5YR6/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ、ケズリ
34	8	19	SR10	土師器	甕	IBb	口径(21.8)	外: 橙色(7.5YR6/6)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ、ハケメ後ヨコナデか
34	9	19	土器溜まり SR10	土師器	甕	IBb	口径(16.8)	内: 橙色(7.5YR6/8) 外: 浅黄橙色(7.5YR8/6)	砂粒多く含む	内: ヨコナデ、口縁ハケメー部残る、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ、胴部煤付着
34	10	19	土器溜まり SR10	土師器	甕	IBb	口径(20.8)	内: 浅黄橙色(10YR8/4) 外: 橙色(5YR6/6)	砂粒少量含む	内: ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ 口唇平坦面
34	11	19	土器溜まり SR10	土師器	甕	I B c	口径(11.2)	内: 明黄褐色(10YR7/6) 外: にぶい黄橙色(10YR7/4)	砂粒少量含む	内: ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ後ナデ
			SR10					内: にぶい黄橙色(10YR7/4) 外: 橙色(7.5YR7/)		内: ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ
34	12	20	土器溜まり SR10	土師器	甕	IBb	口径(23.4)	内: 橙色(7.5YR6/6) 外: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒少量含む	内: ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ、ナデ、胴部煤付着
34	13	20	土器溜まり SR10	土師器	甕	IBc	器高19.4	内: にぶい橙色(7.5YR7/4) 外: にぶい黄橙色(10YR7/4	砂粒多く含む	内: ヨコナデ、ケズリ、底面黒変 口唇平坦面 外: ヨコナデ
34	14	19	土器溜まり SR10	土師器	甕	I B c	口径(13.2)	内: にぶい黄橙色(10YR7/4) 内: まぶい黄橙色(10YR7/4) 外: 黄褐色(10YR5/6)	砂粒微量含む	内: ヨコナデ、ケズリ、指押圧痕 外: ヨコナデ、ハケメ後ヨコナデ
34	15	19	土器溜まり	土師器	甕	I B c	口径(13.6)	内: 黄橙色(10YR8/6)	砂粒微量含む	内: ヨコナデ、ケズリ
34	16	20	SR10 土器溜まり	土師器	甕	I C a	口径(18.2)	外: 明黄褐色(10YR7/6) 内: にぶい橙色7.5YR7/4)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ、ナデ、口縁部部分的に黒変、赤彩 内: ヨコナデ、ケズリ
34	17	20	SR10 土器溜まり	土師器	甕	I C a	口径(15.2)	外: 浅黄橙色(7.5YR8/3) 内: にぶい黄橙色(7.5YR7/4)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、ケズリ
34	18	20	SR10 土器溜まり	土師器	甕	I C a	口径16.0 器高23.5	外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 橙色(7.5YR7/6)	白色砂粒多く含 む	外: ヨコナデ、ハケメ、胴部煤付着 口唇平坦面 内: ヨコナデ、ケズリ、下半黒変
34	19	20	SR10 土器溜まり	土師器	甕	I C a	口径(14.8)	外: 浅黄橙色(10YR8/4) 内: 浅黄橙色(10YR8/4)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ、ケズリ
34	20	20	SR10 土器溜まり	土師器	甕	I C b	口径(18.4)	外: 橙色(5YR6/6) 内: 明黄褐色(10YR 6/6)	砂粒微量含む	外: ハケメ、ヨコナデ 内: ヨコナデ、ケズリ
34	21	21	SR10 土器溜まり	土師器	甕	I C a	口径(18.0)	外: にぶい橙色(7.5YR7/4) 内: にぶい橙色(7.5YR7/4)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、粗いハケメ 内: ヨコナデ、ハケメ、ケズリ
34	22	21	SR10	土師器	<u>31</u>	ICb	口径(18.6)	外: 橙色(7.5YR6/6)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ
35	1	21	土器溜まり SR10	土師器	甕	I C b	口径(16.6)	内: 橙色(7.5YR6/8) 外: 明褐色(7.5YR5/6)	砂粒少量含む	内: ヨコナデ
35	2	21	土器溜まり SR10	土師器	甕	ICb	口径(15.6)	内: 橙色(7.5YR6/6) 外: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒微量含む	内: 口縁ハケメ後ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、指押圧痕 口唇外反
	3	21	土器溜まり SR10			ICb	口径(19.0)	内: 明黄褐色(10YR7/6) 外: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒微量含む	内: ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ 稜僅かな段
35	_ 5	21	土器溜まり	土師器	甕	100	山1至(19.0)	内: にぶい橙色(7.5YR7/4)	砂粒城重ざむ	内: 口縁ハケメ・ヨコナデ、胴部ケズリ

挿図 番号	遺物番号	図版 番号	出土遺構層位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・調整・その他
35	4	20	SR10 土器溜まり	土師器	24E	I C b	口径17.4	外: 橙色(2.5YR6/8)	白色砂粒多く含む	外: ヨコナデ、ハケメ後ヨコナデ
35	5	20	土器溜まり SR10 土器溜まり	土師器	甕	I C b	口径(18.2)	内: 橙色(5YR6/8) 外: にぶい黄橙色(10YR7/4) 内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒多く含む	内: ミガキか、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ後ヨコナデ、胴部煤付着 内: ヨコナデ、ケズリ
35	6	21	SR10	土師器	甕	I C c	口径(17.6)	外: にぶい黄褐色(10YR5/3)	砂粒少量含む	外: 口縁凹線1 条、ヨコナデ、ハケメ
35	7	22	土器溜まり SR10	土師器	雅	I C b	口径(18.6)	内: 褐灰色(10YR4/1) 外: 橙色(7.5YR6/6)	砂粒少量含む	内: 口縁ハケメ後ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ
35	8	21	土器溜まり SR10	土師器	甕	I C c	器高29.5 口径(15.6)	内: にぶい黄橙色(10YR7/4) 外: にぶい褐色(7.5YR5/4)	砂粒少量含む	内: ヨコナデ、ナデ、ケズリ、底部黒変 外: 口縁凹線1 条、ハケメ後ヨコナデ
-	9	21	土器溜まり SR10	土師器	甕	I C c		内: 明褐色(7.5YR5/6) 外: 明褐色(7.5YR5/6)	砂粒少量含む	内: ヨコナデ、ケズリ 外: 口縁凹線1 条、ヨコナデ
35			土器溜まり SR10				口径(14.8)	内: にぶい黄褐色(10YR4/3) 外: にぶい黄橙色(10YR6/4)		内: 口縁ハケメ後ヨコナデ、ケズリ 外: 凹線1 条、ヨコナデ、ハケメ後ナデ
35	10	21	土器溜まり SR10	土師器	甕	I C c	口径(22.4)	内: にぶい黄褐色(10YR5/3) 外: 橙色(5YR6/6)	砂粒少量含む	内: ヨコナデ、ケズリ 外: 口縁凹線1 条、ヨコナデ、ハケメ 頸部長い
35	11	21	土器溜まり SR10	土師器	甕	I C c	口径(16.8)	内: 橙色(5YR6/6) 外: 橙色(7.5YR6/6)	砂粒少量含む	内: ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ
35	12	22	土器溜まり SR10	土師器	甕	ICb	口径(22.6)	内: 橙色(7.5YR6/6) 外: 鈍い赤褐色 (5YR4/4)	砂粒多く含む	内: ヨコナデ、頸部ハケメ、ケズリ
35	13	21	土器溜まり	土師器	甕	I C c	口径 (22.6)	内: 明赤褐色 (5YR5/6)	砂粒多く含む	内外面ヨコナデ
35	14	21	SR10 土器溜まり	土師器	甕	ПАа	口径(19.6)	外: 橙色(7.5YR7/6) 内: にぶい黄橙色(10YR6/4)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、頸部ハケメ、ケズリ 内面頸部に粘土接合痕
36	Ι	21	SR10 土器溜まり	土師器	甕	II A a	口径(29.8)	外: にぶい黄橙色(10YR7/3) 内: 明黄褐色(10YR6/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ
36	2	21	SR10 土器溜まり	土師器	34E	II A a	口径(22.0)	外: 橙色(7.5YR6/6) 内: 橙色(7.5YR6/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ、ケズリ
36	3	21	SR10 土器溜まり	土師器	雞	II A b	口径(20.6)	外: 橙色(5YR6/6) 内: 橙色(5YR6/6)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ
36	4	21	SR10 土器溜まり	土師器	甕	II A a	口径(10.0)	外: 浅黄橙色(7.5YR8/4) 内: 浅黄橙色(7.5YR8/4)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ、ケズリ
36	5	21	SR10 土器溜まり	土師器	雞	II A a	口径(16.7)	外: 明黄褐色(10YR6/6) 内: にぶい黄橙色(10YR6/4)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ 内: ヨコナデ、ケズリ
36	6	22	工品温まり SR10 土器溜まり	土師器	甕	II A b	口径(13.6)	外: 明黄褐色(10YR6/6) 内: 明黄褐色(10YR6/6)	砂粒微量含む	
36	7	22	SR10	土師器	難	II A b	口径(15.4)	外: 橙色(5YR7/6)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ 口唇平坦面
36	8	22	土器溜まり SR10	土師器	甕	II A b	口径(16.9)	内: 明黄褐色(10YR7/6) 外: 浅黄橙色(7.5YR8/4)	砂粒微量含む	内: 口縁ハケメ後ヨコナデ、ケズリ 外: ハケメ後ヨコナデ
36	9	22	土器溜まり SR10 土器溜まり	土師器	建	II A b	口径(16.0) 器高26.1	内: 浅黄橙色(7.5YR8/4) 外: 橙色(2.5YR6/6) 内: 橙色(2.5YR6/6)	砂粒少量含む	内: ハケメ、ヨコナデ、指押圧痕、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ、ハケメ後ヨコナデ、指押 圧痕2 列、胴部煤付着
36	10	22	SR10	土師器	甕	II A b	口径(19.4)	外: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒微量含む	内: ヨコナデ、ケズリ、指押圧痕、底部黒変 外: ヨコナデ、ハケメ
-		22	土器溜まり SR10	土師器	雍			内: 明黄褐色(10YR7/6) 外: 浅黄橙色(10YR8/3)	砂粒微量含む	内: ヨコナデ、ナデ、ケズリ、口縁一部にハケメ 外: ヨコナデ、ハケメ
36	11		土器溜まり SR10			II A b	口径(17.0)	内: 浅黄橙色(10YR8/3) 外: にぶい橙色(7.5YR6/4)		内: ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ後ヨコナデ
36	12	22	土器溜まり SR10	土師器	雞	II A b	口径(17.8)	内: 橙色(7.5YR7/6) 外: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒微量含む	内: ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ
36	13	22	土器溜まり SR10	土師器	難	II A b	口径(15.8)	内: 橙色(7.5YR6/6) 外: 明赤褐色(5YR5/8)	砂粒微量含む	内: ヨコナデ 外: ヨコナデ
36	14	22	土器溜まり SR10	土師器	甕	II B	口径(14.0)	内: 明赤褐色(5YR5/8) 外: 橙色(5YR6/6)	砂粒微量含む	内: ヨコナデ" 外: ヨコナデ、ハケメヨコナデ
36	15	22	土器溜まり	土師器	甕	II B	口径(16.0)	内: 明赤褐色(5YR5/6)	砂粒微量含む	内: ロ縁ハケメ残る、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ後ヨコナデ
36	16	22	SR10 土器溜まり	土師器	甕	II B	口径(14.6)	外: 明褐色(7.5YR5/8) 内: 橙色(7.5YR6/6)	砂粒微量含む	内: ヨコナデ、ケズリ
36	17	23	SR10 土器溜まり	土師器	甕	II B	口径(18.0)	外: 明褐色(7.5YR5/6) 内: にぶい褐色(7.5YR5/4)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ、ケズリ
36	18	23	SR10 土器溜まり	土師器	甕	II B	口径(16.0)	外: 明褐色(7.5YR5/6) 内: 橙色(7.5YR6/8)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ、ケズリ
36	19	22	SR10 土器溜まり	土師器	甕	IIΒ	口径(21.2)	外: 橙色(5YR7/8) 内: 橙色(5YR7/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ハケメ 内: 口縁ハケメ・ヨコナデ、ケズリ、一部黒変
36	20	23	SR10 土器溜まり	土師器	甕	II C a	口径16.5	外: 橙色(5YR6/6) 内: 橙色(5YR6/6)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ、細かいハケメ 内: ヨコナデ、ケズリ ロ唇平坦面
36	21	23	SR10 土器溜まり	土師器	甕	ПСа	口径18.6	外: 浅黄橙色(10YR8/3) 内: 橙色(5YR7/8)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ハケメ、胴部煤付着 内: ヨコナデ、ケズリ
37	1	23	SR10 土器溜まり	土師器	致性	II C a	口径(20.8)	外: 橙色(2.5YR7/6) 内: 橙色(2.5YR6/8)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、ケズリ
37	2	23	SR10 土器溜まり	土師器	甕	II C a	口径(18.3)	外: 浅黄橙色(7.5YR8/6) 内: 浅黄橙色(7.5YR8/6)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ、ハケメ、口縁部一部黒変 内: ヨコナデ、指押圧痕、ケズリ
37	3	24	SR10	土師器	甕	II C a	口径(19.2)	外: 橙色(5YR7/8)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ、ハケメ
37	4	24	土器溜まり SR10	土師器	甕	II C a	口径(17.0)	内: 橙色(5YR7/8) 外: 橙色(5YR6/6)	砂粒多く含む	内: ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ 内: ココナデ、ケズリ
			土器溜まり SR10				口径18.3	内: 橙色(5YR6/6) 外: 橙色(7.5YR6/8)		内: ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ、胴部被熱により上半黒変
37	5	24	土器溜まり	土師器	魏	II C a	器高(29.1)	内: 橙色(7.5YR5/8)	砂粒多く含む	ト・下半赤変 内: ハケメ後ヨコナデ、ケズリ、底部黒変
37	6	24	SR10 土器溜まり	土師器	甕	II C a	口径20.8	外: 橙色(2.5YR6/8) 内: 橙色(5YR7/6)	白色砂粒多く	外: ヨコナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、ケズリ
37	7	24	SR10 土器溜まり	土師器	甕	II C a	口径19.0	外: 橙色(2.5YR6/8) 内: 橙色(2.5YR6/8)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ、ハケメ後ナデ、ハケメ、一部黒変 内: ヨコナデ、ケズリ
37	8	23	SR10 土器溜まり	土師器	甕	II C a	口径(20.0)	外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 明黄褐色(10YR7/6)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ、ハケメ 内: ハケメ、ヨコナデ、ケズリ
37	9	23	SR10 土器溜まり	土師器	甕	IIСа	口径(20.0)	外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ、ハケメ後ヨコナデ 内: ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ
37	10	24	SR10 土器溜まり	土師器	雅	ПСа	口径16.4	外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒少量含む	内: ヨコナデ、ナデ、ケズリ、口縁黒変 二次焼成による剥落
37	11	24	SR10 土器溜まり	土師器	雑気	II C a	口径(19.4)	外: にぶい橙色(7.5YR7/4) 内: 橙色(5YR7/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、ケズリ、部分的に黒変
38	1	23	SR10 土器溜まり	土師器	雞	II C a	口径(18.6)	外: 浅黄橙色(7.5YR7/6) 内: にぶい橙色(7.5YR6/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、ケズリ

挿図 番号	遺物番号	図版番号	出土遺構層位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・調整・その他
38	2	24	SR10	土師器	雞	II C a	口径(18.2)	外: 浅黄橙色(10YR8/3)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ハケメ
38	3	23	土器溜まり SR10	土師器	甕	ПСа	口径(19.6)	内: 浅黄橙色(7.5YR8/4) 外: 橙色(2.5YR6/6)	砂粒少量含む	内: 口縁ハケメ・ナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ後ナデ、口縁部煤付着
38	4	25	土器溜まり SR10	土師器	甕	II C a	口径(16.0)	内: 明赤褐色(5YR5/6) 外: 橙色(2.5YR7/6)	砂粒少量含む	内: 口縁ハケメ・ナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ
	5	25	土器溜まり SR10					内: 橙色(2.5YR7/6) 外: 橙色(5YR7/8)		内: ヨコナデ、ケズリもしくはナデ、一部黒変 外: ヨコナデ、ハケメ、口縁部一部黒変
38			土器溜まり SR10	土師器	甕	II C a	口径(19.6)	内: 橙色(5YR7/6) 外: にぶい黄橙色(10YR6/4)	砂粒多く含む	内: 口縁ハケメ・ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ後ヨコナデ
38	6	26	土器溜まり SR10	土師器	魏	II C a	口径(18.2)	内: 橙色(7.5YR6/6) 外: 灰白色(10YR8/2)	砂粒微量含む	内: 口縁ハケメ・ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ、胴部下半黒変、種子圧痕
38	7	25	土器溜まり	土師器	甕	II C a	器高21.6	内: 浅黄橙色(7.5Y8/3)	砂粒少量含む	内: ヨコナデ、ケズリ
38	8	26	SR10 土器溜まり	土師器	甕	II C a	口径(14.4)	外: 橙色(7.5YR6/8) 内: 明赤褐色(5YR5/8)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ、ハケメ後ヨコナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、ケズリ
38	9	25	SR10 土器溜まり	土師器	甕	II C a	口径(20.0)	外: 橙色(5YR7/6) 内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ、ナデ、ハケメ、煤付着 内: 口縁ハケメ・ヨコナデ、ケズリ
38	10	26	SR10 土器溜まり	土師器	甕	II C a	口径(15.4)	外: 橙色(5YR7/6) 内: 橙色(5YR7/8)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ、ハケメ一部ナデ、全面黒変 内: ヨコナデ、ケズリ
38	11	25	SR10 土器溜まり	土師器	甕	II C a	口径(16.8)	外: 橙色(2.5YR6/8) 内: 橙色(2.5YR6/8)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ハケメ、吹きこぼれ痕、一部黒変 内: 口縁ハケメ・ヨコナデ、ケズリ
38	12	26	SR10 土器溜まり	土師器	雑気	ПСb	口径(17.0)	外: にぶい黄褐色(10YR5/4) 内: 明赤褐色(5YR5/8)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ハケメ後ヨコナデ 内: 口縁ハケメ残る、ケズリ
38	13	26	SR10 土器溜まり	土師器	甕	ПСЬ	口径(15.4)	外: 浅黄橙色(7.5YR8/4) 内: 浅黄橙色(10YR8/4)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、ケズリ
38	14	25	SR10	土師器	甕	ПСЬ	口径(15.2)	外: 橙色(2.5YR7/8)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ハケメ後ナデ
38	15	25	SR10	土師器	甕	ПСЬ	口径19.4	内: 橙色(2.5YR7/8) 外: 暗赤褐色(5YR5/8)	砂粒少量含む	内: 口縁ハケメ・ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、部分的にハケメ残る、一部黒変
			土器溜まり SR10		120		口径(17.0)	内: 橙色(5YR6/8) 外: 明赤褐色(2.5YR5/6)	312220	内: ヨコナデ、ケズリ後ナデ 外: ヨコナデ、一部ハケメ後ヨコナデ、ハケメ
38	16	25	土器溜まり	土師器	甕	II C b	器高29.1	橙色(5YR7/6) 内: 橙色(5YR7/6)	砂粒少量含む	内: ヨコナデ、ケズリ、底部煤付着 二次焼成による剥落
39	1	27	SR10 土器溜まり	土師器	甕	IIDa	口径(21.6)	外: 浅黄橙色(7.5YR8/3) 内: にぶい橙色(7.5YR7/4)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ 内: 口縁ハケメ・ヨコナデ、ケズリ
39	2	26	SR10 土器溜まり	土師器	雅	IIDa	口径(14.0)	外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 橙色(5YR6/8)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、指押圧痕、ハケメ 内: ヨコナデ、ケズリ
39	3	26	SR10 土器溜まり	土師器	甕	IIDa	口径(19.0)	外: にぶい黄橙色(10YR7/4) 内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ハケメ後ヨコナデ 内: 口縁ハケメ残る、ケズリ
39	4	27	SR10	土師器	甕	II D a	口径16.0	外: 橙色(5YR7/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ハケメ、胴部煤付着
			土器溜まり SR10					内: 橙色(2.5YR6/8) 外: 橙色(7.5YR6/6)		内: ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ後ナデ、部分的に黒変
39	5	27	土器溜まり	土師器	甕	IIDa	口径(21.0)	内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒多く含む	内: ヨコナデ、ナデ、頸部ハケメ、ケズリ、口縁一 部黒変
39	6	26	SR10 土器溜まり	土師器	甕	IIDb	口径(15.6)	外: にぶい黄橙色(10YR6/4) 内: 明黄褐色(10YR7/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ハケメ後ヨコナデ 内: ハケメ後ヨコナデ、ケズリ 口唇肥厚
39	7	27	SR10 土器溜まり	土師器	魏	IIDb	口径(19.2)	外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 橙色(5YR6/8)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、ケズリ
39	8	26	SR10 土器溜まり	土師器	雅	IIDb	口径(18.8)	外: 橙色(5YR6/6) 内: にぶい赤褐色(5YR5/4)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ、ハケメ一部ナデ 内: ヨコナデ、ケズリ
39	9	26	SR10 土器溜まり	土師器	甕	IIDb	口径(13.4)	外: 明赤褐色(5YR5/6) 内: 赤褐色(5YR4/8)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ、ハケメ後ヨコナデ 内: 口縁ハケメ・ヨコナデ、ケズリ
39	10	27	SR10	土師器	甕	IIDb	口径(11.6)	外: 明黄褐色(10YR7/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ハケメ
39	11	27	土器溜まり SR10	土師器	甕	IIDb	口径16.7	内: 橙色(7.5YR7/6) 外: 橙色(2.5YR6/8)	砂粒微量含む	内: ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ後ヨコナデ、ハケメ
39	12	26	土器溜まり SR10	土師器	甕	IIDb	口径(19.4)	内: 橙色(2.5YR6/8) 外: 橙色(5YR6/8)	砂粒少量含む	内: 口縁ハケメ・ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ
39	13	26	土器溜まり SR10	土師器	甕	IIDb	口径(19.0)	内: 橙色(5YR6/8) 外: 明赤褐色(2.5YR5/8)	砂粒微量含む	内: ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ後ヨコナデ
			土器溜まり SR10					内: 明赤褐色(2.5YR5/8) 外: 橙色(7.5YR6/6)		内: ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ後ナデ
39	14	26	土器溜まり SR10	土師器	甕	IIDb	口径(15.2)	内: 橙色(5YR6/8) 外: 明黄褐色(10YR7/6)	砂粒少量含む	内: ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、幅広のハケメ、全面煤付着
39	15	27	土器溜まり SR10	土師器	甕	IIDb	器高26.4	内: 黄橙色(10YR8/6)	砂粒少量含む	内: ヨコナデ、ケズリ、下半黒変 外: ヨコナデ、幅広のハケメ、胴部煤付着
39	16	27	土器溜まり	土師器	発	IIDb	口径(16.8)	外: 橙色(7.5YR6/6) 内: 橙色(5YR6/6)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ、幅仏のハケメ、胴部採付者 内: ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ、肩部指押圧痕
40	1	28	SR10 土器溜まり	土師器	甕	IIDb	口径(18.0)	外: 橙色(2.5YR6/8) 内: 橙色(2.5YR6/8)	砂粒多く含む	内: 頸部ハケメ、ケズリ
40	2	28	SR10 土器溜まり	土師器	经	IIDb	口径17.8	外: 橙色(5YR6/6) 内: 橙色(7.5YR6/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ハケメ、胴部煤付着 内: ヨコナデ、ケズリ
40	3	28	SR10 土器溜まり	土師器	甕	IIDb	口径(25.0)	外: 橙色(5YR7/6) 内: 橙色(2.5YR7/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ハケメ 口縁大きく歪む 内: ヨコナデ、ケズリ
40	4	28	SR10 土器溜まり	土師器	甕	IIDb	口径17.8 器高(24.9)	外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 橙色(5YR6/8)	白色砂粒多く 含む	外: ヨコナデ、ハケメ後ヨコナデ、肩部に不整円 形の平坦面、種子痕か 内: ヨコナデ、ケズリ
40	5	28	SR10 土器溜まり	土師器	甕	IIDb	口径17.4 器高29.5	外: 浅黄橙色(10YR8/4) 内: 橙色(5YR7/6)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ、ハケメ、下半部分的に黒変 内: ヨコナデ、ケズリ
40	6	28	SR10 土器溜まり	土師器	甕	III B	口径(32.0)	外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 橙色(5YR7/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、ケズリ
40	7	29	SR10	土師器	甕	IIDb	口径23.5	外: 橙色(5YR6/8)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ヨコナデ、ハケメ、胴部煤付着
40	8	29	土器溜まり SR10	土師器	甕	III A	器高31.5 口径16.4	内: 橙色(7.5YR7/6) 外: 橙色(2.5YR6/8)	砂粒多く含む	内: ヨコナデ、ケズリ、口縁部煤付着 外: ヨコナデ、ハケメ、ナデ
41	1	28	土器溜まり SR10	土師器	雅	III A	器高(20.7) 口径(21.2)	内: 橙色(2.5YR6/8) 外: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒微量含む	内: ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ
			土器溜まり SR10					内: 橙色(7.5YR7/6) 外: 浅黄橙色(10YR8/4)		内: ヨコナデ、ケズリ、頸部ハケメ 外: ヨコナデ、ハケメ
41	2	28	土器溜まり SR10	土師器	甕	III A	口径(22.4)	内: 明黄褐色(10YR7/6) 外: 橙色(7.5YR6/6)	砂粒微量含む	内: 口縁ハケメ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ後ナデ
41	3	28	土器溜まり SR10	土師器	甕	III A	口径(19.4)	内: 橙色(5YR6/6) 外: 橙色(7.5YR6/8)	砂粒微量含む	内: 口縁ハケメ・ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ
41	4	29	土器溜まり SR10	土師器	甕	III A	口径(20.0)	内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒微量含む	内: 口縁ハケメ・ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、粗いハケメか
41	5	29	土器溜まり	土師器	差	III B	口径(23.6)	外: 橙色(7.5YR6/4) 内: 橙色(7.5YR6/4)	砂粒少量含む	内: ヨコナデ、ケズリ
41	6	29	SR10 土器溜まり	土師器	甕	III A	口径(20.0)	外: 橙色(5YR6/6) 内: 橙色(5YR7/8)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、ケズリ

コナデ、ハケメ・ナデ コナデ、ケズリ コナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、粗いケズ 部途中から 黒褐色に変色 口唇肥厚 コナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、粗いケズ 家かタメ・ケズリ コナデ、北いケメ?煤付着 コナデ、ハケメ 器壁薄い ベリ 口唇平坦面 コナデ、ハケメ 開酵黒変 コナデ、ハケメ 別の大変、カックを、ファング・スパー・スパー・スパー・スパー・スパー・スパー・スパー・スパー・スパー・スパー
コナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、組いケズ 防途中から黒褐色に変色 口唇肥厚 コナデ、ハケメ コナデ、和いハケメ?煤付着 コナデ、ケズリ 3 ナデ、カイズ 3 世界 2 世界
コナデ、ハケメ 家小ケメ、ケズリ コナデ、粗いハケメ?煤付着 コナデ、大ブリ後ナデ コナデ、ハケメ 器壁薄い でリ 口唇平坦面 コナデ、ヘウメ コナデ、ヘラケズリ、赤彩残る アメ後ヨコナデ、ハケメ 家小ケメ残る。ヨコナデ、ケズリ コナデ、ヘラメ なりケメ・ナデ、ケズリ アメ後ヨコナデ、ハケメ マンメ後ヨコナデ、ハケメ マンメ後ヨコナデ、ハケメ マンメ後ヨコナデ、ハケメ マンメ後ヨコナデ、ハケメ マンメ後ヨコナデ、ハケメ ボリカア・メディア マンメ後ヨコナデ、ハケメ ボリカア・メリカア・メリカア・メリカア・メリカア・メリカア・メリカア・メリカア・メ
コナデ、粗いハケメ?煤付着 コナデ、ハケメリ後ナデ コナデ、ハケメ、器壁薄い ベリ 「四季平坦面 コナデ、ハケメ、胴部集変 コナデ、ヘラケズリ、赤彩残る アメ後ヨコナデ、ハケメ 素ハケメ残る、ヨコナデ、ケズリ コナデ、ハケメ 最ハケメ・ナデ、ケズリ 甲圧痕後・ウメ ズリ アンメ後、カフナデ、ハケメ端部有 影パケメ残る、トズリ 副四線1条、ヨコナデ
コナデ、ハケメ 器壁薄い (アリ 口唇平坦面 コナデ、ハケメ、胴部黒変 コナデ、ヘラケズリ、赤彩残る アメ後ヨコナデ、ハケメ 泉小ケメ残る。ヨコナデ、ケズリ コナデ、ハケメ 泉小ケメ・ナデ、ケズリ アメ後ヨコナデ、ハケメ まいケメ・サデ、ケズリ アメ後ヨコナデ、ハケメ端部有 泉小ケメ残る。ケズリ 泉口線1条、ヨコナデ
コナデ、ハケメ、胴部黒変 コナデ、ヘラケズリ、赤彩残る アメ後ヨコナデ、カケメ 東ハケメ残る、ヨコナデ、ケズリ コナデ、ハケメ 動ハケメ・ナデ、ケズリ 甲圧痕後ハケメ ズリ アメ後ヨコナデ、ハケメ端部有 歌ハケメびる。ケズリ 副四線1条、ヨコナデ
r メ後ヨコナデ、ハケメ 泉小ケメ残る。ヨコナデ、ケズリ コナデ、ハケメ 泉小ケメ・ナデ、ケズリ 甲圧痕後ハケメ でリ アンメ後ヨコナデ、ハケメ端部有 泉小ケメ残る、ケズリ 裏口線1条、ヨコナデ
コナデ、ハケメ
#圧痕後ハケメ ズリ アメ後ヨコナデ、ハケメ端部有 縁ハケメ残る、ケズリ 濃凹線1条、ヨコナデ
アメ後ヨコナデ、ハケメ端部有 家ハケメ残る、ケズリ 家凹線1条、ヨコナデ
豪凹線1条、ヨコナデ
コナデ 口唇沙紋化 土壌が加っ
<u> 1/ / 口音ル線仏 ロ境削期: </u> コナデ、ハケメー部残る、黒斑
录ハケメ後ヨコナデ、ケズリ コナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、ハケメ、指
、ナデ、ケズリ 口唇凹面
コナデ、ケズリ コナデ、ケズリ コナデ、ハケメ、胴部煤付着
コナデ、ハケメ、ケズリ後ナデ、イネ圧痕
コナデ
コナデ、ハケメコナデ、ケズリ
コナデ、ナデ コナデ、ケズリ
rメー部残る ぐリ
コナデ ァメ、ケズリ
コナデ、ハケメ 录ハケメ、ケズリ
コナデ コナデ、ケズリ
コナデ、ハケメ後一部ヨコナデ コナデ、ケズリ 口唇平坦面
コナデ コナデ、ケズリ
コナデ 家ハケメ、ケズリ
コナデ、ナデ、一部ハケメ コナデ、ケズリ後ナデ
コナデ、ハケメ、ミガキ コナデ、ケズリ後ナデ
コナデ、ハケメ後ナデ コナデ、ケズリ
- ケ・・ハ・ハ・ コナデ、ハケメ、胴部煤付着 コナデ、ケズリ
コナデ コナデ コナデ
デ、ハケメ後ミガキ
デ、指押圧痕、胴部黒変 肩部に稜
デ、指によるケズリ コナデ、ナデ
コナデ、頸部指押圧痕、ヘラケズリ 隆不明
ガキ コナデ、ハケメ、指押圧痕
コナデ、ナデ、内面黒変 内面粘土接合痕 コナデ、ハケメ、ナデ 頸部に鍔状の突
コナデ、ハケメ、ケズリ デ、指押圧痕 底部凹み底
デ、ケズリ工具端部痕、ケズリ
ガキ コナデ、ミガキ ボキ・キが
ガキ、赤彩 コナデか、粘土接合痕明瞭(4 条)
コナデ コナデ
ガキ、ナデ デ
ガキ デ、ミガキ、指押圧痕、粘土紐接合痕
ガキ、一部ハケメ、胴部黒斑 デ、ミガキ、ケズリ、接合痕
ブキ デ、ミガキ、指押圧痕、粘土紐接合痕
ガキ、全面赤彩 ガキ、ケズリ、押圧、頸部赤彩

挿図 番号	遺物番号	図版番号	出土遺構層位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・調整・その他
44	2	33	SR10	土師器	小型丸底壺		口径(11.0)	外: 橙色(5YR6/8)	砂粒微量含む	外: ミガキ、ナデ
44	3	36	土器溜まり SR10	土師器	高坏	I A a 1	器高17.3	内: 橙色(5YR6/8) 外: 黄橙色(7.5YR8/8)	砂粒微量含む	内: ミガキ、ナデ 外: 指押圧痕、上端擬口縁
44	4	33	土器溜まり SR10	土師器	高坏	III B a 3	口径(19.8) 器高14.0		砂粒微量含む	内: 暗文 外: ヨコナデ、ミガキ
			土器溜まり SR10				脚端径(10.8)	内: 明褐色(7.5YR5/6) 外: 褐色(7.5YR6/8)		内: ヨコナデ、ケズリ、充填 外: ナデ、ミガキ、一部ハケメ
44	5	33	土器溜まり SR10	土師器	高坏	I	屈曲部径(17.2)	内: 橙色(7.5YR6/6) 外: 浅黄橙色(10YR8/4)	砂粒微量含む	内: ヨコナデ、暗文状ミガキ 外: ミガキ
44	6	36	土器溜まり	土師器	高坏	I A a 1		内: 浅黄橙色(10YR8/4)	砂粒微量含む	脚内: ケズリ、ナデ
44	7	33	SR10 土器溜まり	土師器	高坏	I A a 2	脚端径(9.6)	外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒微量含む	外: ミガキ、ナデ 脚内: ケズリ、ケズリ後ナデか
44	8	33	SR10 土器溜まり	土師器	高坏	I A a 3	口径19.4	外: 浅黄橙色(7.5YR8/6) 内: 橙色(5YR7/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ミガキ 内: ヨコナデ、暗文、ミガキ、充填
44	9	34	SR10 土器溜まり	土師器	高坏	l a3	口径(17.0)	外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 橙色(5YR6/8)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ、指押圧痕、ミガキ 内: ミガキか、ケズリ後ナデ
44	10	34	SR10 土器溜まり	土師器	高坏	IBa3	口径16.6 器高13.5 脚端径10.4	外: 浅黄橙色(10YR8/4) 内: 浅黄橙色(10YR8/4)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ、ミガキ、ケズリ 内: ミガキ、ナデ 稜鈍く脚やや短い
44	11	34	SR10	土師器	高坏	I B a 3	口径17.6 器高15.2	外: 橙色(5YR7/8)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ、指押圧痕後ナデ、ミガキ後ナデ、
44	12	34	土器溜まり SR10	土師器	高坏	I B a 3			砂粒多く含む	指押圧痕、ナデ 内: ヨコナデ、ハケメ、ケズリ 外: 調整不明
			土器溜まり SR10				脚端径(11.8) 口径(18.4) 器高12.7	内: 橙色(7.5YR7/6) 外: 橙色(5YR7/6)		内: 暗文か、ケズリ 外: ヨコナデ、ナデ、ミガキ後ナデ
44	13	34	土器溜まり SR10	土師器	高坏	IBa3	脚端径11.4	内: 橙色(5YR7/6) 外: 橙色(2.5YR6/8)	砂粒多く含む	内: ヨコナデ、暗文、ケズリ 外: ナデ、ミガキ、種子圧痕
44	14	34	土器溜まり	土師器	高坏	II	口径(13.2)	内: 橙色(2.5YR7/8)	砂粒微量含む	内: 暗文状ミガキ
44	15	34	SR10	土師器	高坏	II C b 2	口径(19.6) 器高11.8 脚端径10.0	内: 橙色(5YR7/6)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ、ミガキ、ケズリか 内: ヨコナデ、暗文、ケズリ
44	16	35	SR10 土器溜まり	土師器	高坏	II C c	口径(17.4) 器高12.1 脚端径10.8	内: 橙色(5YR7/8)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ミガキ、ケズリか 内: ヨコナデ、暗文か、ケズリ
44	17	35	SR10 土器溜まり	土師器	高坏	II C c	口径(14.2) 器高10.9 脚端径10.2	外: 黄橙色(7.5YR7/8) 内: 黄橙色(7.5YR7/8)	砂粒多く含む	外: 坏部ミガキか、脚部ミガキ、ヨコナデ 内: 暗文状ミガキ、指押圧痕、ナデ
44	18	35	SR10 土器溜まり	土師器	高坏	II C c	脚端径8.8	外: 橙色(5YR7/6) 内: 橙色(5YR7/6)	砂粒多く含む	外: ミガキ、ヨコナデ 内: ケズリ
	10	25	SR10	1 4200	±17	11.6 -	口径(13.0) 器高10.4		小社会日本土	外: ヨコナデ、ミガキ
44	19	35	土器溜まり	土師器	高坏	II C c	脚端径7.0	内: 浅黄橙色(7.5YR8/6)	砂粒微量含む	内: ミガキ、ナデ 脚底面に浅い小孔、口唇部平坦面
44	20	35	SR10 土器溜まり	土師器	高坏	II C c	口径(17.0) 器高9.1 脚端径(7.2)	外: 明褐色(7.5YR5/6) 内: 黄橙色(10YR8/6)	砂粒微量含む	外: ミガキ 内: ミガキ、ケズリ後ナデ
44	21	35	SR10 土器溜まり	土師器	高坏	II C c	口径13.7 器高4.7 脚端径8.0	外: 橙色(5YR7/8) 内: 橙色(5YR7/8)	砂粒微量含む	外: ナデ、粗いミガキ、赤彩 内: ナデ、ミガキ、赤彩 内面に種子圧痕
44	22	35	SR10 土器溜まり	土師器	高坏	II C c	口径(14.4) 器高10.0 脚端径8.9	外: 橙色(5YR6/8) 内: 橙色(5YR6/8)	砂粒少量含む	外: ミガキ、ケズリ後ナデ、ヨコナデ 内: ヨコナデ、暗文、ケズリ
44	23	35	SR10	土師器	高坏	II C d	口径(16.2) 器高10.6	外: 橙色(5YR7/6)	砂粒多く含む	外: ミガキ、ケズリ後ナデ、ヨコナデ
44	24	36	土器溜まり SR10	土師器	高坏	II C c	脚端径(10.0)	内: 橙色(5YR7/6) 外: 橙色(7.5YR6/8)	砂粒微量含む	内: ヨコナデ、ミガキ 外: ミガキ、ヨコナデ、指押圧痕後ナデ
			土器溜まり SR10				口径(12.4) 器高8.7	内: 橙色(7.5YR6/6) 外: 浅黄橙色(7.5YR8/6)		内: ミガキ、ヨコナデ 外: ヨコナデ、ミガキ、ミガキ後ナデ、
44	25	36	土器溜まり	土師器	高坏	II C c	脚端径7.9	赤彩: 明赤褐色(2.5YR5/6) 内: 浅黄橙色(7.5YR8/6)	砂粒少量含む	内: ヨコナデ、ミガキ、ケズリ 全面赤彩 口唇平坦面
45	1	36	SR10	土師器	高坏	ΙΒd	脚端径(10.6)	外: 明赤褐色(5YR5/8) 内: 明赤褐色(5YR5/8)	砂粒少量含む	外: ミガキ後ナデ 脚内: ケズリ、黒変
45	2	37	SR10 土器溜まり	土師器	高坏	Bb2		外: 橙色(5YR6/6) 内: 橙色(5YR7/6)	砂粒微量含む	外: ミガキ 脚内: ナデ 充填痕跡明瞭
45	3	37	SR10 土器溜まり	土師器	高坏	B b 2		外: 橙色(5YR6/8)	砂粒微量含む	外: ハケメ後ミガキ 脚内: ケズリ、ナデ 坏底部の充填部分剥脱
45	4	37	SR10	土師器	高坏	B b 2	脚端径(9.8)	内: 橙色(5YR6/8) 外: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ
45	5	36	土器溜まり SR10	土師器	高坏	B b 2	脚端径(7.8)	内: 浅黄橙色(7.5YR8/6) 外: 橙色(7.5YR6/6)	砂粒微量含む	脚内: ケズリか 外: ナデ、ヨコナデ
			SR10				がかって、(7.0)	内: にぶい黄橙色(10YR6/4) 外: 橙色(5YR7/8)		脚内: ナデ 外: ミガキ、ヨコナデ
45	6	37	土器溜まり SR10	土師器	高坏	B b 1		内: 橙色(5YR7/6) 外: 橙色(5YR7/8)	砂粒微量含む	脚内: ケズリ、ナデ 外: ミガキか
45	7	37	土器溜まり SR10	土師器	高坏	b2		内: 黄橙色(7.5YR7/8) 外: 黄橙色(7.5YR8/8)	砂粒少量含む	脚内: ケズリ 外: ミガキ
45	8	38	土器溜まり	土師器	高坏	B b 1	脚端径8.7	内: 浅黄橙色(7.5YR8/4)	砂粒微量含む	脚内: ケズリ、ナデ 充填痕跡明瞭、上端擬口縁
45	9	38	SR10 土器溜まり	土師器	高坏	Bb2	脚端径(10.6)	外: 明黄褐色(10YR7/6) 内: 明黄褐色(10YR7/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデか、 脚内: ケズリ
45	10	37	SR10 土器溜まり	土師器	高坏	B b 1	脚端径(7.6)	外: 浅黄橙色(7.5YR8/6) 内: 浅黄橙色(7.5YR8/6)	砂粒微量含む	外: ミガキ、ヨコナデ 脚内: ケズリ後ナデ 脚内充填痕跡明瞭
45	11	38	SR10 土器溜まり	土師器	高坏	Cb2	脚端径(7.6)	外: 橙色(2.5YR6/8) 内: 橙色(2.5YR6/8)	砂粒少量含む	外: ミガキ、ナデ、ヨコナデ 脚内: ケズリ
45	12	38	SR10 土器溜まり	土師器	高坏	Cb2	脚端(9.8)	外: 橙色(5YR6/6) 内: 橙色(5YR6/6)	砂粒少量含む	外: ミガキか、ヨコナデ 脚内: ナデ、ケズリ
45	13	38	SR10	土師器	高坏	Сс	脚端径(9.2)	外: 橙色(5YR7/6)	砂粒少量含む	外: ナデか、縦に黒変
45	14	38	土器溜まり SR10	土師器	高坏	Сс	脚端径(8.6)	内: 橙色(5YR7/6) 外: 橙色(5YR7/8)	砂粒少量含む	脚内: ケズリ後ナデ 外: ミガキか、ヨコナデ
			土器溜まり SR10					内: 橙色(5YR7/8) 外: 橙色(5YR6/8)		脚内: ケズリ後ナデ 外: ヨコナデ、粗いミガキか
45	15	39	土器溜まり SR10	土師器	高坏	C c	脚端径(8.8)	内: 橙色(5YR6/8) 外: 明赤褐色(2.5YR5/8)	砂粒少量含む	内: ナデもしくはミガキ 脚内: ケズリ後ナデ 外: ナデ
45	16	36	土器溜まり	土師器	高坏	Сс	脚端径(8.0)	内: 明赤褐色(5YR5/6)	含む	内: ナデ 短脚
45	17	39	SR10 土器溜まり	土師器	高坏	Сс	脚端径7.0	外: 赤褐色(5YR4/8) 内: 橙色(5YR6/8)	白色砂粒多く 含む	外: ナデ 内: ナデ 短脚
45	18	39	SR10 土器溜まり	土師器	高坏	Сс	脚端径(9.8)	外: 黄橙色(7.5YR8/8) 内: 黄橙色(7.5YR8/8)	砂粒少量含む	外: 摩滅(調整不明) 脚内: ケズリ後ナデ
45	19	39	SR10 土器溜まり	土師器	高坏	Cd	脚端7.6	外: 橙色(5YR6/8) 内: 黄橙色(7.5YR7/8)	砂粒微量含む	外: ナデ、ヨコナデ 内: ナデ 底面: ケズリ後ナデ
45	20	39	SR10	土師器	高坏	Cd	脚端径(6.0)	外: 明赤褐色(5YR5/6) 内: 黄橙色(7.5YR7/8)	白色砂粒少量 含む	外: ナデ、指押圧痕 内: ナデ 短脚
45	21	39	SR10	土師器	高坏	C d	脚端径(7.2)	外: 橙色(5YR6/8)	砂粒微量含む	外: ナデ、ヨコナデ 内: ナデ
			土器溜まり			- =		内: 橙色(5YR6/8)		底面: ケズリ後ナデ

挿図番号	遺物番号	図版 番号	出土遺構層位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・調整・その他
45	22	40	SR10	土師器	高坏	Cd	脚端径(6.6)	外: 橙色(5YR6/8)	砂粒微量含む	外: ミガキ、指押圧痕、ナデ
45	23	40	土器溜まり SR10 土器溜まり	土師器	高坏	Cd	脚端径(6.6)	内: 橙色(5YR6/8) 外: 明赤褐色(5YR5/6) 内: —	砂粒微量含む	内: ナデ 底面: ケズリ 外: ミガキ 内: ナデ 底面: ナデ、葉脈痕
45	24	40	SR10 土器溜まり	土師器	碗	Ιb	口径13.6 器高6.9	外: 橙色(2.5YR6/8) 内: 橙色(2.5YR6/8)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、稜以下ケズリ後ミガキ、指押圧痕 (ミガキ不徹底)
45	25	40	SR10 土器溜まり	土師器	碗	Ιb	口径14.9 器高6.2 底径5.9	外: 橙色(2.5YR6/8) 内: 橙色(2.5YR7/8)	砂粒微量含む	内: ヨコナデ、ミガキ(暗文) 外: 口縁ナデ、粗いミガキ、底面ミガキ残し 内: 暗文状ミガキ
45	26	40	SR10 土器溜まり	土師器	碗	l a	口径12.7 器高6.4	外: 浅黄橙色(7.5YR8/6) 内: 浅黄橙色(7.5YR8/6)	砂粒微量含む	外: 口縁上半ミガキかナデ、下半ケズリ、底面中央ミガキ、底部黒斑 内: 不明
45	27	40	SR10	土師器	碗	Ιb	口径12.7 器高6.9	外: 明赤褐色(2.5YR5/8) 内: 明赤褐色(2.5YR5/8)	白色砂粒多く 含む	外: 口縁ナデ、ミガキ、底部ケズリ 内: ミガキ、暗文、底面ナデかミガキ 口唇厚い
45	28	41	SR10 土器溜まり	土師器	碗	Ιb	口径13.3 器高(6.0)	外: にぶい黄褐色(10YR5/4) 内: 橙色(7.5YR6/6)	砂粒少量含む	外: 口縁・体部粗いミガキ、底部ケズリ 内: ヨコナデ、暗文
45	29	41	SR10 土器溜まり	土師器	碗	Ιa	口径14.8 器高6.1	外: 橙色(7.5YR6/6) 内: 橙色(7.5YR7/8)	砂粒少量含む	外: 口縁ナデ・ミガキ、底部ケズリ 内: ヨコナデ、暗文 口唇平坦面
45	30	41	SR10 土器溜まり	土師器	碗	Ιb	口径(13.4) 器高7.0	外: 黄橙色(7.5YR7/8) 内: 黄橙色(7.5YR7/8)	砂粒微量含む	外: ナデ、ミガキ 内: ナデ、暗文2 段
45	31	41	SR10 土器溜まり	土師器	碗	lа	口径(13.7) 器高6.8	外: 橙色(5YR6/8) 内: 黄橙色(7.5YR7/8)	砂粒微量含む	外: ミガキ 内: ヨコナデ、指掻き上げ
45	32	41	SR10 土器溜まり SR10	土師器	碗	Ιb	口径(13.0) 器高6.5	外: にぶい黄褐色(10YR5/4) 内: にぶい黄橙色(10YR6/4) 外: 橙色(5YR6/8)	砂粒微量含む	外: ミガキ、ケズリ後粗いミガキ 内: ヨコナデ、暗文 外: ミガキ、部分的にケズリ
45	33	41	土器溜まり SR10	土師器	碗	l a	口径(14.8)	内: 橙色(5YR6/8) 外: 明赤褐色(5YR5/6)	砂粒少量含む	内: ヨコナデ、暗文 外: 上端ヨコナデ、体部ケズリ
45 ———	34	41	土器溜まり	土師器	碗	l a	口径(16.0)	内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒微量含む	内: ヨコナデ、暗文 外: ヨコナデ、ケズリ後ナデ
45	35	42	SR10 土器溜まり	土師器	碗	l a	口径12.4 器高6.6	外: 明黄褐色(10YR7/6) 内: 明黄褐色(10YR6/6)	砂粒微量含む	内: 粗いミガキ状調整、ナデ 全体に雑な調整
45	36	42	SR10 土器溜まり	土師器	碗	Ιb	口径(14.6)	外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 橙色(5YR6/8)	砂粒微量含む	外: 口縁上端ヨコナデ、以下粗いミガキ 内: ヨコナデ、暗文 口唇内側に段
45	37	42	SR10 土器溜まり	土師器	碗	Ιb	口径15.6 器高7.3	外: 明赤褐色(5YR5/8) 内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒微量含む	外: 口縁ヨコナデ、体部ケズリ、底部ナデ? 内: ヨコナデ、ミガキ(暗文か)
45	38	36	SR10 土器溜まり SR10	土師器	碗	l a	口径(15.6)	外: 橙色(7.5YR6/8) 内: 橙色(7.5YR7/6) 外: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒微量含む 白色砂粒少量	外: ミガキ 内: ヨコナデ、暗文 外: 口縁ヨコナデ、他は摩滅
45	39	42	土器溜まり SR10	土師器	碗	la	器高6.2	内: 明赤褐色(2.5YR5/8) 外: 橙色(5YR6/8)	含む	内: ナデ、暗文 外: ヨコナデ、ケズリ
45	40	37	土器溜まり SR10	土師器	碗	l a	口径(13.6)	内: 橙色(5YR6/6) 外: 橙色(2.5YR6/8)	砂粒微量含む	内: ヨコナデ、暗文 外: ヨコナデ、ミガキ
45	41	42	土器溜まり SR10	土師器	碗碗	l b	器高6.8	内: 橙色(2.5YR6/8) 外: 橙色(5YR6/8)	砂粒少量含む	内: ヨコナデ、暗文の有無不明 外: ヨコナデ、ミガキ、部分的にケズリ
46 ———	2	43	土器溜まり SR10	土師器	碗	l b	口径(14.8) 口径13.3	内: 橙色(7.5YR6/6) 外: にぶい黄橙色(10YR7/4)	砂粒少量含む	内: 指押圧痕、ヨコナデ 外: ヨコナデ、ミガキ、ナデ、赤彩
46	3	43	SR10	土師器	碗	l a	器高6.1 口径(14.0)	内: 橙色(7.5YR6/6) 外: 橙色(5YR6/8)	砂粒微量含む	内: ヨコナデ、ナデ、ミガキ 外: ヨコナデ、ミガキ
46	4	43	土器溜まり SR10	土師器	碗	l b	器高5.6 口径(12.8)	内: 橙色(5YR6/6) 外: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒少量含む	内: ミガキかナデ、暗文か 外: ヨコナデ、ケズリ
46	5	43	土器溜まり SR10	土師器	碗	Ιb	口径(16.4)	内: 橙色(7.5YR6/6) 外: 明赤褐色(5YR5/6) 内: 明赤褐色(5YR5/6)	砂粒微量含む	内: ヨコナデ、暗文 外: ヨコナデ、ミガキ ロ: ココナデ、ミガキ
46	6	42	土器溜まり SR10 土器溜まり	土師器	碗	Ιb	口径14.4 器高6.6	外: 橙色(7.5YR6/8) 内: 橙色(7.5YR6/8)	砂粒微量含む	内: ヨコナデ、ミガキ、暗文 外: 全面ミガキ 内: 不明(暗文か)
46	7	42	SR10 土器溜まり	土師器	碗	Ιb	口径(15.0)	外: 橙色(5YR6/6) 内: 橙色(5YR6/6)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ、ミガキ、ケズリ 内: ヨコナデ、暗文
46	8	43	SR10 土器溜まり	土師器	碗	l c	口径(12.0) 器高(5.8)	外: 橙色(5YR6/6) 内: 橙色(5YR7/8)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ 内: 調整不明 体部・底部にやや凹凸あり
46	9	44	SR10 土器溜まり	土師器	碗	Ιb	口径(16.4)	外: 赤色(10R5/8) 内: 浅黄橙色(7.5YR8/6)	砂粒少量含む	外: ミガキ、全面赤彩 内: ヨコナデ、暗文
46	10	44	SR10 土器溜まり	土師器	碗	lс	口径(14.0)	外: にぶい黄橙色(10YR7/4) 内: 橙色(5YR7/8)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ、体部・底部ケズリ、黒斑 内: ミガキ、暗文
46	11	43	SR10 土器溜まり	土師器	碗	Ιc	口径16.9 器高8.1	外: 明黄褐色(10YR7/6) 内: 黄橙色(10YR8/6)	砂粒微量含む	外: □縁ヨコナデ、ミガキ、底部ケズリ、底部黒斑内: ヨコナデ、暗文か
46	12	43	SR10 土器溜まり	土師器	碗	l c	口径(13.8) 器高5.0	外: 明黄褐色(10YR7/6) 内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、底部ケズリ 内: ミガキ
46	13	44	SR10 土器溜まり	土師器	飯把手		長さ5.3 幅4.7 厚さ3.2	外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 橙色(7.5YR7/8)	砂粒微量含む	外: ハケメ後ナデ 内: ケズリ後ナデ
46	14	44	SR10 土器溜まり	土師器	飯把手		長さ5.3 幅5.3 厚さ3.9	外: 明褐色(7.5YR5/6) 内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒微量含む	外: ハケメ後ナデ、ナデ 内: ケズリ 把手挿入痕明瞭
46	15	44	SR10 土器溜まり	土師器	飯把手		長さ6.6 幅4 厚さ3.6	外: 明黄褐色(10YR7/6) 内: 黄灰色(2.5Y4/1)	砂粒微量含む	外: ナデ 内: ケズリ 把手挿入痕明瞭
46	16	44	SR10 土器溜まり	土師器	飯把手		長さ5.6 幅3.5 厚さ3.1	外: にぶい橙色(7.5YR6/4) 内: にぶい橙色(7.5YR5/3)	砂粒微量含む	外: 指押圧痕後ナデ 内: ケズリ 把手挿入痕明瞭
46	17	44	SR10 土器溜まり	土師器	飯把手		長さ5.1 幅4 厚さ3.8	外: 橙色(5YR7/8) 内: 明黄褐色(10YR7/8)	砂粒微量含む	外: ナデ 内: ケズリ後ナデ
46	18	44	SR10 土器溜まり SR10	土師器	飯把手		長さ3.3 幅3.3 厚さ3.8 長さ4.1 幅3.8	外: 浅黄橙色(10YR8/4) 内: 浅黄橙色(10YR8/4) 外: にぶい橙色(7.5YR6/4)	砂粒微量含む	外: ハケメ後ナデ 内: ケズリ後ナデ 把手挿入痕明瞭 外: 指押圧痕後ナデ
46	19	44	土器溜まり SR10	土師器	飯把手		長さ4.1 幅3.6 厚さ3.2 長さ2.5 幅2.2	内: 橙色(5YR6/6) 外: 橙色(5YR6/8)	砂粒微量含む	か: 14 14 15 16 17 17 17 17 17 17 17
46	20	44	土器溜まり SR10	土師器	飯把手		厚さ2.0 長さ7.3 幅3.6	内: 橙色(5YR7/8) 外: 浅黄橙色(10YR8/4)	砂粒微量含む	内: ケズリ後ナデ 外: ナデ(凹凸顕著)
46 ———	21	44	土器溜まり SR10	土師器 	飯把手 土製支脚		厚さ2.4 脚端径(10.6)	内: 浅黄橙色(10YR8/4) 橙色(7.5YR7/6)	砂粒微量含む	内: ケズリ ナデ 指押圧痕顕著 上端擬口縁(充填痕跡)
46	22	43	土器溜まり SR10	土師器	土製支脚		現存長(8.0)	外: 橙色(2.5YR6/6)	砂粒少量含む	外: ミガキ、ナデ
46	24	44	土器溜まり SR10	土師器	土製支脚		現存長(5.7)	内: 橙色(2.5YR6/6) 橙色(7.5YR6/6)	砂粒微量含む	底面: ケズリ 充填接合面あり ナデ 小突起通常より小さい 充填痕跡あり
46	25	44	土器溜まり SR10	土師器	土製支脚		胴部径(3.6) 現存長(10.6)	にぶい褐色(7.5YR5/4)	砂粒微量含む	ケズリ後ナデ
		,	土器溜まり		-25.00		突起の厚さ1~2.7			ひれ状の薄手の突起

挿図 番号	遺物番号	図版 番号	出土遺構層位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・調整・その他
46	26	43	SR10 土器溜まり	須恵器模倣 土師器	蓋		口径(14.8) 器高(4.5)	外: にぶい黄橙色(10YR6/3) 内: 浅黄色(2.5Y7/3)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ、ケズリ 内: ナデか
46	27	44	SR10 土器溜まり	須恵器模倣 土師器	蓋		口径(15.6)	外: 黒色(N2/) 内: 黒色(N4/)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ、ミガキ、ケズリ後ナデ 内: ヨコナデ、ミガキ
46	28	44	SR10	須恵器模倣	蓋			外: 黒色(N2/)	砂粒少量含む	外: ナデ、ヘラケズリ
46	29	45	SR10	土師器 須恵器模倣	坏		口径(15.2)	内: 黒色(N2/) 外: 黒褐色(2.5Y3/1)	砂粒多く含む	内: ミガキ 瓦質 外: 暗文状ミガキ、ミガキ、ケズリ後ナデ
46	30	44	SR10	土師器 須恵器模倣	坏?		器高4.3 底径(6.6)	内: 黒褐色(2.5Y3/1) 外: 黒色(N2/)	砂粒微量含む	内: ミガキ、ヨコナデ 瓦質 外: ナデ
			SR10	土師器? 須恵器模倣	· ·		超性(0.0)	内: オリーブ黒色(5Y3/2) 外: 明黄橙色(10YR7/6)	砂粒微量含む	内: ナデ 丸底風の平底、瓦質 外: ハケメ、ナデ
46 ———	31	44	土器溜まり SR10	土師器 須恵器模倣	甕			内: 黄橙色(10YR8/6) 外: 浅黄橙色(7.5YR8/4)		内: ナデ、同心円当具痕 外: 平行タタキ(格子風)、赤彩
46	32	44	土器溜まり SR10	土師器	甕			内: 浅黄橙色(10YR8/3) 外: にぶい褐色(7.5YR5/4)	砂粒微量含む	内: 同心円当具痕、赤彩か 土師質 外: ハケメ後ヨコナデ
46	33	44	土器溜まり	土師器	製塩土器か		口径(10.0)	内: 橙色(5YR6/8)	砂粒微量含む	内: 指押圧痕
47	1	45	SR10 土器溜まり	土師器	飯		口径25.1 器高23.0 底径(10.0)	外: 橙色(5YR7/8) 内: 橙色(5YR7/8)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ、ハケメ、ナデ、一部黒斑 内: ナデ、ケズリ、ヨコナデ
47	2	45	SR10 土器溜まり	土師器	甑		口径(24.6) 器高26.0 底径(9.4)	外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 橙色(5YR6/6)	砂粒少量含む	外: ナデ、ハケメ 内: ナデ、ケズリ
47	3	46	SR10 土器溜まり	土師器	飯		口径(20.8) 器高23.2 底径(6.8)	外: 橙色(5YR6/8) 内: 橙色(7.5YR6/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ハケメ後ヨコナデ、赤彩 内: ヨコナデ、ケズリ後ナデ、ケズリ
47	4	46	SR10 土器溜まり	土師器	甑		底径7.6	外: 橙色(5YR7/8) 内: 橙色(5YR7/8)	砂粒少量含む	外: ナデ、ハケメ 内: ナデ、ケズリ
47	5	46	SR10	土師器	甑		口径(19.0) 器高23.3 底径8.4	外: 橙色(5YR6/6) 内: 橙色(2.5YR6/8)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、ナデ、ミガキ
47	6	46	SR10 土器溜まり	土師器	飯		口径20.9 器高27.2 底径10.6	外: 明赤褐色(2.5YR5/8) 内: 橙色(2.5YR6/8)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ハケメ、ナデ 内: ヨコナデ、ケズリ、ナデ
			SR10				7EVIE 1010	外: 橙色(5YR7/8)	白色砂粒多く	外: ヨコナデ、ハケメ、ナデ 内: ヨコナデ、ケズリ
47	7	46	土器溜まり	土師器	鑑		口径23.3	内: 橙色(5YR7/8)	含む	焚口上部に庇
			SR10	1.47700	ara.		口径19.3	外: 浅黄橙色(7.5YR8/6)	白色砂粒多く	庇接合痕明瞭(擬口縁)庇裏〜焚口付近黒変外: ヨコナデ、ハケメ、ナデ
47	8	46	土器溜まり	土師器	竈		器高(24.9)	内: 橙色(5YR7/6)	含む	内: ヨコナデ、ケズリ <u>焚口上部に庇</u>
47	9	47	SR10 土器溜まり	土師器	鑑		口径22.9 器高35.0 底径33.5	外: 黄橙色(7.5YR7/8) 内: 黄橙色(7.5YR7/8)	砂粒多く含む	外: ナデ、ハケメ、指押圧痕 内: ナデ、ケズリ、 指押圧痕 底面板目状圧痕 焚口上部に庇
47	10	45	SR10	土師器	竈(庇)		長さ16.0 幅5.1	外: 橙色(5YR6/8)	白色砂粒微量	庇裏~焚口付近黒変 外: ナデ、指押圧痕
			土器溜まり SR10				厚さ1.5 長さ9以上 幅3.2	内: 橙色(5YR6/8) 外: 橙色(5YR7/6)	含む	内: ナデ、指押圧痕 外: ナデ、指押圧痕
47	11	45	土器溜まり SR10	土師器	竈(庇)		厚さ1.4 長さ14.0 幅6.3	内: 橙色(5YR7/6) 外: 橙色(2.5YR7/8)	砂粒微量含む	内: ナデ、指押圧痕、下端に板目状圧痕 外: ナデ、指押圧痕
47	12	45	土器溜まり SR10	土師器	竈(庇)		厚さ2.0 長さ14.3 幅6.7	内: 橙色(2.5YR7/8) 外: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒少量含む	内: ヨコナデ、ヘラケズリ 外: ハケメ、ナデ、指押圧痕
47	13	45	土器溜まり	土師器	竈(庇)		厚さ1.9	内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒微量含む	内: ナデ、指押圧痕
48	1	47	SR10 土器溜まり	土師器	竜		口径20.8 器高32.1 底径(38.2)	外: 明黄褐色(10YR7/6) 内: にぶい黄橙色(10YR6/3)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ、粗いハケメ、ナデ 庇無し 内: ヨコナデ、ケズリ、ナデ 底面: 板目状圧痕
48	2	48	SR10 土器溜まり	土師器	竈		底径30.0	外: 橙色(7.5YR6/6) 内: にぶい黄褐色(10YR4/3)	砂粒多く含む	外: ヨコナデ、ハケメ 庇無し 内: ヨコナデ、ケズリ
48	3	47	SR10 土器溜まり	土師器	竜		頸部径(16.6)	外: 浅黄橙色(10YR8/4) 内: にぶい橙色(7.5YR7/3)	砂粒少量含む	外: ナデ、ハケメ 庇無し 内: ナデ、ケズリ、指押圧痕
48	4	48	SR10 土器溜まり	土師器	鑑		底径(29.9)	外: 明黄褐色(10YR6/6) 内: 橙色(7.5YR6/6)	砂粒少量含む	外: ハケメ、指押圧痕 内: ヘラケズリ、最下部指押圧痕
48	5	47	SR10	土師器	竜		底径(35.6)	外: 橙色(7.5YR7/8)	砂粒多く含む	底面: ナデ・板目状圧痕 外: ナデ、ハケメ 内: ナデ、ケズリ
			土器溜まり SR10					内: 橙色(5YR7/6) 外: にぶい橙色(7.5YR7/4)	白色砂粒多く含	底面: 板目状圧痕 焚口外方につまみ出し 外: ナデ、指押え
48	6	47	土器溜まり SR10	土師器	竜		底径(27.2)	内: 橙色(2.5YR6/8) 外: 灰白色(7.5YR8/2)	t	内: ケズリ、ナデ、指押圧痕 底面: ナデ 外: ハケメ、ナデ
48	7	47	土器溜まり SR10	土師器	竈			内: 灰白色(7.5YR8/2) 外: 橙色(5YR6/8)	砂粒微量含む	内: ナデ 底面: 調整なし? 外: ハケメ
48	8	47	土器溜まり	土師器	竈		底径(36.8)	内: 橙色(5YR6/8)	砂粒微量含む	内: ナデ 底面: ナデ 外: ハケメ、ナデ、指押圧痕
48	9	47	SR10 土器溜まり	土師器	鼈		底径(33.2)	外: 浅黄橙色(10YR8/4) 内: にぶい橙色(7.5YR7/4)	砂粒微量含む	内: ヘラケズリ後ナデ、指押圧痕 底面: ナデ
48	10	48	SR10 土器溜まり	土師器	竈		底径(36.2)	外: 橙色(5YR7/8) 内: 橙色(5YR7/8)	白色砂粒微量含む	外: ハケメ 内: ナデ、指押圧痕 底面: ナデ
48	11	48	SR10 土器溜まり	土師器	竜		底径(34.4)	外: 橙色(2.5YR6/8) 内: 橙色(2.5YR6/8)	白色砂粒微量含む	外:ハケメ 内:ケズリ後ナデ、指押圧痕、ヘラ 状工具?押圧痕 底面:ナデ
48	12	48	SR10 土器溜まり	土師器	竜		底径(35.2)	外: 橙色(2.5YR7/8) 内: 橙色(2.5YR7/8)	白色砂粒少量含 む	外: ハケメ、ナデ、指押圧痕 内: ケズリ後ナデ 下端に板目状圧痕 底面: 板目状圧痕
48	13	48	SR10 土器溜まり	土師器	竈		底径(28.4)	外: 橙色(2.5YR6/8) 内: 橙色(7.5YR6/6)	砂粒微量含む	外: ナデ、 内: ケズリ、ナデ 底面: 板目状圧痕
49	1	50	SR10 土器溜まり	須恵器	蓋	IAa丸	口径(13.8) 器高(5.1)	外: 灰色(N4/) 内: 灰色(N6/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ 稜鋭い 内: 回転ナデ 口唇凹面
49	2	50	SR10 土器溜まり	須恵器	蓋	IBb	口径(14.8)	外: 灰色(N5/) 内: 灰色(N5/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ 内: 回転ナデ 口唇段
49	3	50	SR10 土器溜まり	須恵器	蓋	IAb丸	口径(12.6) 器高(4.3)	外: 灰色(N6/) 内: 灰色(N6/)	砂粒多く含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ 稜鈍い 内: 回転ナデ 口唇段
49	4	50	SR10 土器溜まり	須恵器	蓋	IAb	口径(14.2)	外: オリーブ灰色(2.5GY5/) 内: 灰色(7.5Y4/1)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ 口唇段
49	5	50	SR10 土器溜まり	須恵器	蓋	IAb丸	口径(13.0) 器高(4.6)	外: 灰色(N5/) 内: 灰色(N6/)	砂粒多く含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ(中央にケズリ残し) 内: 回転ナデ、口唇段
49	6	49	SR10 土器溜まり	須恵器	蓋	IAb丸	口径(13.0)	外: 灰色(7.5Y6/1)	砂粒多く含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ
49	7	48	工器溜まり SR10	須恵器	蓋	IBa平	器高(4.6) 口径(13.0)	内: 灰色(7.5Y5/) 外: 灰色(N5/)	砂粒多く含む	内: 回転ナデ、口唇段 外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ 稜沈線2条で作
			SR10				器高(4.6) 口径(15.3)	内: 灰色(N5/) 外: 灰色(N5/)		出 内: 回転ナデ 口唇凹面 当具痕 外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ 稜沈線により
49	8	49	土器溜まり	須恵器	蓋	IBb平	器高(4.2)	内: 灰色(N6/)	砂粒少量含む	作出 内:回転ナデ 口唇凹面 放射状にシワ (当具痕?)
49	9	50	SR10 土器溜まり	須恵器	蓋	IAb平	口径(14.5) 器高4.0	外: 灰色(7.5Y6/1) 内: 灰オリーブ色(7.5Y6/2)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ 内: 回転ナデ 放射状のシワ(当具痕?)

挿図 番号	遺物 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・調整・その他
49	10	50	SR10	須恵器	蓋	I A d		灰色	微砂粒含む	外: 回転ナデ 稜鈍い 内: 回転ナデ 口唇平坦面
49	11	50	SR10	須恵器	蓋	IAb丸	口径(13.8) 器高(4.0)	外: 灰色(N5/) 内: 灰色(N4/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ 稜鈍い 内: 回転ナデ
49	12	50	SR10	須恵器	蓋	IBb平	口径(15.6)	外: 灰色(N6/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ
49	13	50	土器溜まり SR10	須恵器	蓋	ICd平	器高4.1 口径(13.2)	内: 灰色(N6/) 外: 灰色(N5/)	砂粒少量含む	内: 回転ナデ 放射状にシワ(当具痕?) 外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ(中央ケズリ残し)
49	14	49	土器溜まり SR10	須恵器	蓋	IDc丸	器高(3.7) 口径12.4	内: 灰色(N6/) 外: 灰色(N5/)	砂粒微量含む	内: 回転ナデ 口唇わずかにノミ刃状 外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ(中央にケズリ残
			土器溜まり SR10				器高3.7 口径(13.3)	内: オリーブ灰色(5GY5/1) 外: 灰色(5Y5/1)		し) 内: 回転ナデ 当具痕 外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ(中央にケズリ残
49	15	49	土器溜まり SR10	須恵器	蓋	IDc丸	器高3.9	内: 灰色(5Y6/1) 外: 灰白色(7.5Y7/1)	砂粒微量含む	しあり) 内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ 稜丸い
49	16	50	土器溜まり SR10	須恵器	蓋	I C c	口径(13.2)	内: 灰白色(5Y7/1) 外: 灰色(7.5Y6/1)	砂粒微量含む	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ 痕跡的な稜
49	17	50	土器溜まり	須恵器	蓋	IDd丸?	口径(13.0) 器高(3.9)	内: 灰色(N6/)	砂粒微量含む	内: 回転ナデ 口唇わずかにノミ刃状
49	18	50	SR10 土器溜まり	須恵器	蓋	1平?		外: オリーブ灰色(2.5GY5/) 内: オリーブ灰色(2.5GY5/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ、天井部板目 内: 回転ナデ 放射状にシワ(当具痕?)
49	19	50	SR10 土器溜まり	須恵器	蓋	1?		外: オリーブ灰色(5GY5/1) 内: 灰色(7.5Y5/1)	砂粒多く含む	外: 回転ヘラケズリ 内: 当具痕
49	20	50	SR10 土器溜まり	須恵器	蓋	1?		外: 灰黄色(2.5Y7/2) 内: 灰オリーブ色(5Y6/2)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ 内: 当具痕
49	21	50	SR10 土器溜まり	須恵器	蓋	IDc	口径(9.3) 器高(2.8)	外: 灰色(N5/) 内: 灰色(N6/)	砂粒微量含む	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ
49	22	49	SR10 土器溜まり	須恵器	坏	IAb丸	口径13.0 器高5.5	外: 灰白色(N7/) 内: 灰白色(7.5Y7/1)	砂粒微量含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ 口唇段 内: 回転ナデ、当具痕
49	23	49	SR10 土器溜まり	須恵器	坏	IAc平	口径12.5 器高5.0	外: 灰色(N6/) 内: 灰白色(5Y7/1)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ、底部板目 内: 回転ナデ 放射状にシワ(当具痕?)
49	24	50	SR10	須恵器	坏	IAc丸	口径(11.3) 器高(5.6)	外: 灰色(N5/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ
49	25	50	土器溜まり SR10	須恵器	坏	I A c	口径(9.8)	内: 灰色(N7/) 外: 灰色(7.5Y6/1)	砂粒少量含む	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ、自然釉
		49	土器溜まり SR10		坏	IAc平		内: 灰色(7.5Y7/1) 外: 灰白色(7.5Y7/1)		内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ
50	1		土器溜まり SR10	須恵器			口径(11.8) 器高(4.0)	内: 灰色(N6/) 外: 灰色(N5/)	砂粒少量含む	内: 回転ナデ、ナデ 放射状にシワ(当具痕?) 外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ
50	2	50	土器溜まり SR10	須恵器	坏	IAc丸	口径(12.9) 器高(4.7)	内: 灰色(N4/) 外: 灰色(N4/)	砂粒少量含む	内: 回転ナデ 放射状にシワ(当具痕?) 外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ、底部板目
50	3	51	土器溜まり	須恵器	坏	IAc平	器高3.4	内: 灰色(N6/)	砂粒少量含む	内: 回転ナデ 当具痕
50	4	50	SR10 土器溜まり	須恵器	坏	IAc	口径(13.3) 器高(3.8)	外: 灰色(N6/) 内: 灰色(N6/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ 内: 回転ナデ
50	5	50	SR10 土器溜まり	須恵器	坏	I A c	口径(12.0)	外: 灰白色(2.5Y8/2) 内: 灰白色(2.5Y8/2)	砂粒微量含む	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ ロ唇部に面
50	6	50	SR10 土器溜まり	須恵器	坏	I A c	口径(14.1) 器高(3.6)	外: 灰色(N5/) 内: 灰色(N6/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ
50	7	52	SR10 土器溜まり	須恵器	坏	I A c	口径(11.8)	外: 灰色(7.5Y7/1) 内: 灰色(7.5Y7/1)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ
50	8	52	SR10 土器溜まり	須恵器	坏	I A c	口径(12.2) 器高(4.0)	外: 灰色(N7/) 内: 灰色(N5/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ 内: 回転ナデ
50	9	52	SR10 土器溜まり	須恵器	坏	I B c	口径(12.8)	外: 灰色(N7/) 内: 灰色(N7/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ 内: 回転ナデ
50	10	51	SR10 土器溜まり	須恵器	坏	ICc丸	口径(12.5) 器高4.3	外: 灰白色(10YR8/2) 内: 浅黄色(2.5Y7/4)	砂粒微量含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ、板目痕 内: 回転ナデ、放射状のシワ(当具痕か)
50	11	52	SR10	須恵器	坏	I C c	口径(10.2)	外: 灰色(N6/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、ヘラ切り痕か
50	12	51	土器溜まり SR10	須恵器	坏	ICc平	口径(14.2)	内: 灰色(N7/) 外: 灰色(5Y6/1)	砂粒少量含む	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ
50	13	52	土器溜まり SR10	須恵器	坏	I C c	口径(14.4)	内: 灰色(N7/) 外: 暗灰色(N3/)	砂粒少量含む	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ
50	14	52	土器溜まり SR10	須恵器	坏	I C c		内: 灰色(N5/) 外: 灰色(N4/)	砂粒多く含む	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、自然釉
			土器溜まり SR10				口径(13.0)	内: 灰色(N6/) 外: 灰白色(N8/)	砂粒多く百む	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ、自然釉
50	15	52	土器溜まり SR10	須恵器	坏	I丸	底径4.5	内: 灰白色(N7) 外: 灰色(N6/)	む	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ
50	16	52	土器溜まり	須恵器	蓋	II A		内: 灰色(N7/)	砂粒少量含む	内: 回転ナデ
50	17	52	SR10	須恵器	蓋	II A		外: 灰色(N6/) 内: 灰色(N7/)	砂粒少量含む	内: 回転ナデ
50	18	52	SR10 土器溜まり	須恵器	蓋	II b		外: 灰色(N5/) 内: 灰色(N7/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ、板目 内: 回転ナデ
50	19	52	SR10	須恵器	坏	II	口径(11.6)	外: 灰白色(2.5Y8/2) 内: 淡黄色(2.5Y8/3)	砂粒微量含む	外: 回転ナデ、回転ヘラ切後ナデ 内: 回転ナデ
50	20	51	SR10 土器溜まり	須恵器	坏	II	口径8.2 器高4.5	外: 灰色(N6/) 内: 灰色(N6/)	砂粒多く含む	外: ナデ、回転ヘラケズリ 内: ハケメ状調整痕 器壁厚い
50	21	52	SR10 土器溜まり	須恵器	坏	II		外: 灰色(N5/) 内: 灰色(5Y5/1)	砂粒微量含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ、ヘラ切り? 内: 回転ナデ
50	22	52	SR10 土器溜まり	須恵器	坏	b	口径(10.0)	外: 灰色(N5/) 内: 灰色(N6/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ
50	23	52	SR10	須恵器	坏	а	口径(15.0)	外: 暗灰色(N3/)	砂粒多く含む	外: 回転ナデ
50	24	52	土器溜まり SR10	須恵器	坏	b	口径(16.0)	内: 暗灰色(N3/) 外: 灰白色(5Y8/1)	砂粒少量含む	内: 回転ナデ、自然釉外: 回転ナデ
50	25	51	土器溜まり SR10	須恵器	坏	III B b	口径14.8	内: 灰白色(5Y8/1) 外: にぶい褐色(7.5YR5/3)	砂粒多く含む	内: 回転ナデ 瓦質 外: 回転ナデ、ヘラ切り
	26	52	土器溜まり SR10		坏	ь	底径10.0	内: 褐灰色(10YR5/1) 外: 青灰色(5B5/1)	砂粒少量含む	内: 回転ナデのちナデ 外: 回転ナデ
50			土器溜まり SR10	須恵器			口径(13.2)	内: 青灰色(5B5/1) 外: 灰白色(10YR7/1)		内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ、自然釉
50	27	52	土器溜まり SR10	須恵器	坏	III A b	器高(4.7)	内: 灰白色(10YR7/1) 外: 黄灰色(7.5Y6/1)	砂粒多く含む	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ
50	28	52	土器溜まり SR10	須恵器	坏	III B	底径(10.9)	内: 黄灰色(7.5Y6/1) 外: 灰白色(N7/)	砂粒多く含む	内: 回転ナデ、ナデ 低い高台 外: 回転ナデ
50	29	52	土器溜まり	須恵器	坏	b	口径(14.6)	内: 青灰色(5B5/1)	砂粒多く含む	内: 回転ナデ 高台の有無不明
50	30	52	SR10 土器溜まり	須恵器	坏	III B	底径(11.2)	外: 灰白色(2.5Y8/1) 内: 灰白色(2.5Y8/1)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、ヘラ切り 内: 回転ナデ、ナデ 低い高台

番号 50 50	番号 31	番号	層位		器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・調整・その他
50	31	52	SR10 土器溜まり	須恵器	坏	III B	底径(12.1)	外: 暗白色(N3/) 内: 淡黄色(2.5Y8/1)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、ナデ 内: 回転ナデ
50	32	52	SR10 土器溜まり	須恵器	高坏	坏丨		外: 灰色(N6/) 内: 灰色(N6/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、坏部波状文(8条) 内: 回転ナデ、自然釉
50	33	51	SR10 土器溜まり	須恵器	高坏蓋		口径(12.8) 器高4.1 つまみ径2.4	外: 灰色(N5/), 灰赤(2.5YR5/2) 内: 灰色(N5/)	砂粒多く含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ、宝珠つまみ 内: 回転ナデ
50	34	51	SR10 土器溜まり	須恵器	高坏	坏Ⅱ脚B	口径(11.4)	外: 灰白色(N7/)	砂粒多く含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ 内: 回転ナデ
51	1	52	SR10	須恵器	高坏	坏Ⅲ脚B		内: 灰白色(2.5Y7/1) 外: 灰色(5Y4/1)	砂粒多く含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ
	2	53	土器溜まり SR10	須恵器	高坏	坏Ⅲ脚B		内: 灰色(5Y6/1) 外: 灰白色(2.5Y7/1)	砂粒少量含む	内: 回転ナデ 坏部斜線文 外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ
 51	3	52	土器溜まり SR10	須恵器	高坏	坏Ⅲ脚B		内: 灰白色(N7/) 外: 灰色(N5/)	砂粒少量含む	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、
 51	4	52	土器溜まり SR10	須恵器	高坏	坏Ⅲ		内: 灰色(N5/) 外: 灰色(N4/)	砂粒少量含む	内: 回転ナデ、脚内絞り痕 外: 回転ナデ
51	5	52	SR10	須恵器	高坏	坏Ⅲ		内: 灰色(N6/) 外: 灰色(N5/)	砂粒微量含む	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ
51	6	52	土器溜まり SR10	須恵器	高坏	坏Ⅲ	口径(13.4)	内: 灰色(N5/) 外: 灰オリーブ色(7.5Y6/2)	砂粒微量含む	内: 厚い自然釉 体部中程に稜 外: 回転ナデ、凹線2条?
51	7	52	SR10	須恵器	高坏	坏Ⅲ	,	内: 灰色(7.5Y6/1) 外: 灰白色(10Y5/1)	砂粒少量含む	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、凹線2 条 脚部接合面に細沈線
51	8	52	土器溜まり SR10	須恵器	高坏	脚A	脚端径(8.7)	内: 灰白色(10Y 6 /1) 外: 灰色(N4/)	砂粒微量含む	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ 内: 回転ナデ、絞り痕
			土器溜まり SR10					内: 灰白色(7.5Y8/1) 外: 灰色(N4/)		長方形三方一段透かし 外: 回転ナデ、自然釉
51	9	52	土器溜まり	須恵器	高坏	脚A	脚端径(9.1)	内: 灰色(N2/)	砂粒少量含む	内: 回転ナデ、絞り痕 長方形三方一段透かし
51	10	52	SR10 土器溜まり	須恵器	高坏	脚B		外: オリーブ灰色(2.5GY6/1) 内: 明オリーブ灰色(2.5GY7/1)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ 下部に段 内: 回転ナデ
51	11	52	SR10 土器溜まり	須恵器	高坏	脚B	脚端径(10.8)	外: 灰色(N6/) 内: 灰色(N5/)	砂粒多く含む	外: 回転ナデ、自然釉 内: 回転ナデ 脚端部に面
51	12	52	SR10 土器溜まり	須恵器	高坏	脚B		外: 灰色(N6/) 内: 灰色(N6/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、自然釉 内: 回転ナデ
51	13	54	SR10 土器溜まり	須恵器	高坏	脚B		外: 灰色(N4/) 内: 灰色(N4/)	砂粒多く含む	外: 回転ナデ、自然釉 内: 回転ナデ、絞り痕、自然釉
51	14	53	SR10 土器溜まり	須恵器	高坏	脚B	脚端径(9.0)	外: 灰白色(2.5Y8/2) 内: 灰白色(2.5Y7/1)	砂粒微量含む	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ 脚端部屈曲
51	15	53	SR10 土器溜まり	須恵器	高坏	脚B	脚端径(9.2)	外: 灰黄色(2.5Y7/2) 内: 灰黄色(2.5Y8/1)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ
51	16	54	SR10 土器溜まり	須恵器	酿		口径(8.8)	外: 灰色(N4/) 内: 灰色(N7/)	砂粒少量含む	外: 沈線、回転ナデ 内: 回転ナデ 口縁屈曲部鈍い突線 口唇凹面
51	17	54	SR10 土器溜まり	須恵器	踺		口径(11.6)	外: 灰色(7.5Y6/1) 内: 灰色(7.5Y7/1)	白色砂粒微量含 む	外: 回転ナデ、自然釉 内: 回転ナデ 波状文10 ~11 条、口唇平坦面
51	18	54	SR10 土器溜まり	須恵器	酿		口径(13.0)	外: 灰色(N5/) 内: 灰色(N6/)	砂粒多く含む	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ 口縁屈曲部突線 口唇凹面
51	19	53	SR10 土器溜まり	須恵器	酿			外: 灰色(N4/) 内: 灰色(N6/)	砂粒多く含む	外: 胴部下半カキメ、回転ヘラケズリ後回転ナ デ、自然釉 内: 回転ナデ、自然釉 頸部波状文 (8条以上)、肩部沈線間に刺突文
51	20	53	SR10 土器溜まり	須恵器	酿			外: 灰色(7.5Y6/1) 内: 灰色(N5/)	砂粒多く含む	外: 肩部カキメー部ナデ、円孔1 孔、回転ナデ内: 回転ナデ
51	21	53	SR10 土器溜まり	須恵器	豍			外: 灰色(N5/) 内: 灰色(7.5Y6/1)	白色砂粒微量 含む	外: 頸部波状文(約30条)、回転ナデ、肩部沈線間 に刺突文、胴部下半回転ヘラケズリ後ナデ、自 然釉 内: 回転ナデ、自然釉
51	22	54	SR10	須恵器	酿			外: 灰色(2.5Y8/1) 内: 浅黄橙色(7.5YR8/4)	砂粒微量含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ、カキメ 内: 絞り目、回転ナデ
51	23	54	SR10	須恵器	壺蓋?		口径(9.4) 器高(2.9)	外: 灰色(2.5Y7/1) 内: 灰色(2.5Y7/1)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ 内: 回転ナデ 口唇凹面
51	24	53	SR10 土器溜まり	須恵器	短頸壺		口径(5.6) 器高5.8 底径10.0	外: 灰白色(2.5Y6/1) 内: 灰白色(2.5Y7/1)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ、肩部絞り痕・擦 過痕 内: 回転ナデ
51	25	53	SR10 土器溜まり	須恵器	短頸壺		口径6.6 器高6.7	外: 灰白色(2.5Y7/1) 内: 黄灰色(2.5Y6/1)	砂粒多く含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ 内: 回転ナデ、ナデ
51	26	54	SR10 土器溜まり	須恵器	短頸壺			外: 灰色(N5/) 内: 灰色(N6/)	砂粒多く含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ 内: 回転ナデ、ナデ
51	27	54	SR10 土器溜まり	須恵器	短頸壺			外: 灰白色(7.5Y7/1) 内: 灰色(N6/1)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、一部にケズリ 内: 回転ナデ
51	28	54	SR10 土器溜まり	須恵器	短頸壺			外: 灰色(N6/) 内: 灰色(N6/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、指押圧痕 内: 回転ナデ
51	29	55	SR10 土器溜まり	須恵器	長頸壺			外: 灰色(7.5Y2/1) 内: 灰色(N5/)	砂粒多く含む	外: 回転ナデ、自然釉 内: 回転ナデ、絞り痕、自然釉
51	30	54	SR10 土器溜まり	須恵器	鉢		口径(17.6)	外: 灰色(N6/) 内: 灰色(N6/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ
52	1	54	SR10 土器溜まり	須恵器	壺		口径(18.6)	外: 灰色(7.5Y6/1) 内: 灰色(7.5Y6/1)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ 口縁突線1条
52	2	54	SR10	須恵器	長頸壺			外: 不明 内: 黒色(2.5Y2/1)	砂粒多く含む	外: 回転ナデ、自然釉 内: 回転ナデ
52	3	54	SR10 土器溜まり	須恵器	壺		口径(19.8)	外: 灰白色(5Y7/1) 内: 灰白色(5Y7/1)	砂粒少量含む	外: 頸部カキメ、肩部平行タタキ後カキメ、回転 ナデ 内: 回転ナデ、当具痕B
52	4	54	SR10 土器溜まり	須恵器	壺		口径(15.7)	外: 灰白色(7.5Y7/1) 内: 灰白色(7.5Y7/1)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ 口縁玉縁状
52	5	54	SR10 土器溜まり	須恵器	壺		口径(18.0)	外: 灰白色(N7/) 内: 灰白色(N7/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ 口縁やや肥厚
52	6	55	SR10 土器溜まり	須恵器	壺			外: 灰白色(N6/) 内: 灰白色(N5/)	砂粒少量含む	外: 頸部波状文5 条以上、肩~胴部カキメ・沈線 2 条の間に波状文1 単位6 ~7 条、回転ナデ、ヘ ラケズリ 内: 回転ナデ
52	7	54	SR10 土器溜まり	須恵器	壺		口径(11.6)	外: 黄灰色(2.5Y7/2) 内: オリーブ黒色(5Y3/1)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、自然釉 内: 回転ナデ、自然釉
52	8	54	SR10 土器溜まり	須恵器	壺		口径(18.5)	外: 灰色(N6/) 内: 灰色(N6/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ
52	9	54	SR10 土器溜まり	須恵器	提瓶		口径(7.8) 器高(8.5)	外: 灰白色(N8/) 内: 灰白色(N7/)	砂粒多く含む	外: 回転ナデ、自然釉 内: 回転ナデ、当具痕ナデ消し、自然釉
52	10	54	SR10 土器溜まり	須恵器	壺			外: 灰白色(N7/) 内: 灰白色(N7/)	砂粒多く含む	外: カキ目、自然釉 内: 回転ナデ、わずかに当具痕

挿図 番号	遺物 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・調整・その他
53	1	55	SR10 土器溜まり	須恵器	獲		口径38.0 器高78.6	外: 青灰色(5B5/1) 内: 青灰色(5B5/1)	白色砂粒多く含む	外: カキメ、平行タタキ痕、ナデ 内: 当具痕 A、ナデ 凹線(2条) 間に波状文(12 ~13条)
53	2	55	SR10 土器溜まり	須恵器	甕		口径15.7 器高(35.8)	外: 灰色(N6/) 内: 黒色(N2/) 灰色(N6/)	砂粒多く含む	外: 回転ナデ、平行タタキ後一部カキメ、自然釉内: 回転ナデ、当具痕A、自然釉
53	3	55	SR10 土器溜まり	須恵器	甕			外: 灰色(N6/) 内: 灰色(N6/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、平行タタキ後カキメ 内: 回転ナデ、輪花b類
53	4	55	SR10 土器溜まり	須恵器	甕			外: 灰色(N5/) 内: 灰白色(N7/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、平行タタキ後カキメ 内: 回転ナデ、輪花b 類
53	5	56	SR10 土器溜まり	須恵器	横瓶		口径(11.8) 器高(33.6) 長軸43.4 短軸31.5	外: 灰色(N5/) 内: 灰色(N5/)	砂粒多く含む	外: 回転ナデ、平行タタキ 内: 回転ナデ、ナデ、当具痕B
55	1	56	SR10 土器溜まり	ミニチュア 土器	碗形	ΙA	口径4.3 器高3.0	外: 明赤褐色(5YR5/6) 内: 明赤褐色(5YR5/6)	砂粒微量含む	外: コメ圧痕 内: 指押圧痕、ナデ
55	2	56	SR10 土器溜まり	ミニチュア 土器	碗形	ΙA	口径3.8 器高1.9	外: 明赤褐色(5YR5/6) 内: 明赤褐色(5YR5/8)	砂粒微量含む	外: 指調整後ナデ 内: 指押圧痕後ナデ
55	3	56	SR10 土器溜まり	ミニチュア 土器	碗形	ΙA	口径(3.2) 器高(2.5)	外: 浅黄橙色(10YR8/4) 内: にぶい黄橙色(10YR7/3)	砂粒微量含む	外: 指押圧痕後ナデ 内: 指押圧痕
55	4	59	SR10 土器溜まり	ミニチュア 土器	碗形	ΙA		外: 橙色(7.5YR6/6) 内: にぶい黄橙色(10YR7/3)	砂粒微量含む	外: 指整形後ナデ 内: 掻き上げ
55	5	59	SR10 土器溜まり	ミニチュア 土器	碗形	ΙA	口径(4.4) 器高(2.6)	外: にぶい黄橙色(10YR6/4) 内: にぶい黄橙色(7.5YR6/4)	砂粒殆ど含まない	外: 指押圧痕、ナデ 内: 指押圧痕、ナデ
55	6	56	SR10 土器溜まり	ミニチュア 土器	碗形	ΙB	口径6.2 器高3.2	外: 灰褐色(7.5YR4/2) 内: にぶい黄褐色(10YR5/3)	砂粒少量含む	外: 指押圧痕、ナデ 内: 掻き上げ
55	7	59	SR10 土器溜まり	ミニチュア 土器	碗形	ΙB	口径(4.7) 器高4.5	外: 褐色(7.5YR4/3) 内: 褐灰色(7.5YR4/1)	砂粒微量含む	外: 指整形後ナデ 内: 掻き上げ
55	8	56	<u>エ船畑より</u> SR10 土器溜まり	ミニチュア 土器	碗形	ΙB	口径5.6 器高4.0	外: にぶい褐色(7.5YR6/3) 内: にぶい褐色(7.5YR6/3)	砂粒殆ど含まない	外: 指整形後ナデ、全面黒変 内: 掻き上げ、全面黒変
55	9	56	<u>エ船畑より</u> SR10 土器溜まり	ミニチュア	碗形	ΙB	口径5.7 器高3.3	外: 明赤褐色(5YR5/6) 内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒少量含む	外: 指押圧痕、ナデ、穿孔 内: 掻き上げ
 55	10	59	SR10	ミニチュア	碗形	ΙB	福向3.3 口径(5.2)	外: 暗赤褐色(5YR5/6)	砂粒微量含む	外: 指整形後ナデ
 55	11	57	土器溜まり SR10	土器 ミニチュア	碗形	I B	口径6.2	内: 橙色(5YR6/6) 外: 橙色(7.5YR6/6)	砂粒少量含む	内: 掻き上げ 外: 指押圧痕後ナデ、底部黒変
	12	57	土器溜まり SR10	土器 ミニチュア	碗形	ΙB	器高(4.3) 口径5.6	内: 橙色(7.5YR6/6) 外: 橙色(5YR6/6)	砂粒少量含む	内: 掻き上げ 外: 指押圧痕、一部黒変
55	13	57	土器溜まり SR10	土器 ミニチュア	碗形	I B	器高3.9 口径5.7	内: 橙色(5YR6/6) 外: 浅黄橙色(7.5YR8/6)	砂粒殆ど含まな	内: 指押圧痕 外: 指整形後ナデ
 55	14	57	土器溜まり SR10	土器 ミニチュア	碗形	I B	器高3.1 口径4.9	内: 橙色(5YR7/6) 外: にぶい橙色(7.5YR6/4)	い 砂粒殆ど含まな	内: 掻き上げ" 外: 指整形後ナデ、底部黒変
			土器溜まり SR10	土器 ミニチュア			器高3.4 口径6.1	内: にぶい橙色(7.5YR6/6) 外: 橙色(5YR6/6)	い	内: 掻き上げ 外: 指整形後ナデ
55 	15	57	土器溜まり SR10	土器	碗形	I B	器高3.6	内: 橙色(5YR6/6) 外: 明赤褐色(5YR5/6)	砂粒少量含む	内: 掻き上げ 外: 工具痕、ナデ
	16	59	土器溜まり SR10	土器	碗形	ΙB	底径(2.8)	内: 橙色(5YR7/6) 外: 橙色(5YR7/6.2)	砂粒少量含む	内: 掻き上げ 外: 指押圧痕後ナデ
55 	17	57	土器溜まり SR10	土器	碗形	ΙB	器高2.9 口径6.3	内: 橙色(5YR6/6) 外: 橙色(2.5YR7/6)	砂粒少量含む	内: 掻き上げ 外: 指整形後ナデ
55 	18	57	土器溜まり SR10	土器	碗形	ΙB	器高4.2 口径 (6.0)	内: 橙色(2.5YR7/7) 外: 橙色(5YR6/6)	砂粒少量含む	内: 掻き上げ 外: 指整形後ナデ
55 	19	57	土器溜まり	土器	碗形	ΙB	器高3.4 口径 (5.8)	内: 橙色(5YR6/6) 外: 橙色(5YR6/6)	砂粒多く含む	内: 掻き上げ
55	20	58	SR10 土器溜まり	土器	碗形	ΙB	器高 (2.6)	内: 橙色(5YR6/6)	砂粒少量含む	外: 指整形後ナデ 内: 掻き上げ
55 	21	58	SR10 土器溜まり	ミニチュア 土器	碗形	ΙB	口径6.8 器高4.2	外: 橙色(5YR6/6) 内: 橙色(5YR7/6)	砂粒少量含む	外: 指整形後ナデ 内: 掻き上げ
55	22	59	SR10 土器溜まり	ミニチュア 土器	碗形	ΙB	口径 (6.2)	外: 灰黄褐色(10YR5/2) 内: 灰黄褐色(10YR5/2)	砂粒少量含む	外: 指整形後ナデ 内: 掻き上げ
55	23	59	SR10 土器溜まり	ミニチュア 土器	碗形	ΙB	口径(6.1) 器高(3.1)	外: 橙色(5YR6/6) 内: 橙色(5YR6/6)	砂粒微量含む	外: 指整形後ナデ 内: 掻き上げ
55	24	59	SR10 土器溜まり	ミニチュア 土器	碗形	ΙB	口径(5.9) 器高(3.7)	外: 橙色(2.5YR7/6) 内: 橙色(5YR6/6)	砂粒少量含む	外: 指整形後ナデ 内: 掻き上げ
55	25	58	SR10 土器溜まり	ミニチュア 土器	碗形	ΙB	口径7.1 器高4.6	外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒少量含む	外: 指押圧痕、一部黒変 内: 掻き上げ
55	26	59	SR10 土器溜まり	ミニチュア 土器	碗形	ΙB	口径(8.0) 器高(3.5)	外: にぶい黄色(2.5YR6/4) 内: にぶい橙色(2.5YR6/4)	砂粒少量含む	外: 指整形後ナデ 内: 掻き上げ
55	27	58	SR10 土器溜まり	ミニチュア 土器	碗形	ΙB	口径6.2 器高3.8	外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 橙色(5YR6/6)	砂粒微量含む	外: 指押圧痕、一部黒変 内: 指押圧痕、一部黒変
55	28	59	SR10 土器溜まり	ミニチュア 土器	碗形	I C	口径(6.8) 器高(5.0)	外: 橙色(5YR6/6) 内: にぶい黄褐色(10YR6/4)	砂粒少量含む	外: 指整形後ナデ 内: 掻き上げ 一部黒変
55	29	58	SR10 土器溜まり	ミニチュア 土器	碗形	I C	口径6.3 器高4.3	外: 明黄褐色(10YR7/6) 内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒少量含む	外: 指押圧痕後ナデ 内: 掻き上げ
55	30	58	SR10 土器溜まり	ミニチュア	碗形	I C	口径8.0 器高4.6	外: にぶい黄褐色(10YR5/3) 内: にぶい黄橙色(10YR6/3)	砂粒やや多く含む	外: 指押圧痕、ナデ 内: 指整形
55	31	58	SR10 土器溜まり	ミニチュア	鉢形	II A	口径5.6 底径4.7	外: にぶい授色(5YR6/4) 内: 橙色(2.5YR7/6)	砂粒少量含む	外: 指押圧痕後ナデ 内: 掻き上げ
 55	32	59	SR10	ミニチュア	鉢形	II A	口径(4.4)	外: 灰褐色(7.5YR4/2)	砂粒微量含む	外: 指整形後ナデ
 55	33	59	土器溜まり SR10	主器 ミニチュア	鉢形	II A	器高2.4 底径(3.4) 口径(5.6)	内: 灰褐色(7.5YR4/2) 外: にぶい橙色(7.5YR7/4)	砂粒微量含む	内: 掻き上げ 外: 指整形後ナデ 一部黒変
	34	58	土器溜まり SR10	土器 ミニチュア	鉢形	II B	器高(2.8) 口径4.2	内: にぶい橙色(5YR7/4) 外: にぶい橙色(10YR7/4)	砂粒少量含む	内: 掻き上げ 外: 指整形後ナデ
 55	35	59	土器溜まり SR10	主器 ミニチュア	鉢形	II A	器高4.7 底径(3.6)	内: 橙色(7.5YR7/6) 外: 明赤褐色(2.5YR5/8)	砂粒微量含む	内: 掻き上げ 外: ハケメ、ナデ、未貫通孔
 55	36	59	土器溜まり SR10	土器 ミニチュア	鉢形	11	底径(4.8)	内: 橙色(2.5YR6/8) 外: にぶい褐色(7.5YR5/4)	砂粒少量含む	内: 指押圧痕後ナデ 外: 指整形後ナデ、一部黒変
	37	59	土器溜まり SR10	土器 ミニチュア	鉢形		口径5.7	内: 橙色(5YR6/6) 外: 橙色(5YR6/8)		内: 掻き上げ 外: 指押圧痕後ナデ
-55 			土器溜まり SR10	土器 ミニチュア		II A	器高4.0 底径4.3 口径(6.5)	内: 橙色(5YR6/8) 外: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒微量含む	内: 掻き上げ 底部黒変 外: 指整形後ナデ
 	1	59	土器溜まり SR10	土器	鉢形	II B	器高4.9 底径(4.5)	内: 橙色(7.5YR6/6) 外: にぶい褐色(7.5YR6/3)	砂粒微量含む	内: ケズリ後ナデ 外: 指整形後ナデ
56 	2	59	土器溜まり SR10	土器	鉢形	II A	底径(4.6)	内: にぶい橙色(7.5YR6/4) 外: 橙色(5YR7/6)	砂粒少量含む	内: 掻き上げ 外: 指整形後ナデ 一部黒変
56	3	59	土器溜まり	土器	鉢形	II A	底径4.4	内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒少量含む	内: 掻き上げ

挿図	遺物	図版	出土遺構	種別	器種	分類	法量(cm)		色調	胎土	文様・調整・その他
番号 56	番号 4	番号 59	層位 SR10	ミニチュア	鉢形	II	底径(4.2)	外: 橙色(7	.5YR6/6)	砂粒少量含む	外: 指整形後ナデ 底部黒変
56	5	59	土器溜まり SR10	土器 ミニチュア	鉢形	II	口径(6.0)	内: 橙色(7 外: 橙色(5	YR7/6)	砂粒多く含む	内: 掻き上げ 外: 指整形後ナデ
56	6	59	土器溜まり SR10	土器 ミニチュア	壺形	III	器高(3.4)	内: 橙色(5	YR6/6) 色(10YR8/4)	砂粒少量含む	内: 掻き上げ 外: ナデ
			土器溜まり SR10	土器				内: 浅黄橙 外: 橙色(5	色(10YR8/4) YR6/6)		内: ナデ 接合痕明瞭 外: ハケメ、ナデ
56 ——#11	7	59	土器溜まり	土器	壶形 	III		内: 橙色(5	YR6/6)	砂粒少量含む	内: 掻き上げ
石製	品・ 遺物	上類図版	出土遺構								
番号	番号	番号	層位	種別	器種		法量(cm)		重量(g)	石材	備考 ————————————————————————————————————
56	8	59	SR10 15-16 層	石製品	勾玉	長さ4.1 幅1.	6 厚さ0.4 孔径0.15	5	6.8	滑石	全面丁寧な研磨ー部剥離面残る
56	9	59	SR10 15-16 層	玉類	管玉	長さ2.1 幅0.	8 厚さ0.8		2.3	花仙山産碧玉か	片面穿孔 欠損後に研磨(剥離面外縁を研磨) 濃緑色
鉄器											
挿図 番号	遺物 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種		法量(cm)		重量(g)		備考
56	10	83	2-2 区 SR10	鉄製品	鏃	長さ(11.05)	幅(2.3) 厚さ0.5		(13.89)	長頸鏃 長三角	形腸抉 1 重 両丸造
56	11	83	2-2 区 SR10	鉄製品	鏃	長さ10.35 幅	1.75 厚さ0.35		(26.0)	長頸鏃 長三角	
56	12	83	2-2 区 SR10	鉄製品	鏃	長さ(7.5) 幅	不明 厚さ0.4		(5.86)	長頸鏃 両鎬造	ナデ関
56	13	83	2-7区 SR10	鉄製品	鏃	長さ(7.6) 幅(1.7) 厚さ0.4		(11.0)	柳葉形 鏃身片	
56	14	83	2-7区 SR10	鉄製品	鏃	長さ(6.1) 幅(0.85 厚さ0.3		(8.0)	台形関	
56	15	83	2-2 区 SR10	鉄製品	鏃	長さ(4.75) 幅	1.3 厚さ0.5		(15.71)	方頭形	
56	16	83	2-7 区 SR10	鉄製品	鏃	長さ(7.9) 幅(0.7 厚さ0.65		(41.0)	長頸鏃	
56	17	83	2-7 区 SR10	鉄製品	釣針	長さ2.9 幅2.	6 厚さ0.4		(8.0)	断面隅丸方形	
56	18	83	2-7 区 SR10	鉄製品	弓金具	長さ(2.35) 幅	0.9 厚さ0.45		(1.77)	中空か	
56	19	83	2-7 区 SR10	鉄製品	鏨	長さ3.5 幅0.5 長さ3.8 幅1.3			(26.2)	鏨状工具か 21	
56	20	83	2-8 区 SR10	鉄製品	鎌	長さ(3.9) 幅2			(15.0)	基部の折り返し	が身に密着 鉄製模造品
56	21	83	2-2 区 SR10	鉄製品	刀子	長さ(6.4) 幅(1.2) 厚さ0.6		(14.03)	斜め関	
56	22	83	2-7区 SR10	鉄製品	鏨	長さ5.5 幅3.	0 厚さ2.1		(91.81)	小型	
56	23	83	2-7区 SR10	鉄製品	板状鉄片	長さ(2.95) 幅	3.0 厚さ0.45		(21.0)	弧状板片	
56	24	83	2-7区 SR10	鉄製品	板状鉄片	長さ1.7 幅0.8	85 厚さ0.35		(5.0)	板状鉄片の残片	<i>b</i>
56	25	83	2-7区 SR10	鉄製品	板状鉄片	長さ1.4 幅1.	2 厚さ0.35		(2.0)	板状鉄片の残片	5
56	26	83	2-7区 SR10	鉄製品	板状鉄片	長さ(2.5) 幅7	1.7 厚さ0.3		(16.0)		
56	27	83	2-7区 SR10	鉄製品	板状鉄片	長さ2.6 幅1.	6 厚さ0.6		(9.0)	板状鉄片の残片	5
56	28	83	2-2 区 SR10	鉄製品	板状鉄片	長さ5.9 幅2.	7 厚さ0.4		(42.0)	断面長方形で平	面不整形
56	29	83	2-7区 SR10	鉄製品	板状鉄片	長さ(8.95) 幅	2.7 厚さ0.2		(40.0)	断面は隅丸方形	で刃部なし
56	30	83	2-2 区 SR10	鉄素材	鉄塊	長さ2.6 幅2.	4 厚さ2.1		(60.0)	小型 重量は石	含む 磁着度:5 メタル度:H
56	31	83	2-7区 SR10	鉄素材	鉄塊	長さ3.2 幅2.	9 厚さ1.3		(21.0)	磁着度:5 メタ	ル度 : L
56	32	83	2-7区 SR10	鉄素材	鉄塊	長さ3.1 幅2.	2 厚さ0.85		(13.0)	磁着度:4 メタ	ル度:銹化
56	33	83	2-7区 SR10	鉄素材	鉄塊	長さ2.0 幅1.	5 厚さ0.65		(12.0)	小型 磁着度:5	メタル度 :H
羽口											
挿図 番号	遺物番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種		法量(cm)		重量(g)		備考
57	1	84	2区 SR10	鍛冶関連	羽口	長さ(7.8) 厚:	±2.5		75.0	ガラス質化	
57	2	84	2 ⊠ SR10	鍛冶関連	羽口	長さ(7.1) 厚	÷2.1		62.0	ガラス質化 炉	
57	3	84	2-7 区 SR10	鍛冶関連	羽口	長さ(7.8) 幅(5.9) 厚さ(3.9)		116.0	ブロック単位不同	月 羽口接地痕
57	4	84	2-2 区 SR10	鍛冶関連	羽口	長さ(7.3) 厚	さ2.5		354.0	ガラス質化	
57	5	84	2区 SR10	鍛冶関連	羽口	長さ(7.3) 厚	さ2.5		40.0	ガラス質化	
-											

第40表 遺構外出土遺物観察表 ^{縄文土器}

縄文	土器									
挿図 番号	遺物番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様: 調整: その他
58	1	60	SR10	縄文土器	深鉢	中期		外: にぶい褐色(7.5YR5/4) 内: 褐色(7.5YR4/4)	砂粒多く含む	外: 地文RL、隆帯上爪形文(半截竹管) 内: 口縁肥厚帯RL、ナデ"
58	2	60	SR10	縄文土器	深鉢	前期		外: 灰黄褐色(10YR4/2) 内: 灰黄褐色(10YR4/2)	砂粒少量含む	外:LR 内: ナデ、指押圧痕、原体不明条痕
58	3	60	Ⅱ層	縄文土器	深鉢	中期		外: にぶい黄褐色(10YR5/3)	砂粒少量含む	外: 隆帯上円形刺突文、二枚貝条痕、RL
 58	4	60	SR10	縄文土器		中期		内: にぶい黄橙色(10YR6/4) 外: 黒褐色(10YR2/2)	砂粒微量含む	内: 二枚貝条痕 外: ナデ、円形意匠の隆帯文(隆帯上刺突)
 58	5	60	SR10	縄文土器		中期		内: 黒褐色(10YR3/1) 外: にぶい黄橙色(10YR6/3)	砂粒少量含む	内: ナデ 上端擬口縁 外: ナデ、波状文、撚糸文、連弧文
58	6	60	SR01	縄文土器		中期		内: にぶい黄橙色(10YR7/3) 外: にぶい黄橙色(10YR6/3)	砂粒少量含む	内: ナデ 外: 三日月状の沈線区画文、垂下隆帯(隆帯上円
	7		SR10	縄文土器				内: にぶい黄橙色(10YR6/3) 外: にぶい黄橙色(10YR7/3)		形刺突文) 内: ナデ 外: 楕円形文、RL
58		60				中期末		内: 灰黄褐色(10YR5/2) 外: 灰黄褐色(10YR4/2)	砂粒少量含む	内: ナデ" 外: 二枚貝条痕
58	8	60	SR10	縄文土器		前期?		内: 黒褐色(10YR3/2) 外: 褐灰色(10YR4/1)	砂粒微量含む	内: 二枚貝条痕 外: 二枚貝条痕
	9	60	SR10	縄文土器		前期?		内: 灰黄褐色(10YR4/2) 外: 浅黄橙色(10YR8/4)	砂粒微量含む	内: 二枚貝条痕 外:RL
58 ———	10	60	SR10	縄文土器		中期?		内: にぶい黄橙色(10YR7/4) 外: にぶい黄橙色(10YR7/3)	砂粒少量含む	内: 二枚貝条痕後ナデ
58	11	60	Ⅱ層	縄文土器		中期?		内: にぶい黄褐色(10YR5/3)	砂粒少量含む	外:LR 内:二枚貝条痕
58	12	60	SR02	縄文土器		中期?		外: 浅黄橙色(10YR8/4) 内: 淡黄色(2.5Y8/3)	砂粒少量含む	外:RL 内: ナデ
58	13	60	SR02	縄文土器		中期?		外: 淡黄色(2.5Y7/3) 内: 淡黄色(2.5Y8/4)	砂粒少量含む	外:RL 内: ナデ
58	14	60	SR02	縄文土器		中期?		外: にぶい黄橙色(10YR7/4) 内: 淡黄色(2.5Y8/4)	砂粒少量含む	外:RL 内: ナデ
58	15	60	SR10	縄文土器		中期?		外: 灰黄褐色(10YR5/2) 内: にぶい黄橙色(10YR6/4)	砂粒多く含む	外: 撚戻しか無節R 内: ナデ
58	16	60	SR10	縄文土器		中期?		外: 浅黄橙色(10YR6/3) 内: にぶい黄橙色(10YR7/3)	砂粒微量含む	外:LR 内: 二枚貝条痕後ナデ 下端擬口縁?
58	17	60	Ⅱ層	縄文土器		中期?		外: 灰黄褐色(10YR5/2)	砂粒多く含む	外: 撚糸文か
 58	18	60	SR10	縄文土器		中期		内: にぶい黄橙色(10YR7/3) 外: にぶい黄橙色(10YR7/4)	砂粒少量含む	内: 二枚貝条痕 外: 撚糸文
 58	19	60	SR10	縄文土器		中期		内: にぶい黄橙色(10YR7/4) 外: 灰黄褐色(10YR5/2)	砂粒少量含む	内: 二枚貝条痕後ナデ 外: 撚糸文
58	20	60	II層	縄文土器	深鉢	後期		内: 浅黄橙色(7.5YR8/4) 外: 浅黄色(2.5Y7/4)	砂粒微量含む	内: ナデ 外: ミガキ、段(沈線気味)、磨消縄文(RL)
								内: 浅黄橙色(10YR8/4) 外: 浅黄橙色(10YR8/4)		内: ミガキ 外: 沈線、ナデかミガキ、上部に縄文(LR?) か
58	21	60	SR01	縄文土器	深鉢	後期		内: にぶい黄橙色(10YR6/3) 外: にぶい黄橙色(10YR6/4)	砂粒微量含む	下端にも沈線文 内: ナデ 外: 水平沈線文に半円形文とりつく、二枚貝条痕
58 	22	60	SR02	縄文土器	深鉢	後期		内: にぶい黄橙色(10YR7/3) 外: にぶい黄橙色(10YR6/3)	砂粒少量含む	内: 二枚貝条痕 外: 口縁RL・沈線、ミガキ、焼成前穿孔
58	23	60	Ⅱ層	縄文土器	深鉢	後期		内: 褐灰色(10YR4/1) 外: にぶい黄橙色(10YR6/4)	砂粒少量含む	内:RL、ミガキ
58	24	60	SR02	縄文土器	深鉢	後期		内: にぶい黄橙色(10YR7/3)	砂粒少量含む	外: 口縁RL、凹点文に沈線文とりつく、RL、ナデ内: ケズリ後ナデ
58	25	60	SR03	縄文土器	深鉢	後期		外: 橙色(7.5YR7/6) 内: にぶい黄橙色(10YR6/4)	砂粒少量含む	外: 口縁沈線・ナデ、原体不明条痕 内: ナデ、原体不明条痕
58	26	60	SR03	縄文土器	深鉢	後期		外: 黒褐色(2.5Y3/1) 内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒少量含む	外: 口縁沈線、頸部垂下細沈線文、ナデ、巻貝?条 痕 内: ナデ
58	27	60	SR10	縄文土器	深鉢	後期		外: 灰黄褐色(10YR5/2) 内: 灰黄褐色(10YR5/2)	砂粒少量含む	外: ナデ、沈線 内: ナデ
58	28	60	SR10	縄文土器	深鉢	後期		外: 明赤褐色(5YR5/6) 内: 黒褐色(2.5Y3/1)	砂粒少量含む	外: 撚戻し、ナデ 内: ナデ
58	29	60	SR10	縄文土器	鉢か	後期		外: にぶい黄橙色(10YR7/4) 内: にぶい黄橙色(10YR7/4)	砂粒少量含む	外: 縄文RL、隆帯文 内: ナデ
58	30	60	Ⅱ層	縄文土器	深鉢	後期		外: 浅黄色(2.5Y7/3) 内: 浅黄橙色(10YR8/4)	砂粒少量含む	外:水平沈線文、円形文に斜行沈線文とりつく? ナデ 内:ナデ
58	31	60	SR02	縄文土器	深鉢	後期		外: 暗灰黄色(2.5Y5/2) 内: 明黄褐色(10YR6/6)	砂粒微量含む	外: ミガキ、磨消縄文(RL) 内: ミガキ
58	32	60	Ⅱ層	縄文土器	浅鉢	後期		外: 明黄褐色(10YR6/6)	砂粒微量含む	外: 磨消縄文(RL)、ミガキ
 58	33	60	Ⅱ層	縄文土器	浅鉢	後期		内: 明黄褐色(10YR6/6) 外: 黒褐色(7.5YR3/1)	砂粒少量含む	内: ミガキ 外: ミガキ、沈線内連続刺突文、磨消縄文(LR)
58	34	60	SR01	縄文土器	浅鉢	後期		内: 黒褐色(7.5YR3/1) 外: 黄灰色(2.5Y4/1)	砂粒少量含む	内: ミガキ 外: ミガキ、隆帯で区画?
								内: 浅黄色(10Y7/3) 外: 暗灰黄色(2.5Y/2)		内: ナデ 外: 磨消縄文(RL)、沈線、ミガキ
58	35	60	SR02	縄文土器	浅鉢	後期		内: 明黄褐色(10YR6/6) 外: にぶい黄橙色(10YR7/4)	砂粒少量含む	内: 沈線、ミガキ 焼成後穿孔(未貫通) 外: ミガキ、磨消縄文(RL)
	36	61	SR10	縄文土器	浅鉢	後期		内: にぶい黄橙色(10YR7/4) 外: 黒褐色(2.5Y3/1)	砂粒少量含む	内: ケズリ 外: ミガキ、磨消縄文(RL)、垂下沈線文
	37	61	SR07	縄文土器	浅鉢	後期		内: 黒褐色(2.5Y3/1) 外: 黒褐色(2.5Y3/2)	砂粒微量含む	内: ミガキ
58	38	61	SR02	縄文土器	浅鉢	後期		内: にぶい黄褐色(10YR5/4)	砂粒少量含む	内: ミガキ 2 山の突起
58	39	61	SR02	縄文土器	浅鉢	後期		外: 灰黄褐色(10YR4/2) 内: 灰黄褐色(10YR5/2)	砂粒微量含む	外: 磨消縄文(RL)、垂下短沈線、ミガキ 内: ミガキ
58	40	61	IV層	縄文土器	浅鉢	後期		外: 褐灰色(10YR4/1) 内: 褐灰色(10YR4/1)	砂粒少量含む	外: 磨消縄文(RL: 赤彩)、ミガキ 内: ミガキ
59	1	61	SR02	縄文土器	浅鉢	後期		外: 褐灰色(10YR4/1) 内: 黒褐色(10YR3/1)	砂粒少量含む	外:RL、沈線、ミガキ 内: ミガキ 内面段
59	2	61	SR10	縄文土器	浅鉢	後期		外: にぶい黄橙色(10YR6/3) 内: 灰黄褐色(10YR5/2)	砂粒少量含む	外: ミガキ、磨消縄文(RL) 内: ミガキ 内面段
59	3	61	SR10	縄文土器	浅鉢	後期		外: 黒褐色(10YR3/2) 内: 黒褐色(10YR3/1)	砂粒少量含む	外: 磨消縄文(RL 赤彩か)、ミガキ 内: ミガキ 内面段
59	4	61	SR10	縄文土器	浅鉢	後期		外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 浅黄色(2.5Y7/3)	砂粒微量含む	外: ミガキ、磨消縄文(RL) 内: ミガキ 内面段
 59	5	61	SR10	縄文土器	浅鉢	後期		外: オリーブ黒色(5Y3/1)	砂粒少量含む	外: 磨消縄文(RL 赤彩)、ミガキ
								内: 灰色(5Y4/1)		内: ミガキ 内面段

挿図 番号	遺物番号	図版番号	出土遺構層位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様: 調整: その他
59	6	61	SR04	縄文土器	浅鉢	後期		外: にぶい橙色(7.5YR7/4) 内: 灰黄色(2.5Y4/1)	砂粒少量含む	外: 磨消縄文(RL)、ミガキ 内: ミガキ 内面段
59	7	61	層	縄文土器	浅鉢	後期		外: 暗灰黄色(2.5Y4/2) 内: 浅黄色(2.5Y7/3)	砂粒微量含む	外: 磨消縄文(RL 赤彩か)、ミガキ 内: ミガキ
59	8	61	SR07	縄文土器	浅鉢	後期		外: にぶい黄橙色(10YR6/3) 内: 浅黄色(2.5Y7/3)	砂粒少量含む	外: 磨消縄文(RL)、ミガキ 内: ミガキ
59	9	61	SR10	縄文土器	浅鉢	後期		外: 浅黄橙色(10YR8/4) 内: 灰白色(10Y7/1)	砂粒少量含む	外: ミガキ、磨消縄文(RL) 内: ミガキ
59	10	61	SR10	縄文土器	浅鉢	後期		外: 灰色(5Y4/1) 内: 黒褐色(2.5Y3/1)	砂粒微量含む	外: 磨消縄文(RL)、ミガキ 内: ミガキ
59	11	61	SR02	縄文土器	浅鉢	後期		外: にぶい黄橙色(10YR6/4) 内: 灰黄褐色(10YR5/2)	砂粒少量含む	外: ミガキ、磨消縄文(RL) 内: ミガキ
59	12	61	SR02	縄文土器	浅鉢	後期		外: 灰黄褐色(10YR5/2) 内: 灰黄褐色(10YR5/2)	砂粒少量含む	外: 磨消縄文(RL)、ミガキ 内: ミガキ
59	13	61	SR02	縄文土器	浅鉢	後期		外: にぶい黄褐色(10YR5/3) 内: 黒褐色(2.5Y3/2)	砂粒少量含む	外: ミガキ、磨消縄文(RL) 内: ミガキ
59	14	61	SR10	縄文土器	浅鉢	後期		外: 褐灰色(10YR4/1) 内: 浅黄橙色(10YR5/1)	砂粒微量含む	外: ミガキ、磨消縄文(RL) 内: ミガキ
59	15	61	Ⅱ層	縄文土器	浅鉢	後期		外: 黒褐色(2.5Y3/1) 内: 灰黄褐色(10YR5/2)	砂粒少量含む	外: ミガキ、沈線文 内: ミガキ
59	16	61	II層	縄文土器	浅鉢	後期		外: 黄褐色(2.5Y5/3) 内: 明灰黄色(2.5Y4/2)	砂粒少量含む	外: ミガキ、沈線文 内: ミガキ
59	17	61	SR10	縄文土器	浅鉢	後期		外: にぶい黄橙色(10YR6/3) 内: にぶい黄橙色(10YR7/3)	砂粒微量含む	外: ミガキ、磨消縄文(RL)、焼成後穿孔 内: ミガキ
59	18	61	П	縄文土器	壺または 注口	後期		外: にぶい黄色(2.5Y6/3) 内: 浅黄色(2.5Y7/4)	砂粒微量含む	外: ミガキ、沈線文 内: ナデ
59	19	61	SR03	縄文土器		後期		外: 褐灰色(10YR5/1) 内: 浅黄橙色(10YR8/4)	砂粒少量含む	外: 沈線、ケズリ様調整、 内: ナデ、ケズリ様調整
59	20	61	SR10	縄文土器	鉢	後期		外: にぶい黄橙色(10YR6/4) 内: オリーブ黒色(5GY2/1)	砂粒少量含む	外: 磨消縄文(RL)、ミガキ 内: 口縁凹線様の段、ミガキ
59	21	61	SR03	縄文土器	浅鉢	後期		外: 灰黄褐色(10YR5/2) 内: にぶい黄橙色(10YR6/3)	砂粒少量含む	外: ミガキ、磨消縄文(RL) 内: ミガキ
59	22	61	SR02	縄文土器	鉢	後期		外: にぶい黄橙色(10YR6/4) 内: にぶい黄橙色(10YR7/4)	砂粒少量含む	外: 口縁RL、ミガキ 内: ミガキ
59	23	61	SR02	縄文土器	鉢	後期		外: 橙色(7.5YR7/6) 内: にぶい黄橙色(10YR6/4)	砂粒少量含む	外: 口縁RL、ナデ、RL 内: 巻貝条痕後ナデ
59	24	61	SR10	縄文土器	深鉢	後期		外: にぶい黄橙色(10YR6/3) 内: にぶい黄橙色(10YR6/4)	砂粒少量含む	外:RL、ナデ 内: ナデ 口縁段
59	25	61	Ⅱ層	縄文土器	鉢	後期		外: にぶい黄橙色(10YR7/3) 内: 褐灰色(10YR4/1)	砂粒少量含む	外: 口縁ナデ、ミガキ 内: 二枚貝条痕後ナデ、縦位の条痕
59	26	61	SR03	縄文土器	鉢	後期		外: にぶい褐色(7.5YR5/3) 内: 暗灰黄色(2.5Y5/2)	砂粒少量含む	外: ミガキ 内: ミガキ
59	27	61	Ⅱ層	縄文土器	鉢	後期		外: にぶい黄橙色(10YR6/4) 内: 褐灰色(10YR4/1)	砂粒少量含む	外: ミガキ 内: ミガキ
59	28	61	SR01	縄文土器	深鉢か	後期		外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒少量含む	外: 二枚貝条痕後ナデ 内: ナデ
59	29	61	SR02	縄文土器	鉢	後期		外: 灰色(5Y5/1) 内: 灰オリーブ色(5Y6/2)	砂粒少量含む	外: 段、ミガキ 内: ナデ
59	30	61	SR02	縄文土器		中後期		外: 褐灰色(10YR5/1) 内: 浅黄橙色(10YR8/3)	砂粒少量含む	外: 複節か(R {LR:LR} ?) 内: ナデ
59	31	61	SR10	縄文土器		中後期		外: 浅黄橙色(10YR8/4) 内: にぶい黄橙色(10YR7/4)	砂粒微量含む	外: 直前段反撚(R{RL:RL}) 内: ナデ
59	32	61	Ⅱ層	縄文土器		中後期		外: にぶい黄橙色(10YR7/4) 内: にぶい黄橙色(10YR6/4)	砂粒少量含む	外: 複節(R {LR:LR}) 内: 二枚貝条痕
59	33	61	SR02	縄文土器		中後期		外: にぶい黄色(2.5Y6/3) 内: 淡黄色(2.5Y8/3)	砂粒少量含む	外: 直前段反撚か(L {LR:LR} ?) 内: ナデ
59	34	61	SR10	縄文土器		中後期		外: 明黄褐色(10YR7/6) 内: 明黄褐色(10YR7/6)	砂粒少量含む	外: 二枚貝条痕、LR 内: 二枚貝条痕
59	35	61	SR10	縄文土器	深鉢	後期	口径(21.0)	外: にぶい黄橙色(10YR6/3) 内: にぶい黄橙色(10YR6/3)	砂粒少量含む	外: ナデ、巻貝条痕 内: ミガキ様の調整
59	36	62	IV層	縄文土器	鉢	後期	口径(20.0)	外: オリーブ黒色(5Y3/1) 内: にぶい黄橙色(10YR6/4)	砂粒少量含む	外: 巻貝条痕 内: 巻貝条痕後ナデ
59	37	61	SR03	縄文土器		後期?		外: にぶい黄橙色(10YR6/4) 内: 橙色(7.5YR6/6)"	砂粒多く含む	外:LR 内: 二枚貝条痕、ナデ
59	38	61	SR10	縄文土器		後期		外: にぶい黄橙色(10YR6/3) 内: にぶい黄橙色(10YR6/3)	砂粒少量含む	外: 疑似羽状縄文(RL) 内: ナデ
59	39	61	Ⅱ層	縄文土器		後期		外: にぶい黄橙色(10YR6/4) 内: 褐灰色(10YR5/1)	砂粒少量含む	外:RL 内: ナデ
59	40	61	SR10	縄文土器		後期		外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 灰黄褐色(10YR5/2)	砂粒少量含む	外:LR 内: 巻貝条痕
59	41	61	SR10	縄文土器	浅鉢	後期		外: 灰オリーブ色(5Y6/2) 内: 灰色(5Y4/1)	砂粒微量含む	外:RL 内: ミガキ
59	42	61	SR02	縄文土器	鉢か	後期		外: 灰黄褐色(10YR4/2) 内: にぶい黄橙色(10YR7/4)	砂粒少量含む	外:RL 内: ナデ
59	43	61	SR10	縄文土器	注口または 壺	後期		外: 黄褐色(2.5Y5/3) 内: にぶい黄橙色(10YR7/4)	砂粒微量含む	外: 磨消縄文(巻貝疑似縄文) 内: ナデ
59	44	61	SR10	縄文土器	浅鉢か	後晩期		外: にぶい黄橙色(10YR6/3) 内: 黒色(10YR2/1)	砂粒微量含む	外: ミガキ、凹線または段(巻貝条痕) 内: ミガキ
59	45	62	SR03	縄文土器	深鉢	後期		外: 浅黄橙色(10YR8/4) 内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒少量含む	外: ナデ、磨消縄文(LR、対向連弧文) 内: 巻貝条痕、ナデ
59	46	62	II層	縄文土器	深鉢	後期		外: にぶい橙色(7.5YR6/4) 内: 浅黄色(2.5Y7/4)	砂粒少量含む	外: 巻貝条痕後ナデ 内: 巻貝条痕
59	47	62	Ⅱ層	縄文土器	深鉢			外: にぶい黄橙色(10YR7/4) 内: 浅黄色(2.5Y7/4)	砂粒少量含む	外: 巻貝条痕 内: 巻貝条痕
59	48	62	SR02	縄文土器	深鉢	後晩期		外: 浅黄色(2.5Y7/3) 内: 浅黄色(2.5Y7/3)	砂粒少量含む	外: ナデ 内: ナデ
59	49	62	Ⅱ層	縄文土器	深鉢	後晩期		外: 橙色(5YR6/6) 内: 明黄褐色(10YR6/6)	砂粒少量含む	外: ナデ、凹線? 内: 巻貝条痕か
60	1	62	Ⅱ層	縄文土器	深鉢	後期		外: 灰黄褐色(10YR5/2) 内: にぶい黄橙色(10YR7/4)	砂粒微量含む	外: 口縁部刻目、ナデ 内: ナデ
60	2	62	Ⅱ層	縄文土器	深鉢	後晩期		外: 黒褐色(7.5YR3/1) 内: にぶい黄橙色(10YR7/2)	砂粒少量含む	外: ナデ 内: ナデ

挿図番号	遺物番号	図版 番号	出土遺構層位	種別	器種	分類	法量(cm)		色調	胎土	文様: 調整: その他
60	3	62	SR03	縄文土器	深鉢	後晩期		1	い黄橙色(10YR7/4)	砂粒少量含む	外: 巻貝条痕?後ナデ
60	4	62	SR02	縄文土器	深鉢	後晩期		外: 暗灰	い黄褐色(10YR5/3) 黄色(2.5Y5/2)	砂粒少量含む	内: 巻貝条痕 ? 後ナデ 外: 二枚貝条痕
	5	62	層	縄文土器		後晩期		外: にぶ	色(2.5Y7/4) い黄橙色(10YR6/4)	砂粒少量含む	内: ナデ ロ唇内傾 外: 巻貝条痕か
60	6	62	層	縄文土器	鉢か	後晩期		_	褐色(10YR7/6) い黄橙色(10YR6/3)	砂粒少量含む	内: ナデ 口唇平坦面 外: ナデ
	7								褐色(10YR4/2) 色(10YR5/6)		内: ナデ 口唇平坦面 外: 巻貝条痕後ナデ
60		62	SR02	縄文土器	深鉢	後晩期		_	色(2.5Y8/4) 褐色(10YR4/2)	砂粒少量含む	内: 巻貝条痕後ナデ 外: ナデ
60	8	62	SR02	縄文土器	深鉢	後晩期		内: にぶ	い黄橙色(10YR5/4) 橙色(7.5YR8/6)	砂粒少量含む	内: 巻貝条痕か 外: ナデ
60	9	62	SR02	縄文土器	深鉢	後晩期		内: にぶ	い黄橙色(10YR6/4) い黄橙色(10YR6/4)	砂粒少量含む	内: ナデ ロ唇先細 外: 巻貝条痕 ? 後ナデ
60	10	62	SR02	縄文土器		後晩期		内: にぶ	い黄橙色(10YR6/4) い黄橙色(10YR7/4)	砂粒少量含む	内: 巻貝条痕 口唇先細 外: 二枚貝条痕後ナデ
60	11	62	川層	縄文土器	深鉢	後晩期		内: にぶ	い黄橙色(10YR6/4) い黄橙色(10YR6/4)	砂粒少量含む	内: ナデ 口唇先細 外: ナデ? (擦痕?)
60	12	62	SR02	縄文土器	深鉢	後晩期		内: 明黄	褐色(10YR6/6)	砂粒少量含む	内: 二枚貝条痕後ナデ 口唇内傾
60	13	62	SR02	縄文土器	深鉢	後晩期		内: 灰黄	い黄褐色(10YR5/3) 褐色(10YR4/2)	砂粒少量含む	外: 巻貝条痕か 内: 巻貝条痕か 口唇内傾
60	14	62	Ⅱ層	縄文土器	浅鉢	後晩期		内: 暗灰	黄色(2.5Y5/2) 黄色(2.5Y5/2)	砂粒微量含む	外: ミガキ 内: ミガキ
60	15	62	Ⅱ層	縄文土器	浅鉢	後晩期			褐色(10YR4/2) 褐色(10YR5/2)	砂粒少量含む	外: ミガキ 内: ミガキ 口唇平坦面
60	16	62	SR01	縄文土器	浅鉢	後晩期			(7.5YR4/6) い黄橙色(10YR7/4)	砂粒少量含む	外: ミガキ 内: ミガキ
60	17	62	SR02	縄文土器	浅鉢	晩期			(7.5YR4/3) (7.5YR4/3)	砂粒少量含む	外: ミガキ 内: ミガキ
60	18	62	SR10	縄文土器	浅鉢	晩期		外: にぶ	い橙色(7.5YR6/4) リーブ色(5Y6/2)	砂粒微量含む	外: ミガキ 内: ミガキ
60	19	62	SR02-4	縄文土器	鉢?	晩期		外: にぶ	い黄橙色(10YR5/3) い黄橙色(10YR5/3)	砂粒微量含む	外: ミガキ、凹線文 内: 巻貝条痕
60	20	62	SR03	縄文土器	深鉢	後晩期		外: 灰褐	色(7.5YR4/2) 色(7.5YR4/1)	砂粒微量含む	外: ナデ 内: 条痕(原体不明)
60	21	62	SR03	縄文土器	深鉢	晩期		外: 褐灰1	色(10YR4/1)	砂粒少量含む	外: ナデ、口縁肥厚(下端刺突)、沈線3条
60	22	62	SR01	縄文土器	深鉢	晩期		外: にぶ	色(2.5Y6/2) い黄褐色(10YR5/4)	砂粒微量含む	内: ナデか 外: ナデ、口縁肥厚(下端刺突)、斜行: 垂下沈線
60	23	62	SR03	縄文土器	深鉢	後晩期	底径(9.0)	外: にぶ	色(2.5Y3/1) い黄橙色(10YR6/4)	砂粒少量含む	内: ミガキ 外: ナデ
60	24	62	SR01	縄文土器	深鉢	後晩期	底径(8.0)		い黄色(2.5YR6/4) (7.5YR7/6)	砂粒微量含む	
								内: 橙色 外: 橙色	(5YR6/6) (7.5YR6/6)		内: ナデ 底面圧痕多 外: ナデ
60	25	62	SR02	縄文土器	深鉢	後晩期	底径(7.0)		い黄色(7.5YR6/4) い黄橙色(10YR6/4)	砂粒微量含む	内: ナデ" 外: ナデ
60	26	63	SR02	縄文土器	深鉢	後晩期		_	(7.5YR6/6) 色(2.5Y7/4)	砂粒少量含む	内: 貝殻条痕 底面未調整 外: ナデ
60	27	63	SR01	縄文土器	深鉢	後晩期	底径(9.2)	内: 浅黄	橙色(10YR8/3) (7.5YR6/6)	砂粒多く含む	内: ナデ" 外: ナデ
60	28	63	SR10	縄文土器	深鉢	後晩期	底径4.0	内: 灰褐	色(7.5YR4/2) 色(7.5YR5/6)	砂粒微量含む	内: 二枚貝条痕 外: ナデ
60	29	63	II 層	縄文土器	深鉢	後晩期	底径(9.2)	内: にぶ	い黄橙色(10YR6/4) い黄橙色(10YR7/4)	砂粒少量含む	内: ナデ 高台状の底部 外: ナデ
60	30	63	SR10	縄文土器	深鉢	後晩期	底径(9.4)	内: 浅黄	橙色(10YR8/4)	砂粒少量含む	内: ナデ 高台状の底部
60	31	63	SR10	縄文土器	浅鉢	後晩期	底径(7.2)	内: オリ	ーブ黒色(10Y3/1) ーブ黒色(7.5Y3/1)	砂粒少量含む	外: ミガキ、ナデ 内: ミガキ 高台状の底部
60	32	63	SR01	縄文土器	深鉢	後晩期	底径12.0	内: オリ	(7.5YR4/6) ーブ黒色(5Y3/1)	砂粒少量含む	外: ミガキ、ナデ 内: ナデ 高台状の底部
60	33	63	Ⅱ層	縄文土器	浅鉢か	後晩期	底径(14.2)		(7.5YR7/6) 色(10YR4/1)	砂粒多く含む	外: ナデ 内: ミガキ
60	34	63	SR02	縄文土器	浅鉢	後晩期	底径(9.6)		(7.5YR6/6) 色(2.5Y4/1)	砂粒多く含む	外: ナデ 内: ナデ 高台状の底部
60	35	63	Ⅱ層	縄文土器	浅鉢	後晩期	底径(11.0)		(7.5YR7/6) 色(2.5Y4/1)	砂粒多く含む	外: ケズリ後ナデ 内: ナデ
60	36	63	Ⅱ層	縄文土器	浅鉢	後晩期	底径(16.2)	外: 黄褐	色(2.5YR5/3) ーブ黒色(5Y3/1)	砂粒微量含む	外: ミガキ、ナデ 内: ミガキ
石器	・玉巻	領		1	1.			1			To a second
挿図 番号	遺物 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種·分類		法量(cm)		重量(g)	石材	備考
61	1	63	SR01	石器	石鏃	長さ1.6 幅1.5	厚さ0.3		0.6	サヌカイト	両面中央部に大きな剥離
61	2	63	層	石器	石鏃	長さ2.1 幅1.2	! 厚さ0.4		0.67	サヌカイト	反対の面中央部に大きな剥離面
61	3	63	層	石器	石鏃	長さ1.9 幅1.4	厚さ0.3		0.52	サヌカイト	両面とも同様な剥離、縁辺に小さな剥離
61	4	63	SR10	石器	石鏃	長さ1.7 幅1.2	5 厚さ0.3		0.64	サヌカイト	先端部欠損後再調整(未完成)、反対面中央部に大き な剥離面
61	5	63	層	石器	(未成品) 石鏃	長さ2.2 幅残	存2.0 厚さ0.2		0.74	サヌカイト	下部欠損 両面とも簡単な調整剥離
61	6	63	SR02	石器	石鏃	長さ2.6 幅1.9			1.95	黒曜石	 先端製作時の欠損か 基部に微細剥離
61	7	63	SR02	玉類	(未成品)				1.32		全面丁寧な仕上げ 片面穿孔 白色
61	8	63	SR02	石器	刃器	長さ5.1 幅9.3	見大0.0		49.0	サヌカイト	正面
61	9	63	SR10	石器	石匙石核	長さ7.2 幅3.3			17.03	サヌカイト	左面左下側面に礫面
61	10	63	SR01	石器	(残核)	長さ3.3 幅5.8	厚さ0.6		10.26	サヌカイト	上端面礫面

挿図 番号	遺物番号	図版 番号	出土遺構層位	種別	器種 •分類		法量(cm)	重量(g)	石材	備考
61	11	63	SR10	石器	使用痕のある	長さ2.2 幅3.3	3 厚さ0.7	8.48	サヌカイト	下端に微細剥離
61	12	63	SR10	石器	剥片 磨製石斧	長さ(11.1) 幅	2.5 厚さ1.3	(84.0)	塩基性片岩	 柄部欠損 両面に研磨痕、敲打痕わずかに観察
61	13	63	SR02	石器	磨製石斧	長さ(6.2) 幅4		(104.0)	塩基性片岩	全面研磨 両面に敲打痕・剥離面わずかに残る
61	14	63	Ⅱ層	石器	磨製石斧	長さ(12.7) 幅	5.0 厚さ3.8	(422.0)	塩基性片岩	刃部に使用痕
61	15	63	II 層	石器	磨製石斧	長さ(10.1) 幅		(124.0)	塩基性片岩	刃部に使用痕 研磨 調整剥離・敲打痕残る
61	16	63	II層	石器	磨製石斧	長さ(7.3) 幅((87.0)		
61	17	64	川層	石器	磨製石斧	長さ17.0 幅5	i.4 厚さ3.8	515.0	頁岩?	 全面敲打痕 刃部他一部に研磨痕
61	18	64	SR02	石器	磨製石斧	長さ19.1 幅5		530.0	塩基性片岩	 両面と側縁部に敲打痕 側面に研磨痕
62	1	64	SR01	石器	(未成品) 磨製石斧		5.3 厚さ(3.8)	462.0	塩基性片岩	片面大部分に敲打痕、下端礫面
62	2	64	SR10	石器	(未成品) 磨製石斧	長さ(13.2) 幅	7.0 厚さ5.3	(930.0)	塩基性片岩	反対面に大きな剥離面(製作時の欠損剥離) 左面:大部分敲打痕 右面:中央部に大きな剥離面、
62	3	64	Ⅱ層	石器	(未成品) 磨製石斧	長さ(14.0) 幅	6.6 厚さ4.1	(690.0)	塩基性片岩	左側縁に敲打痕、右側縁・刃部調整剥離 全面に敲打痕、刃部に調整剥離、一部に礫面残る
62	4	64	SR10	石器	(未成品) 磨製石斧	長さ(18.6) 幅	8.6 厚さ5.3	(1,400)	塩基性片岩	全面に敲打痕、部分的に礫面・剝離面
62	5	64	SR01	石器	(未成品) 磨製石斧	長さ21.5 幅8	3.2 厚さ5.3	1,400	塩基性片岩	刃部欠損後に再調整 両面に大きな剥離面、側面に敲打痕、側縁に調整剥離
62	6	65	SR01	石器	(未成品) 磨製石斧	長さ14.8 幅5	i.5 厚さ3.8	392.0	塩基性片岩	左面上部に製作時の欠損 一部に礫面残る 両面に礫面残る 全面に敲打痕 刃部に調整剥離
63	1	65	SR10	石器	磨製石斧	長さ13.7 幅5	i.9 厚さ4.7	575.0	塩基性片岩	片面刃部やや摩滅(打製石斧として使用か) 両面大部分に敲打痕、大きな剥離面あり、刃部に調整
63	2	65	SR10	石器	(未成品) 磨製石斧	長さ13.7 幅6	5.0 厚さ4.5	(665.0)	塩基性片岩	剥離 ア部に調整剥離、他は全面に敲打痕
63	3	65	層	石器	磨製石斧	長さ(9.1) 幅4	I.1 厚さ2.5	(122.0)	頁岩?	
63	4	65	Ⅱ層	石器	打製石斧	長さ(17.0) 幅	7.1 厚さ5.1	(905.0)	塩基性片岩	両面に大きな剥離面、縁辺に調整剥離
63	5	65	層	石器	(磨製未成品?) 打製石斧	長さ(8.7) 幅4	H.4 厚さ2.1	(116.0)	塩基性片岩	刃部欠損 片面中央部に礫面、縁辺に調整剥離、敲打 刃変な場
63	6	65	II 層	石器	(磨製未成品?) 石斧	長さ(12.3) 幅	(5.7) 厚さ1.7	(164.0)	塩基性片岩	刃部欠損 両面中央部に大きな剥離面、縁辺に調整剥離、一部に ませなを、刃がなせ。
63	7	65	SR02	石器	(未成品) 石斧 (未成品)	長さ13.3 幅5	i.3 厚さ2.3	238.0	塩基性片岩	蔵打痕 刃部欠損 両面大部分に礫面、縁辺・刃部にわずかに調整剥離・ 研磨
63	8	65	SR10	石器	石斧 (未成品)	長さ16.2 幅4	1.2 厚さ3.1	(248.0)	塩基性片岩	両面大部分に礫面 片面基部に調整剥離、刃部欠損
64	1	65	SR01	石器	打製石斧	長さ(13.1) 幅	9.2 厚さ5.5	705.0	塩基性片岩	左面大部分礫面、縁辺に調整剥離 右面中央部に大きな剥離、縁辺に調整剥離
64	2	66	II 層	石器	打製石斧	長さ20.8 幅6	i.6 厚さ2.8	525.0	塩基性片岩	大部分調整剥離 刃部一部摩滅(使用痕か)
64	3	66	SR10	石器	打製石斧	長さ13.4 幅7	'.1 厚さ3.5	424.0	塩基性片岩	 両面に大きな剥離面
64	4	66	II層	石器	打製石斧	長さ(13.9) 幅	9.1 厚さ2.7	(515.0)	塩基性片岩	対部鋭い(再調整) 両面大きな剥離面
64	5	66	SR10	石器	敲石	長さ11.0 幅8	1.0 厚さ5.3	700.0		端部一方に打痕
64	6	66	SR10	石器	磨石	長さ12.8 幅1	1.6 厚さ4.3	690.0		全面平滑(使用痕か否か不明)
64	7	66	Ⅱ層	石器	磨石	長さ10.1 幅1	2.4 厚さ5.8	1,200		全面平滑 中央部顕著な平滑
65	1	67	Ⅱ層	石器	磨石	長さ12.4 幅1	1.8 厚さ2.6	640.0		全面平滑 自然礫の可能性もあり
65	2	67	SR02	石器	石錘	長さ14.5 幅1	1.8 厚さ3.9	540.0	三瓶軽石	両端部打ち欠き
65	3	67	SR10	石器	敲石	長さ18.1 幅5	5.2 厚さ4.5	655.0		両端部に打痕
65	4	67	SR10	石器	凹石	長さ16.9 幅1	5.9 厚さ5.9	1,150	三瓶軽石	凹み3 か所あり 全面滑らか
弥生	土器	・土館	师器・須	恵器	ı					
挿図 番号	遺物 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・調整・その他
65	5	67	層	弥生土器	163	石見 -2 様式		外: にぶい黄橙色(10YR7/4) 内: にぶい黄橙色(10YR7/4)	砂粒少量含む	外: ミガキ、段 内: ナデ
65	6	67	SR10	弥生土器	壺	石見 -2 様式		外: 淡黄色(2.5Y8/3) 内: 淡黄色(2.5Y7/3)	砂粒少量含む	外: 沈線・斜格子文・羽状文(二枚貝腹縁) 内: ハケメ、ナデ
65	7	67	層	弥生土器	163	石見 -2 様式		外: にぶい橙色(10YR5/3) 内: にぶい赤褐色(5YR5/4)	砂粒少量含む	外: ヘラ描き重弧文・区画文 内: ナデ
65	8	67	SR01	弥生土器	甕	石見 -2 様式		外: 浅黄色(2.5Y7/3) 内: にぶい黄橙色(10YR7/4)	砂粒微量含む	外: ヘラ描き沈線1 条、ハケメ 内: ナデ
65	9	67	SR10	弥生土器	甕	石見 -2 様式	口径(24.8)	外: にぶい黄橙色(10YR7/4) 内: にぶい黄橙色(10YR7/4)	砂粒少量含む	外: 刻目文、ヘラ描き沈線文2 条、ハケメ 内: ハケメ、ナデ
65	10	67	SR10	弥生土器	甕	石見 -2 様式		外: にぶい橙色(7.5YR7/4) 内: にぶい黄橙色(10YR7/3)	砂粒少量含む	外: ヘラ描き沈線文2 条、ハケメ 内: ハケメ、ナデ
65	11	67	SR10	弥生土器	甕	石見 -2 様式		外: にぶい黄橙色(10YR7/3) 内: 灰黄褐色(10YR6/2)	砂粒少量含む	外: ヘラ描き沈線文1 条以上 内: ハケメ
65	12	68	SR02	弥生土器	甕	石見 様式		外: 橙色(5Y6/6) 内: 橙色(5Y6/6)	砂粒多く含む	外: 口唇面取り、ヨコナデ 内: ヨコナデ
65	13	68	SR10	弥生土器	甕	石見Ⅲ様式?	口径(14.4)	外: 浅黄色(2.5Y7/4) 内: 灰黄褐色(10YR4/2)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ
65	14	68	Ⅱ層	弥生土器	甕?	石見IV-2 様式		外: にぶい黄橙色(10YR7/2) 内: にぶい黄橙色(10YR7/3)	砂粒微量含む	内: ケスリ
65	15	68	SR01	弥生土器	底部	石見 様式	底径(8.6)	外: 橙色(2.5YR6/6) 内: 灰褐色(7.5YR5/2)	砂粒多く含む	外: ハケメ、ナデ 内: ナデ
									-	

挿図 番号	遺物番号	図版番号	出土遺構層位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・調整・その他
65	16	68	SR10	弥生土器	無頸壺	石見III-1 様式	口径(20.5)	外: にぶい黄橙色(10YR7/4) 内: にぶい黄橙色(10YR7/4)	砂粒少量含む	外: 口唇斜格子文・円形浮文、刻目突帯文3 条 内: ナデ、ミガキ
65	17	68	SR01	弥生土器	台付鉢?	石見IV-2 様式	口径(20.0)	外: 灰白色(10YR8/2) 内: 浅黄橙色(10YR8/4)	砂粒多く含む	外: 口縁凹線文1 条、頸部鋸歯文・凹線文11 条以上内: 調整不明
65	18	68	SR10	弥生土器	高坏	石見IV-2 様式	底径(18.1)	外: 浅黄橙色(10YR8/4) 内: 浅黄橙色(10YR8/4)	砂粒少量含む	外: 脚端部凹線文7 条 内: ケズリ
65	19	68	SR01	弥生土器	甕	石見V-1 様式	口径(18.0)	外: 浅黄橙色(10YR8/3)	砂粒多く含む	外: 口縁凹線文3 条、肩部刺突文(クシ状工具)
65	20	68	SR01	弥生土器	甕	石見V-1 様式	□径(15.8)	内: 浅黄色(2.5Y8/3) 外: 浅黄橙色(7.5YR8/3)	砂粒少量含む	内: ハケメ、ナデ、ケズリ 外: 口縁凹線文3 条、ナデ
65	21	68	SR03	弥生土器	甕			内: 浅黄橙色(10YR8/3) 外: 浅黄橙色(10YR8/3)	砂粒少量含む	内: ナデ 外: 口縁擬凹線13 条
						石見 V-3 様式		内: にぶい黄橙色(10YR7/3) 外: 橙色(7.5YR7/6)		内: ヨコナデ、ケズリ 外: 口縁擬凹線6 条 頸部沈線1 条
65	22	68	SR01	弥生土器	甕	石見V-2様式	山径(16.8) 脚端径(4.4)	内: 黒灰色(10YR3/2) 外: 浅黄橙色(10YR8/3)	砂粒多く含む	内: ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ
65	23	68	Ⅱ層	土師器	低脚坏か	古墳時代前期	現存高2	内: 浅黄橙色(10YR8/3) 外: 灰白色(10YR8/2)	砂粒微量含む	内: ヨコナデ
65	24	68	Ⅱ層	土師器	甕	古墳時代前期	口径(14.6)	内: 灰白色(10YR8/2)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、ケズリ
65	25	68	SR01	土師器	雜	古墳時代前期		外: にぶい黄橙色(10YR7/3) 内: にぶい橙色(7.5YR7/4)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ
66	1	68	Ⅱ層	土師器	甕	I C b	口径(12.4)	外: 浅黄橙色(10YR8/4) 内: 浅黄橙色(10YR8/4)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ハケメ後ナデ 内: 口縁ハケメ後ナデ、ナデ、ケズリ
66	2	68	層	土師器	甕	I C b	口径(16.4)	外: 橙色(7.5YR6/6) 内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ、ケズリ
66	3	68	SR01	土師器	雞	II B	口径(17.6)	外: にぶい黄橙色(10YR7/3) 内: にぶい黄橙色(10YR7/4)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ、ハケメ 内: 口縁ハケメ・ヨコナデ、ケズリ
66	4	68	層	土師器	雞	II A a	口径(24.2)	外: にぶい橙色(7.5YR7/6) 内: にぶい橙色(7.5YR7/6)	砂粒微量含む	外: ヨコナデ、吹きこぼれ痕 内: ヨコナデ
66	5	68		土師器	甕	III B	口径(22.0)	外: 黒色(7.5YR2/1)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ
66	6	68	川層	土師器	甕	III B	口径(25.2)	内: にぶい黄橙色(10YR7/4) 外: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒多く含む	内: ヨコナデ、ケズリ 口唇外面平坦 外: ヨコナデ、ナデ
								内: 橙色(7.5YR7/6) 外: にぶい橙色(7.5YR7/4)		内: ヨコナデ、ケズリ 外: ヨコナデ、ハケメ
	7	68		土師器	甕	II A a	口径(12.8)	内: にぶい橙色(7.5YR7/4) 外: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒少量含む	内: ハケメ、ケズリ後ナデ 外: ヨコナデ
66 ———	8	68	SR01	土師器	碗	II	器高4.2	内: 橙色(7.5YR6/6) 外: 黒褐色(2.5Y3/1)	砂粒微量含む	内: ハケメ後ヨコナデ 底面やや平ら 外: ミガキ
66	9	69	Ⅱ層	土師器	小型壺		T/T/4 (2) PD = 5 0	内: 黒褐色(2.5Y3/1)	砂粒少量含む	内: ケズリ
66	10	69	Ⅱ層	土師器	碗	П	口径(16.2) 器高5.0 底径(9.0)	内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ミガキ 内: ヨコナデか 平底
66	11	68	SR02	土師器	高坏	a 1		外: にぶい黄橙色(10YR7/4) 内: にぶい黄橙色(10YR7/4)	砂粒微量含む	外: ミガキ 内: ナデもしくはミガキ、充填
66	12	68	II層	土師器	高坏	a 1		外: 橙色(5YR7/6) 内: 橙色(5YR7/6)	砂粒微量含む	外: ハケメ後ナデ 内: ミガキか
66	13	69	11層	土師器	高坏	a 2		外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒微量含む	外: ミガキ 坏内: ミガキ 脚内: ケズリ後ナデ 充填痕跡明瞭
66	14	68	SR02	土師器	高坏	A b 1		外: 橙色(5YR7/6) 内: にぶい黄橙色(10YR7/4)	砂粒少量含む	外: ヨコナデ、ハケメ、擬口縁 脚内: ケズリ 脚内の充填痕跡明瞭
66	15	69	SR10	土師器	高坏	А		外: 浅黄橙色(7.5YR6/6) 内: 明黄褐色(10YR7/6)	砂粒微量含む	外: ハケメ、ミガキ後ナデ 内: ケズリ後ナデ 脚上端擬口縁
66	16	69		土師器	高坏	B b 2	脚端径(11.1)	外: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒少量含む	外: ミガキ、ヨコナデ
66	17	70		土師器	高坏	Сс	脚端径6.0	内: 橙色(7.5YR7/6) 外: 明褐色(7.5YR5/6)	砂粒多く含む	脚内: ケズリ後一部ナデ 脚内: 充填痕跡明瞭 外: ナデ
66	18	70	SR04	土師器	高坏	Сс	脚端径(8.0)	内: 橙色(7.5YR6/6) 外: 橙色(5YR6/6)	砂粒少量含む	内: ナデ 短脚 外: ミガキ、ナデ、ヨコナデ
								内: 橙色(5YR6/6) 外: 橙色(7.5YR7/6)		内: ミガキ 脚内: ケズリ後ナデ 外: 丁寧な調整(調整法不明)
66 	19	69	Ⅱ層	土師器	土製支脚		脚端径(10.6)	内: 橙色(7.5YR7/6) 外: 橙色(7.5YR6/6)	砂粒少量含む	内: ケズリ 外: 指押圧痕後ナデ、ハケメ
66 	20	69	Ⅱ層	土師器	飯把手		長3.5 幅2.8 厚2.5	内: 橙色(7.5YR6/6) 外: にぶい黄橙色(10YR7/4)	砂粒微量含む	内: ケズリ 把手挿入痕跡あり 外: ナデ
66	21	69	SR03	土師器	飯把手		高3.9 厚1.9	内: にぶい黄橙色(10YR7/4)	砂粒微量含む	内: ケズリ 半環状
66	22	69	Ⅱ層	土師器	土製支脚		現存長10.3 厚さ3.4×4	外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒少量含む	ナデ、指押圧痕
66	23	69	SR02	土師器	土製支脚		現存長5.3 厚さ3×3	橙色(5YR6/6)	砂粒微量含む	ナデ 残存部は直線的な棒状
66	24	69	Ⅱ層	土師器	鼈		底径(37.2)	外: 浅黄橙色(7.5YR8/6) 内: 浅黄橙色(7.5YR8/6)	砂粒少量含む	外: ハケメ、ナデ 底面: ナデ 内: ケズリ
66	25	69	SR01	土師器	高坏 (充填部)	a 2	長さ2.7 厚さ1.4×1.5	浅黄橙色(10YR8/4)	砂粒微量含む	ナデ
66	26	69	層	土師器	製塩土器か		厚さ0.8	外: 橙色(7.5YR7/6) 内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒少量含む	外: ナデ 内: ナデ、布圧痕
66	27	69		土師器	製塩土器		厚さ1.0	外: 浅黄橙色(7.5YR8/6)	砂粒多く含む	外: ナデ
66	28	69	SR01	須恵器模倣	甕			内: 浅黄橙色(7.5YR8/6) 外: 灰色(7.5Y5/1)	砂粒微量含む	内: ナデ、布圧痕 外: 平行タタキ
67	1	70		須恵器	蓋	IBb	口径(16.6)	内: 灰色(7.5Y5/1) 外: 灰色(N5/)	砂粒少量含む	内: 同心円当具痕 土師質 外: 回転ナデ
							器高(4.0)	内: 灰色(N5/) 外: 灰色(N4/)		内: 回転ナデ
67	2	70	SR01	須恵器	壺蓋?	I C d		内: 灰色(N5/) 外: 灰白色(2.5Y8/1)	砂粒多く含む	内: 回転ナデ 鈍い稜 外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ
67	3	70	SR03	須恵器	蓋	IB平	器高(2.4)	内: 灰白色(2.5Y7/1)	砂粒少量含む	内: 回転ナデ 稜沈線2 条で作出 天井部へラ記号 外: 回転ヘラケズリ
67	4	70	Ⅱ層	須恵器	蓋	1		外: 灰色(N5/) 内: 灰色(N5/)	砂粒微量含む	内: 当具痕
67	5	70	Ⅱ層	須恵器	蓋	1平		外: オリーブ灰色(5GY6/1) 内: オリーブ灰色(2.5GY6/1)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ(ケズリ残しあり) 内: 回転ナデ、当具痕
67	6	70	SR03	須恵器	坏	I A a	口径(12.5) 器高(3.1)	外: 灰色(N6/) 内: 灰色(N6/)	砂粒多く含む	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ
67	7	70	Ⅱ層	須恵器	坏	I B c	口径(13.8) 器高(2.9)	外: 灰色(N6/) 内: 灰色(N6/)	砂粒微量含む	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ
67	8	70	層	須恵器	坏	I C c	口径(14.0)	外: 灰色(N5/)	砂粒多く含む	外: 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ、自然釉
				L		1	器高4.1	内: 灰色(N5/)		内: 回転ナデ、ナデ

挿図	遺物	図版	出土遺構	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・調整・その他
番号 67	番号 9	番号 70	層位 SR02	須恵器	坏	I C c	口径(12.2)	外: 灰白色(2.5Y7/1) 内: 灰黄色(2.5Y7/2)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、自然釉
67	10	70		須恵器	坏	IC c	口径(9.2)	外: 灰角色(10Y5/1) 内: 灰白色(10Y5/1)	砂粒少量含む	内: 回転ナデ
67	11	70	SR02	須恵器	坏	I B a	口径(12.2)	外: 灰色(N6/) 内: 灰色(N6/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ
67	12	70	SR01	須恵器	坏	IDc丸	口径(11.6)	外: 橙色(7.5YR6/6)	砂粒微量含む	内: 回転ナデ ロ唇わずかに段 外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ
67	13	70	SR02	須恵器	坏	1平	底径(5.2)	内: にぶい橙色(10YR7/2) 外: 灰色(N4/)	砂粒多く含む	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、ヘラ切り カ 同転ナデ、ヘラ切り
67	14	70		須恵器	坏	1丸	底径(8.4)	内: 灰色(N5/) 外: 灰色(N6/)	白色砂粒少量	内: 回転ナデ 内面放射状にシワ(当具痕?) 外: 回転ナデ、回転ヘラ切後ナデ
67	15	70	SR03	須恵器	坏	1丸		内: 灰色(N6/) 外: 灰色(7.5Y6/1)	含む砂粒少量含む	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ
67	16	70		須恵器	- 坏	1平	底径6.8	内: 灰色(7.5Y6/1) 外: 灰色(N5/)	砂粒多く含む	内: 回転ナデ 蓋の可能性もあり 外: 回転ナデ、自然釉
67	17	71	SR01	須恵器	蓋	II A a	口径(8.3)	内: 灰色(N6/) 外: 灰白色(2.5GY8/1)	砂粒微量含む	内: ナデ 外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ、宝珠つまみ
67	18	71	SR02	須恵器	蓋	II A	つまみ径1.2 口径(9.0)	内: 灰白色(2.5GY8/1) 外: 黄灰色(2.5Y6/1)	砂粒微量含む	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ
67	19	71	川層	須恵器	蓋	IIBb	口径(17.6) 器高(2.3)	内: 黄灰色(2.5Y6/1) 外: 灰白色(N7/)	砂粒多く含む	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、ヘラ切り、自然釉
67	20	71	"/"	須恵器	蓋	II C	つまみ径(5.8) 口径(12.6)	内: 灰色(N6/) 外: 青灰色(5B5/1)	砂粒少量含む	内: 回転ナデ 輪状つまみ 外: 回転ナデ
							山1至(12.0)	内: 暗青灰色(5B4/1) 外: 灰白色(5Y8/1)		内: 回転ナデ ロ唇部三角形につまみ出し 外: 回転ナデ、静止糸切り
67	21	71	層	須恵器	蓋	II c	r - /7/(0.0)	内: 灰白色(5Y8/1) 外: 灰色(2.5Y5/)	砂粒少量含む	内: ナデ 坏の可能性もあり 外: 回転ナデ
67	22	71	層	須恵器	坏	III B b	底径(8.0) 口径(15.2)	内: 灰色(2.5Y5/) 外: 灰黄色(2.5Y7/2)	砂粒少量含む	内: 自然釉 底面板目痕の可能性あり 外: 回転ナデ
67	23	71	SR02	須恵器	坏	III A a	器高(4.3)	内: 灰黄色(2.5Y7/2) 外: 灰白色(5Y7/2)	砂粒少量含む	内: 回転ナデ、ナデ、ヘラ切り 外: 回転ナデ
67	24	71	Ⅱ層	須恵器	坏	III B	底径(11.0)	内: 灰白色(5Y7/2) 内: 灰白色(5Y7/2) 外: 灰白色(2.5Y7/1)	砂粒少量含む	内: 回転ナデ、ナデ 低い高台 外: 回転ナデ、回転糸切り
67	25	71	SR01	須恵器	坏	III B	底径(10.8)	内: 灰白色(2.5Y7/2) 外: 灰色(N5/)	砂粒少量含む	内: 回転ナデ、ナデ 低い高台 外: 回転ナデ、ヘラ切り
67	26	71	Ⅱ層	須恵器	坏	III B	底径(9.6)	内: 黄灰色(2.5Y5/1)	砂粒多く含む	内: 回転ナデ、ナデ 低い高台
67	27	71	川層	須恵器	坏	III B		外: 灰色(5Y6/1) 内: 灰色(5Y6/1)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、回転糸切り 内: 回転ナデ
67	28	71	SR01	須恵器	坏	III B	底径(6.2)	外: 灰色(N6/) 内: 灰色(N6/)	砂粒微量含む	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ、ナデ 低い高台
67	29	71	Ⅱ層	須恵器	坏	II	底径(6.0)	外: 灰白色(N7/) 内: 灰白色(N7/) ~灰色(N5/)	砂粒微量含む	外: 回転ナデ、回転糸切り 内: 回転ナデ、ろくろ目やや顕著
67	30	71	SR01	須恵器	坏	С		外: 灰白色(5Y7/1) 内: 灰白色(2.5Y8/1)	砂粒微量含む	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ、自然釉 ろくろ目顕著 口縁先細でやや外反
67	31	71	Ⅱ層	須恵器	坏	II	底径(7.4)	外: 灰白色(N7/) 内: 灰白色(N7/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、回転糸切り 内: 回転ナデ 焼き歪みあり
67	32	71	Ⅱ層	須恵器	坏	II	底径(5.5)	外: 黄灰色(2.5Y6/1) 内: 灰白色(2.5Y7/1)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、回転糸切り 内: 回転ナデ
67	33	71	Ⅱ層	須恵器	坏	С	口径(12.4)	外: オリーブ灰色(2.5GY6/1) 内: 灰色(N6/)	砂粒多く含む	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ 高台の有無不明
67	34	71	SR01	須恵器	坏	а	口径(16.0)	外: にぶい褐色(7.5YR5/4) 内: 明褐色(7.5YR5/6)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ
67	35	71	SR01	須恵器	坏	b	口径(11.0)	外: 灰色(N5/) 内: 灰色(N6/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、板目痕 内: 回転ナデ
67	36	71	II層	須恵器	碗か			外: 灰色(N5/) 内: 灰色(N5/)	砂粒微量含む	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ 細い突帯
67	37	71	SR02	須恵器	鉢			外: 灰色(N6/) 内: 灰色(N4/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、カキメ 内: 回転ナデ
67	38	71	Ⅱ層	須恵器	高坏	脚A	脚端径(13.0)	外: 灰色(N6/) 内: 灰色(N6/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、絞り痕、自然釉 内: 回転ナデ、絞り痕 長方形二方二段透かし
67	39	71	SR02	須恵器	高坏			外: 灰色(7.5Y6/1) 内: 灰色(7.5Y6/1)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ 内: 回転ナデ、自然釉
67	40	70	SR01	須恵器	坏(脚付)		底径8.4 脚高2.1	外: 黒色(10YR2/1) 内: 灰色(N6/)	砂粒多く含む	外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ 内: 回転ナデ
67	41	71	Ⅱ層	須恵器	高坏	脚B	脚端径(10.0)	外: 灰白色(N7/) 内: 灰色(N5/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、自然釉 内: 回転ナデ ろくろ目顕著
67	42	71	SR01	須恵器	高坏		脚端径(9.0)	外: 灰白色(2.5Y7/1) 内: 灰白色(2.5Y7/1)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、自然釉 内: 回転ナデ 蓋の可能性もあり
67	43	71	SR01	須恵器	高坏	脚B	脚端径(11.4)	外: 灰白色(N7/) 内: 灰色(N4/)	砂粒微量含む	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ 脚端部玉縁状
67	44	71	Ⅱ層	須恵器	踉		口径(10.3)	外: 灰色(7.5Y4/1) 内: 灰色(7.5Y5/1)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、自然釉 内: 回転ナデ ロ唇平坦面
67	45	71	Ⅱ層	須恵器	壺		口径(11.0)	外: 灰色(5Y6/1) 内: 灰色(5Y6/1)	砂粒多く含む	外:回転ナデ 内:回転ナデ 頭部に斜行するシワ
67	46	71	II層	須恵器	壺		口径(10.4)	外: 灰白色(N6/) 内: 灰白色(N7/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、肩部平行タタキ 内: 回転ナデ、当て具痕 口唇凹線状
67	47	71	SR01	須恵器	壺			外: 灰色(N5/) 内: 灰色(N6/)	砂粒少量含む	外:回転ナデ 内:回転ナデ 口縁折り返し状
67	48	71	II 層	須恵器	壺			外: 灰白色(N5/)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ
67	49	71	Ⅱ層	須恵器	壺			内: 灰色(7.5Y6/1) 外: 灰色(5Y8/1)	砂粒微量含む	内: 回転ナデ 口縁玉縁状 外: 回転ナデ、カキメ 内: 回転ナデ
67	50	71	Ⅱ層	須恵器	腺か壺			内: 灰色(5Y8/1) 外: 灰色(5Y5/1)	砂粒少量含む	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、回転ヘラケズリ 内: 回転ナデ
67	51	71	II 層	須恵器	壺			内: 灰色(N6/) 外: 灰色(5Y5/1)	砂粒多く含む	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、沈線、自然釉
67	52	71	SR03	須恵器	短頸壺			内: 灰黄色(2.5Y7/2) 外: 黒色(7.5Y2/1)	砂粒多く含む	内: 回転ナデ 口縁突線 外: 胴部カキメ、回転ナデ、回転ヘラケズリ、自然
67	53	71	SR04	須恵器	壶			内: 灰白色(N7/) 外: 不明	砂粒多く含む	釉 内: 回転ナデ、自然釉 外: 回転ナデ、自然釉
67	54	71	11層	須恵器	壺			内: 灰色(N5/) 外: 黒色(2.5Y2/1)	砂粒少量含む	内: 回転ナデ 外: 沈線間に波状文4条
	J-4	/ '	II nel	炽芯佰	52			内: 灰色(N5/)	ジセン里己む	内: 回転ナデ ロ唇部平坦

挿図 番号	遺物番号	図版 番号	出土遺構層位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・調整・その他
67	銀写 55	71	旧層	須恵器	壺			外: 青灰色(5BG6/1) 内: 青灰色(10B5/1)	砂粒少量含む	外: 頸部波状文1 単位10 ~11 条、沈線2 条 内: 回転ナデ
67	56	71	SOR3	須恵器	円形硯		口径(16.8)	外: 灰白色 (2.5Y8/2) 内: 灰白色 (10YR8/2)	微砂粒少量含む	内: 底面墨痕 脚不明
67	57	71	SR01	須恵器	壺		口径(24.0)	外: にぶい黄褐色(10YR7/2) 内: 灰白色(2.5Y7/1)	砂粒微量含む	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ 玉縁状の口縁
68	1	72	層	須恵器	壺			外: 灰色(10Y5/1) 内: 灰色(10Y5/1)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、自然釉 内: 回転ナデ ロ縁玉縁状
68	2	72	層	須恵器	壺		口径(19.6)	外: 灰色(7.5Y6/1) 内: 灰色(7.5Y8/1)	砂粒少量含む	外: 回転ナデ、肩部格子風タタキ 内: 回転ナデ、同心円当具痕 口縁玉縁状
68	3	72	層	須恵器	直口壺		口径(16.0)	外: 灰色(7.5Y6/1) 内: 灰色(7.5Y6/1)	砂粒微量含む	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ 口唇平坦面
68	4	72	層	須恵器	壺			外: 灰色(N5/) 内: 灰色(N4/)	砂粒多く含む	外: 平行タタキ(細い) 内: 同心円当具痕(輪花状)、ナデ
68	5	72	層	須恵器	壺		底径(10.0)	外: 灰白色(N7/) 内: 灰白色(N7/)	砂粒多く含む	外: 回転ナデ、ナデ、自然釉 内: ナデ
68	6	72	層	須恵器	長頸壺			外: 灰色(N4/) 内: 灰色(N6/)	砂粒多く含む	外: 回転ナデ、自然釉 内: 回転ナデ、自然釉 沈線間に細斜行沈線
68	7	72	SR01	須恵器	壺		底径(19.2)	外: 灰色(N6/) 内: 灰白色(7.5Y8/1)	砂粒少量含む	外: 格子風平行タタキ、ナデ 内: ハケメ、ナデ、輪花状当具痕
68	8	72	層	須恵器	壺		底径(7.1)	外: 暗オリーブ灰色(5GY3/1) 内: 灰白色(7.5Y8/2)	砂粒多く含む	P. ハケス・ノ ケ、編16人3 三兵法
68	9	73	SR01	須恵器	壺		底径(9.6)	外: 灰色(N6/) 内: 灰白色(N7/)	砂粒多く含む	P. 日転ナデ、ナデ Pr. 日転ナデ、ナデ Pr. 日転ナデ、ナデ Pr. 日転ナデ、ナデ
68	10	72	層	須恵器	壺			外: 灰色(7.5Y6/1) 内: 灰色(7.5Y4/1)	砂粒多く含む	外: 回転ナデ
68	11	72.74	層	須恵器	甕か			外: 灰白色(5Y7/1)	砂粒微量含む	内: 回転ナデ、自然釉 沈線間に刺突文 外: ナデ、口唇に布目
68	12	72	SR01	須恵器	甕			内: 灰白色(5Y7/1) 外: 灰オリーブ色(7.5Y5/3)	砂粒多く含む	内: ナデ
68	13	73	SR01	須恵器	雅			内: 灰白色(2.5Y7/1) 外: 灰白色(5Y7/1)	砂粒多く含む	内: ナデ、自然釉 沈線間に斜格子文 外: ナデ 自然釉 ************************************
68	14	72	SR01	須恵器	甕		口径(38.4)	内: 灰白色(7.5Y5/1) 外: 灰白色(N6/) 内: 灰白色(N6/)	砂粒多く含む	内: ナデ、自然釉 沈線間に斜格子文 外: 回転ナデ、自然釉 内: 回転ナデ、ナデ、自然釉 かは思いましなみ、かります。
68	15	72	SR01	須恵器	雅			外: 灰色(10YR6/1)	砂粒少量含む	沈線間に刺突文・波状文・刺突文 外: ナデ 自然釉
68	16	72	SR01	須恵器	甕			内: 灰白色(10YR7/1) 外: 灰白色(5Y6/1)	砂粒多く含む	内: ナデ、自然釉 沈線間に斜格子文 外: ナデ 自然釉 ************************************
68	17	74	層	須恵器	堤瓶			内: 灰白色(5Y7/1) 外: 灰色(N5/)	砂粒多く含む	内: ナデ、自然釉 沈線間に斜格子文 外: 回転ヘラケズリ、カキメわずかに残存 瓦質
69	1	73	層	須恵器	胴部			内: 灰色(N8/) 外: 黄灰色(2.5Y6/1)	砂粒少量含む	外: 平行タタキ後カキメ
69	2	73	層	須恵器	肩部			内: 灰色(N6/) 外: 灰色(N7/) 中: 灰白色(N6/)	砂粒少量含む	内: 当具痕B 外: 平行タタキ後カキメ
69	3	74	層	須恵器	胴部			内: 灰白色(N6/) 外: 灰白色(2.5Y7/1)	砂粒微量含む	内: 当具痕 C 外: 平行タタキ後カキメ
69	4	73	層	須恵器	甕			内: 灰白色(2.5Y7/1) 外: 灰白色(5Y7/2)	砂粒多く含む	内: 当具痕A後カキメ 外: ナデ、平行タタキ
69	5	73	層	須恵器	胴部			内: 黄灰色(2.5Y6/1) 外: 灰色(N7/) 中: 灰色(N7/)	砂粒微量含む	内: ナデ、当具痕 B 外: 平行タタキ 中: ************************************
69	6	74	SR03	須恵器	胴部			内: 灰色(N7/) 外: 灰色(N6/)	砂粒少量含む	内: 輪花 c 類 外: 平行タタキ
69	7	74	層	須恵器	胴部			内: 灰色(5Y7/1) 外: 灰色(N5/) 中: 灰色(N5/)	砂粒少量含む	内: 輪花a類 外: 平行タタキ
69	8	73	層	須恵器	胴部			内: 灰色(N5/) 外: 灰色(5Y4/1)	砂粒少量含む	内: 輪花b類 外: 平行タタキ 内: 輪花 c 類
陶磁	器							内: 灰色(5Y4/1)		PS: 轴化 C 块
挿図 番号	遺物 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・調整・その他
70	1	75	II層	中国白磁	碗	口折口縁	口径(16.5)	透明釉	白色	12C 後半~13C 前半
70	2	75	II層	中国白磁	碗	口折口縁		透明釉	灰白色	12C 後半~13C 前半
70	3	75	Ⅱ層	中国白磁	Ш	大宰府IX類	口径(7.8)	透明釉	白色	口秃 13C 前半~14C 前半
70	4	75	Ⅱ層	中国白磁	ш?	森田D 群	底径(4.2)	透明釉	灰黄色	高台内無釉 15C
70	5	75	Ⅱ層	中国白磁	Ш	大宰府IX類	底径(5.0)	透明釉	灰白色	内面段 底面釉剥 13C 前半~14C 前半
70	6	75	Ⅱ層	中国白磁	Ш	森田E群	底径(6.1)	透明釉	白色	内: 線描蓮華文 碁笥底皿 16C
70	7	75	Ⅱ層	中国白磁	坏	森田E 群	口径(6.2)	透明釉	灰白色	16C
70	8	75	Ⅱ層	中国白磁	坏	森田E 群		透明釉	灰白色	16C
70	9	75	Ⅱ層	龍泉窯系青磁	碗	大宰府ⅡB類		青磁釉	灰白色	鎬蓮弁文 13C 前半
70	10	75	Ⅱ層	龍泉窯系青磁	坏	大宰府IV類	口径(13.2)	青磁釉	灰白色	鎬蓮弁文 11C後半~13C前半
70	11	75	II層	龍泉窯系青磁	碗	上田B IV類		青磁釉	灰色	線描蓮弁文 被熱 16C
70	12	75	Ⅱ層	龍泉窯系青磁	碗	上田B II類	口径(12.2)	青磁釉	灰色	片彫蓮弁文 14C後半~15C前半
70	13	75	Ⅱ層	龍泉窯系青磁	碗	上田C II類	口径(12.4)	青磁釉	灰白色	雷文、幅広の連弁文 15C
70	14	75	Ⅱ層	龍泉窯系青磁	碗	上田B IV類?	底径(4.6)	青磁釉	灰白色	内: 劃花文 高台内無釉 16C
70	15	75	Ⅱ層	龍泉窯系青磁	碗	大宰府 1-3 類		青磁釉	灰色	内: 劃花文 12C 後半~13C 前半
70	16	75	Ⅱ層	龍泉窯系青磁	碗	上田C II 類		青磁釉	灰白色	外: 雷文 14C 後半~15C 前半

挿図 番号	遺物番号	図版番号	出土遺構層位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・調整・その他
70	17	75	11層	龍泉窯系青磁	碗			青磁釉	灰黄白色	内: 人形手 15C
70	18	75	Ⅱ層	龍泉窯系青磁	碗			青磁釉	灰白色	外: 片彫連弁文 内: 印花文 高台内蛇の目釉剥 15C
70	19	75	Ⅱ層	龍泉窯系青磁	碗		口径(16.0)	青磁釉	灰白色	内面段 15C
70	20	75	11層	龍泉窯系青磁	碗			青磁釉	灰白色	高台内釉剥 15~16C
70	21	75	II層	龍泉窯系青磁	碗			青磁釉	灰白色	内: 印花文「頴」 高台内蛇の目釉剥 15C
70	22	75	Ⅱ層	龍泉窯系青磁	碗	上田E 類	口径(15.0)	青磁釉	灰白色	15C
70	23	75	II層	龍泉窯系青磁	碗	上田B IV類?	底径(4.8)	青磁釉	灰黄色	高台内無釉 16C
70	24	75	II層	龍泉窯系青磁	坏		口径(11.6)	青磁釉	灰色	端反口縁 15C
70	25	75	Ⅱ層	龍泉窯系青磁	稜花皿		口径(13.6) 底径(5.8)	青磁釉	淡灰橙色	内: 沈線文 底面釉剥 外: 畳付無釉 15C 後半~16C
70	26	75	Ⅱ層	龍泉窯系青磁	盤		底径(9.4)	青磁釉	灰黄白色	蓮弁文 段 高台内無釉 中世後期
70	27	75	Ⅱ層	龍泉窯系青磁	盤			青磁釉	淡灰褐色	内: 鎬文 中世後期
70	28	75	Ⅱ層	龍泉窯系青磁	盤			青磁釉	淡灰褐色	中世後期
70	29	75	Ⅱ層	漳州窯系青花	ш	小野B1群	底径(7.8)	透明釉、青料	灰白色	外: 圏線、獅子文か 内: 二重圏線、草花文 16C 前半
70	30	75	Ⅱ層	景徳鎮窯系 青花	碗		口径(13.8)	透明釉、青料	灰白色	外: 二重圏線、梅月文 内: 二重圏線 16C
70	31	75	Ⅱ層	漳州窯系青花	ш	JB-2	口径(15.6)	透明釉、青料	灰白色	内: くずれた文様あり 17C 前半
70	32	75	Ⅱ層	漳州窯系青花	碗か皿		底径(4.4)	透明釉、青料	淡灰色	外: 高台内無釉 内: 二重圏線、蛇の目釉剥 16C後半~17C初
70	33	75	Ⅱ層	景徳鎮窯系 青花	坏		口径(7.2)	透明釉、青料	白色	外: 草花文 内: 圏線 16C 後半
70	34	76	Ⅱ層	景徳鎮窯系 青花	碗			透明釉、青料	白色	外: 二重圏線 16 C後半
70	35	76	Ⅱ層	中国青磁	碗			青磁碗	淡灰黄色	詳細不明 陶器の可能性もあり
70	36	76	Ⅱ層	中国陶器	耳壺			褐釉	灰褐色	外: 把手付、被熱 内: 当具痕、ナデ 中世前半
70	37	76	Ⅱ層	朝鮮陶器	刷毛目粉青皿			透明釉	淡灰黄色	外: 刷毛目 15C 後半~16C 前半
70	38	76	Ⅱ層	朝鮮陶器	灰青沙器皿		底径4.4	灰青釉	灰黄色	外: 底面目跡5 点 内: 目跡3 点以上 15C 後半~16C 前半
71	1	76	Ⅱ層	輸入?陶器	壺甕			褐釉	灰色	外: ナデ、格子叩き 内: ナデ、当具痕
71	2	76	Ⅱ層	瀬戸美濃	卸目大皿		底径(8.0)	灰釉	灰黄橙色	外: 回転糸切り 内: うろこ状の卸目 外面無釉 15C
71	3	76	Ⅱ層	瀬戸美濃?	ш		底径(10.6)	外: にぶい黄橙色(10YR7/2) 内: にぶい黄色(10YR7/1)	灰黄白色	外: 回転糸切り 内: 重ね焼痕、ミガキ状の掻き 取り痕 時期不明
71	4	76	Ⅱ層	備前	擂鉢	IVA		外: にぶい黄橙色(10YR7/2) 内: にぶい赤褐色(2.5YR4/3)	砂粒少量含む 灰褐色	外: 重ね焼痕 内: 擂目1 単位8 条 14C 後半
71	5	76	Ⅱ層	備前	擂鉢		底径(12.0)	外: にぶい赤褐色(2.5YR5/3) 内: 灰赤色(2.5YR5/2)	砂粒少量含む 灰赤色	擂目1 単位7 条以上
71	6	76	Ⅱ層	瓦質土器	香炉		口径(11.0) 器高4.6 底径(9.8)	外: 赤橙色(10R6/6) 灰褐色(7.5YR6/2) 内: 橙色(7.5YR7/6)	砂粒微量含む 灰褐色	外: 沈線、雷文帯、S 字文様 中世後半
71	7	76	Ⅱ層	防長系瓦質土	擂鉢			外: 淡橙色(5YR8/4)	砂粒微量含む	内: ハケメ 中世後半
71	8	76	Ⅱ層	防長系瓦質土	擂鉢			内: 灰白色(10YR8/2) 外: にぶい橙色(7.5YR7/3)	灰褐色 砂粒少量含む 広場免	外: 黒斑 内: 擂目1 単位6 条以上 中世後半
71	9	76	Ⅱ層	器 防長系?瓦質	擂鉢			内: 灰白色(10YR8/2) 外: 浅黄橙色(7.5YR8/3)	灰褐色 砂粒少量含む	擂目1 単位5 条以上 中世後半
71	10	77	Ⅱ層	土器 瓦質土器	擂鉢		口径(27.8)	内: 灰白色(10YR8/2) 外: にぶい橙色(7.5YR7/4)	淡橙色 砂粒やや多く含	外: ハケメ、指押圧痕
71	11	76	Ⅱ層	瓦質土器	火鉢			内: 黒色(2.5YR2/1) 外: 橙色(5YR6/6) 内: 橙色(5YR6/6)	む 黄褐色 砂粒含まない ※広想免	内: ハケメ、擂目1 単位5 条以上 中世中頃 風炉の可能性あり 中世後半
71	12	77	II層	瓦質土器	鉢			内: 橙色(5YR6/6) 外: 黒色(N2/) 中: 灰色(5Y5/1)	淡灰褐色 砂粒少量含む 淡橙色	外: ミガキ 内: 当具痕、ハケメ 時期不明
71	13	76	SR02	瓦質土器	鉢		口径(24.0)	内: 灰色(5Y5/1) 外: 黄白色(2.5Y8/2)	砂粒少量含む	指押圧痕 ハケメ 玉縁口縁 中世前半
71	14	76	Ⅱ層	瓦質土器	火鉢			内: 黄白色(2.5Y8/2) 外: 灰白色(2.5Y8/2) 内: 緑果色(10GY2/1)	黄灰色 砂粒微量含む 灰白色	ハケメ 世後半
71	15	74	II層	瓦質土器	皿か		口径(22.8) 器高5.8 底径(19.1)	内: 緑黒色(10GY2/1) 外: 灰色(10Y6/1) 内: 灰白色(5Y8/1)	灰白色 灰白色	外: ヘラケズリ 時期不明
71	16	77	Ⅱ層	土師器	坏		口径(13.0)	内: 灰白色(5Y8/1) 外: 浅黄橙色(10YR8/3)	砂粒少量含む	褐色系土師器
71	17	77	Ⅱ層	土師器	坏か皿		底径6.1	内: 浅黄橙色(10YR8/3) 外: 浅黄橙色(7.5YR8/6) 内: 浅黄橙色(7.5YR8/6)	砂粒微量含む	外: 回転糸切り 褐色系土師器
71	18	77	II層	土師器	ш		口径(11.6)	内: 浅黄橙色(7.5YR8/6) 外: 浅黄橙色(10YR8/4) 内: 浅黄橙色(10YR8/4)	砂粒微量含む	灰白色系土師器
71	19	77	Ⅱ層	土師器	坏		口径(13.0)	内: 浅黄橙色(10YR8/4) 外: 黄橙色(7.5YR8/8) 内: 橙色(5YP7/8)	砂粒微量含む	褐色系土師器
72	1	77	II層	土師器	坏		口径(12.0)	内: 橙色(5YR7/8) 外: 灰白色(10YR8/2) 内: にどい差縁色(10YP7/3)	砂粒少量含む	灰白色系土師器
72	2	77	II層	土師器	坏		口径(10.0)	内: にぶい黄橙色(10YR7/3) 外: 灰白色(2.5Y8/2)	砂粒微量含む	灰白色系土師器
72	3	77	Ⅱ層	土師器	坏			内: 灰白色(2.5Y8/2) 外: 灰白色(10YR8/1) 内: 洋芳縣色(10YP8/3)	砂粒微量含む	灰白色系土師器
72	4	77	Ⅱ層	土師器	坏		口径(12.2) 器高4.0	内: 浅黄橙色(10YR8/3) 外: 淡黄色(2.5Y8/3)	砂粒微量含む	回転糸切り
72	5	77	Ⅱ層	肥前系磁器	ш	JB-1-g	底径5.4	内: 淡黄色(2.5Y8/3) 呉須、透明釉	灰白色	灰白色系土師器 外: 雪之輪緊文、二重圏線 内: 見込みに「寿」
					_		1			字文 銘無し 梅樹 畳付アルミナ砂 19C 前葉

挿図 番号	遺物番号	図版 番号	出土遺構層位	種別	器種	分類	法量(cm)	色調	胎土	文様・調整・その他
72	6	77	II層	肥前系磁器	丸形碗	JB-1	口径(13.0)	呉須、透明釉	灰白色	外: 葉文 内: 圏線 1620 ~1630 年代初期 伊万里
72	7	77	Ⅱ層	肥前系磁器	碗	TB-1-d	底径(6.8)	呉須、透明釉	灰白色	外: 三重圏線 内: 二重圏線、裏底銘「大明成化 年製」 畳付釉剥 1680年代中心
72	8	77	Ⅱ層	肥前系磁器	ш	JB-2-k	底径(4.7)	呉須、透明釉	灰白色	内: 二重格子文、蛇の目釉剥 畳付釉剥 1710~30年代
72	9	77	Ⅱ層	肥前系磁器	丸形皿	JB-2-e	口径(22.8)	呉須、透明釉	灰白色	内: 七宝繁文 山辺田窯指標 1640~50年代頃
72	10	77	SR02	肥前系磁器	丸形皿	JB-5-a	底径(11.0)	透明釉	白色	外: 圈線 内: 芙蓉手文 畳付釉剥 1650 年代末~ 1670 年代
72	11	74	Ⅱ層	肥前系磁器	坏	JB-6-b	底径(2.8)	呉須、透明釉	灰白色	外: 草文 高台内無釉 17C 中頃
72	12	77	Ⅱ層	肥前系磁器	箱(枕) 形 水滴	JB-19		透明釉、色絵(赤色顔料)	白色	外: 波濤文 18C` 代
72	13	78	層	肥前系陶器	碗	TB-1	底径4.8	灰緑色釉	にぶい橙色	高台内無釉 1610~1650年代
72	14	78	Ⅱ層	肥前系陶器	碗	TB-1-a	底径5.1	透明釉	灰黄色	畳付無釉 1670 年代
72	15	77	Ⅱ層	肥前系陶器	碗	TB-1	口径(15.0)	鉄釉	灰色	畳付釉剥1610~1650年代
72	16	78	Ⅱ層	肥前系陶器	ш	TB-2-a	口径(13.8)	緑釉 (水銀入り)、透明釉	灰黄色	内野山北(後期タイプ)17C`後葉
72	17	78	層	肥前系磁器	ш	JB-2-a	口径(15.2) 器高3.7 底径(7.2)	呉須、透明釉	白色	畳付アルミナ砂 初期伊万里 1630~50年代相当
72	18	78	層	肥前系陶器	丸形皿	TB-2	口径(10.6) 器高3.5 底径4.4	灰釉、鉄釉	淡褐色	外: ケズリ内: 草花文、胎土目2点 高台内無釉 焼成後被熱 1594 ~1610 年代
72	19	78	Ⅱ層	肥前系陶器	ш	TB-2-k	口径(14.4) 器高3.5 底径4.8	呉須、透明釉	灰色	内: 葉文、蛇の目釉剥ぎ 高台内無釉 1610 ~30 年代
72	20	78	層	肥前系陶器	ш	TB-2-d	底径(4.4)	透明釉	灰黄色	内: 目跡2 点 内野山北指標 畳付釉剥 17C 前半
72	21	78	Ⅱ層	肥前系陶器	ш	TB-2-b	口径(13.0) 器高2.7 底径(4.6)	灰釉	橙色	内: 砂目 外: 回転糸切 高台内無釉 1610 ~1650 年代
72	22	78	層	肥前系陶器	ш	TB-2-b	口径(15.0)	灰釉	にぶい橙色	内: 目跡2 点 1600~1650 年代
72	23	78	Ⅱ層	肥前系陶器	ш	TB-2-b	底径6.2	灰釉	にぶい橙色	内: 目跡2 点 高台内無釉 1610~1650 年代
72	24	78	Ⅱ層	肥前系陶器	丸形皿	TB-2	口径(12.6) 器高3.4 底径4.6	藁灰釉	灰色	内: 草花文、目跡2 点 高台内無釉 萩焼か 年代不明
72	25	78	Ⅱ層	肥前系陶器	火入れ	TB-9	底径7.1	灰釉、鉄釉	暗褐色	脚3 方 内:目跡3 点 1650~1690年代
73	1	78	Ⅱ層	肥前系陶器	火鉢	TB-9		白化粧土に透明釉、緑釉	にぶい橙色	口唇凹線2条、刻目文 土井木原指標 1650~90年代
73	2	78	Ⅱ層	肥前系陶器	火入れ	TB-9	口径(15.4)	白化粧土に透明釉、鉄釉	灰褐色	二彩 17 C 後葉~18C 前半代
73	3	78	Ⅱ層	肥前系陶器	香炉	TB-9	口径(10.6)	透明釉	灰褐色	17 C 後葉~18C 前半代
73	4	78	II層	肥前系陶器	香炉	TB-9		白泥釉	橙色	二次焼成 17 C 中葉~18C 前半代
73	5	78	Ⅱ層	肥前系陶器	甕	TB-15		褐色釉	灰黄色	刻目隆帯 17C 前半代
73	6	79	Ⅱ層	肥前系陶器	壺か甕	TB-15		外: 灰褐色(7.5YR5/2) 内: 灰褐色(7.5YR5/2)	にぶい橙色	時期不明
73	7	79	Ⅱ層	肥前系陶器	擂鉢	TB-29	口径(24.0)	鉄釉	にぶい橙色	内: 擂目一部残る 17C 前半代
73	8	79	Ⅱ層	肥前系陶器	壺か甕	TB-15	底径(20.4)	鉄釉	灰赤色	外: タタキ後ナデ、底部蓆圧痕 内: 当具痕ナデ消し
73	9	79	層	陶器	壺か甕	TB-15		外: にぶい黄褐色(10YR5/3) 内: 暗褐色(10YR3/3)	砂粒少量含む 灰褐色	外: ナデ、タタキ痕わずかに残る 内: ナデ、当具痕残る
瓦•	瓦・土製品									

挿図 番号	遺物 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	分類	法量(cm)	重量(g)	色調	胎土	備考
73	10	79	Ⅱ層	土製品	土錘 (須恵質)	I類	長さ3.3 幅0.7 厚さ1.3 孔径0.4	4.45	灰白色(5Y8/1)	砂粒微量含む	調整: ユビオサエ、ナデ 小型・中膨らみ
73	11	79	Ⅱ層	土製品	土錘 (土師質)	類	長さ(3.8) 幅(1.4) 厚さ1.2 孔径0.6	3.98	橙色(7.5YR7/6)	砂粒少量含む	調整: ナデ、端部付近ユビオサエ 小型・中膨らみ
73	12	79	Ⅱ層	土製品	土錘 (土師質)	類	長さ4.5 幅1.8 厚さ1.2 孔径0.4	5.14	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	砂粒微量含む	調整: ユビオサエ、ナデ
73	13	79	Ⅱ層	土製品	土錘 (土師質)	類	長さ5.1 幅(3.1) 厚さ3.6 孔径1.7	27.0	明黄褐色(10YR7/6)	砂粒微量含む	調整: ヘラ状工具による面取り、ナデ 中型・中膨らみ
73	14	79	Ⅱ層	土製品	土錘 (土師質)	類	長さ6.2 幅2.65 厚さ(1.5) 孔径1.4	15.0	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	砂粒微量含む	調整: ナデ 中型・中膨らみ
73	15	79	層	土製品	土錘 (土師質)	類	長さ6.2 幅3.6 厚さ3.5 孔径1.5	48.0	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	砂粒微量含む	調整: ナデ、両端部ケズリ 中型・中膨らみ
73	16	79	Ⅱ層	土製品	土錘 (土師質)	Ⅲ類	長さ8.85 幅3.05 厚さ2.8 孔径1.3	70.0	浅黄色(2.5Y7/3)	砂粒微量含む	調整: 両端部ケズリ、指押圧痕 大型・円柱形
73	17	79	Ⅱ層	土製品	土錘 (土師質)	Ⅲ類	長さ7.7 幅3.0 厚さ(2.4) 孔径1.3	56.0	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	砂粒微量含む	調整: ケズリ、指押圧痕 中型・円柱形
73	18	79	Ⅱ層	瓦	軒瓦				暗灰色(N3/)	砂粒微量含む	燻瓦
73	19	79	Ⅱ層	瓦	軒瓦か				灰色(5Y4/1)	砂粒含まない	燻瓦
73	20	79	Ⅱ層	瓦	丸瓦 (玉縁部)				オリーブ黒色(10Y3/1)	砂粒微量含む	燻瓦
73	21	79	Ⅱ層	瓦	栈瓦				灰色(N4/)	砂粒微量含む	燻瓦
73	22	79	層	瓦	桟瓦				表: 暗赤褐色(5YR3/2) 裏: 浅黄橙色(10YR8/3)	砂粒微量含む	表: 施釉 裏: ナデ、一部無釉 石見焼
73	23	79	Ⅱ層	土製品	不明		長さ5.9 幅6.3 厚さ2.1	93.0	灰白色(2.5Y8/1)	砂粒少量含む	側面研磨 温石?

石製	品									
挿図 番号	遺物 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	法量(cm)	重量(g)	備考		
75	7	79	層	石製品	砥石	長さ(4.3) 幅2.9 厚さ0.6	8.3	両面に擦痕 石硯の転用か		
75	8	79	層	石製品	砥石	長さ(3.0) 幅(2.3) 厚さ0.3	3.5	全面研磨痕		
75	9	79	層	石製品	砥石	長さ(5.2) 幅3.5 厚さ0.6	19.7	側面に切断痕が、擦痕		
75	10	79	層	石製品	砥石	長さ(5.3) 幅4.5 厚さ3.1	95.0	4 面使用		
 75	11	79	層	石製品	石塔			軽石(三瓶山)		
75	12	79	層	石製品	不明			全面非常に滑らか		
76	1	80		石製品	石臼(上臼)	径(39.9) 厚さ12.5		長方形の投入口、挽き手孔残存		
76	2	80						外: 横位の擦痕		
				石製品	茶臼(下臼)	径(37.0)		内: 斜位、横位の擦痕 中央に孔 軽石(三瓶山)		
76	3	80	層	石製品	石塔	長さ29.6 幅25.7 厚さ17.7		中央に九 軽白(三州山)		
銅製	遺物	図版	出土遺構	4年Dil	2 th	가무(am)	무미(~)	Att day.		
番号	番号	番号	層位	種別	名称	法量(cm)	量目(g)	備考		
75 ———	13	86	層	銭貨	□元□寶	径・孔不明 厚さ(0.79) 径2.37×2.36 孔0.66×0.6	0.14			
75 ———	14	86	2区	銭貨	熈寧重寶	厚さ0.08 径2.47×2.19 孔0.67×0.62	2.01			
75 ———	15	86	SR03	銭貨	政和通寶	厚さ0.11	1.71			
75	16	86	層	銭貨	□□通□	径・孔不明 厚さ(0.11)	(0.63)			
鉄器	\# #Am	பை	11:1 \#4#			I				
挿図 番号	遺物番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	法量(cm)	重量(g)	備考		
73	24	84	Ⅱ層	鉄製品	鏃	長さ(8.1) 幅3.3 厚さ0.3	(36.0)	柳葉形・平造		
73	25	84	Ⅱ層	鉄製品	小札	長さ(2.5) 幅2.8 厚さ0.3	(7.09)	孔 2 列		
73	26	84	Ⅱ層	鉄製品	金兼?	長さ(3.3) 幅1.9 厚さ0.4	(7.0)	基部		
73	27	84	Ⅱ層	鉄製品	刀子	長さ(5.65) 幅2.0 厚さ0.4	(26.0)	直角関		
74	1	84	Ⅱ層	鉄製品	鎌	長さ(10.5) 幅3.9 厚さ0.3	(41.80)	刃部断面方形 鉄製模造品か		
74	2	84	層	鉄製品	不明	長さ(4.2) 幅1.75 厚さ0.5	(13.0)	刃部先端		
74	3	84	層	鉄製品	鏃	長さ(7.9) 幅4.7 厚さ0.5	(45.77)	雁股形•平造		
74	4	84	層	鉄製品	鏃	長さ(13.3) 幅(4.4) 厚さ不明	(55.17)	柳葉形・断面不明		
74	5	84	層	鉄製品	鏃	長さ(4.8) 幅0.65 厚さ0.7	(9.0)	鏃茎部		
74	6	84	層	鉄製品	鏃	長さ(6.3) 幅1.2 厚さ0.5	(18.0)	長頸鏃・台形関		
74	7	84	層	鉄製品	簪	長さ(11.8) 幅0.8 厚さ0.65	(34.0)	鑷子状 頭部欠損		
74	8	84	層	鉄製品	鉇	長さ(8.3) 幅1.2 厚さ1.0	(38.0)	 刃部断面三日月形・身部長方形		
74	9	85	層	鉄製品	不明	長さ(11.5) 幅(4.5) 厚さ0.4	(132.0)	断面は長方形を呈し、鋲留2カ所		
74	10	85	層	鉄製品	鎹	長さ5.8 幅1.5 厚さ0.4	(40.0)	折り返しあまい 鉄製模造品か		
74	11	85	層	鉄製品	板状鉄片	長さ(4.7) 幅1.6 厚さ0.4	(60.0)	板状鉄片(折り曲げ)		
74	12	85		鉄製品	金具	長さ2.8 幅0.4 厚さ(0.4)	(19.0)	断面隅丸方形		
74	13	85	層	鉄製品	金具	長さ1.7 幅0.4 厚さ0.45 長さ3.5 幅1.6	(3.0)	断面隅丸方形		
	14	85	層	鉄製品	鉄鐸	長さ2.9 幅1.5	(16.98)	中空、先端に孔有		
74	15	80.85	Ⅱ層	鉄素材	棒状鉄	長さ6.6 幅1.1 厚さ0.8	(43.0)	両端面整う b類		
	16	85	層	鉄製品	板状鉄片	長さ2.7 幅1.2 厚さ0.3	(6.0)	板状鉄片の残片		
74	17	85	Ⅱ層	鍛冶関連	鉄滓	長さ1.9 幅1.3 厚さ0.9	(2.0)	磁着度:2 メタル度: 銹化		
74	18	85	Ⅱ層	鉄製品	板状鉄片	長さ4.5 幅3.1 厚さ0.25	(18.0)			
74	19	85	層	鉄製品	板状鉄片	長さ(3.3) 幅3.0 厚さ0.3	(24.0)	刃部なし 端辺部幅広 鉄鋌か		
74	20	85	Ⅱ層	鉄製品	板状鉄片	長さ5.3 幅2.5 厚さ0.3	(30.0)	不整形		
74	21	85	層	鉄素材	鉄塊	長さ(7.3) 幅7.4 厚さ0.7	(222.0)	錬鉄か 磁着度:6 メタル度:H		
74	22	85	Ⅱ層	鉄素材	鉄塊	長さ9.5 幅7.2 厚さ0.7	(252.0)	錬鉄か 磁着度:6 メタル度:H		
74	23	85	Ⅱ層	鉄素材	鉄塊	長さ8.9 幅6.2 厚さ0.3	(166.0)	錬鉄か 磁着度:5 メタル度: 銹化		
75	1	86	Ⅱ層	鍛冶関連	鉄滓	長さ10.8 幅9.9 厚さ4.6	555.0	椀形鍛冶滓 精錬鍛冶滓 羽口痕有 磁着度:6 メタル度:H		
75	2	85	層	鍛冶関連	鉄滓	長さ9.7 幅7.3 厚さ4.7	354.0	砂鉄製錬滓か 小型 羽口痕有 磁着度:6 メタル度:M		

挿図 番号	遺物 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	法量(cm)	重量(g)	備考					
75	3	86	層	鍛冶関連	鉄滓	長さ8.9 幅5.5 厚さ2.2	116.0	砂鉄製錬滓 小型 磁着度:5 メタル度:H					
75	4	85	層	鍛冶関連	鉄滓	長さ11.7 幅8.3 厚さ4.5		精錬鍛冶滓か 小型 磁着度:5 メタル度: 銹化					
羽口													
挿図 番号	遺物 番号	図版 番号	出土遺構 層位	種別	器種	法量(cm)	重量(g)	備考					
75	5	79	層	鍛冶関連	羽口	長さ(5.0) 幅不明 厚さ1.5	30.0	ガラス質化					
75	6	79	層	鍛冶関連	羽口	長さ(5.4) 幅不明 厚さ1.1	13.0	ガラス質化					

森原神田川遺跡下ノ原地区

写真図版



SR10 出土遺物





1. 下ノ原地区 遠景(南上空から)



2. 下ノ原地区 遠景(北上空から)



1. 下ノ原地区 全景(上空から)



2. 下ノ原地区 全景(南から)



1.SR01 (南西から)



2.SR01 土層(北西から)



3. SR02・03・07 検出状況(南東から)



1. SR02 完掘後(東から)



2.SR02-2 石積検出状況(西から)



3.SR02-3 石積検出状況(西から)



4. SR02・03 土層(南東から)



1. SR03 完掘後(東から)



2.SR04・05 完掘後(東から)



3.SR04 土層 (東から)



4.SR05 土層 (東から)



2.SR10 土層1 (北西から)



3.SR10 土層2 (北東から)



4.SR10 土層3 (北から)



6. 小学生による発掘体験(SR10 掘削作業)



5.SR10 掘削作業風景



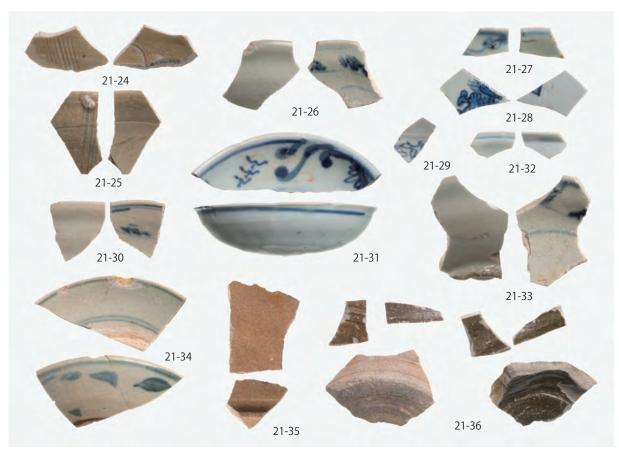
1. SR01 出土遺物



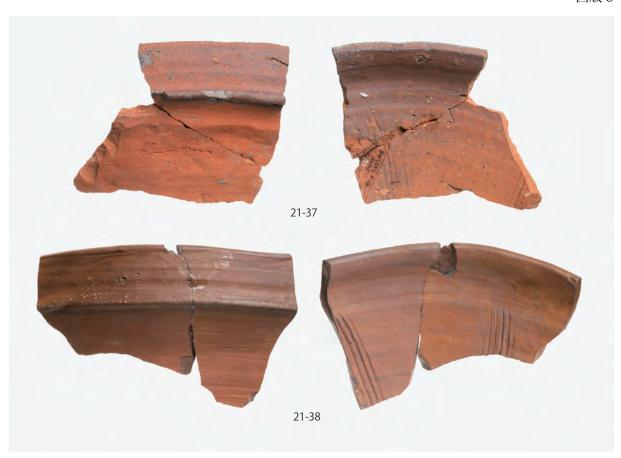
2.SR01 出土遺物



1. SR02 出土遺物



2. SR02 出土遺物



1.SR02 出土遺物



2. SR02 出土遺物



1. SR02 出土遺物



2. SR02 出土遺物



1. SR02 出土遺物



2. SR02 出土遺物



1.SR02 出土遺物



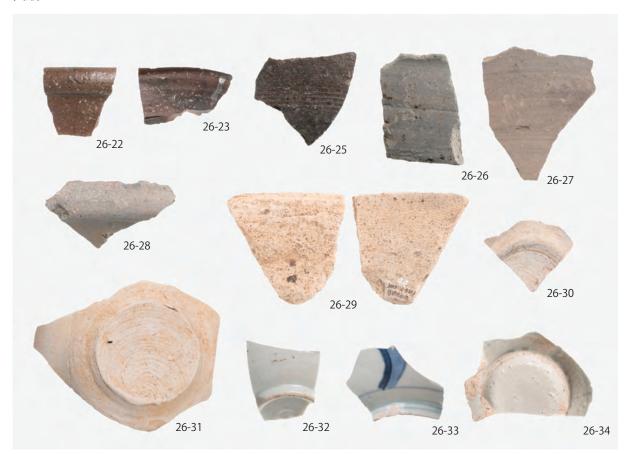
2. SR02·03 出土遺物



1. SR03 出土遺物



2. SR03 出土遺物



1.SR03 出土遺物



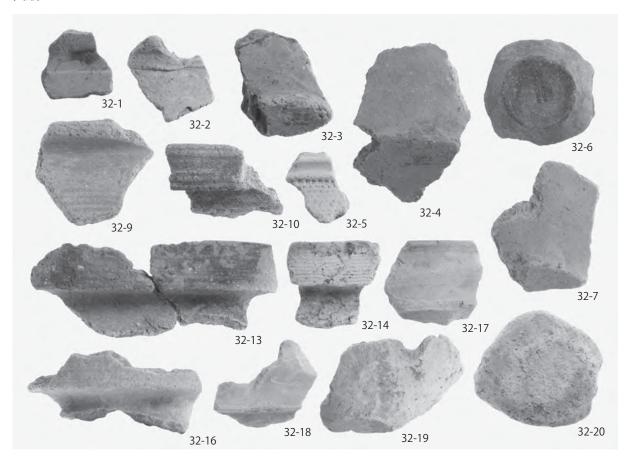
2.SR03 出土遺物



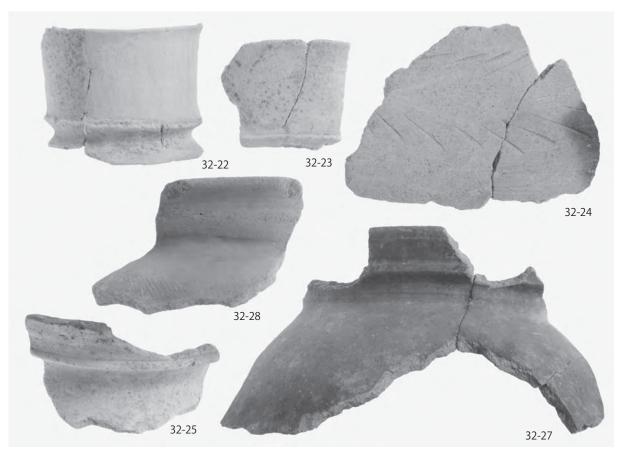
1.SR04·05·07 出土遺物



2.SR04·05·07 出土遺物



1. SR10 出土遺物



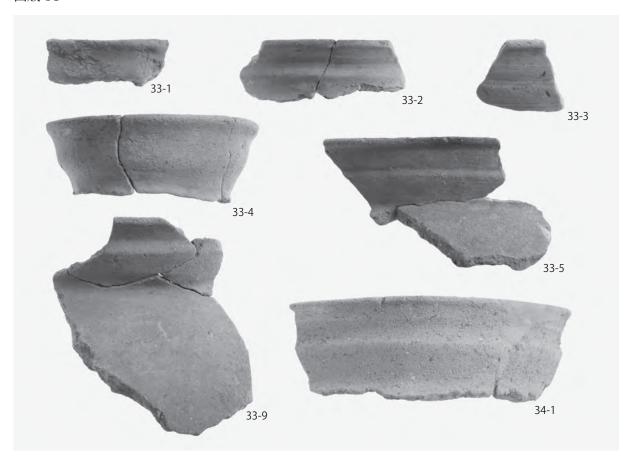
2.SR10 出土遺物



1. SR10 出土遺物



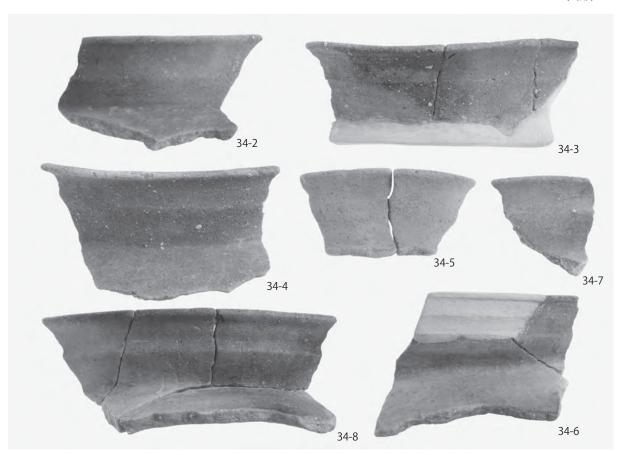
2. SR10 出土遺物



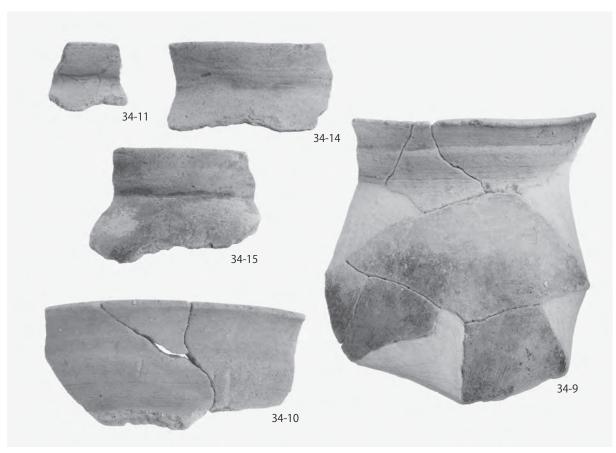
1.SR10 出土遺物



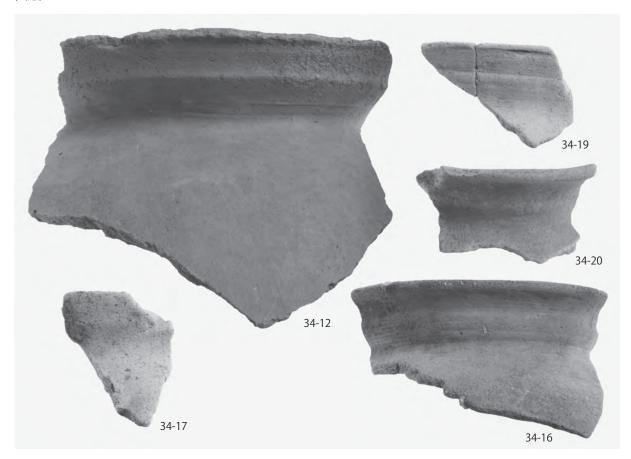
2. SR10 出土遺物



1. SR10 出土遺物



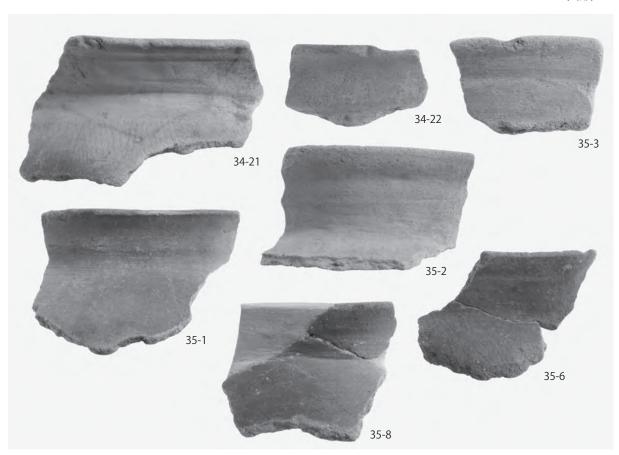
2. SR10 出土遺物



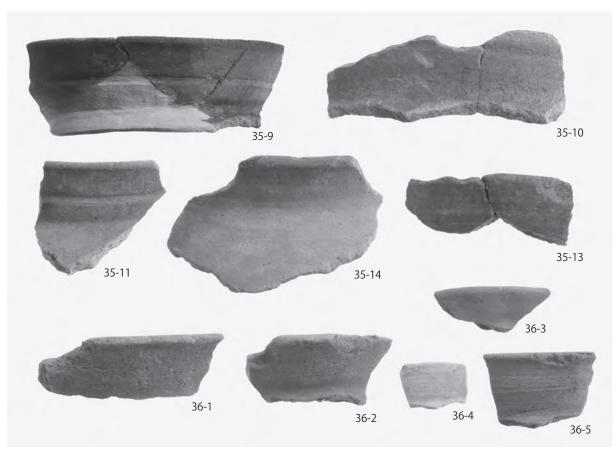
1.SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



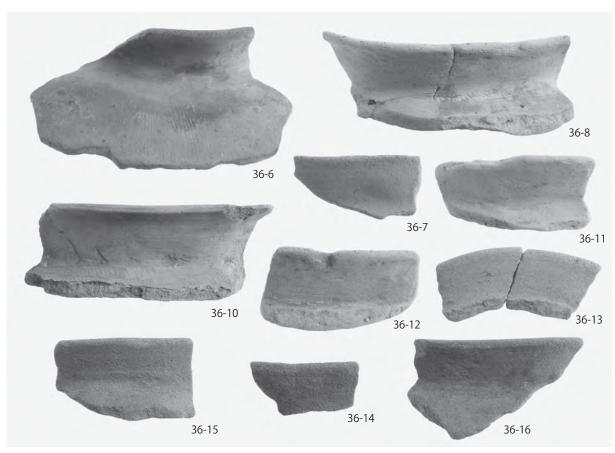
1. SR10 出土遺物



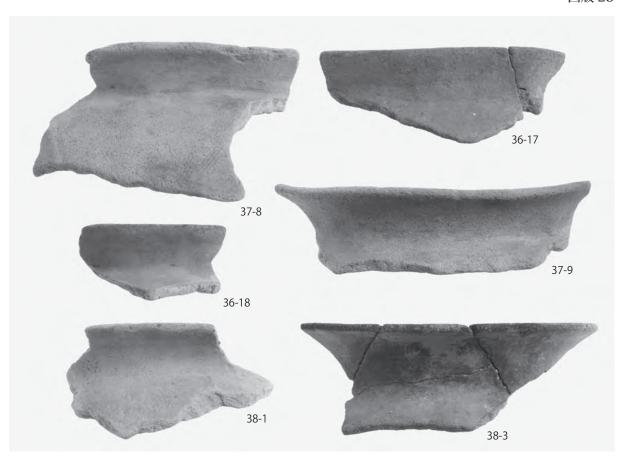
2. SR10 出土遺物



1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



1.SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



1.SR10 出土遺物



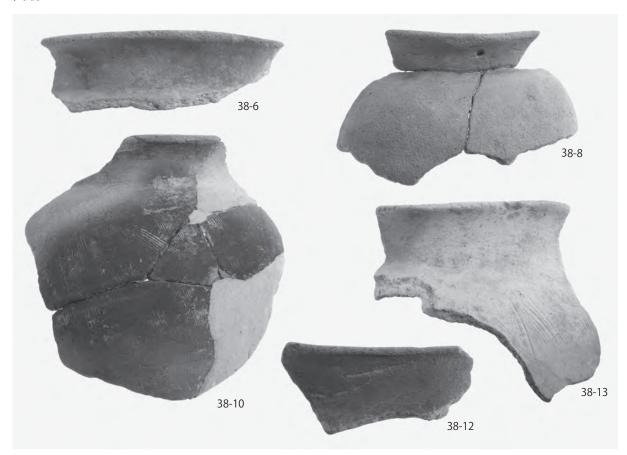
2. SR10 出土遺物



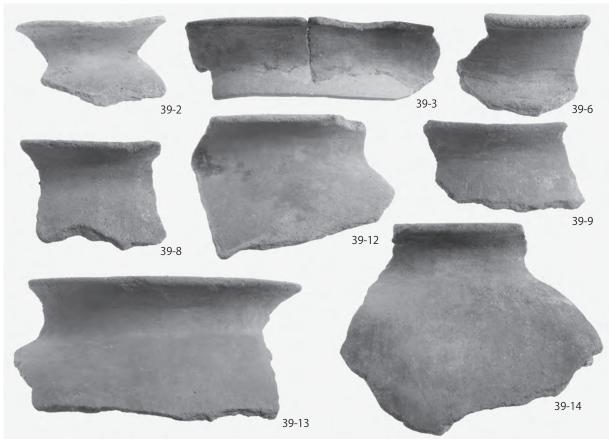
1.SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



1. SR10 出土遺物



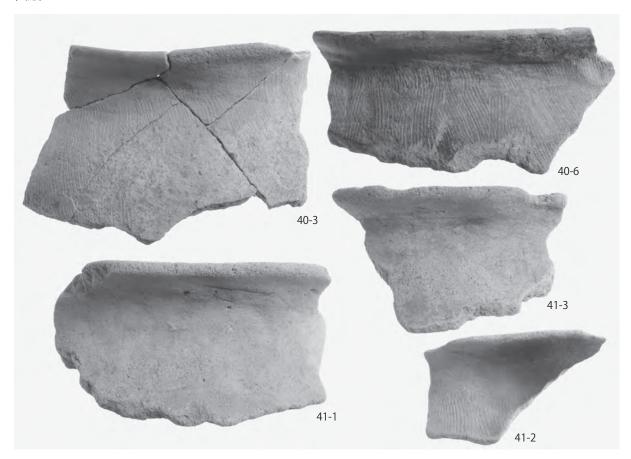
2. SR10 出土遺物



1.SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



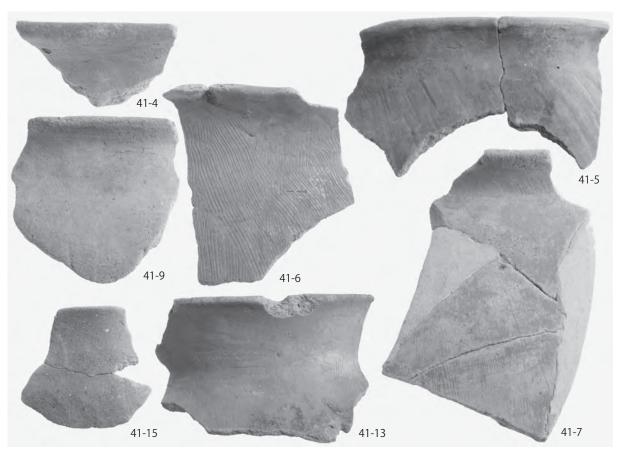
1.SR10 出土遺物



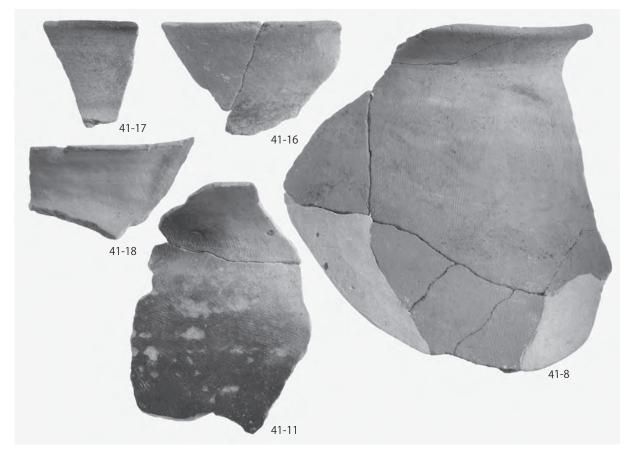
2. SR10 出土遺物



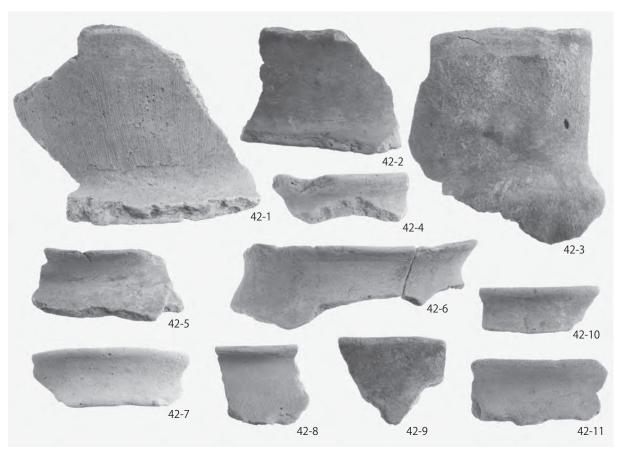
1. SR10 出土遺物



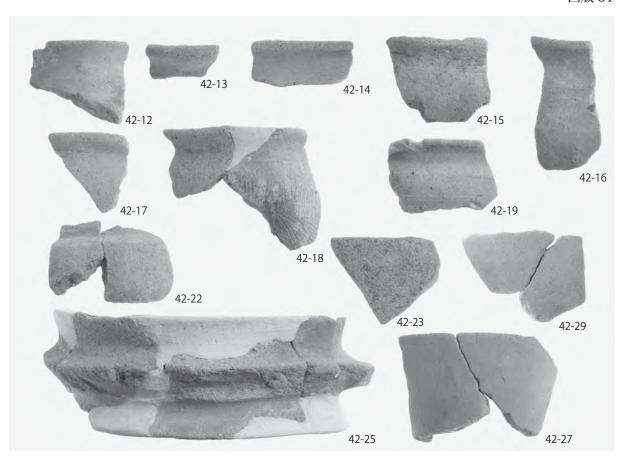
2. SR10 出土遺物



1.SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



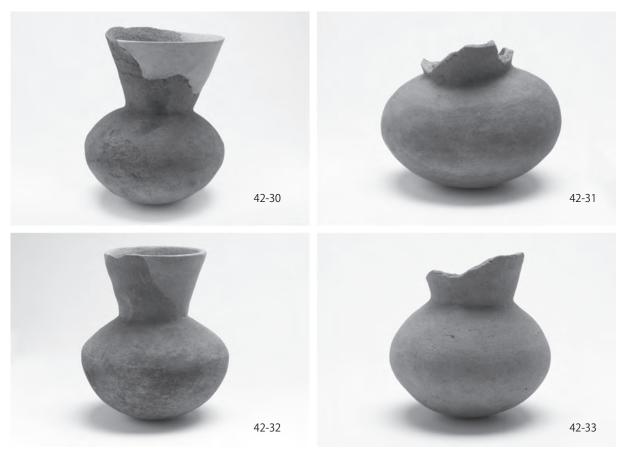
1.SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



1.SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



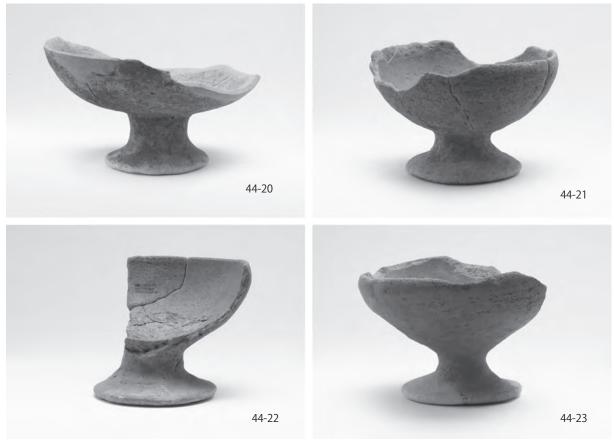
1.SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



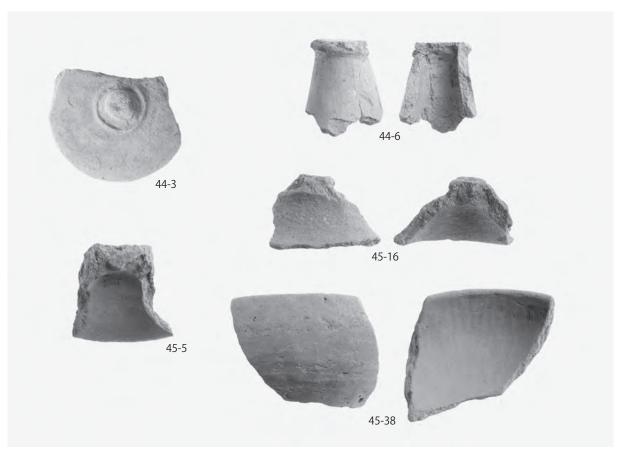
1. SR10 出土遺物



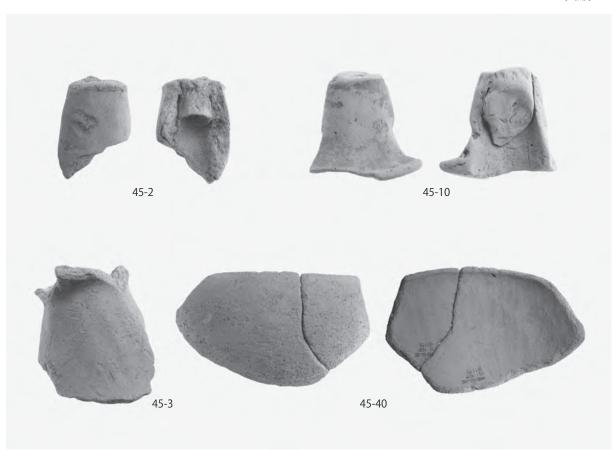
2. SR10 出土遺物



1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



1.SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



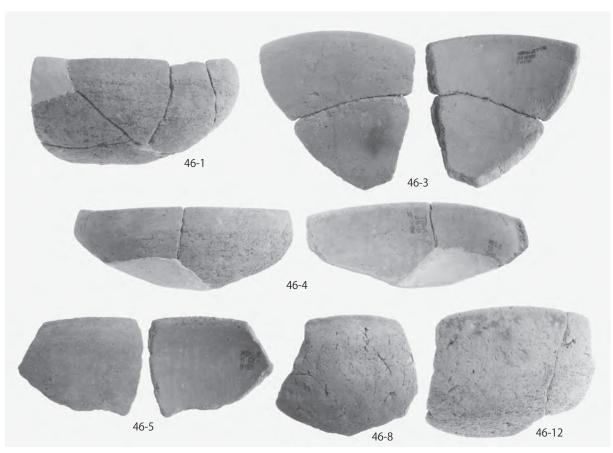
1.SR10 出土遺物



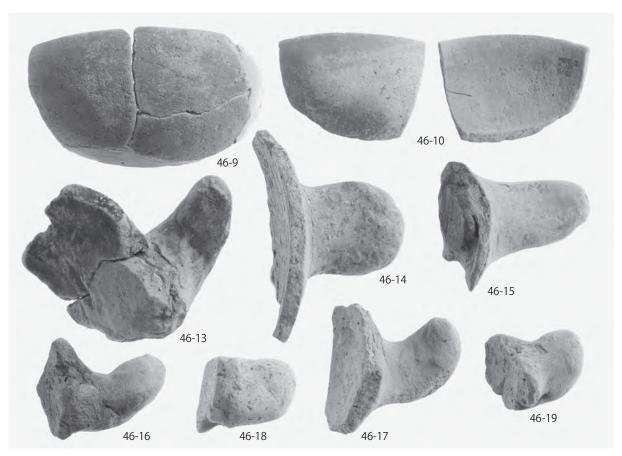
2. SR10 出土遺物



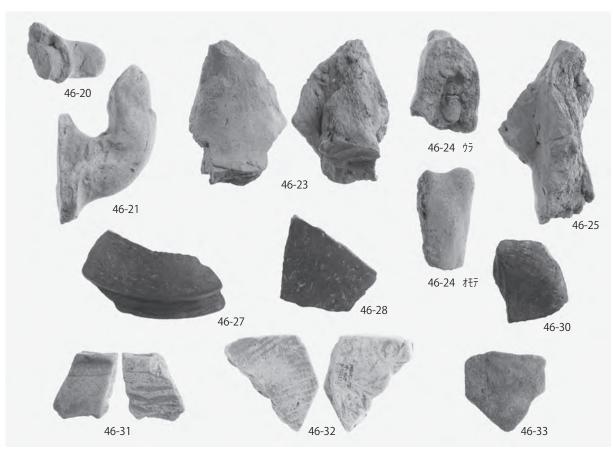
1.SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



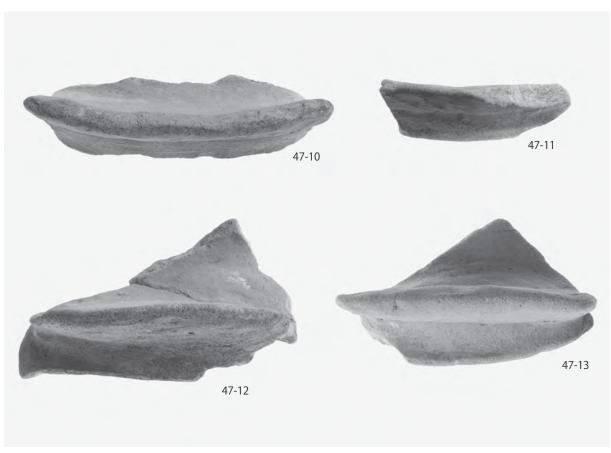
1.SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



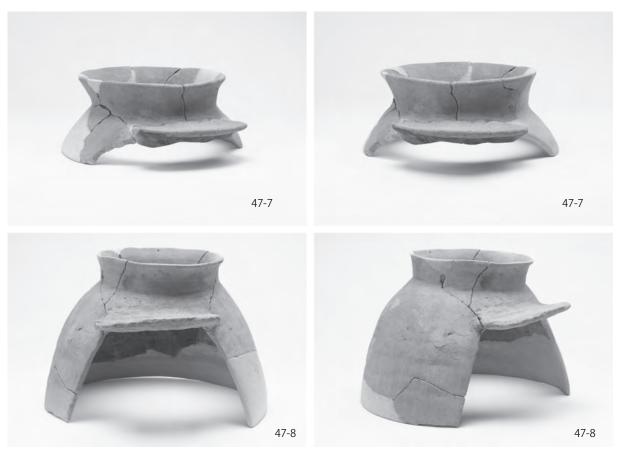
1. SR10 出土遺物



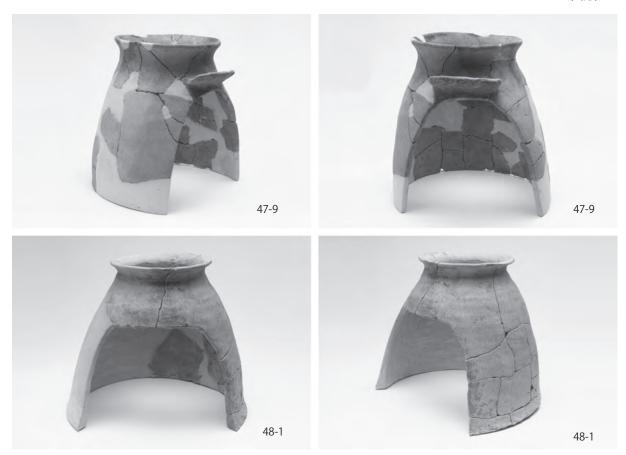
2. SR10 出土遺物



1.SR10 出土遺物



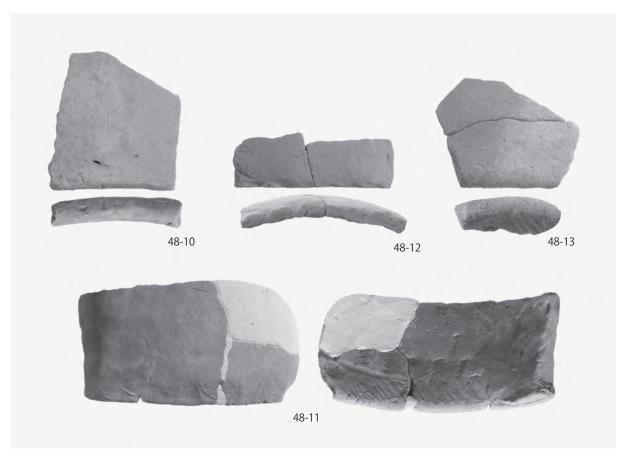
2. SR10 出土遺物



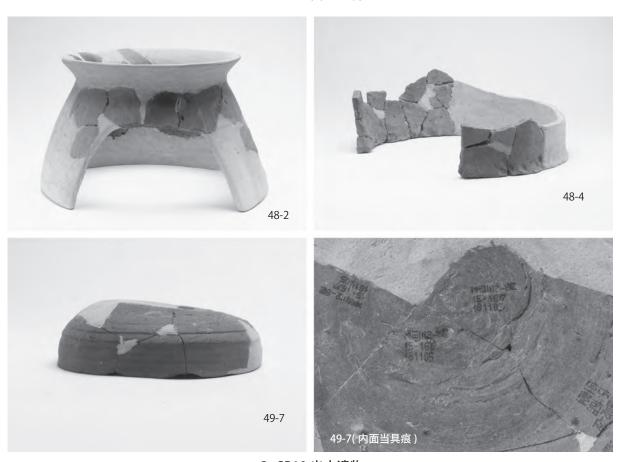
1. SR10 出土遺物



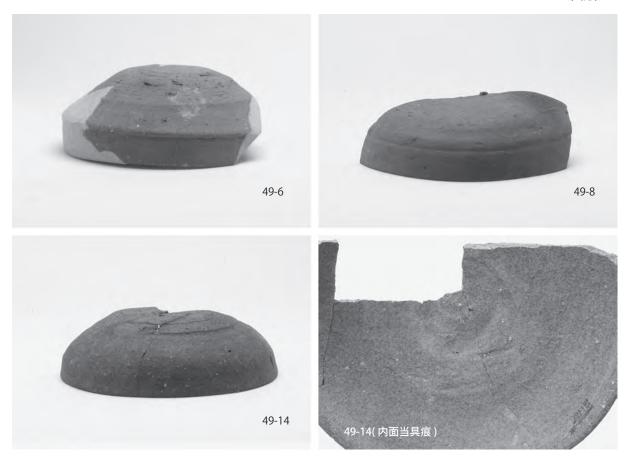
2. SR10 出土遺物



1.SR10 出土遺物



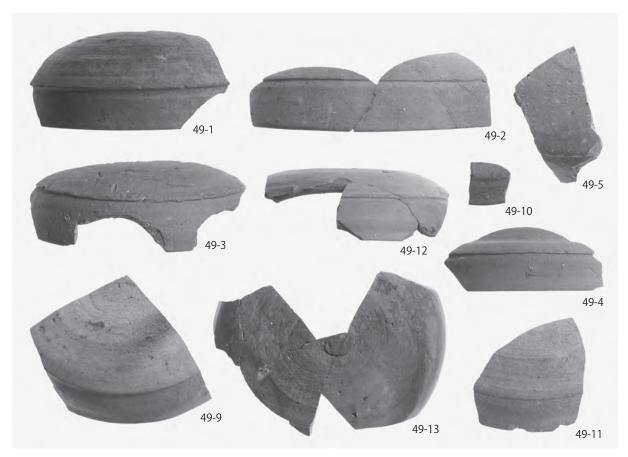
2. SR10 出土遺物



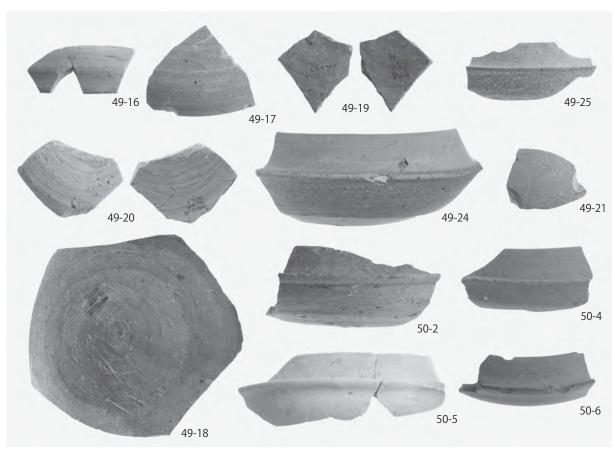
1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



1.SR10 出土遺物



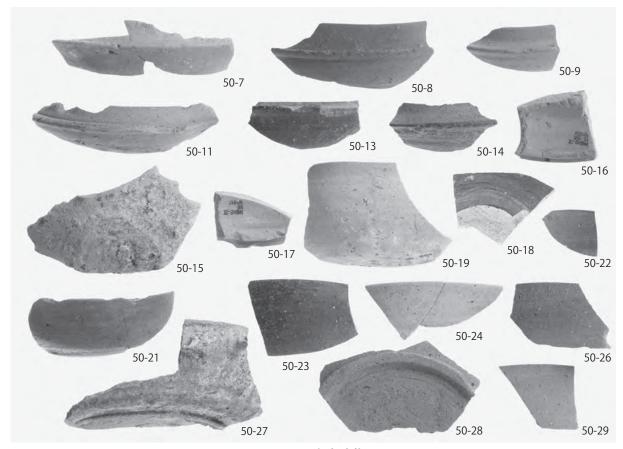
2. SR10 出土遺物



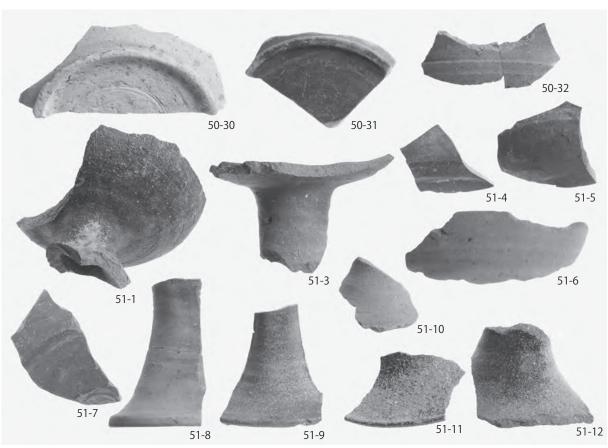
1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



1.SR10 出土遺物



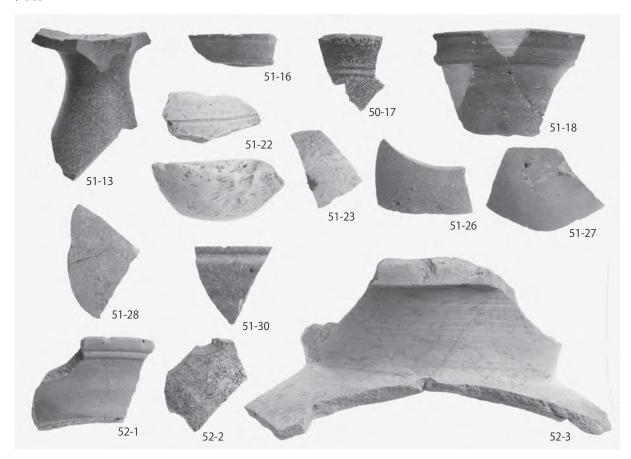
2. SR10 出土遺物



1.SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



1. SR10 出土遺物



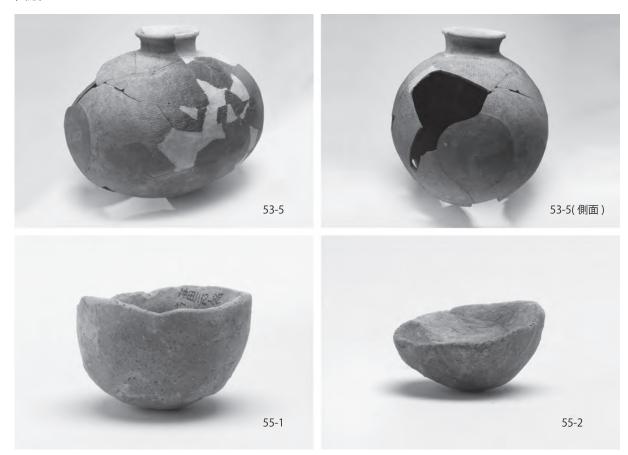
2. SR10 出土遺物



1. SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



1.SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



1.SR10 出土遺物



2. SR10 出土遺物



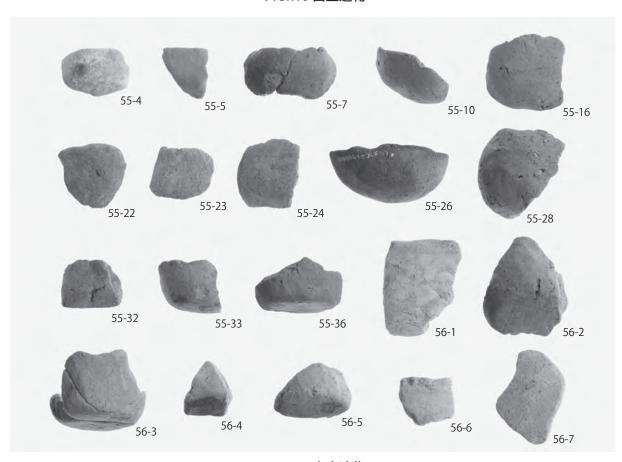
1.SR10 出土遺物



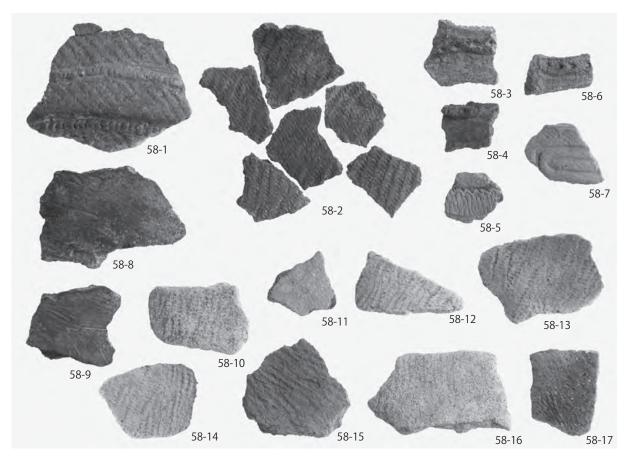
2. SR10 出土遺物



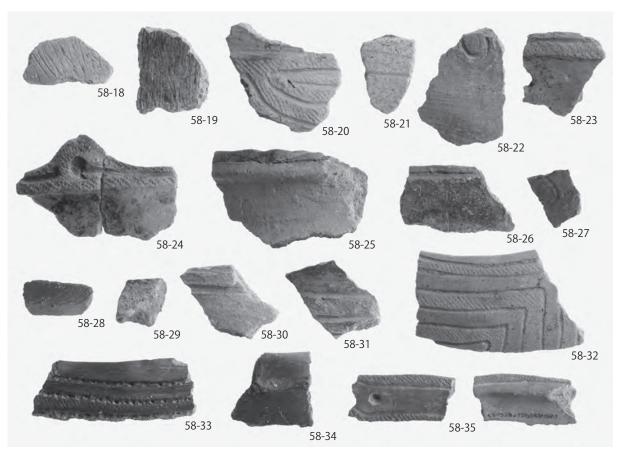
1. SR10 出土遺物



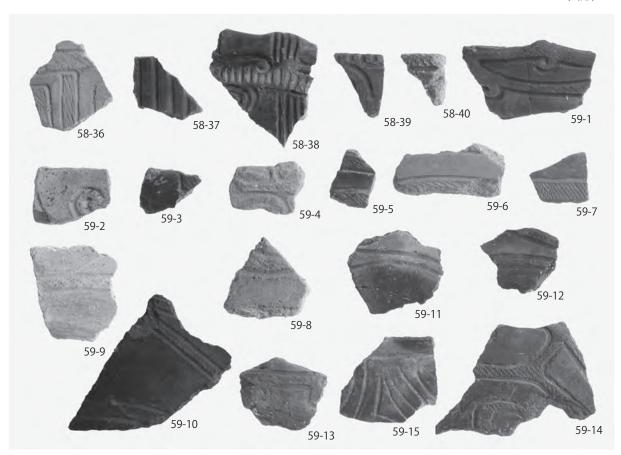
2. SR10 出土遺物



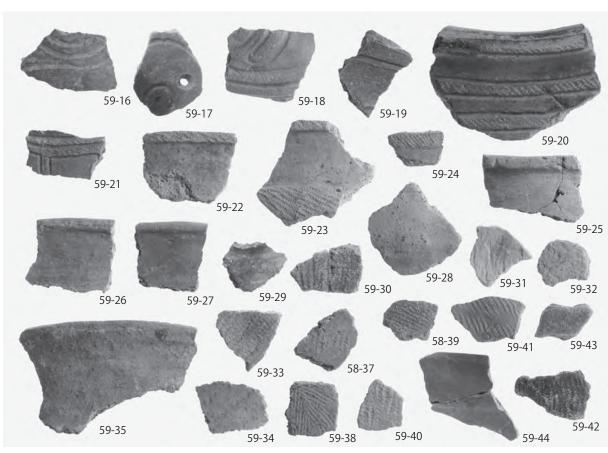
1. 遺構外出土遺物



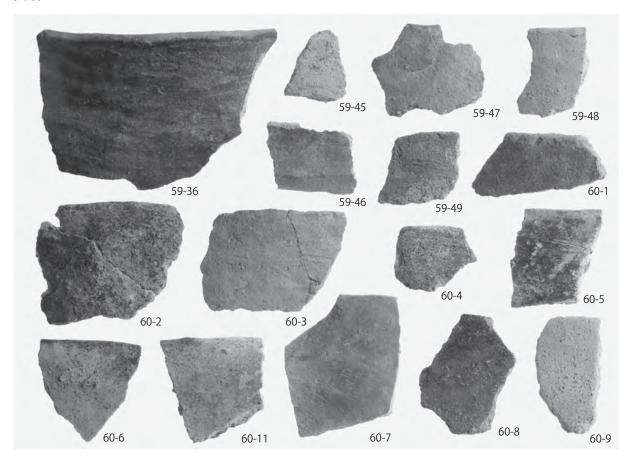
2. 遺構外出土遺物



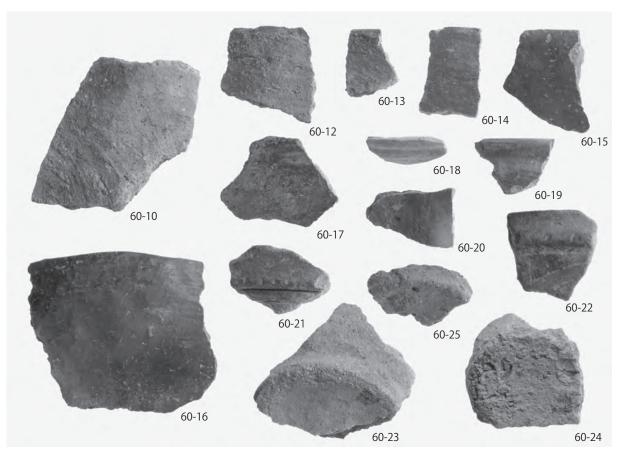
1. 遺構外出土遺物



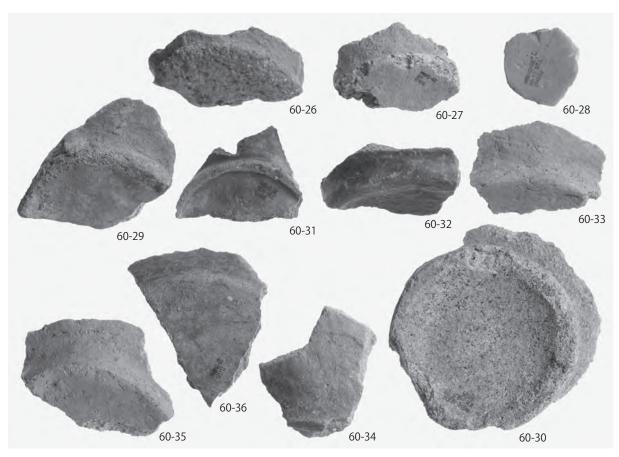
2. 遺構外出土遺物



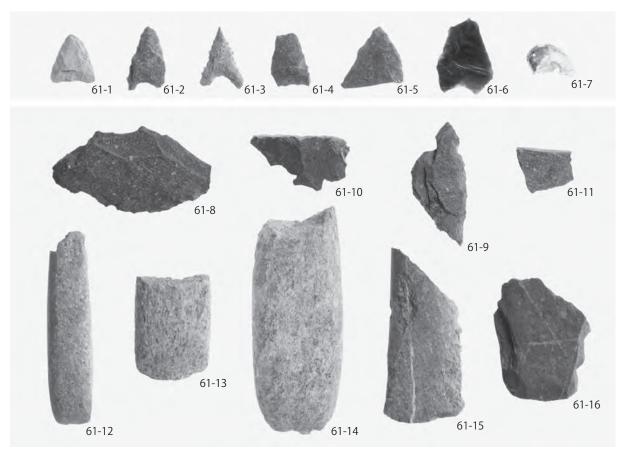
1. 遺構外出土遺物



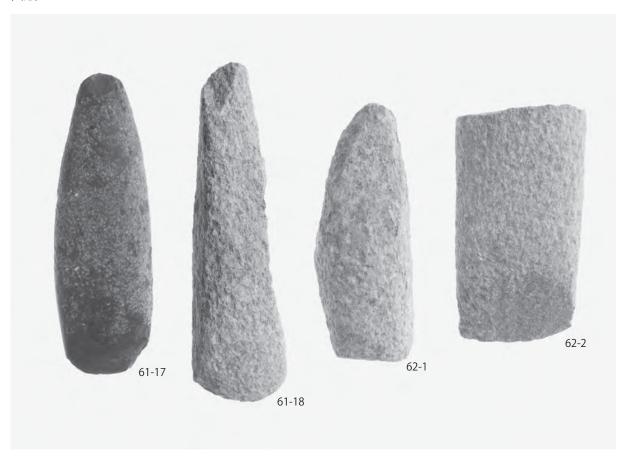
2. 遺構外出土遺物



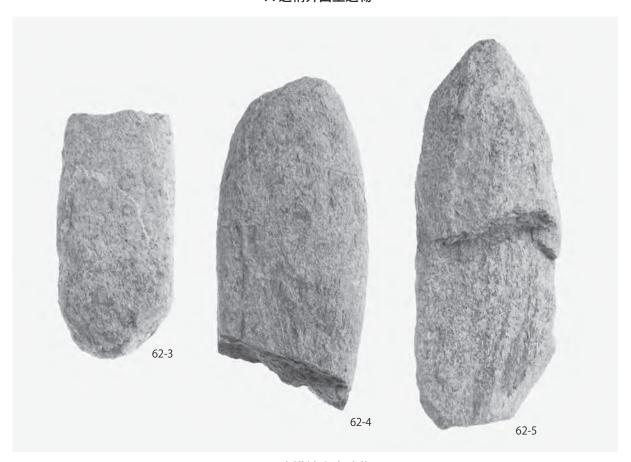
1. 遺構外出土遺物



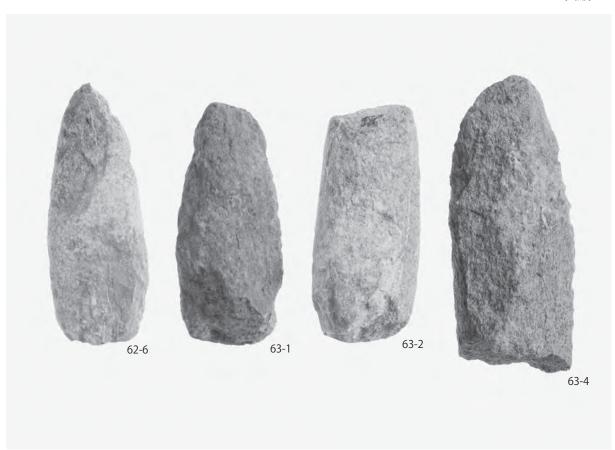
2. 遺構外出土遺物



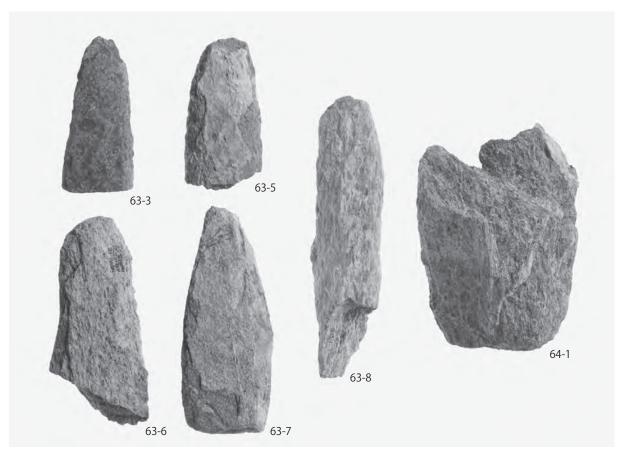
1. 遺構外出土遺物



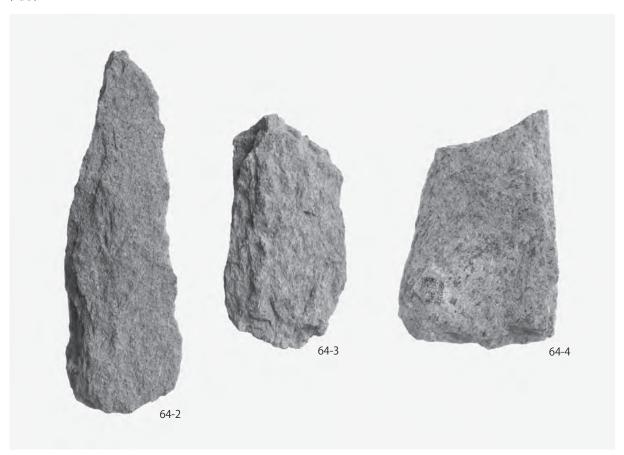
2. 遺構外出土遺物



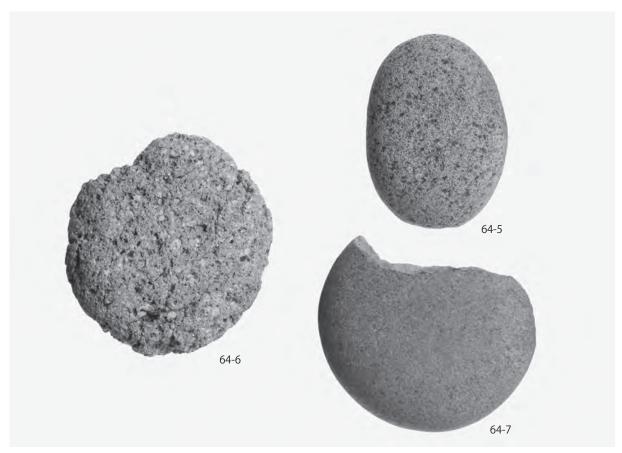
1. 遺構外出土遺物



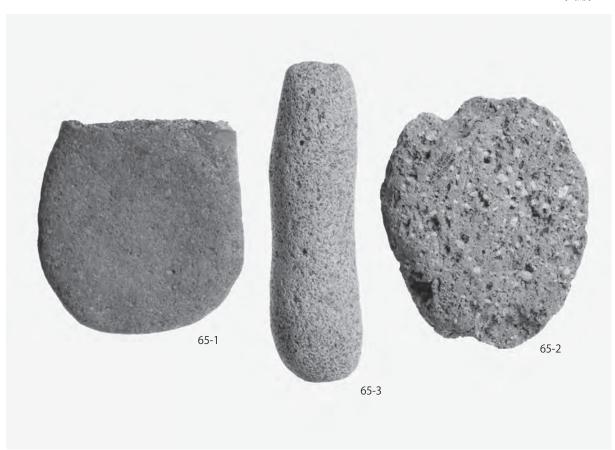
2. 遺構外出土遺物



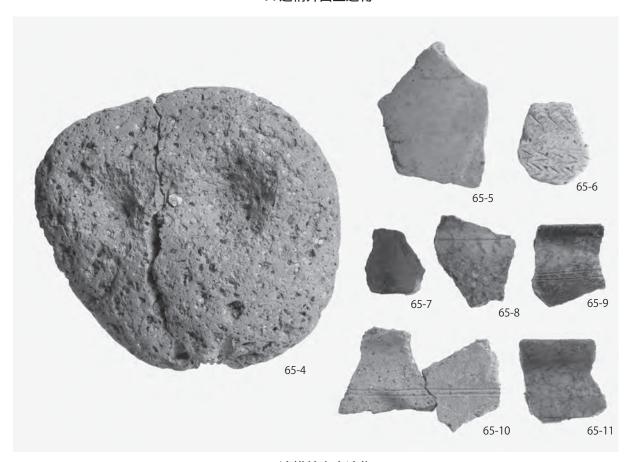
1. 遺構外出土遺物



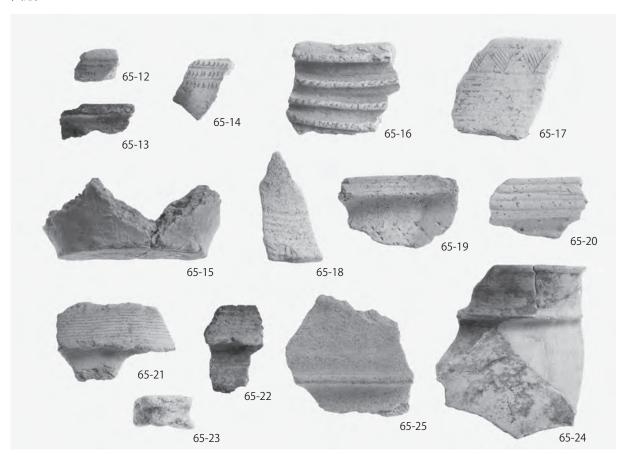
2. 遺構外出土遺物



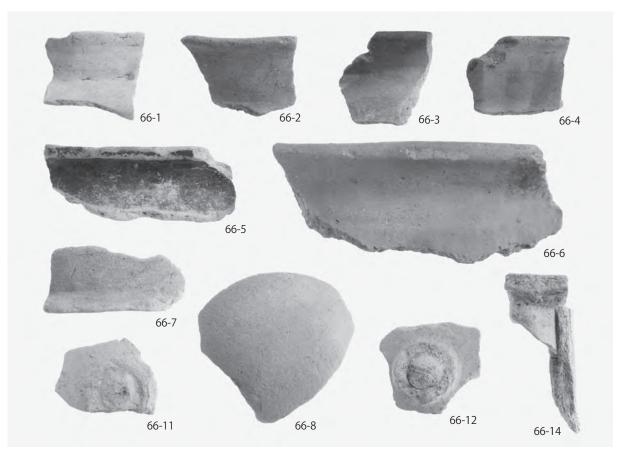
1. 遺構外出土遺物



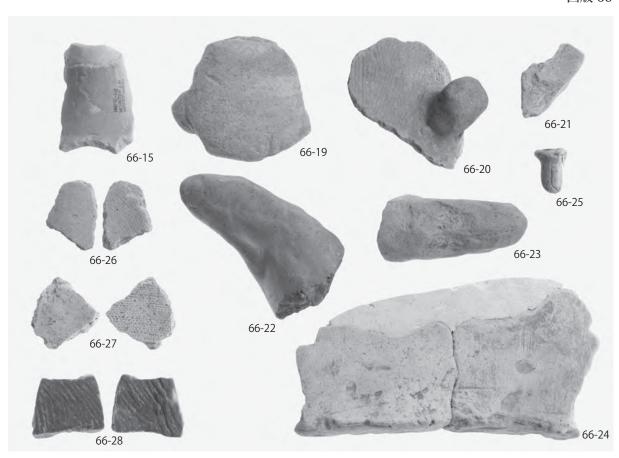
2. 遺構外出土遺物



1. 遺構外出土遺物



2. 遺構外出土遺物



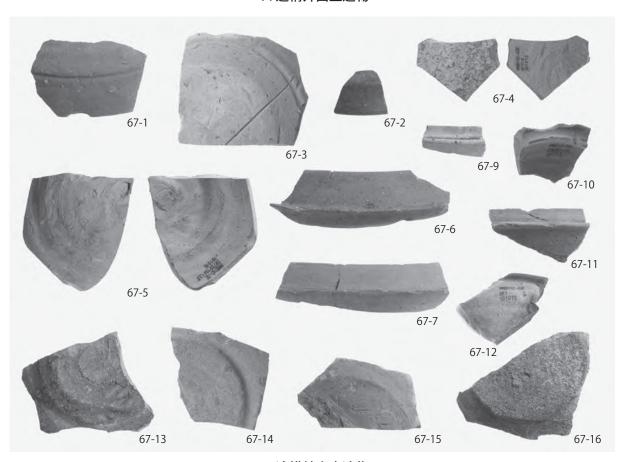
1. 遺構外出土遺物



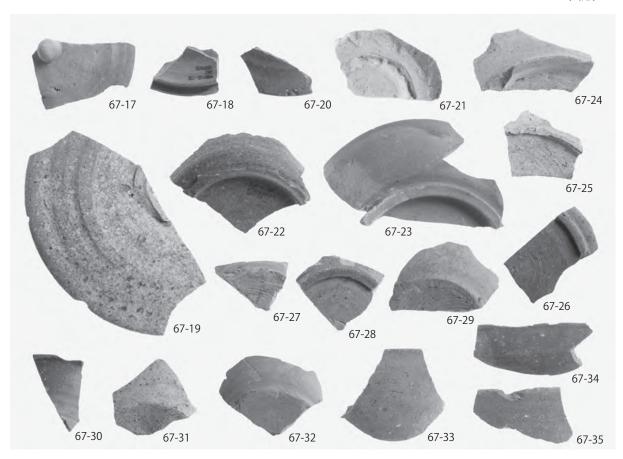
2. 遺構外出土遺物



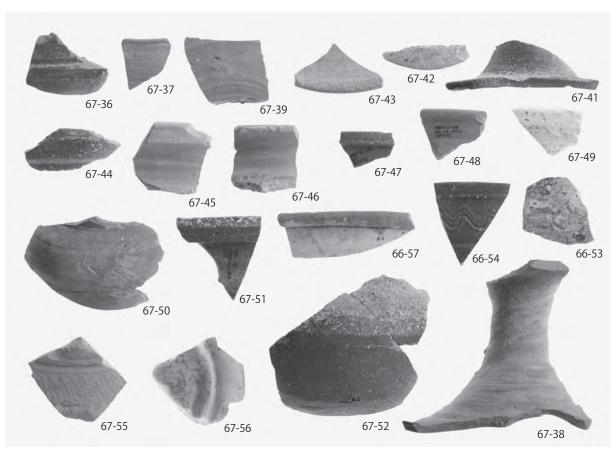
1. 遺構外出土遺物



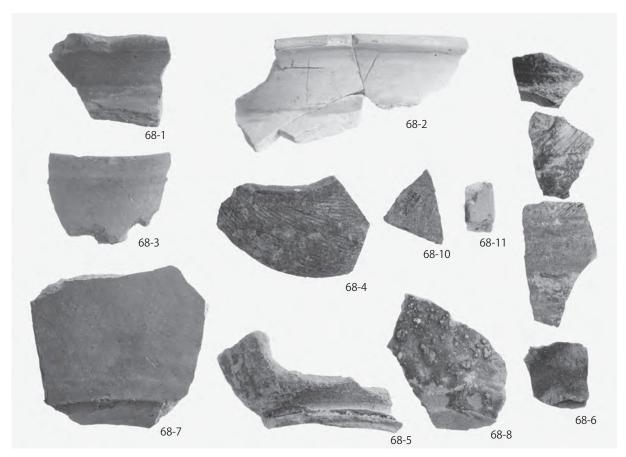
2. 遺構外出土遺物



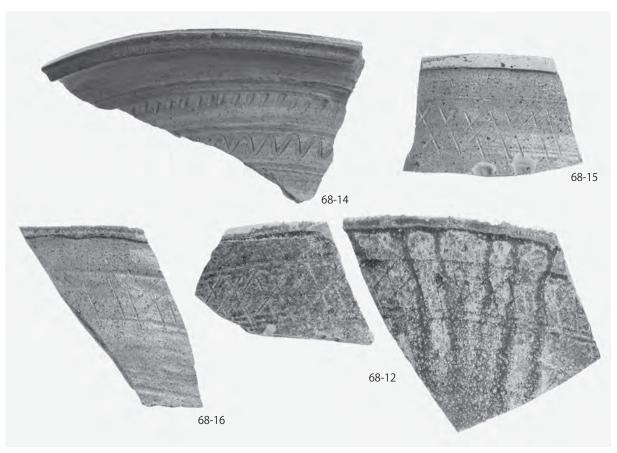
1. 遺構外出土遺物



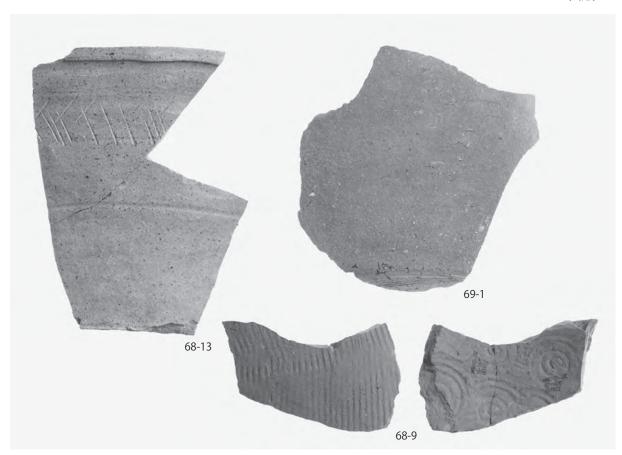
2. 遺構外出土遺物



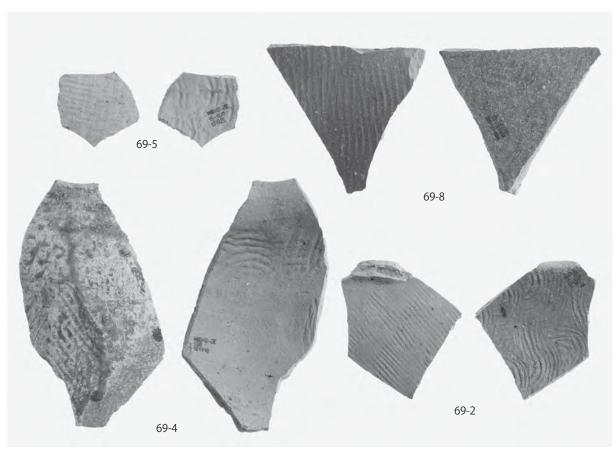
1. 遺構外出土遺物



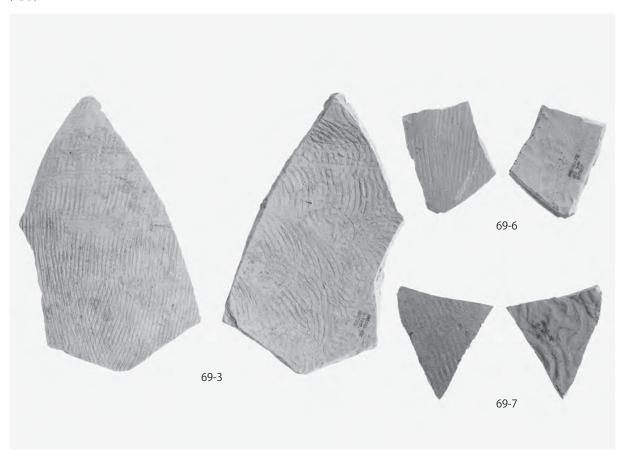
2. 遺構外出土遺物



1. 遺構外出土遺物



2. 遺構外出土遺物



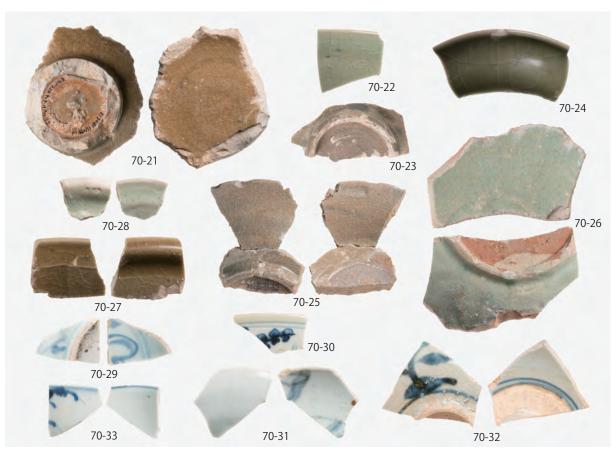
1. 遺構外出土遺物



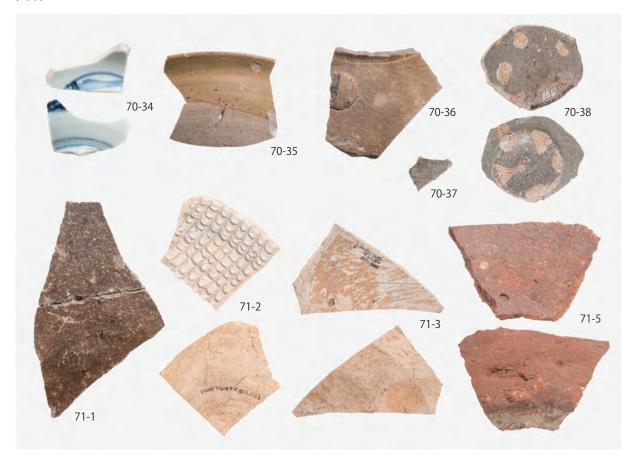
2. 遺構外出土遺物



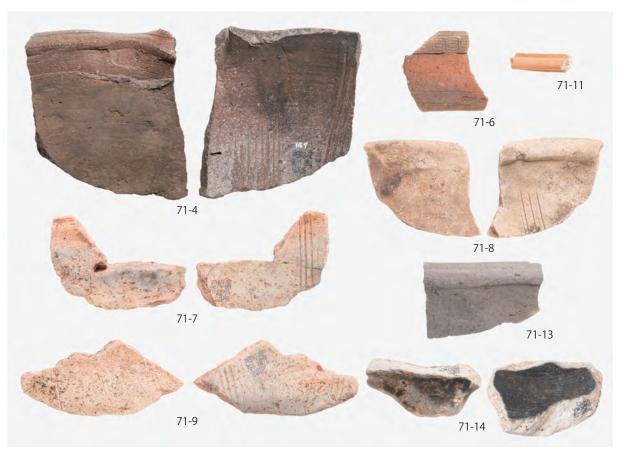
1. 遺構外出土遺物



2. 遺構外出土遺物



1. 遺構外出土遺物



2. 遺構外出土遺物



1. 遺構外出土遺物



2. 遺構外出土遺物



1. 遺構外出土遺物



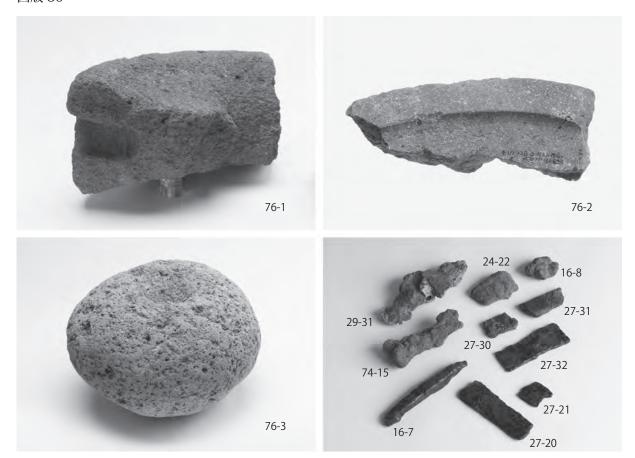
2. 遺構外出土遺物



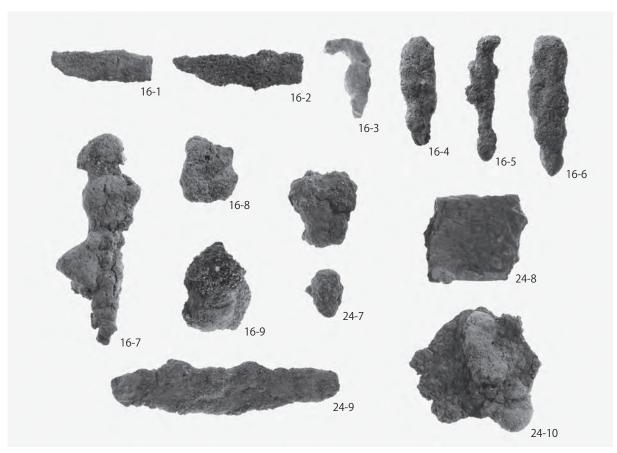
1. 遺構外出土遺物



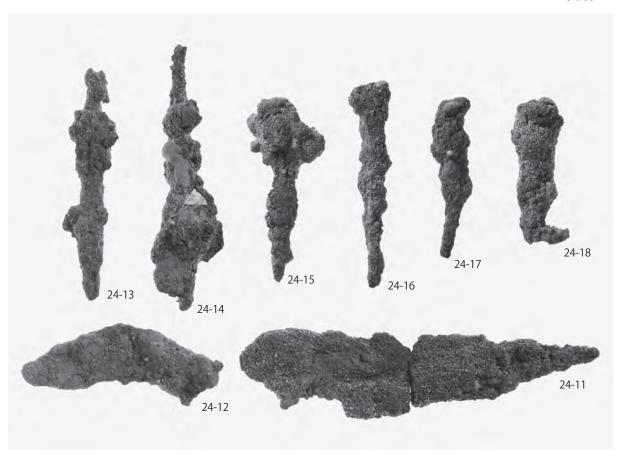
2. 遺構外出土遺物



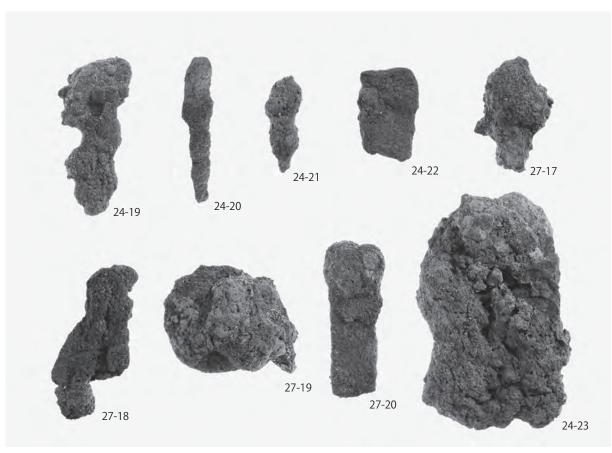
1. 遺構外出土遺物 / 鉄器集合 (鉄素材・未成品・小札)



2.SR01・02 出土遺物



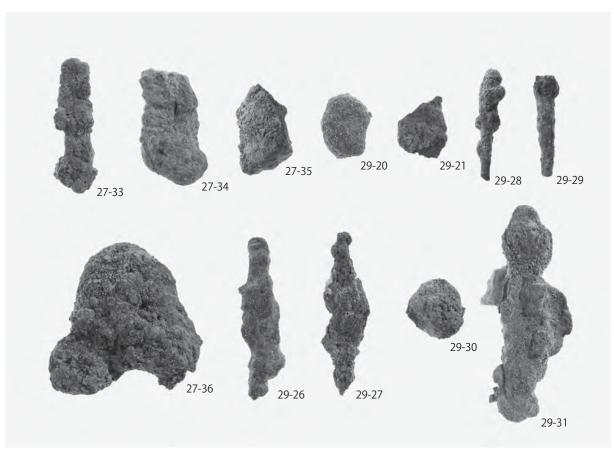
1. SR02 出土遺物



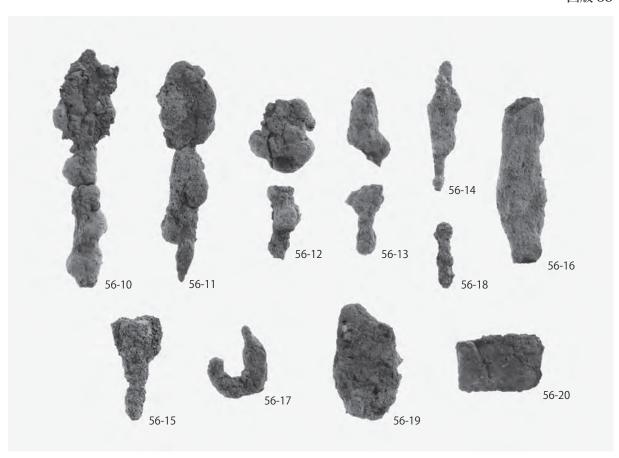
2.SR02·03 出土遺物



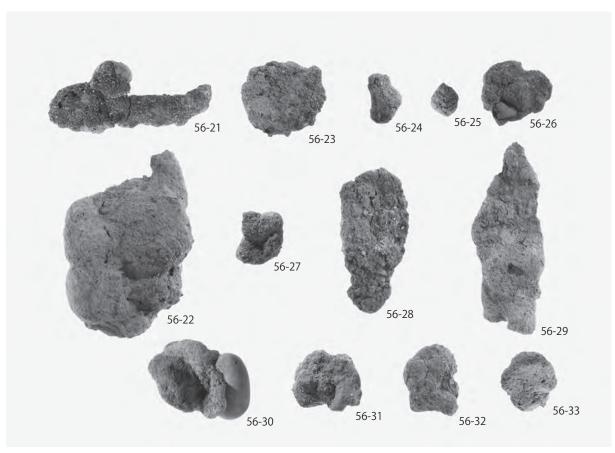
1.SR03 出土遺物



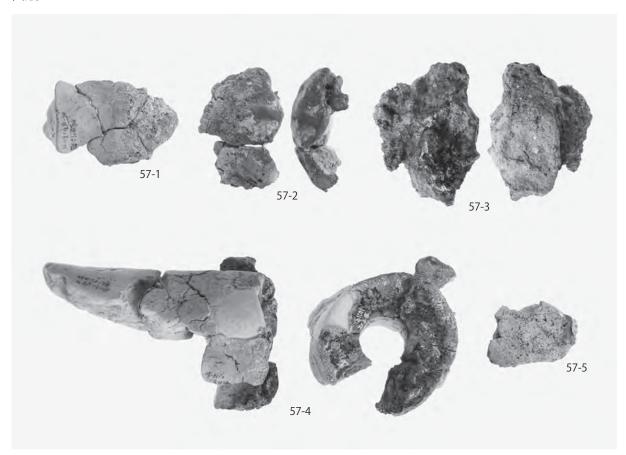
2.SR03 • 05 • 07 出土遺物



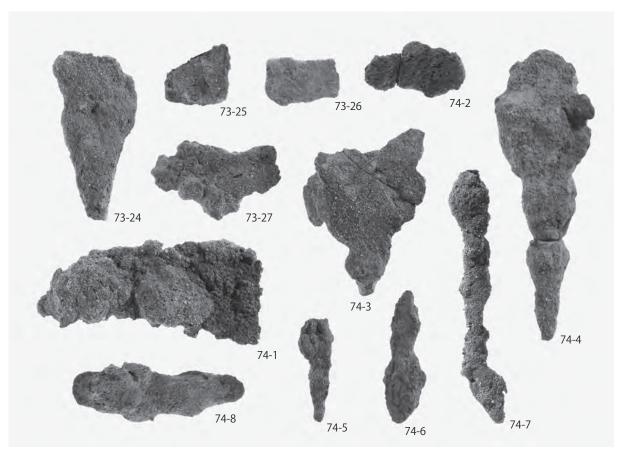
1. SR10 出土遺物



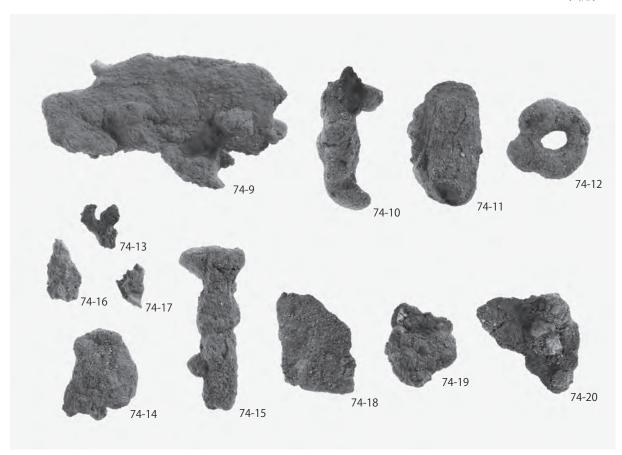
2. SR10 出土遺物



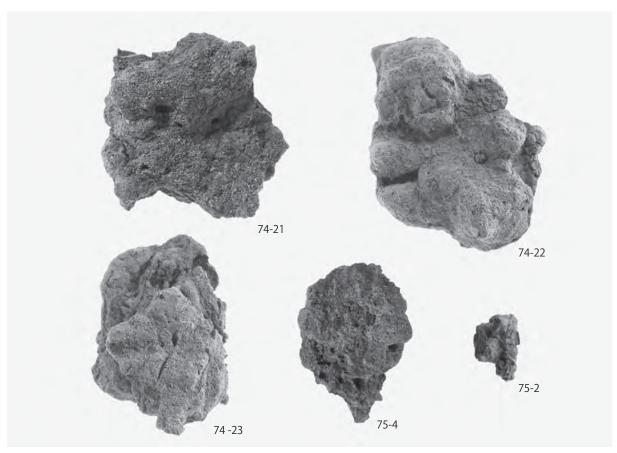
1.SR10 出土遺物



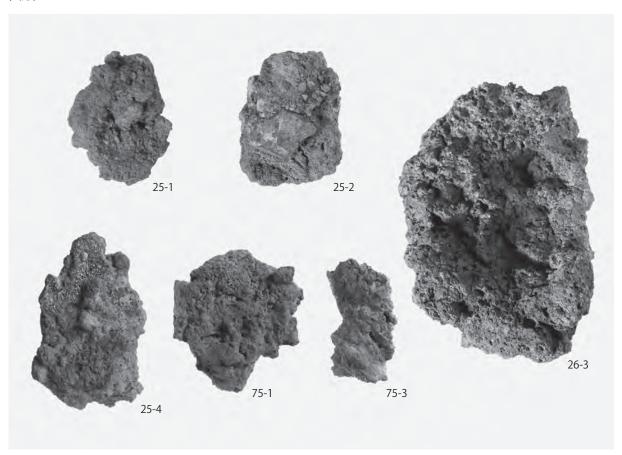
2. 遺構外出土遺物



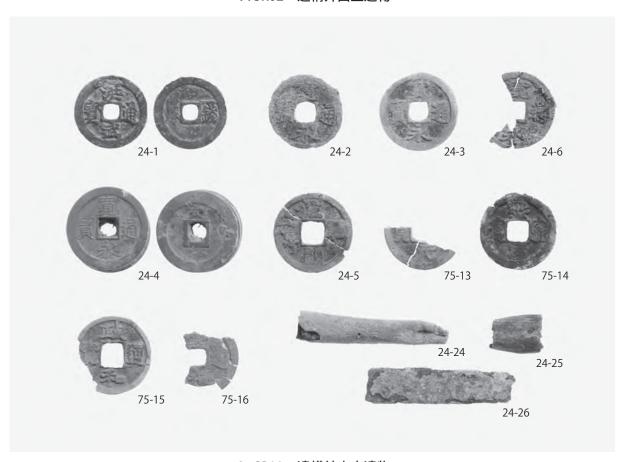
1. 遺構外出土遺物



2. 遺構外出土遺物



1.SR02・遺構外出土遺物



2.SR02・遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	もりば	もりばらじんでがわいせきしものはらちく										
書名	. 森原神I	森原神田川遺跡下ノ原地区										
副書名	,											
巻 3	7											
シリーズ名	· 一級河川	一級河川江の川直轄河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書										
シリーズ番号	3	3										
編著者名	3 今福拓	今福拓哉、宮本正保、柳浦俊一、鈴木瑞穂、渡辺正巳、岩本真実、原田敏照										
編集機関	島根県	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター										
所 在 地	Įį	〒 690-0131 島根県松江市打出町 33 番地 TEL:0852-36-8608 FAX:0852-36-8025 E-mail:maibun@pref.shimane.lg.jp http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/										
発行機関	島根県	島根県教育委員会										
発行年月日	2021(2021(令和 3)年 3月 31 日										
ふりがな 所収遺跡名	,	かがな 在 地		コード 対 遺跡番号	北	緯	東経	発掘期間		発掘面積 (㎡)	発掘原因	
もりはらじんでがわいせき 森原神田川遺跡 しものはらちく 下ノ原地区	島根県江	L まねけんごうつしまつかわちょう 島根県江津市松川町 やかみ 八神 241 外		32202 D337)′ 36″ 132° 15′ 14″		2018 0528 ~ 2018 1130		2000	記録保存調査(河川改修)	
所収遺跡名	種別	重別 主な時代		主な遺構		主な遺物			特記事項			
森原神田川遺跡下ノ原地区	散布地	縄文時代~江戸	時代			縄文土器、弥生土器、		石器				
	祭祀	古墳時代		河道 1		土師器・須恵器・勾玉・ 管玉・鉄製品・鉄素材・ 羽口						
	その他の 生産遺跡	中世~江戸時代		水路 4 河道 1		陶磁器・鉄製品・鉄素材						
要約	森原神田川遺跡下ノ原地区は、江の川下流域の右岸に形成された氾濫原に位置する。調査では縄文土器が出土しており、遺跡がのる氾濫原は縄文時代にはある程度堆積が進んでいたと考えられ、突帯文期にはイネの栽培も示唆される。また、古墳時代中期〜後期の江の川本流とみられる大形の河道が検出され、埋土からはミニチュア土器、玉類、鉄器模造品など祭祀関連遺物が大量に出土した。当該期にこの河道の近くで祭祀が行われたと想定され、その性格は遺跡の立地や出土品の様相から、海上交通の安全を祈願する祭祀であった可能性がある。また、中世〜近世前半には、石組をもつ水路が設けられる。石組は水位調整を行う堰と考えられ、水路は上流に存在した耕作地に、農業用水を供給するための灌漑水路だったとみられる。											

森原神田川遺跡下ノ原地区

一級河川江の川直轄河川改修事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書3

発 行 2021年3月

発行者 島根県教育委員会

編 集 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

〒 690-0131 島根県松江市打出町 33 番地

電話 0852-36-8608

http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/

印 刷 有限会社 伊藤印刷

〒 693-0006 島根県出雲市白枝町 423

電話 0853-23-3200

(見返し)

(見返し)

(裏表紙)